

# FD Review vol.5

---

2009 年度の総括

# 目 次

はじめに 教授法開発室開設 10 周年をむかえて……………	教授法開発室長 藤松 素子	
2009 年度 英語基礎力調査について ……………	教授法開発室員 持留 浩二 ……………	1
基礎学力調査の結果……………	教授法開発室員 近藤 敏夫 ……	51
授業アンケート……………	教授法開発室員 小林 隆 ……	67
授業公開……………	教授法開発室長 藤松 素子 ……	111
e – Learning システム使用状況と今後の展開 ……	教授法開発室員 達富 洋二 ……	113
	協力：メディア教材開発・知財課	
入学前教育……………	教授法開発室長 藤松 素子 ……	125
FD 研究会 実施報告		
〔 第 1 回（入学前教育）……………	教授法開発室長 藤松 素子 ……	221
〔 第 2 回（基礎学力調査）……………	教授法開発室員 近藤 敏夫 ……	223
〔 第 3 回（初年次教育）……………	教授法開発室員 達富 洋二 ……	224
教授法開発室会議に参加して		
〔 「開発すべき教授法」の根幹 ……………	教授法開発室員 小野田 俊蔵 ……	239
〔 教授法開発室会議に参加して……………	教授法開発室員 水谷 隆之 ……	240
〔 教授法開発室会議に参加して		
〔 ー1 年目の所感ー ……………	教授法開発室員 田中 智子 ……	242
〔 教授法開発室会議に参加して……………	教授法開発室員 漆葉 成彦 ……	244
学外研修会報告		
〔 学外研修会参加報告……………	教授法開発室長 藤松 素子 ……	245
〔 学外研修会参加報告……………	教授法開発室員 水谷 隆之 ……	256
〔 学外研修会参加報告……………	教授法開発室員 漆葉 成彦 ……	258
京都 FD 開発推進センター活動紹介……………	専門研究員 深野 政之 ……	259
	専門調査員 川面 きよ	
2009 年度の回顧と 2010 年度の展望……………	教学部長 八木 透 ……	267
活動記録……………		269
教授法開発室……………		271

**FD Review**

---

FD Review

はじめに

# はじめに

## 教授法開発室開設 10 周年をむかえて

教授法開発室長 藤 松 素 子

他に先駆けて、2000 年 4 月に佛教大学に教授法開発室が設置されてから 10 年が過ぎた。また、2008 年度から、学士課程教育における FD が義務化されて 3 年目を迎えている。こうした節目を迎えて、多様な角度から活動のあり方を検討する必要性に迫られている。本学の FD 活動はこれからどうしていくべきであろうか。

これまで、本学では様々な FD 活動を実施してきた。英語基礎力調査、基礎学力調査、授業アンケート、授業公開、入学前教育、e-learning など、その様式や方法に関する様々な検討を加えながら取り組みを重ね、ほぼ定着してきているといえる。また、2007 年度からは達富洋二前室長のイニシアティブの下、FD 研究会を開催し、取り組みの成果と課題についての検討を行ってきた。FD 義務化の時代においては、単に全学的な活動を行うだけでなく、その効果の測定と、それに基づくカリキュラムや学修計画についての不断の見直しが不可欠になっているからである。

また、2010 年度からは各学部・学科の 1 セメに設定されている「入門ゼミ 1」を「初年次教育」として位置づけて、共通カリキュラムの下に教育実践が始まっている。さらに、新学部開設にあわせて全学共通科目において新カリキュラムが段階的に導入され始め、各学部・学科が掲げる教育方針との整合性が問われるようになってきている。各学部・学科ごとのカリキュラムの検討に加え、自校教育、外国語、リテラシー、キャリア、総合等の新しい試みについての成果と課題についての検討も必要になってこよう。

さて、今回お届けする“FD Review vol.5”は、2009 年度の取り組みについての詳細な紹介と分析・考察により、下記のように構成されている。

- ・ 2009 年度英語基礎力調査について
- ・ 基礎学力調査の結果
- ・ 授業アンケート
- ・ 授業公開
- ・ e-learning
- ・ 入学前教育
- ・ 初年次教育
- ・ FD 研究会実施報告
- ・ 教授法開発室会議に参加して
- ・ 学外研修会報告
- ・ 京都 FD 教育開発センター活動紹介
- ・ 2009 年度の回顧と 2010 年度の展望
- ・ 活動記録

昨年度は多くの室員が交替されたため、各活動については継続して担当いただいた室員に、分析・考察をいただいている。新規に参加いただいた室員には、1年目の所感を書いていただいた。前者はこれまで継続して実施してきた活動についての考察であるため、経年比較等も含めて多くの示唆がえられるものであり、後者は、全学の構成員のみなさまの問題意識と共通する指摘が多々あると思われるので、ぜひご一読いただきたい。

また、京都FD開発推進センターとは、佛教大学が代表校となり2008年度に採択された文部科学省戦略的大学連携事業「地域内大学連携によるFDの包括研究と共通プログラム開発・組織的運用システムの確立」を推進する部署の名称である。詳細は本文に譲るが、18大学・短期大学との連携の下、3つのワーキングを中心として精力的に研究・活動を展開してきている。昨年度までの実績についてぜひご確認いただきたい。

2010年も折り返し地点にある今、教授法開発室においては、あらためて昨年度の活動をふりかえりつつ、これからの方向性を模索している。定着してきた活動を停滞させないようにするためにはどうすればいいのか。新たな動きに対してどのように対処すればいいのか。その方法論ばかりに目が行きがちであるが、大切なのは実施した活動を丁寧に振り返り、的確に評価することである。そして、それに基づいて必要な取り組みを学部・学科の活動を基礎にしながら全学的に取り組むことであろう。FD活動に終わりはない。山極学長が掲げる学生が主役となる大学づくりをめざして、FDという観点から全構成員を支えるしくみづくりを地道にねばり強く議論し、実践していきたい。

**FD Review**

英語基礎力調查

# 2009 年度 英語基礎力調査について

教授法開発室員 持 留 浩 二

## 1. はじめに

佛教大学ではカリキュラム改革が実施された 2004 年度より、全新 1 回生を対象にして、入学時と 1 回生終了時に TOEIC Bridge IP テストを使用した英語基礎力調査を実施している。この調査は本学における英語教育プログラムをより効果的なものへと改善させていく上で大きな役割を果たしている。

現在のカリキュラムにおいて全学共通科目・必修外国語「英語」（文学部のみ選択必修）で習熟度別クラスを編成しているが、これはこの調査結果をもとになされている。1 回生では「Basic Reading」、「Basic Listening」、「Basic Communication」の 3 科目が必修となっており、受講生は春、秋学期にそれぞれの授業を同じ指定クラスで受講することになる。2 回生では「Intermediate Communication」を 1 回生終了時の調査結果をもとに指定されたクラスで受講することになっている。

ここでは、2009 年度の英語基礎力調査結果を紹介するとともに、2004 年度からの調査結果と比較し新 1 回生の英語力がどのように変化してきているのか、また各学部、学科別の調査結果及び一年間の学修後の学力の変化を見ながら本学における今後の英語教育の課題を考えてみたい。

さらに、2009 年度からは英語基礎力調査の際に行うアンケートの内容を一新した。アンケート内容は主に学生の英語学習へのニーズを問うものとなっている。彼らが英語の授業に何を求めているのか、どういう授業が彼らのモチベーションを高めるのにプラスになるのかといった点に関して、授業の運営方法と授業内容の両面にわたって学生の意識を調査した。アンケートは入学時と 1 回生終了時に行われたので、それぞれの数字および一年間を経ての数字の変化を見ることができた。その結果をどのように授業に生かしていくかは今後の課題である。

英語基礎力調査の結果の分析は佛教大学の学生の英語力の変化を知る上で重要なものであるが、その結果は学生の英語力のみを明らかにするにとどまらず、学生の一般的な学力を知る手掛かりにもなる。興味深いことに、学科別に英語力を高い方から順に並べていくと、見事に各学科の入学難易度の順になっている。つまり学生の英語力は、ある程度その学生の全体的な学力を示す指標ともなっている。それだけに毎年学生の英語力の推移を分析することは、学生の全体的な学力のレベルを知る上でも重要であるといえる。

## 2. TOEIC Bridge TEST IP について

TOEIC Bridge とは TOEIC の特長を備えつつ初・中級レベルの英語能力測定に照準を合わせて設計されたテストで、テスト時間と問題数は TOEIC テストの半分に設計されている。問題はリスニングセクション（25 分間・50 問）と、リーディングセクション（35 分間・50 問）からなっており、スコアはリスニング 10 点～90 点、リーディング 10 点～90 点、トータル 20 点～180 点の 2 点刻みで表示される。TOEIC テストよりも日常的で身近なコミュニケーション場面や素材をテスト問題に採用しており、リスニングセクションの出題スピードは TOEIC テストより遅く、ネイティブスピーカーが「注意深く」話す際のスピードとなっている。また、TOEIC Bridge では、各セクションスコア、トータルスコアの他に 5 分野 3 段階のサブスコアが表示される。IP TEST とは TOEIC 運営委員会が実施する公開テストではなく、実施団体が独自に運営・管理する団体特別受験制度のことである。

TOEIC TEST との相関性については、TOEIC 運営委員会が以下の比較表を公開している。

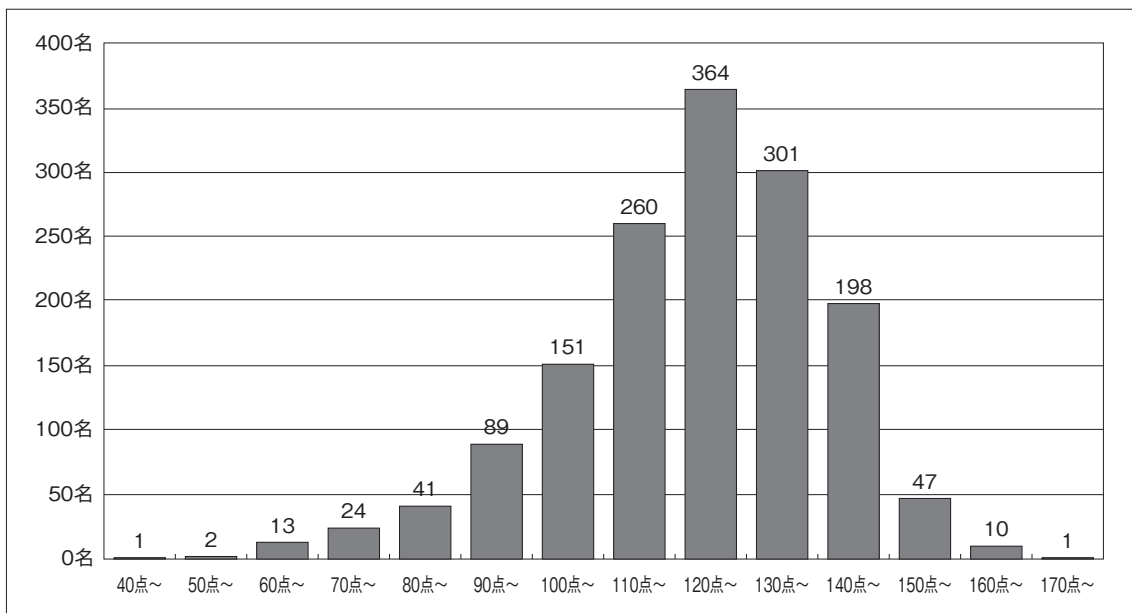
TOEIC Bridge	90	100	110	120	130	140	150	160
TOEIC	230	260	280	310	345	395	470	570

## 3. 入学時のスコア

### 3.1 全体の傾向

		第 1 回					
		2004 年度	2005 年度	2006 年度	2007 年度	2008 年度	2009 年度
Total	平均点	117.6	122.4	124.2	124.8	124.0	121.8
	標準偏差	18.2	17.5	17.5	18.5	17.6	18.5
	最高点	170.0	168.0	178.0	178.0	174.0	174.0
	最低点	62.0	38.0	66.0	60.0	58.0	42.0
Listening	平均点	56.8	58.6	59.6	60.4	60.1	58.8
	標準偏差	9.8	8.4	9.2	9.1	9.2	8.3
	最高点	86.0	88.0	90.0	90.0	90.0	88.0
	最低点	28.0	20.0	30.0	28.0	28.0	26.0
Reading	平均点	60.7	63.8	64.6	64.4	63.9	63.0
	標準偏差	10.7	11.0	10.0	11.3	10.2	11.9
	最高点	88.0	86.0	90.0	88.0	86.0	88.0
	最低点	30.0	12.0	24.0	26.0	24.0	12.0





入学時のトータルスコアについては、調査が開始された2004年度以降では2007年度が最も好成績であった。しかしその次の年2008年度はわずかながら下落した。それでも過去の成績と比べて高水準を保っていたのであるが、2009年度は大きくスコアは下落し、過去6年間の調査中2番目に悪い成績となっている。2年連続の下落、さらに今回はその下落の幅が大きくなっているわけで、今後この傾向が続けば新入生の質の確保という点では少々不安になってくる結果となっている。

### 3.2 学部学科の傾向

第1回学部スコア

第1回					
	文学部	教育学部	社会学部	社会福祉学部	保健医療技術学部
受験者数	531	212	382	287	90
Total					
平均点	119.3	134.0	117.6	120.5	130.3
標準偏差	19.2	13.3	18.7	15.9	16.2
最高点	166.0	168.0	166.0	160.0	174.0
最低点	54.0	82.0	42.0	50.0	94.0
Listening					
平均点	58.0	63.9	57.0	57.9	62.0
標準偏差	8.4	6.5	8.2	7.3	8.6
最高点	86.0	82.0	82.0	78.0	88.0
最低点	28.0	44.0	28.0	26.0	42.0
Reading					
平均点	61.3	70.1	60.6	62.6	68.3
標準偏差	12.5	8.9	12.1	10.4	9.2
最高点	86.0	88.0	84.0	82.0	86.0
最低点	20.0	36.0	12.0	24.0	44.0

## 第1回学科スコア

第1回										
	人文	中国	英米	教育	臨床	現社	公共	福祉	理学	作業
受験者数	389	58	84	144	68	249	133	287	52	38
Total										
平均点	117.2	111.2	134.5	134.5	132.8	120.3	112.6	120.5	136.2	122.2
標準偏差	18.9	16.5	14.3	13.9	11.9	18.2	18.6	15.9	14.6	14.7
最高点	166.0	148.0	162.0	168.0	160.0	166.0	162.0	160.0	174.0	150.0
最低点	54.0	74.0	98.0	86.0	82.0	42.0	62.0	50.0	98.0	94.0
Listening										
平均点	57.1	54.3	64.7	63.8	64.2	57.9	55.2	57.9	64.8	58.1
標準偏差	8.2	6.6	7.1	6.6	6.1	8.1	8.2	7.3	8.1	7.7
最高点	86.0	74.0	82.0	80.0	82.0	82.0	82.0	78.0	88.0	72.0
最低点	28.0	40.0	48.0	46.0	44.0	28.0	28.0	26.0	46.0	42.0
Reading										
平均点	60.0	56.9	69.9	70.8	68.6	62.4	57.4	62.6	71.4	64.1
標準偏差	12.4	11.2	9.6	9.1	8.3	11.8	12.0	10.4	8.2	8.9
最高点	86.0	78.0	84.0	88.0	80.0	84.0	80.0	82.0	86.0	80.0
最低点	20.0	28.0	44.0	38.0	36.0	12.0	32.0	24.0	52.0	44.0

まず学部別のトータルスコアを見てみると、2008年度同様教育学部と保健医療技術学部が高いスコアを記録しており、この2学部が全体の平均スコアを大きく上回っている。続いて社会福祉学部、文学部、社会学部と続くが、この傾向は例年通りである。

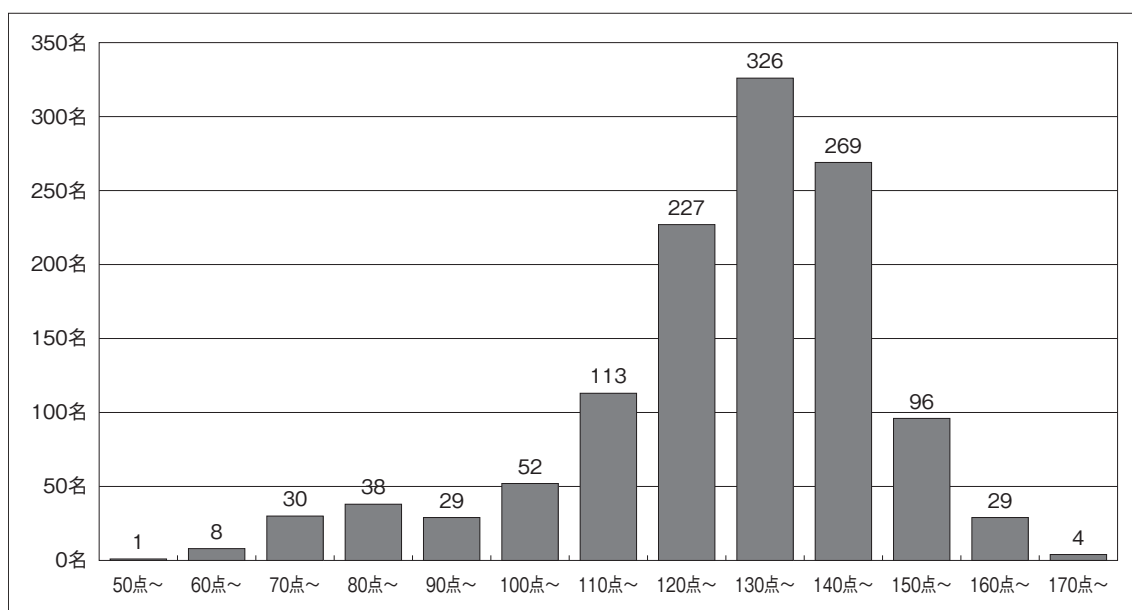
2008年度との違いは、保健医療技術学部の平均スコアが教育学部の平均スコアに抜かれているという点である。保健医療技術学部設立以降、それまでトップだった教育学部のスコアは2番手に後退し、代わりに保健医療技術学部が入学時の英語基礎力調査においてトップの成績を取め続けた。しかし今回の調査では教育学部に抜かれている。教育学部の成績が前年度より若干上昇したということもあるが、その変化の主な理由は保健医療技術学部の成績が大きく下落したことにある。ここ2、3年、保健医療技術学部の英語基礎力調査の結果が悪化し続けていることを考えると、ある意味学力低下が一番心配なのは保健医療技術学部なのかもしれない。

とはいえ、学科別にみると理学療法学科は全学科中一番高い成績を上げている。ただこの成績も前年度と比べると5点も低下しており、ここ数年のスコア悪化の傾向に歯止めはかかっていない。続いて教育学科、英米学科、臨床心理学科という順になるが、この3学科だけは前年度よりも良いスコアを記録している。中でも注目すべきは英米学科の健闘で、前年度より一番スコアが上昇したこともあって、前年度は臨床心理学科よりも下位であったのだが、2009年度は臨床心理学科を抜き、教育学科と同スコアとなっている。

## 4. 1 回生終了時のスコア

### 4.1 全体の傾向

		第2回					
		2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
Total	平均点	124.4	126.9	126.0	126.9	126.7	129.2
	標準偏差	20.6	18.8	22.5	19.7	20.2	19.5
	最高点	172.0	176.0	176.0	176.0	178.0	178.0
	最低点	26.0	46.0	36.0	22.0	30.0	56.0
Listening	平均点	61.6	61.6	62.4	62.8	64.1	64.0
	標準偏差	10.0	8.6	11.1	9.0	9.2	9.4
	最高点	86.0	86.0	86.0	88.0	88.0	88.0
	最低点	14.0	28.0	20.0	10.0	12.0	18.0
Reading	平均点	62.8	65.3	63.6	64.1	62.6	65.1
	標準偏差	12.1	11.7	12.7	12.3	12.2	11.3
	最高点	88.0	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0
	最低点	12.0	18.0	14.0	12.0	14.0	28.0



今回、1 回生終了時のスコアは 2004 年の英語基礎力調査開始以来最高のスコアを記録した。入学時のスコアが調査開始以来 2 番目に悪いスコアだったことを考えると、2009 年度は本学の英語教育において最高の学習効果を記録した年だったということになる。実際どれほどの伸びがあったかについては後に詳しく触れることにする。

## 4.2 学部学科の傾向

第2回学部別スコア

第2回					
	文学部	教育学部	社会学部	社会福祉学部	保健医療技術学部
受験者数	324	198	351	265	84
Total					
平均点	131.0	138.6	123.3	126.6	132.5
標準偏差	18.8	14.0	21.1	18.6	19.1
最高点	174.0	168.0	170.0	162.0	178.0
最低点	66.0	86.0	60.0	56.0	80.0
Listening					
平均点	65.2	68.1	61.1	63.0	65.6
標準偏差	9.1	6.9	10.5	8.7	9.0
最高点	88.0	86.0	86.0	80.0	88.0
最低点	24.0	48.0	22.0	18.0	42.0
Reading					
平均点	65.7	70.5	62.2	63.6	66.9
標準偏差	10.8	8.8	11.7	11.4	11.1
最高点	90.0	88.0	86.0	84.0	90.0
最低点	30.0	36.0	32.0	28.0	36.0

第2回学科別スコア

第2回										
	人文	中国	英米	教育	臨床	現社	公共	福祉	理学	作業
受験者数	245	1	78	137	61	229	122	265	47	37
Total										
平均点	126.4	120.0	145.3	139.6	136.4	126.0	118.3	126.6	137.1	126.5
標準偏差	18.0	0.0	13.4	14.1	13.5	19.7	22.5	18.6	17.4	19.6
最高点	164.0	120.0	174.0	168.0	162.0	162.0	170.0	162.0	178.0	170.0
最低点	66.0	120.0	104.0	92.0	86.0	64.0	60.0	56.0	92.0	80.0
Listening										
平均点	63.4	60.0	71.0	68.3	67.8	62.2	59.0	63.0	67.9	62.6
標準偏差	8.9	0.0	7.3	7.0	6.5	9.9	11.1	8.7	7.5	9.7
最高点	86.0	60.0	88.0	86.0	84.0	86.0	84.0	80.0	88.0	84.0
最低点	24.0	60.0	52.0	48.0	50.0	30.0	22.0	18.0	46.0	42.0
Reading										
平均点	63.0	60.0	74.3	71.3	68.6	63.8	59.3	63.6	69.2	63.9
標準偏差	10.4	0.0	7.3	8.7	9.0	10.8	12.7	11.4	10.8	10.7
最高点	84.0	60.0	90.0	88.0	84.0	84.0	86.0	84.0	90.0	86.0
最低点	30.0	60.0	52.0	44.0	36.0	32.0	32.0	28.0	36.0	38.0

前年 2008 年度の 1 回生終了時のスコアと比較すると次のようなことが言える。まず学部別で言うと、保健医療技術学部を除いて全ての学部で前年度よりもスコアの上昇が見られる。学部別平均スコアの順位であるが、前年度は、保健医療、教育、文、社会福祉、社会という順序だったのに対し、2009 年度は教育が保健医療を抜き、教育、保健医療、文、社会福祉、社会という順序になっている。

次に学科別のスコアだが、前年度の 1 回生終了時スコアと比較すると、公共政策学科、理学療法学科、作業療法学科で下落が見られるが、それ以外の学科でスコアは上昇している。

学科別順位を見てみると、前年度は理学療法学科にトップを奪われた英米学科が再び1位に返り咲き、2位には教育学科が続いている。前年度1位だった理学療法学科は3位にまで後退してしまっている。続いて臨床心理学科が4位に来るが、そこまでが好成績の学科で平均スコアよりも高い成績となっている。さらに、社会福祉、作業療法、人文という順位になるが、この辺りはほぼ同スコアである。続いて現代社会が来て、少し間があって公共政策となる。この順位は、理学療法学科と作業療法学科におけるスコアの低下から来る順位の低下を除いてはほぼ例年と同じ順位となっている。

## 5. スコアの伸び

### 5.1 全体の傾向

		2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度
Total	第1回	117.6	122.4	124.2	124.8	124.0	121.8
	第2回	124.4	126.9	126.0	126.9	126.7	129.2
	伸び	6.8	4.5	1.8	2.1	2.7	7.4
Listening	第1回	56.8	58.6	59.6	60.4	60.1	58.8
	第2回	61.6	61.6	62.4	62.8	64.1	64.0
	伸び	4.8	3.0	2.8	2.4	4.0	5.3
Reading	第1回	60.7	63.8	64.6	64.4	63.9	63.0
	第2回	62.8	65.3	63.6	64.1	62.6	65.1
	伸び	2.1	1.5	-1.0	-0.3	-1.3	2.1

スコアの伸び悩み、リーディングセクションのスコア低下というここ数年の傾向は2009年度において一気に改善された。トータルスコア121.8点という過去2番目に悪い入学時スコアにもかかわらず、129.2点という過去最高の1回生終了時スコアを記録したために1年間を通してのトータルのスコアの伸びが過去最高の+7.4点を記録したのである。2009年度は佛教大学の英語教育において2004年度以降最も生産的な一年であったと言えるだろう。

### 5.2 学部学科の傾向

学部

	全体	文学部	教育学部	社会学部	社会福祉学部	保健医療技術学部
Total	7.4	11.7	4.6	5.7	6.1	2.2
Listening	5.3	7.2	4.2	4.1	5.1	3.6
Reading	2.1	4.5	0.4	1.6	1.0	-1.4

学科

	全体	人文	中国	英米	教育	臨床	現社	公共	福祉	理学	作業
Total	7.4	9.3		10.7	5.1	3.6	5.8	5.7	6.1	1.0	4.4
Listening	5.3	6.2		6.3	4.5	3.6	4.3	3.8	5.1	3.1	4.5
Reading	2.1	3.0		4.4	0.5	0.0	1.4	1.9	1.0	-2.2	-0.1

学部別にトータルスコアの伸びを見てみると、今回は全学部でスコアの上昇が見られた。前年 2008 年度において教育学部のみがマイナスの伸びを示したのだが、今回教育学部は大きくプラスに転じ、+4.6 点を記録している。注目すべきは文学部の +11.7 点という伸びであるが、これは +10.7 点という英米学科の伸びだけでなく、人文学科が +9.3 点という素晴らしい伸びを見せたからである。今回全体の伸びが +7.4 点という素晴らしい結果となったのも、前年度 +4.3 点という伸びから 2 倍以上の +9.3 点という伸びを記録した人文学科の健闘によるところが大きいと言えるだろう。

次に学科別に伸びを見てみよう。まず一番の伸び率を示しているのは +10.7 点の英米学科であるが、これは例年の傾向どおりである。次に大きな伸びを示しているのは人文学科で、+9.3 点となっている。実は前年度も人文学科は伸びにおいて英米学科に続いて 2 位を記録している。ただ今回は +9.3 点という極めて大きな伸びを示している点特徴的である。英米学科が大きく成績を伸ばすのはよく分かる。受講する授業のうち英語の授業が大半を占めるからである。その英米学科が +10.7 なのに対し、英語の授業が特に多いわけでもない人文学科の伸びが +9.3 点というのは驚きだ。

さらに続いて、社会福祉学科、現代社会学科、公共政策学科が +6 点前後と続いている。社会福祉学科は前年度も英米学科、人文学科に続いて 3 番目の伸びを示していたが、2009 年度に注目すべき結果を見せたのは現代社会学科と公共政策学科だ。特に現代社会学科は前年度 -0.3 とわずかながらマイナスの伸びを示していたにもかかわらず、2009 年度は +5.8 点という素晴らしい伸びを示している。

あと、教育学科、作業療法学科も、前年度のマイナスの伸びから一気にプラスに転じている点で評価できる。前年度、教育学科は -2.5 点、作業療法学科は -0.4 点であったが、2009 年度は、教育学科は +5.1 点、作業療法学科が +4.4 点と大きくプラスに転じている。

臨床心理学科は前年度より微増の +3.6 点となっている。そして一番の伸び悩みを示したのが理学療法学科で、ここだけが前年度よりも低い伸び率となっている。前年度は +1.5 点だったのが、2009 年度は +1 点というわずかな伸びにとどまっている。

## 6. TOEIC Bridge 150 点以上

### 6.1 全体の傾向

	2004 年度		2005 年度		2006 年度		2007 年度		2008 年度		2009 年度	
	第 1 回	第 2 回	第 1 回	第 2 回	第 1 回	第 2 回	第 1 回	第 2 回	第 1 回	第 2 回	第 1 回	第 2 回
150点以上	52	111	51	92	93	122	101	95	84	111	58	129
割合	3.5%	9.2%	3.6%	8.5%	6.1%	10.2%	6.9%	8.2%	5.7%	9.4%	3.9%	10.6%
受験者数	1,469	1,211	1,424	1,085	1,526	1,191	1,471	1,155	1,477	1,181	1,502	1,222
平均点	117.6	124.4	122.4	126.9	124.2	126	124.8	126.9	124	126.7	121.8	129.2

本学の英語プログラムの教学目標は、2 年間の学修で TOEIC 500 点に到達することである。前に示した TOEIC と TOEIC Bridge の比較表を見ると、TOEIC Bridge の 150 点が TOEIC 470 点に相当するので、そのスコアを超える人数を集計したのが上の表である。

2009年度について言うと、入学時では人数においても割合においても2004年度に調査を開始して以来3番目に悪い数字となっている。しかし1回生終了時では150点以上を取った受験者数の数もその割合も過去最高の素晴らしい結果となっている。ここにも2009年度において学生の英語力の伸びがいかに素晴しかったかがうかがえる。全体の底上げとともに、比較的レベルの高い学生の引き上げも良好であったことが分かる。

## 6.2 学部学科別の傾向

学部

	文学部	教育学部	社会学部	社会福祉学部	保健医療技術学部
第1回(名)	16	19	8	3	12
58人中(%)	27.6	32.8	13.8	5.2	20.7
第2回(名)	42	42	20	11	14
129人中(%)	32.6	32.6	15.5	8.5	10.9

学科

	人文	中国	英米	教育	臨床	現社	公共	福祉	理学	作業
第1回(名)	8	0	8	16	3	6	2	3	10	2
58人中(%)	13.8	0.0	13.8	27.6	5.2	10.3	3.4	5.2	17.2	3.4
第2回(名)	11	0	31	34	8	16	4	11	11	3
129人中(%)	8.5	0.0	24.0	26.4	6.2	12.4	3.1	8.5	8.5	2.3

学部別に見ると、今回は全ての学部で人数の増加が見られた。特筆すべきは前年度唯一150点以上の人数を減らした教育学部だ。前年度は入学時28人から終了時24人へと150点以上の人数を減らしていたのだが、2009年度の教育学部は19人から42人へと大きく増やしている。これは上位層が順調に英語力を伸ばした結果である。

学科別に見ると、やはり全学科で人数の増加が見られる。英米学科でかなりの増加が見られるのは例年の傾向であるが、例年に比べて今回は際立っている。前年度は12人から22人と2倍程度の増加だったのに対し、2009年度は8人から31人へと4倍程度の増加を記録している。あと特筆すべきは、前年度人数を減らした教育学科と臨床心理学科が共に大きく人数を増やしている点だ。特に教育学科は、前年度は18人から15人へと微妙にマイナスだったのに対し、2009年度は16人から34人へ大きく増加し、150点以上の人数は英米学科を抜き全学科中トップとなっている。

英米学科で毎年英語力がアップする理由は、当然のことながら履修科目のほとんどが英語に関する科目だからであろう。ここでもやはり英語学習には時間がかかるし、また時間をかけるしか英語力を上げる方法はないという当たり前の事実を思い起こさせられる。全体的に学生の英語力を上げるには、いかにして多くの時間を英語に触れさせるかということを考える必要がある。

## 7. サブスコア

TOEIC Bridge は受験者の英語能力向上に役立てるため 5 分野 3 段階の診断情報をサブスコアとしてフィードバックしている。リスニング、リーディング、トータルスコアの他に下記の 5 つのカテゴリーごとに 1～3 の評価が提示されるが、各カテゴリーの数値が高いほど他の受験者に比べて評価が高いことを意味している。各カテゴリーは次の通りである。

### Listening Strategies

(聞く技術)

英語を聞いて、必要な情報を聞き取る、話の要旨をつかむ、内容を推測する、アクセント・発音・時制などを正しく聞き分けることができる。

### Functions

(言葉のはたらき)

どのような目的と意図（例：何かの申し出・要求・時間を伝える・指示・情報収集など）で英語が使用されているのかを理解できる。

### Reading Strategies

(読む技術)

英語を読んで、必要な情報を読み取る、さっと読んで意味をつかむ、話の要旨を見極める、内容を推測する、文章内の構造が理解できる。

### Vocabulary

(語彙)

日常生活、嗜好、趣味、娯楽、旅行、健康、簡単な商取引などに関する単語や語句、及び文脈における意味を把握できる。

### Grammar

(文法)

文法を理解し、用法も把握している。

2009 年度のサブスコアとその伸び

		Listening Strategies	Functions	Reading Strategies	Vocabulary	Grammar
第 1 回	平均	1.57	1.53	1.84	2.10	2.09
	標準偏差	0.55	0.57	0.67	0.58	0.55
第 2 回	平均	1.94	1.91	2.12	2.10	2.26
	標準偏差	0.65	0.66	0.73	0.64	0.65
伸び		0.36	0.38	0.28	-0.01	0.17



毎年の傾向として Vocabulary と Grammar において学力の伸び悩みが見られるのだが、今回もその傾向は見られる。コミュニケーション重視の英語が叫ばれる中で Vocabulary と Grammar が軽視されているのかもしれない。



## 8. 英語基礎力調査アンケート

1年に2回1回生対象に英語基礎力調査を行なう際、同時に英語学習に関するアンケートが行われている。詳しいアンケート結果については、学科別、あるいは得点別に集計されたものを掲載しているので見てもらいたい。

英語の教員には二つの果たすべき目的があると私は考えている。学生の英語力を向上させることと学生の英語学習へのモチベーションを上げることである。モチベーションが大切な理由は、学生の英語力を上げるためには、授業時間内だけの学習だけでは不十分なので授業時間外にも学生に学習をさせる必要があるのだが、そのためには学習への強い動機付けが必要になってくるからだ。

英語基礎力調査の結果からは、学生の英語力の変化は見る事が出来るが、モチベーションの変化は見る事は出来ない。今回、以前の英語基礎力調査アンケートを一新し、どうすれば受講生のモチベーションを上げることができるかをさぐるアンケートを実施した。彼らの英語学習への意欲、モチベーションを高めるにはどういう英語教育への取り組みが必要か、あるいはどういう授業運営及び内容が必要か、そして彼らが授業以外で英語学習にどれくらいの時間を割いているのか、そういった事柄をさぐるアンケートとなっている。

ではまず学生のモチベーションの変化、つまり情意的変化に注目してみたい。1番目のアンケート項目は「あなたは英語力を伸ばしたいですか」というものである。各学科ごとに入学時と1回生終了時それぞれの数及び数値の変化をパーセンテージで表すと次の表になる。

I あなたは英語力を伸ばしたいですか。

入学時

	もっと伸ばしたい	伸ばしたい	できるなら伸ばしたい	その必要はない	満足ではないが伸ばしたいとも思わない	合計
人文 (名)	77	85	165	9	37	373
比率 (%)	21	23	44	2	10	100
英米 (名)	63	16	4	0	1	84
比率 (%)	75	19	5	0	1	100
教育 (名)	52	48	36	1	6	143
比率 (%)	36	34	25	1	4	100
臨床 (名)	33	10	22	0	3	68
比率 (%)	49	15	32	0	4	100
現社 (名)	75	55	101	5	10	246
比率 (%)	30	22	41	2	4	100
公共 (名)	49	31	40	0	7	127
比率 (%)	39	24	31	0	6	100
福祉 (名)	76	83	111	2	14	286
比率 (%)	27	29	39	1	5	100
理学 (名)	13	16	21	0	0	50
比率 (%)	26	32	42	0	0	100
作業 (名)	6	7	22	0	1	36
比率 (%)	17	19	61	0	3	100
合計 (名)	461	363	545	20	81	1,470
比率 (%)	31	25	37	1	6	100

1 回生終了時

	もっと伸ばしたい	伸ばしたい	できるなら伸ばしたい	その必要はない	満足ではないが伸ばしたいとも思わない	合計
人文 (名)	79	46	96	6	10	237
比率 (%)	33	19	41	3	4	100
英米 (名)	58	10	2	0	0	70
比率 (%)	83	14	3	0	0	100
教育 (名)	56	46	30	2	2	136
比率 (%)	41	34	22	1	1	100
臨床 (名)	27	16	16	0	2	61
比率 (%)	44	26	26	0	3	100
現社 (名)	65	58	76	5	18	222
比率 (%)	29	26	34	2	8	100
公共 (名)	47	24	34	2	11	118
比率 (%)	40	20	29	2	9	100
福祉 (名)	46	58	116	9	14	243
比率 (%)	19	24	48	4	6	100
理学 (名)	13	9	20	2	2	46
比率 (%)	28	20	43	4	4	100
作業 (名)	5	4	22	3	3	37
比率 (%)	14	11	59	8	8	100
合計 (名)	412	253	453	48	67	1,152
比率 (%)	36	22	39	4	6	100

次に入学時と1回生終了時の数値の変化を表にしてみた。それが以下の表である。

「あなたは英語力を伸ばしたいですか」への回答数の変化

(単位：%)

	もっと伸ばしたい	伸ばしたい	できるなら 伸ばしたい	その必要はない	満足ではないが 伸ばしたいとも 思わない
人文	13	-3	-4	0	-6
英米	8	-5	-2	0	-1
教育	5	0	-3	1	-3
臨床	-4	12	-6	0	-1
現社	-1	4	-7	0	4
公共	1	-4	-3	2	4
福祉	-8	-5	9	3	1
理学	2	-12	1	4	4
作業	-3	-9	-2	8	5
合計	4	-3	2	3	0

普通に考えるとモチベーションと学力には相関関係があるはずである。もしある学科で英語学習へのモチベーションが上昇したなら、学力も上昇していると考えるのは普通だろう。そして過去のレビューで触れたが、2007年度では確かにモチベーションと学力には相関関係が見られた。しかしながら前年2008年度のアンケート結果からはそれほど相関は見られなかった。

今回のアンケート結果、特に上の1年間を通してのモチベーションの変化を見てみると、明らかに大きくモチベーションが上がっていると言えるのが人文学科である。「スコアの伸び」の項をもう一度見てもらえると分かるが、今回の基礎力調査で際立って素晴らしい結果を出したのが人文学科であった。上の表からは英米学科も「もっと伸ばしたい」、「伸ばしたい」のパーセンテージが少し増加しているが、やはり英米学科も1年間の学修を通してスコアを伸ばしている。

その他の学科について言うと、今回の調査からは明確なモチベーションの上昇も下降も見出せないのがスコアの伸びとの関係はそれほど明確に指摘しにくい。あえて言うと、今回のスコアの伸びが最も悪かった理学療法学科において、「伸ばしたい」のポイントが大きく減っていることが指摘できるが、その他の学科についてははっきりしたことは言いにくい。今後のさらなるデータの積み重ねとその分析が大切になってくる。

では次に受講生がどのような英語教育への取り組みを求めているのかという項目へと移りたい。

Ⅱ 次のような英語教育への取り組みのうち、あなたの英語学習へのやる気を起こさせる上で重要だと思うものを次の中から選んでください。

入学時

	習熟度別（プレイスメントテストによる学力別）のクラス編成	TOEICや英検等の資格試験対策	CALL（パソコンを使った自学自習システム）	15人程度の少人数クラス編成	外国人教員による英語のみを使用する授業	英米の文学や文化を通して英語を学ぶ授業	合計
人文（名）	61	73	31	82	39	85	371
比率（％）	16	20	8	22	11	23	100
英米（名）	8	24	3	17	20	12	84
比率（％）	10	29	4	20	24	14	100
教育（名）	23	28	7	43	22	20	143
比率（％）	16	20	5	30	15	14	100
臨床（名）	9	13	2	15	9	20	68
比率（％）	13	19	3	22	13	29	100
現社（名）	52	54	16	63	20	41	246
比率（％）	21	22	7	26	8	17	100
公共（名）	29	27	7	33	10	21	127
比率（％）	23	21	6	26	8	17	100
福祉（名）	58	49	5	87	24	63	286
比率（％）	20	17	2	30	8	22	100
理学（名）	11	8	0	13	8	10	50
比率（％）	22	16	0	26	16	20	100
作業（名）	12	4	1	7	3	9	36
比率（％）	33	11	3	19	8	25	100
合計（名）	269	289	79	376	166	289	1,468
比率（％）	18	20	5	26	11	20	100

1 回生終了時

	習熟度別（プレイスメントテストによる学力別）のクラス編成	TOEICや英検等の資格試験対策	CALL（パソコンを使った自学自習システム）	15人程度の少人数クラス編成	外国人教員による英語のみを使用する授業	英米の文学や文化を通して英語を学ぶ授業	合計
人文（名）	45	53	12	48	24	54	236
比率（％）	19	22	5	20	10	23	100
英米（名）	5	25	1	11	21	7	70
比率（％）	7	36	1	16	30	10	100
教育（名）	28	29	5	31	23	20	136
比率（％）	21	21	4	23	17	15	100
臨床（名）	10	16	2	11	11	11	61
比率（％）	16	26	3	18	18	18	100
現社（名）	44	59	11	43	16	48	221
比率（％）	20	27	5	19	7	22	100
公共（名）	21	27	4	24	18	24	118
比率（％）	18	23	3	20	15	20	100
福祉（名）	47	44	5	72	30	45	243
比率（％）	19	18	2	30	12	19	100
理学（名）	8	8	2	16	2	10	46
比率（％）	17	17	4	35	4	22	100
作業（名）	5	6	4	9	1	12	37
比率（％）	14	16	11	24	3	32	100
合計（名）	213	267	46	266	146	231	1,169
比率（％）	18	23	4	23	12	20	100

この数字を見ると、学科ごとに随分違いが見られるところが興味深い。一つ一つ触れていくときりが無いのだが、例えば英米学科はやはり他学科とは一線を画した結果が出ている。「TOEIC や英検等の資格試験対策」と「外国人教員による英語のみを使用する授業」へのニーズが他学科と比べて高い。

全体で見ても、「TOEIC や英検等の資格試験対策」、「15人程度の少人数クラス編成」、「英米の文学や文化を通して英語を学ぶ授業」へのニーズが高いことが分かる。

次に1年間の学修を経てこれらの数字がどう変化したのかを見てみたい。

「英語学習へのやる気を起こさせる上で重要だと思う英語教育への取り組み」への回答数の変化 (単位：%)

	習熟度別（プレイ スメントテストに よる学力別）の クラス編成	TOEICや英検等の 資格試験対策	CALL(パソコンを 使った自学自習 システム)	15人程度の少人数 クラス編成	外国人教員に よる英語のみを 使用する授業	英米の文学や 文化を通して 英語を学ぶ授業
人文	3	3	-3	-2	0	0
英米	-2	7	-2	-5	6	-4
教育	5	2	-1	-7	2	1
臨床	3	7	0	-4	5	-11
現社	-1	5	-2	-6	-1	5
公共	-5	2	-2	-6	7	4
福祉	-1	1	0	-1	4	-4
理学	-5	1	4	9	-12	2
作業	-20	5	8	5	-6	7
合計	0	3	-1	-3	1	0

これもまた学科ごとに特徴ある結果となっているが、全体的にみると、1年間の学修を経て全ての学科で「TOEIC や英検等の資格試験対策」が増えていることが分かる。2009年度の就職難が影響したのか、英語資格試験への意識が高くなっているようだ。

次に、授業において学生をやる気にさせる要因についてのアンケート結果を見てもらいたい。

Ⅲ 英語の授業を受ける際、あなたの英語学習へのやる気を起こさせる上で重要だと思うものを次の中から選んでください。

入学時

	クラスメイトとの良好な関係	教室内の自由でリラックスした雰囲気	学習者に興味のある内容を扱うこと	教師と学習者の良好な関係	教師がなるべく多く英語でやりとりする機会をつくること	学習者に自信を持たせよう教師が気を配ること	学習者の自主性を育てること	教師の個性や熱意	社会が英語学習の価値を高く評価していること	合計
人文(名)	89	83	90	46	18	13	8	22	3	372
比率(%)	24	22	24	12	5	3	2	6	1	100
英米(名)	22	16	13	16	9	2	4	1	1	84
比率(%)	26	19	15	19	11	2	5	1	1	100
教育(名)	31	19	30	29	9	9	6	10	0	143
比率(%)	22	13	21	20	6	6	4	7	0	100
臨床(名)	9	15	19	10	6	4	4	1	0	68
比率(%)	13	22	28	15	9	6	6	1	0	100
現社(名)	77	56	49	31	11	6	7	4	4	245
比率(%)	31	23	20	13	4	2	3	2	2	100
公共(名)	24	41	25	21	7	4	3	0	2	127
比率(%)	19	32	20	17	6	3	2	0	2	100
福祉(名)	65	67	74	46	7	11	8	5	3	286
比率(%)	23	23	26	16	2	4	3	2	1	100
理学(名)	9	16	13	3	2	3	1	1	2	50
比率(%)	18	32	26	6	4	6	2	2	4	100
作業(名)	5	9	7	9	3	0	2	1	0	36
比率(%)	14	25	19	25	8	0	6	3	0	100
合計(名)	343	327	332	224	78	53	46	47	18	1,468
比率(%)	23	22	23	15	5	4	3	3	1	100

1 回生終了時

	クラスメイトとの良好な関係	教室内の自由でリラックスした雰囲気	学習者に興味のある内容を扱うこと	教師と学習者の良好な関係	教師がなるべく多く英語でやりとりする機会をつくること	学習者に自信を持たせよう教師が気を配ること	学習者の自主性を育てること	教師の個性や熱意	社会が英語学習の価値を高く評価していること	合計
人文(名)	66	45	55	25	18	6	9	9	4	237
比率(%)	28	19	23	11	8	3	4	4	2	100
英米(名)	7	9	21	12	13	3	3	2	0	70
比率(%)	10	13	30	17	19	4	4	3	0	100
教育(名)	25	29	27	33	7	2	6	4	3	136
比率(%)	18	21	20	24	5	1	4	3	2	100
臨床(名)	10	15	16	6	4	2	5	3	0	61
比率(%)	16	25	26	10	7	3	8	5	0	100
現社(名)	68	60	32	32	5	9	9	4	2	221
比率(%)	31	27	14	14	2	4	4	2	1	100
公共(名)	35	23	25	17	7	3	1	4	3	118
比率(%)	30	19	21	14	6	3	1	3	3	100
福祉(名)	85	37	50	45	3	5	7	7	4	243
比率(%)	35	15	21	19	1	2	3	3	2	100
理学(名)	14	12	7	6	2	0	2	2	1	46
比率(%)	30	26	15	13	4	0	4	4	2	100
作業(名)	5	13	9	7	0	1	1	1	0	37
比率(%)	14	35	24	19	0	3	3	3	0	100
合計(名)	315	243	242	184	59	31	43	36	17	1,170
比率(%)	27	21	21	16	5	3	4	3	1	100

一番多いのが「クラスメイトとの良好な関係」、続いて「教室内の自由にリラックスした雰囲気」、「学習者に興味のある内容を扱うこと」、「教師と学習者の良好な関係」となっている。

続いて1年間の学修を経てこの数字がどう変化したのかが以下の表となっている。

「英語の授業を受ける際、あなたの英語学習へのやる気を起こさせる上で重要だと思うもの」の回答数の変化 (単位：%)

	クラスメイトとの良好な関係	教室内の自由にリラックスした雰囲気	学習者に興味のある内容を扱うこと	教師と学習者の良好な関係	教師がなるべく多く英語でやりとりする機会をつくること	学習者に自信を持たせるよう教師が気を配ること	学習者の自主性を育てること	教師の個性や熱意	社会が英語学習の価値を高く評価していること
人文	4	-3	-1	-2	3	-1	2	-2	1
英米	-16	-6	15	-2	8	2	0	2	-1
教育	-3	8	-1	4	-1	-5	0	-4	2
臨床	3	3	-2	-5	-2	-3	2	3	0
現社	-1	4	-6	2	-2	2	1	0	-1
公共	11	-13	2	-2	0	-1	-2	3	1
福祉	12	-8	-5	2	-1	-2	0	1	1
理学	12	-6	-11	7	0	-6	2	2	-2
作業	0	10	5	-6	-8	3	-3	0	0
合計	4	-2	-2	0	0	-1	1	0	0

1年間の学修を経て「クラスメイトとの良好な関係」がさらに増加しているが、全体的にあまり変化は見られない。

次に、必要だと思う英語のスキルについてのアンケート結果は以下のようになっている。

Ⅳ あなたが自分に最も必要だと思う英語のスキルを次から選んでください。

入学時

	リスニング	スピーキング	ライティング	リーディング	語彙	文法	合計
人文(名)	71	113	24	36	75	53	372
比率(%)	19	30	6	10	20	14	100
英米(名)	20	39	2	5	13	5	84
比率(%)	24	46	2	6	15	6	100
教育(名)	27	72	7	8	13	16	143
比率(%)	19	50	5	6	9	11	100
臨床(名)	16	26	1	7	6	12	68
比率(%)	24	38	1	10	9	18	100
現社(名)	47	95	20	22	24	37	245
比率(%)	19	39	8	9	10	15	100
公共(名)	18	47	6	23	12	21	127
比率(%)	14	37	5	18	9	17	100
福祉(名)	52	97	13	31	35	58	286
比率(%)	18	34	5	11	12	20	100
理学(名)	13	22	1	3	7	4	50
比率(%)	26	44	2	6	14	8	100
作業(名)	4	11	2	8	4	7	36
比率(%)	11	31	6	22	11	19	100
合計(名)	280	541	78	145	194	230	1,468
比率(%)	19	37	5	10	13	16	100

1 回生終了時

	リスニング	スピーキング	ライティング	リーディング	語彙	文法	合計
人文(名)	48	97	15	19	31	27	237
比率(%)	20	41	6	8	13	11	100
英米(名)	16	39	1	0	9	5	70
比率(%)	23	56	1	0	13	7	100
教育(名)	29	72	5	8	17	5	136
比率(%)	21	53	4	6	13	4	100
臨床(名)	13	30	3	5	5	5	61
比率(%)	21	49	5	8	8	8	100
現社(名)	51	96	8	23	25	19	222
比率(%)	23	43	4	10	11	9	100
公共(名)	24	52	6	11	10	15	118
比率(%)	20	44	5	9	8	13	100
福祉(名)	66	84	9	25	31	28	243
比率(%)	27	35	4	10	13	12	100
理学(名)	13	15	2	6	10	0	46
比率(%)	28	33	4	13	22	0	100
作業(名)	4	17	0	7	4	5	37
比率(%)	11	46	0	19	11	14	100
合計(名)	265	502	49	104	142	109	1,171
比率(%)	23	43	4	9	12	9	100



「最も必要だと思う英語のスキル」への回答の変化

(単位：%)

	リスニング	スピーキング	ライティング	リーディング	語彙	文法
人文	1	11	0	-2	-7	-3
英米	-1	9	-1	-6	-3	1
教育	2	3	-1	0	3	-8
臨床	-2	11	3	-2	-1	-9
現社	4	4	-5	1	1	-7
公共	6	7	0	-9	-1	-4
福祉	9	1	-1	-1	1	-9
理学	2	-11	2	7	8	-8
作業	0	15	-6	-3	0	-6
合計	4	6	-1	-1	-1	-6

十分予想されたことであるが、やはりリスニングやスピーキングへの苦手意識が強いようだ。1年間を経てその数字が上がっていることから、その苦手意識が増え続けていることが分かる。

次に、学生が英語を学習する理由についてどう考えているのかについての結果は次のようになっている。

V 次のうちあなたが英語を学習する理由として最も大きなものを選んでください。

入学時

	自分とは異なる文化圏の人々と友達になりたいから	外国へ旅行したいから	英米文化に興味があるから	教養として英語は大切だから	将来の就職や留学のため	国際社会の中で国際的な視野を持って働くため	英米の音楽に興味があるから	なんとなく必要性を感じるから	さまざまな情報を得るための手段として必要だから	合計
人文(名)	34	54	14	101	41	8	7	80	31	370
比率(%)	9	15	4	27	11	2	2	22	8	100
英米(名)	8	6	7	11	30	13	1	4	3	83
比率(%)	10	7	8	13	36	16	1	5	4	100
教育(名)	14	24	6	51	20	5	4	12	6	142
比率(%)	10	17	4	36	14	4	3	8	4	100
臨床(名)	10	8	1	23	9	4	3	7	3	68
比率(%)	15	12	1	34	13	6	4	10	4	100
現社(名)	16	32	7	59	52	13	4	47	15	245
比率(%)	7	13	3	24	21	5	2	19	6	100
公共(名)	4	17	4	29	37	6	4	17	9	127
比率(%)	3	13	3	23	29	5	3	13	7	100
福祉(名)	20	48	3	89	34	16	2	49	24	285
比率(%)	7	17	1	31	12	6	1	17	8	100
理学(名)	3	11	0	11	7	9	1	4	4	50
比率(%)	6	22	0	22	14	18	2	8	8	100
作業(名)	2	8	1	11	4	2	0	5	3	36
比率(%)	6	22	3	31	11	6	0	14	8	100
合計(名)	114	215	44	397	253	82	26	232	100	1,463
比率(%)	8	15	3	27	17	6	2	16	7	100

1 回生終了時

	自分とは異なる文化圏の人々と友達になりたいから	外国へ旅行したいから	英米文化に興味があるから	教養として英語は大切だから	将来の就職や留学のため	国際社会の中で国際的な視野を持って働くため	英米の音楽に興味があるから	なんとなく必要性を感じるから	さまざまな情報を得るための手段として必要だから	合計
人文(名)	15	42	10	55	49	12	6	31	16	236
比率(%)	6	18	4	23	21	5	3	13	7	100
英米(名)	5	8	6	10	28	9	0	3	1	70
比率(%)	7	11	9	14	40	13	0	4	1	100
教育(名)	10	25	5	44	26	8	2	15	1	136
比率(%)	7	18	4	32	19	6	1	11	1	100
臨床(名)	4	9	1	16	15	0	1	11	4	61
比率(%)	7	15	2	26	25	0	2	18	7	100
現社(名)	10	34	4	60	55	10	3	28	17	221
比率(%)	5	15	2	27	25	5	1	13	8	100
公共(名)	10	26	1	23	24	11	4	13	5	117
比率(%)	9	22	1	20	21	9	3	11	4	100
福祉(名)	18	36	6	75	32	6	1	55	14	243
比率(%)	7	15	2	31	13	2	0	23	6	100
理学(名)	3	12	1	5	7	4	1	6	7	46
比率(%)	7	26	2	11	15	9	2	13	15	100
作業(名)	2	6	3	10	5	0	0	8	3	37
比率(%)	5	16	8	27	14	0	0	22	8	100
合計(名)	78	198	37	298	241	60	18	170	68	1,168
比率(%)	7	17	3	26	21	5	2	15	6	100

「英語を学習する理由」への回答の変化

(単位：%)

	自分とは異なる文化圏の人々と友達になりたいから	外国へ旅行したいから	英米文化に興味があるから	教養として英語は大切だから	将来の就職や留学のため	国際社会の中で国際的な視野を持って働くため	英米の音楽に興味があるから	なんとなく必要性を感じるから	さまざまな情報を得るための手段として必要だから
人文	-3	3	0	-4	10	3	1	-8	-2
英米	-2	4	0	1	4	-3	-1	-1	-2
教育	-3	1	-1	-4	5	2	-1	3	-3
臨床	-8	3	0	-8	11	-6	-3	8	2
現社	-2	2	-1	3	4	-1	0	-7	2
公共	5	9	-2	-3	-9	5	0	-2	-3
福祉	0	-2	1	0	1	-3	0	5	-3
理学	1	4	2	-11	1	-9	0	5	7
作業	0	-6	5	-4	2	-6	0	8	0
合計	-1	2	0	-2	3	0	0	-1	-1

多かった答えは「教養として英語は大切だから」、「将来の就職や留学のため」、「外国へ旅行したいから」、「なんとなく必要性を感じるから」となっている。将来の就職や留学や外国旅行は良いとしても、「教養としての大切」や「なんとなく必要性を感じている」という答えは、学習への動機づけの欠如を表しているようにも見える。もう少し明確な学習への動機づけを持たせるためにも、教師はなぜ英語学習が必要なのかを学生に向けてアピールする必要があるのではないだろうか。そういう意味では、1年間を経て「将来の就職や留学のため」への回答数が増えているのは評価していい点だろう。

最後に、授業時間以外で学生がどれくらい英語学習に時間を費やしているかについてのアンケート結果を見てみたい。

Ⅵ あなたは授業時間以外で週に何時間くらい英語の勉強をしていますか。

入学時

	全くして いない	30分未満	30分～ 1時間未満	1時間～ 1時間30分 未満	1時間30分 ～2時間 未満	2時間～ 2時間30分 未満	2時間30分 ～3時間 未満	3時間以上	合計
人文(名)	233	48	34	38	11	2	2	4	372
比率(%)	63	13	9	10	3	1	1	1	100
英米(名)	26	13	11	16	7	4	4	3	84
比率(%)	31	15	13	19	8	5	5	4	100
教育(名)	83	14	17	17	5	1	2	3	142
比率(%)	58	10	12	12	4	1	1	2	100
臨床(名)	46	10	3	6	2	0	0	1	68
比率(%)	68	15	4	9	3	0	0	1	100
現社(名)	171	30	11	20	4	1	6	2	245
比率(%)	70	12	4	8	2	0	2	1	100
公共(名)	77	13	17	10	3	1	4	2	127
比率(%)	61	10	13	8	2	1	3	2	100
福祉(名)	183	38	26	30	2	2	1	4	286
比率(%)	64	13	9	10	1	1	0	1	100
理学(名)	35	4	7	2	0	2	0	0	50
比率(%)	70	8	14	4	0	4	0	0	100
作業(名)	21	8	5	2	0	0	0	0	36
比率(%)	58	22	14	6	0	0	0	0	100
合計(名)	906	191	134	150	34	14	19	19	1,467
比率(%)	62	13	9	10	2	1	1	1	100

1 回生終了時

	全くして いない	30分未満	30分～ 1時間未満	1時間～ 1時間30分 未満	1時間30分 ～2時間 未満	2時間～ 2時間30分 未満	2時間30分 ～3時間 未満	3時間以上	合計
人文(名)	129	40	26	31	3	2	2	2	235
比率(%)	55	17	11	13	1	1	1	1	100
英米(名)	19	10	13	14	5	3	3	3	70
比率(%)	27	14	19	20	7	4	4	4	100
教育(名)	54	36	13	25	2	2	2	2	136
比率(%)	40	26	10	18	1	1	1	1	100
臨床(名)	27	8	9	12	2	0	3	0	61
比率(%)	44	13	15	20	3	0	5	0	100
現社(名)	102	34	25	45	8	1	5	2	222
比率(%)	46	15	11	20	4	0	2	1	100
公共(名)	73	17	7	12	4	0	2	3	118
比率(%)	62	14	6	10	3	0	2	3	100
福祉(名)	106	38	32	45	7	8	3	3	242
比率(%)	44	16	13	19	3	3	1	1	100
理学(名)	22	9	4	9	1	0	0	1	46
比率(%)	48	20	9	20	2	0	0	2	100
作業(名)	16	10	3	8	0	0	0	0	37
比率(%)	43	27	8	22	0	0	0	0	100
合計(名)	549	202	132	201	32	16	20	16	1,168
比率(%)	47	17	11	17	3	1	2	1	100

「授業時間以外での英語の学習時間」への回答の変化

(単位：%)

	全くして いない	30分未満	30分～ 1時間未満	1時間～ 1時間30分 未満	1時間30分 ～2時間 未満	2時間～ 2時間30分 未満	2時間30分 ～3時間 未満	3時間以上
人文	-8	4	2	3	-2	0	0	0
英米	-4	-1	5	1	-1	0	0	1
教育	-19	17	-2	6	-2	1	0	-1
臨床	-23	-2	10	11	0	0	5	-1
現社	-24	3	7	12	2	0	0	0
公共	1	4	-7	2	1	-1	-1	1
福祉	-20	2	4	8	2	3	1	0
理学	-22	12	-5	16	2	-4	0	2
作業	-15	5	-6	16	0	0	0	0
合計	-15	4	2	7	0	0	0	0

全体的に「全くしていない」の割合が大きく減って、「1時間～1時間30分」あたりが増えている。単純に考えると、学習時間が増えれば増えるほど英語力はアップするはずだが、あまりに負荷をかけすぎると逆にモチベーション低下につながることも予想でき、このあたりのバランスのとり方は難しい。来年度以降も継続して調査を続けることにより、何らかの意味あるデータが得られればと思っている。

## 9. おわりに

前年度の『FD Review Vol.4——2008年度の総括——』による報告では、2008年度の英語基礎力調査の結果を受けて2008年度1回生の英語力の全体的な傾向は「伸び悩み」と総括されている。この総括は過去5年間ほど変わらなかったのであるが、2009年度は大きく異なる総括ができそうだ。

まず入学時のスコアであるが、英米学科の健闘が目立った。前年度よりいい成績を上げたのは英米学科と教育学科だけであったが、英米学科はその上昇幅が大きかったこともあり、教育学科と並んで全学科中2位の成績となっている。

次に1回生終了時のスコアであるが、実にすばらしい結果が出ている。2004年の英語基礎力調査開始以来最高のスコアを記録しているのである。当然のことながら、1年間の学修を経たスコアの伸びも過去最高の伸びを記録しており、しかも全学科でプラスの伸びが見られた。特に注目すべきは人文学科におけるスコアの伸びである。英米学科で一番大きな伸びを見せたのは当然だとしても、英語の授業が多いわけでもない人文学科で大幅な伸びを見せたのは正直驚きである。英語基礎力調査と同時に行われているアンケートの結果からは、人文学科において、1年間の学修を経て英語学習への顕著なモチベーションの上昇も見られた。その要因の分析は今後の課題となるが、2009年度人文学科の英語の授業がかなりうまく機能していたということは事実と言えそうだ。

今回、1回生終了時の英語基礎力調査スコア150点以上の数は過去最高を記録した。これは成績上位層の引き上げがうまく行ったことを示している。

サブスコアについては、VocabularyとGrammarの伸び悩みが毎年の傾向となってい

るが、やはり今回もこの二つのサブスコアで伸び悩みがみられた。

ただ総じて明るい内容ばかりが目立つ今回の調査結果で少し気になるのが保健医療技術学部である。ここ数年続いているスコアの下落傾向、及び1年間の学修を経た伸び率の悪さは今回も続いており、今後改善していかなければならない課題として残されている。

次に英語基礎力調査アンケート結果についてであるが、2009年度がアンケート内容を一新した初年度なので、正直それをどう読めばいいのかは今後ともデータを取り続けなければ分からない。とはいうものの、いくつかアンケートの結果から言えることがある。

まず英語学習への意欲であるが、1年間の学修を経た調査で英語学習への意欲が顕著に上昇したのが人文学科であった。そして今回の英語基礎力調査によると、人文学科は1年間で大幅な学力の上昇を示している。

次に学生が求める英語教育への取り組みについてのアンケート結果によると、全体的には「TOEICや英検等の資格試験対策」、「15人程度の少人数クラス編成」、「英米の文学や文化を通して英語を学ぶ授業」へのニーズが高いことが分かった。特に「TOEICや英検等の資格試験対策」へのニーズは1年間の学修を経て全ての学科で増加している。

英語の授業においてやる気を起こさせる上で重要だと思うことについては、「クラスメイトとの良好な関係」、続いて「教室内の自由でリラックスした雰囲気」、「学習者に興味のある内容を扱うこと」、「教師と学習者の良好な関係」という答えが多かった。特に「クラスメイトとの良好な関係」は1年の学習を経て一番の増加を見せている。

英語を学習する理由については、「教養として英語は大切だから」、「将来の就職や留学のため」、「外国へ旅行したいから」、「なんとなく必要性を感じるから」という答えが多かった。就職への意識も多少見られるものの、はっきりとした動機の欠如がそこには見てとれる。今後教師としては、英語学習への動機づけを行う必要があるのではないだろうか。

最後に授業以外での英語の学習時間であるが、1年間の変化を見ると、「全くしていない」の割合が大きく減って、「1時間～1時間30分」あたりが増えている。今後、この時間を増やししながら、同時にモチベーションをアップさせるためにはどうすればいいのかが大きな課題となるだろう。

正直、今回のアンケート結果については、以前のアンケートを一新したということもあり、このデータをどう解釈していいのかまだ明確な答えは出ていない。今後、他の教授法開発室室員や英語担当教員とこのデータを共有し、様々な意見を提供してもらい、考察を続けていきたい。

# 英語基礎力調査アンケート 集計結果

## 英語基礎力調査アンケート（通年用）

\*それぞれの項目に最もあてはまるものを一つだけ選んでください。

### 【Ⅰ】あなたは英語力を伸ばしたいですか

- |               |                        |
|---------------|------------------------|
| 0. もっと伸ばしたい   | 3. その必要はない             |
| 1. 伸ばしたい      | 4. 自分の英語力に満足ではないが伸ばしたい |
| 2. できるなら伸ばしたい | とも思わない                 |

### 【Ⅱ】次のような英語教育への取り組みのうち、あなたの英語学習へのやる気を起こさせる上で重要だと思うものを次の中から選んでください

0. 習熟度別（プレイスメントテストによる学力別）のクラス編成
1. TOEIC や英検等の資格試験対策
2. CALL（パソコンを使った自学自習システム）
3. 15人程度の少人数クラス編成
4. 外国人教員による英語のみを使用する授業
5. 英米の文学や文化を通して英語を学ぶ授業

### 【Ⅲ】英語の授業を受ける際、あなたの英語学習へのやる気を起こさせる上で重要だと思うものを次の中から選んでください

0. クラスメイトとの良好な関係
1. 教室内の自由でリラックスした雰囲気
2. 学習者に興味のある内容を扱うこと
3. 教師と学習者の良好な関係
4. 教師がなるべく多く英語でやりとりする機会をつくること
5. 学習者に自信を持たせるよう教師が気を配ること
6. 学習者の自主性を育てること
7. 教師の個性や熱意
8. 社会が英語学習の価値を高く評価していること

### 【Ⅳ】あなたが自分に最も必要だと思う英語のスキルを次から選んでください

- |           |           |
|-----------|-----------|
| 0. リスニング  | 3. リーディング |
| 1. スピーキング | 4. 語彙     |
| 2. ライティング | 5. 文法     |

### 【Ⅴ】次のうちあなたが英語を学習する理由として最も大きなものを選んでください

0. 自分とは異なる文化圏の人々と友達になりたいから
1. 外国へ旅行したいから
2. 英米文化に興味があるから
3. 教養として英語は大切だから
4. 将来の就職や留学のため
5. 国際社会の中で国際的な視野を持って働くため
6. 英米の音楽に興味があるから
7. なんとなく必要性を感じるから
8. さまざまな情報を得るための手段として必要だから

### 【Ⅵ】あなたは授業時間以外で週に何時間くらい英語の勉強をしていますか

- |              |                 |                 |
|--------------|-----------------|-----------------|
| 0. 全くしていない   | 3. 1時間～1時間30分未満 | 6. 2時間30分～3時間未満 |
| 1. 30分未満     | 4. 1時間30分～2時間未満 | 7. 3時間以上        |
| 2. 30分～1時間未満 | 5. 2時間～2時間30分未満 |                 |



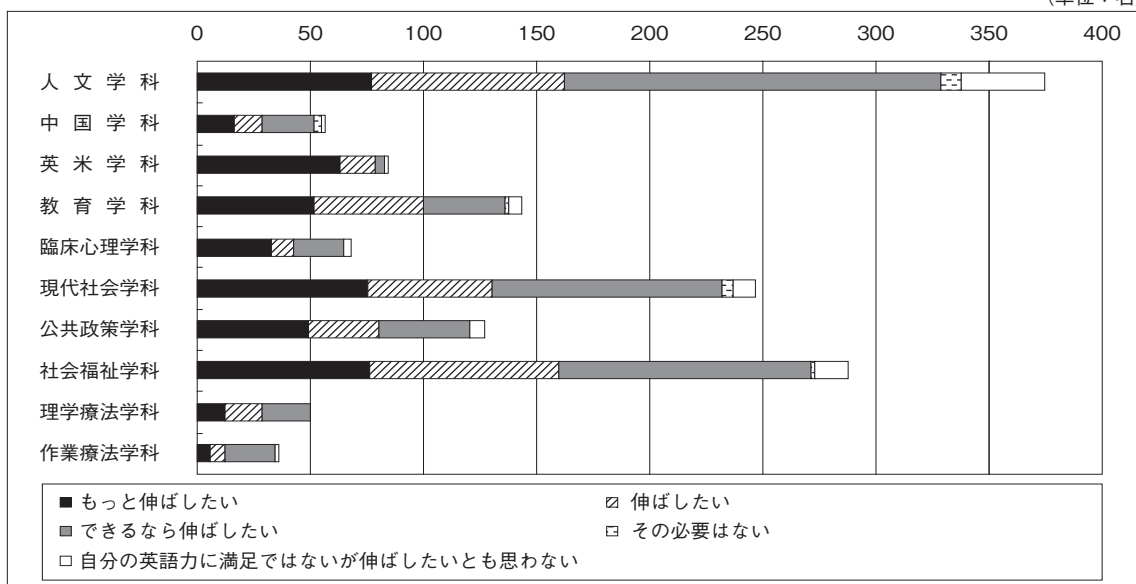
## 2009 年度春学期 英語基礎力調査アンケート集計結果（学科別）

### I あなたは英語力を伸ばしたいですか

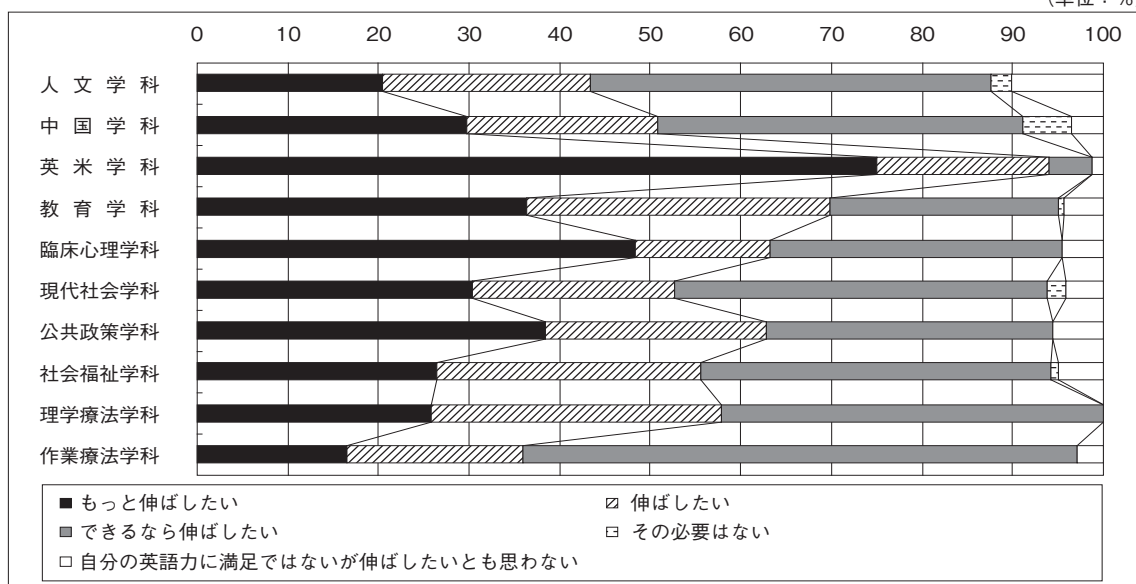
(単位：名)

	もっと伸ばしたい	伸ばしたい	できるなら伸ばしたい	その必要はない	自分の英語力に満足ではないが伸ばしたいとも思わない	合計
人文学科	77	85	165	9	37	373
中国学科	17	12	23	3	2	57
英米学科	63	16	4	0	1	84
教育学科	52	48	36	1	6	143
臨床心理学科	33	10	22	0	3	68
現代社会学科	75	55	101	5	10	246
公共政策学科	49	31	40	0	7	127
社会福祉学科	76	83	111	2	14	286
理学療法学科	13	16	21	0	0	50
作業療法学科	6	7	22	0	1	36
合計	461	363	545	20	81	1,470

(単位：名)



(単位：%)

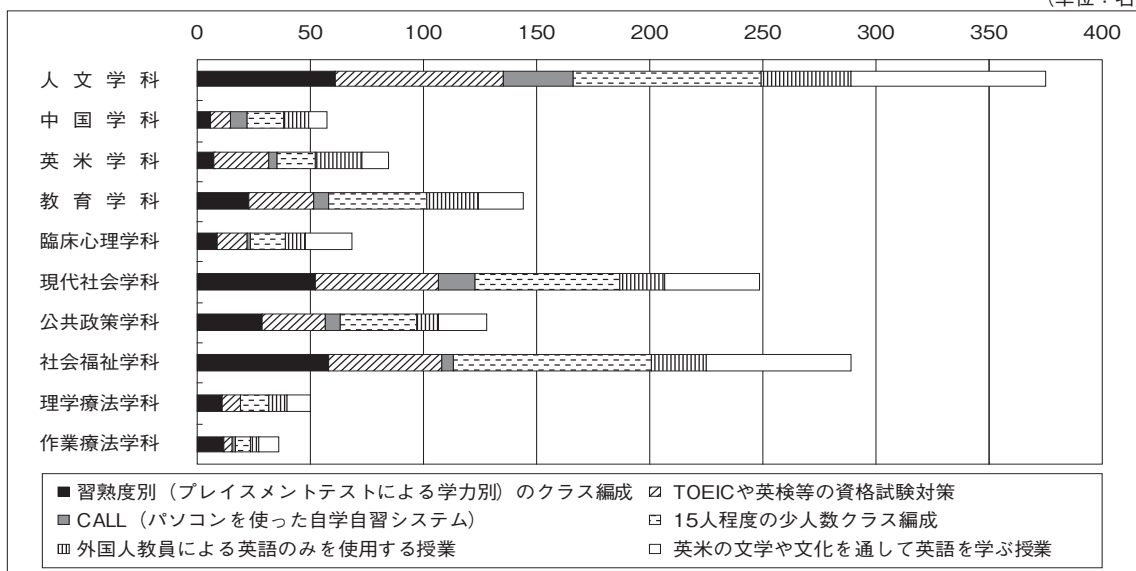


Ⅱ 次のような英語教育への取り組みのうち、あなたの英語学習へのやる気を起こさせる上で重要だと思うものを次の中から選んでください

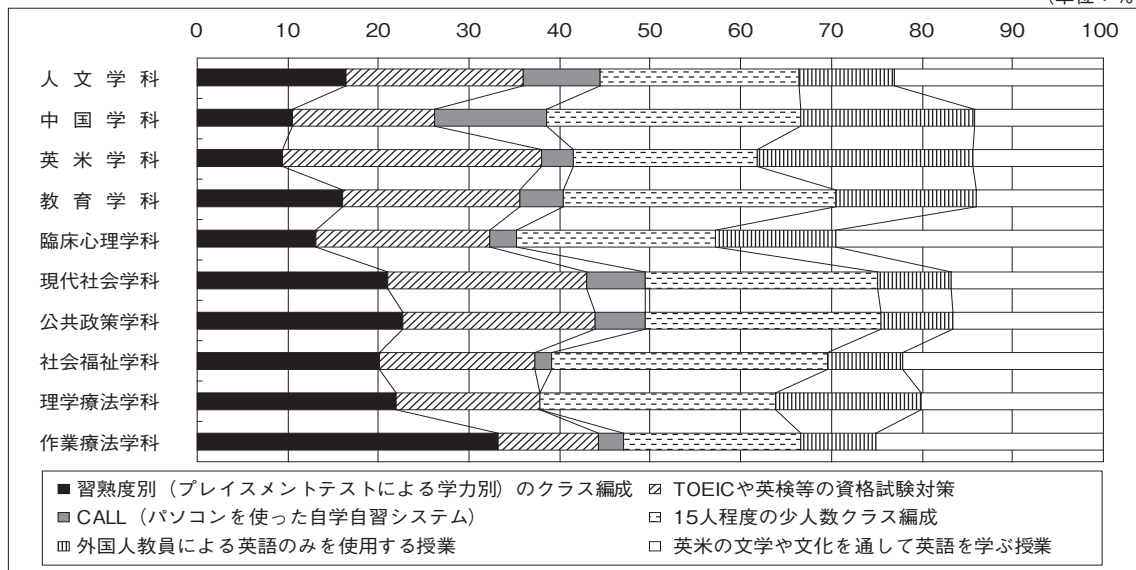
(単位：名)

	習熟度別（プレイスメントテストによる学力別）のクラス編成	TOEIC や 英検等の資格試験対策	CALL（パソコンを使った自学自習システム）	15人程度の少人数クラス編成	外国人教員による英語のみを使用する授業	英米の文学や文化を通して英語を学ぶ授業	合計
人文学科	61	73	31	82	39	85	371
中国学科	6	9	7	16	11	8	57
英米学科	8	24	3	17	20	12	84
教育学科	23	28	7	43	22	20	143
臨床心理学科	9	13	2	15	9	20	68
現代社会学科	52	54	16	63	20	41	246
公共政策学科	29	27	7	33	10	21	127
社会福祉学科	58	49	5	87	24	63	286
理学療法学科	11	8	0	13	8	10	50
作業療法学科	12	4	1	7	3	9	36
合計	269	289	79	376	166	289	1,468

(単位：名)



(単位：%)

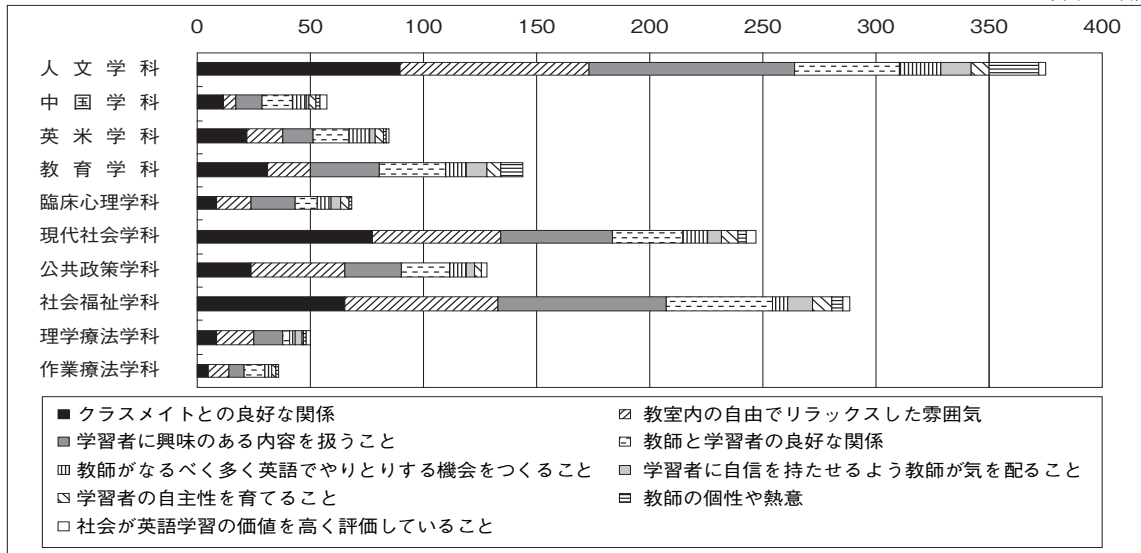


Ⅲ 英語の授業を受ける際、あなたの英語学習へのやる気を起こさせる上で重要だと思うものを次の中から選んでください

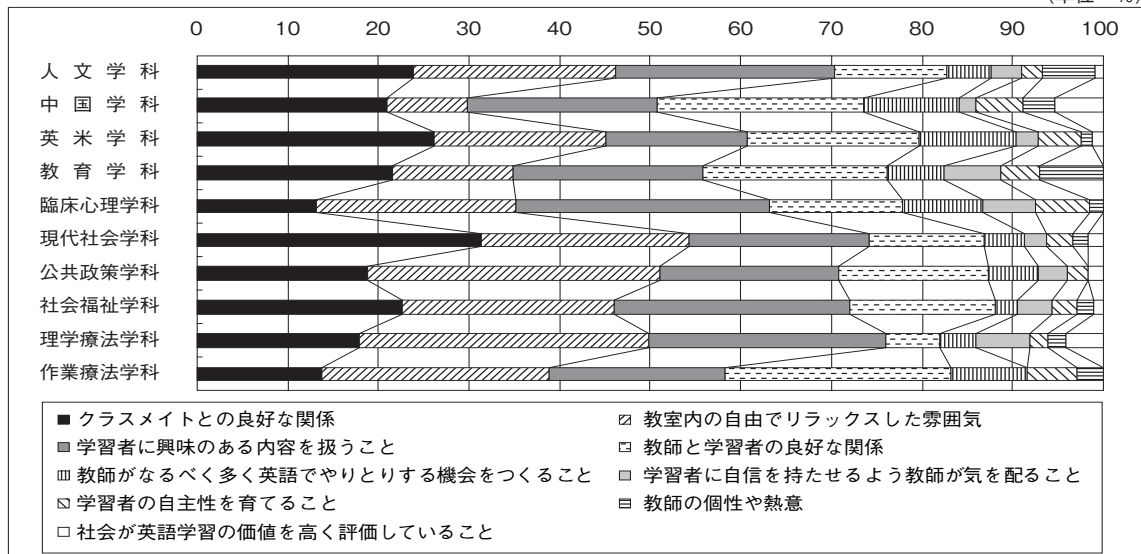
(単位：名)

	クラスメイトとの良好な関係	教室内の自由でリラックスした雰囲気	学習者に興味のある内容を扱うこと	教師と学習者の良好な関係	教師がなるべく多く英語でやりとりする機会をつくること	学習者に自信を持たせるよう教師が気を配ること	学習者の自主性を育てること	教師の個性や熱意	社会が英語学習の価値を高く評価していること	合計
人文学科	89	83	90	46	18	13	8	22	3	372
中国学科	12	5	12	13	6	1	3	2	3	57
英米学科	22	16	13	16	9	2	4	1	1	84
教育学科	31	19	30	29	9	9	6	10	0	143
臨床心理学科	9	15	19	10	6	4	4	1	0	68
現代社会学科	77	56	49	31	11	6	7	4	4	245
公共政策学科	24	41	25	21	7	4	3	0	2	127
社会福祉学科	65	67	74	46	7	11	8	5	3	286
理学療法学科	9	16	13	3	2	3	1	1	2	50
作業療法学科	5	9	7	9	3	0	2	1	0	36
合計	343	327	332	224	78	53	46	47	18	1,468

(単位：名)



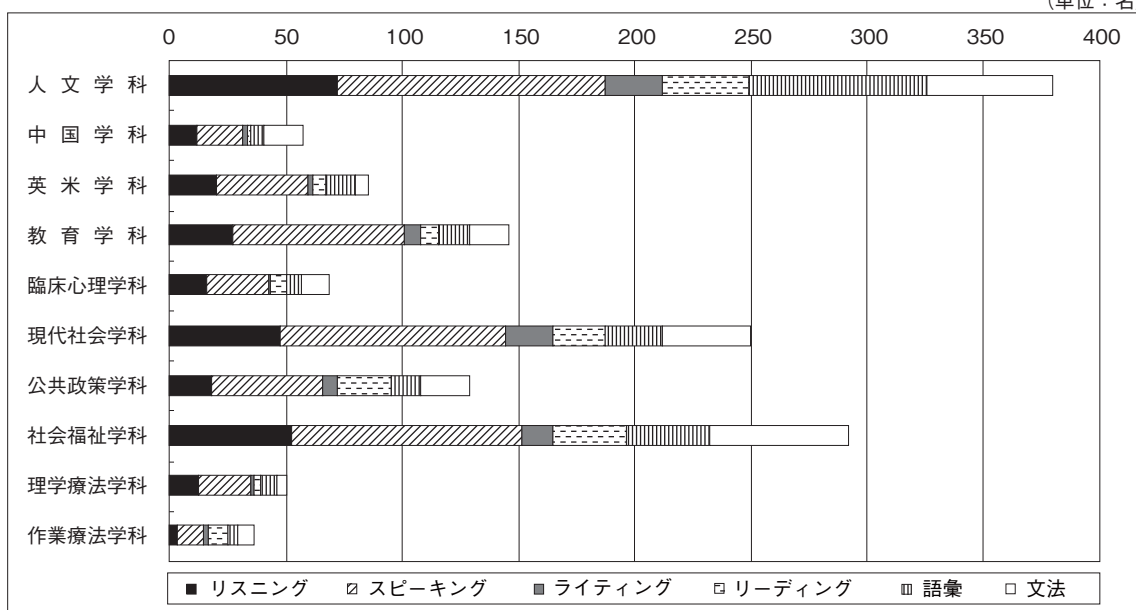
(単位：%)



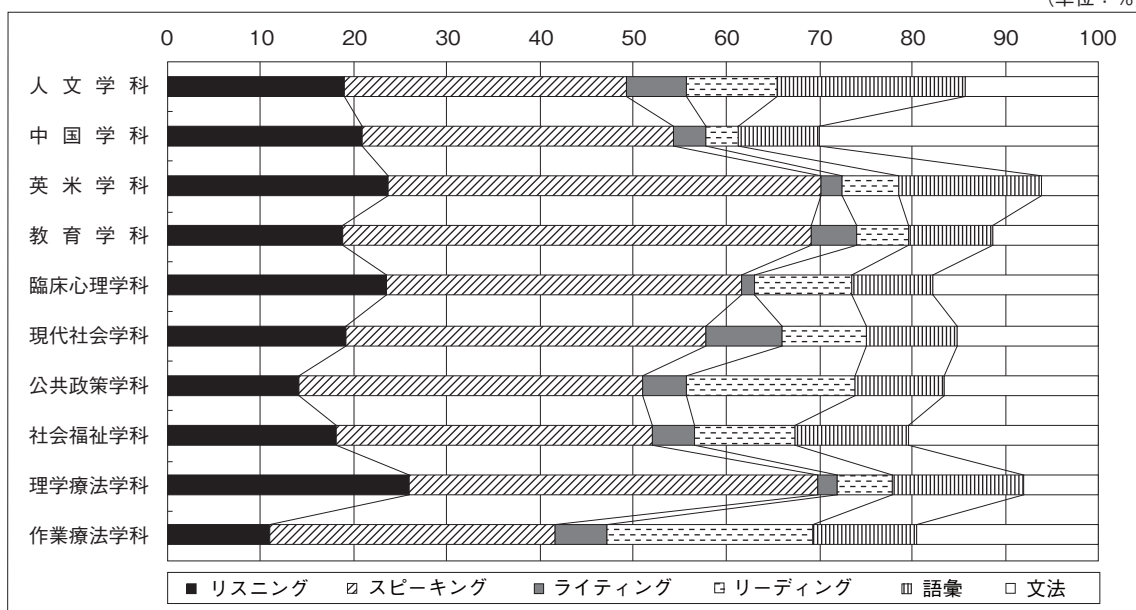
Ⅳ あなたが自分に最も必要だと思う英語のスキルを次から選んでください (単位：名)

	リスニング	スピーキング	ライティング	リーディング	語彙	文法	合計
人文学科	71	113	24	36	75	53	372
中国学科	12	19	2	2	5	17	57
英米学科	20	39	2	5	13	5	84
教育学科	27	72	7	8	13	16	143
臨床心理学科	16	26	1	7	6	12	68
現代社会学科	47	95	20	22	24	37	245
公共政策学科	18	47	6	23	12	21	127
社会福祉学科	52	97	13	31	35	58	286
理学療法学科	13	22	1	3	7	4	50
作業療法学科	4	11	2	8	4	7	36
合計	280	541	78	145	194	230	1,468

(単位：名)



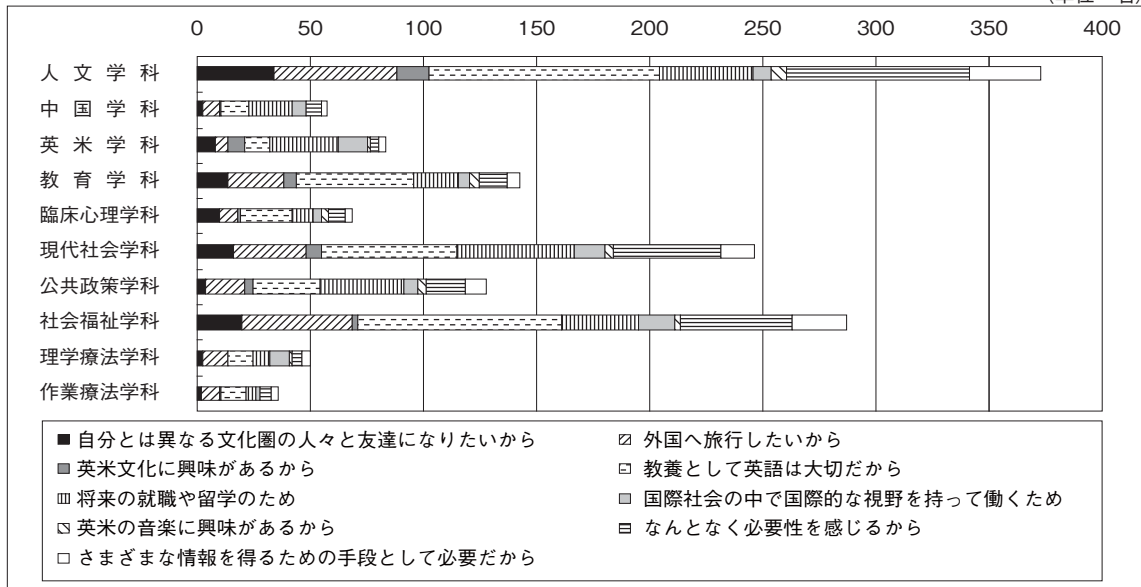
(単位：%)



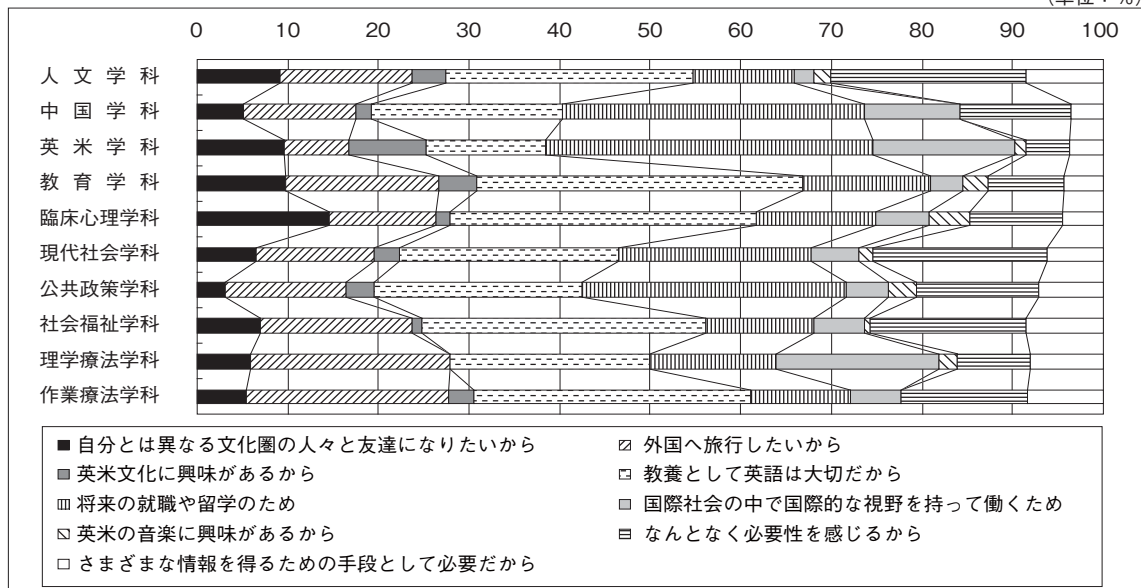
V 次のうちあなたが英語を学習する理由として最も大きなものを選んでください (単位：名)

	自分とは異なる文化圏の人々と友達になりたいから	外国へ旅行したいから	英米文化に興味があるから	教養として英語は大切だから	将来の就職や留学のため	国際社会の中で国際的な視野を持って働くため	英米の音楽に興味があるから	なんとなく必要性を感じるから	さまざまな情報を得るための手段として必要だから	合計
人文学科	34	54	14	101	41	8	7	80	31	370
中国学科	3	7	1	12	19	6	0	7	2	57
英米学科	8	6	7	11	30	13	1	4	3	83
教育学科	14	24	6	51	20	5	4	12	6	142
臨床心理学科	10	8	1	23	9	4	3	7	3	68
現代社会学科	16	32	7	59	52	13	4	47	15	245
公共政策学科	4	17	4	29	37	6	4	17	9	127
社会福祉学科	20	48	3	89	34	16	2	49	24	285
理学療法学科	3	11	0	11	7	9	1	4	4	50
作業療法学科	2	8	1	11	4	2	0	5	3	36
合計	114	215	44	397	253	82	26	232	100	1,463

(単位：名)



(単位：%)

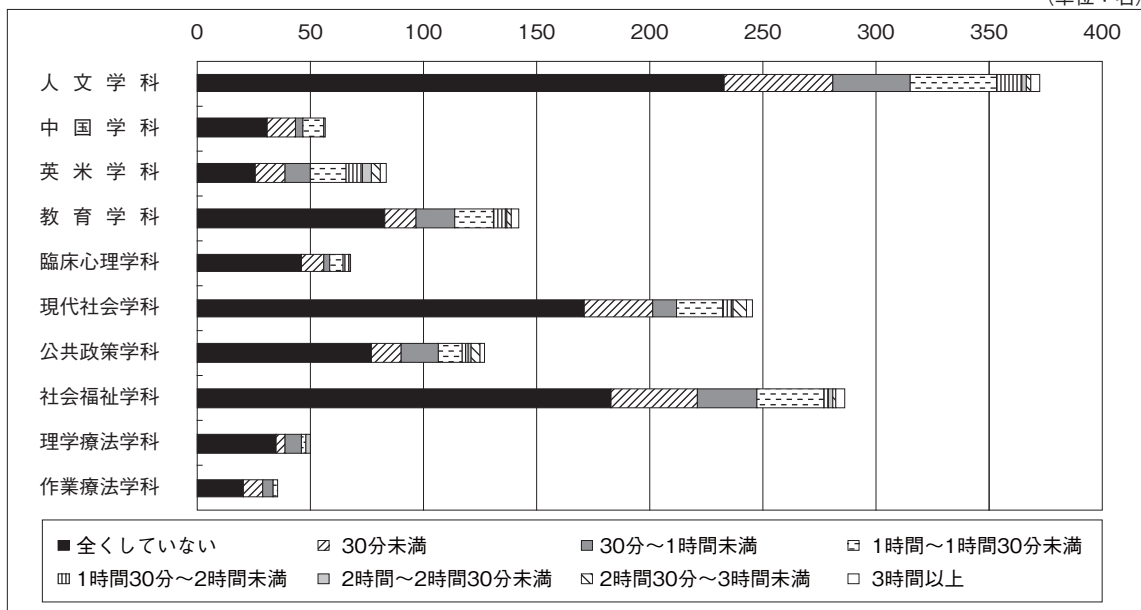


Ⅵ あなたは授業時間以外で週に何時間くらい英語の勉強をしていますか

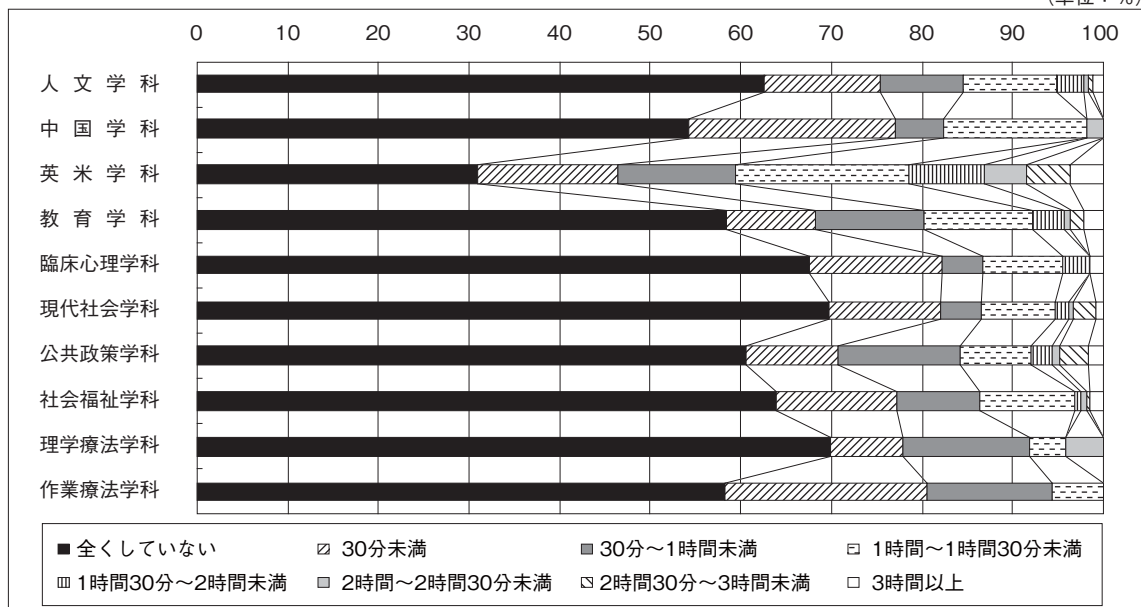
(単位：名)

	全くして いない	30分未 満	30分～ 1時間未 満	1時間～ 1時間30分 未満	1時間30分 ～2時間 未満	2時間～ 2時間30分 未満	2時間30分 ～3時間 未満	3時間以上	合計
人文学科	233	48	34	38	11	2	2	4	372
中国学科	31	13	3	9	0	1	0	0	57
英米学科	26	13	11	16	7	4	4	3	84
教育学科	83	14	17	17	5	1	2	3	142
臨床心理学科	46	10	3	6	2	0	0	1	68
現代社会学科	171	30	11	20	4	1	6	2	245
公共政策学科	77	13	17	10	3	1	4	2	127
社会福祉学科	183	38	26	30	2	2	1	4	286
理学療法学科	35	4	7	2	0	2	0	0	50
作業療法学科	21	8	5	2	0	0	0	0	36
合計	906	191	134	150	34	14	19	19	1,467

(単位：名)



(単位：%)



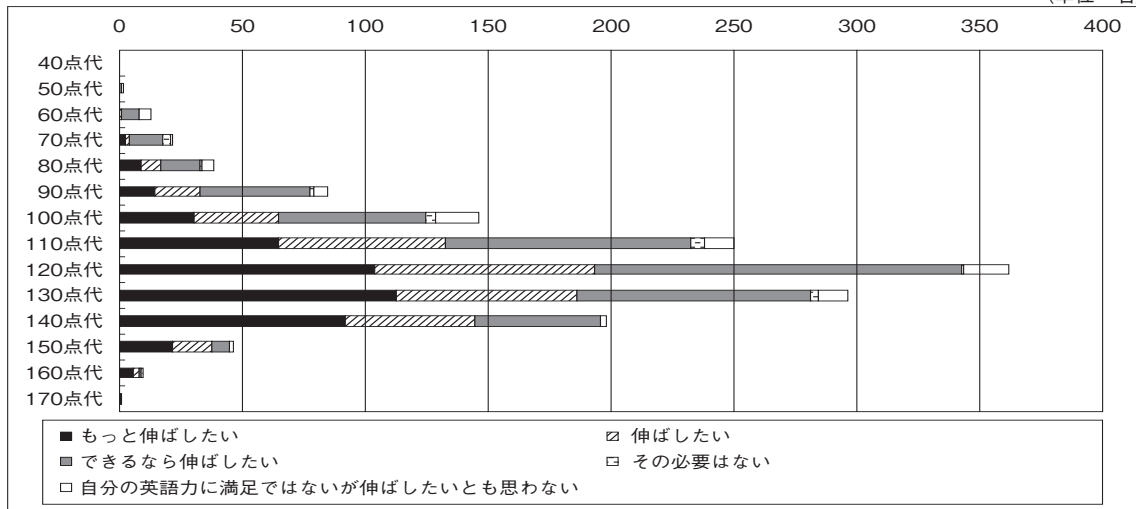
2009 年度春学期 英語基礎力調査アンケート集計結果（得点別）

I あなたは英語力を伸ばしたいですか

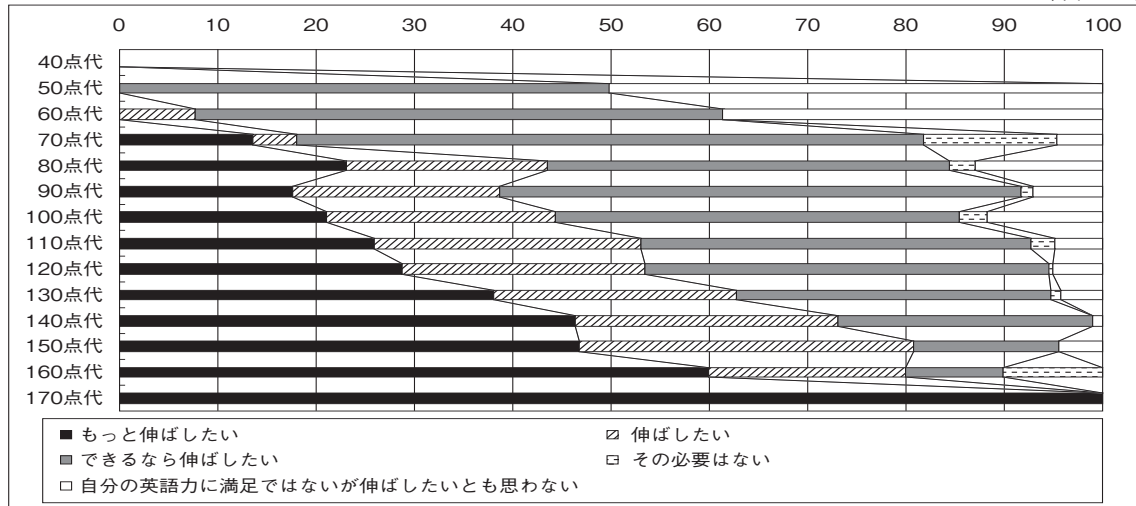
(単位：名)

	もっと伸ばしたい	伸ばしたい	できるなら伸ばしたい	その必要はない	自分の英語力に満足ではないが伸ばしたいとも思わない	合計
40点代	0	0	0	0	0	0
50点代	0	0	1	0	1	2
60点代	0	1	7	0	5	13
70点代	3	1	14	3	1	22
80点代	9	8	16	1	5	39
90点代	15	18	45	1	6	85
100点代	31	34	60	4	17	146
110点代	65	68	99	6	12	250
120点代	104	89	149	1	18	361
130点代	113	73	95	3	12	296
140点代	92	53	51	0	2	198
150点代	22	16	7	0	2	47
160点代	6	2	1	1	0	10
170点代	1	0	0	0	0	1
合計	461	363	545	20	81	1,470

(単位：名)



(単位：%)

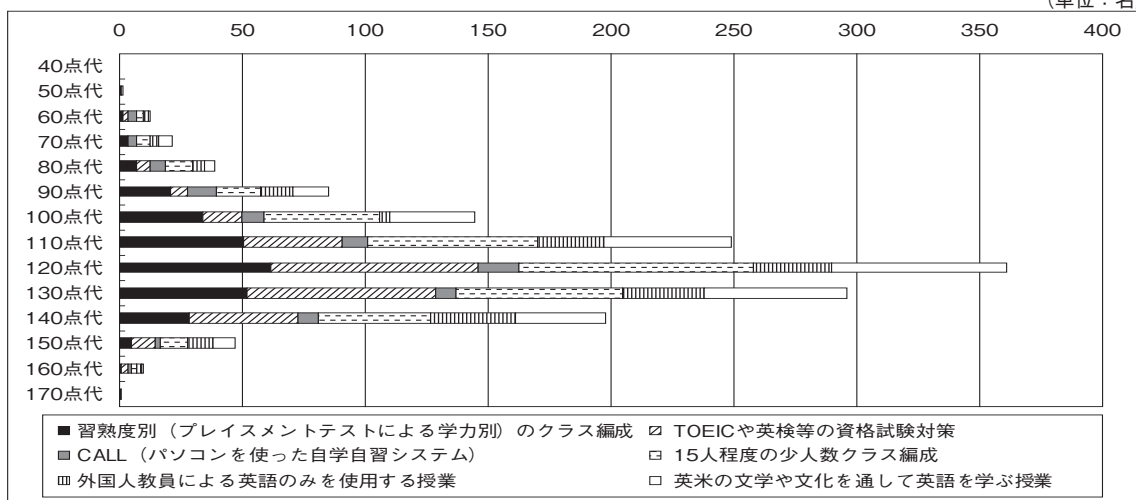


Ⅱ 次のような英語教育への取り組みのうち、あなたの英語学習へのやる気を起こさせる上で重要だと思うものを次の中から選んでください

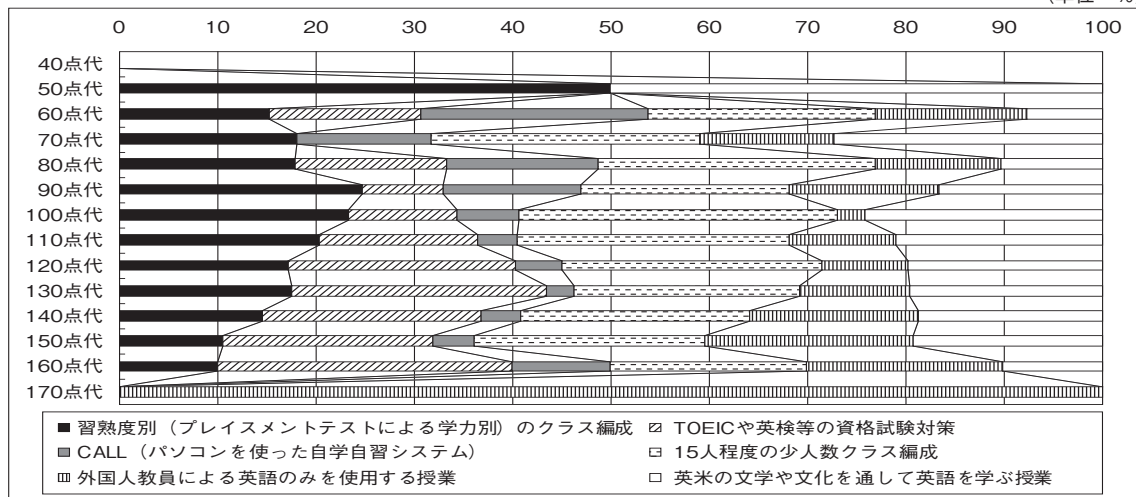
(単位：名)

	習熟度別（プレイスメントテストによる学力別）のクラス編成	TOEICや英検等の資格試験対策	CALL（パソコンを使った自学自習システム）	15人程度の少人数クラス編成	外国人教員による英語のみを使用する授業	英米の文学や文化を通して英語を学ぶ授業	合計
40点代	0	0	0	0	0	0	0
50点代	1	0	0	0	0	1	2
60点代	2	2	3	3	2	1	13
70点代	4	0	3	6	3	6	22
80点代	7	6	6	11	5	4	39
90点代	21	7	12	18	13	14	85
100点代	34	16	9	47	4	35	145
110点代	51	40	10	69	27	52	249
120点代	62	84	17	95	32	71	361
130点代	52	77	8	68	33	58	296
140点代	29	44	8	46	34	37	198
150点代	5	10	2	11	10	9	47
160点代	1	3	1	2	2	1	10
170点代	0	0	0	0	1	0	1
合計	269	289	79	376	166	289	1,468

(単位：名)



(単位：%)



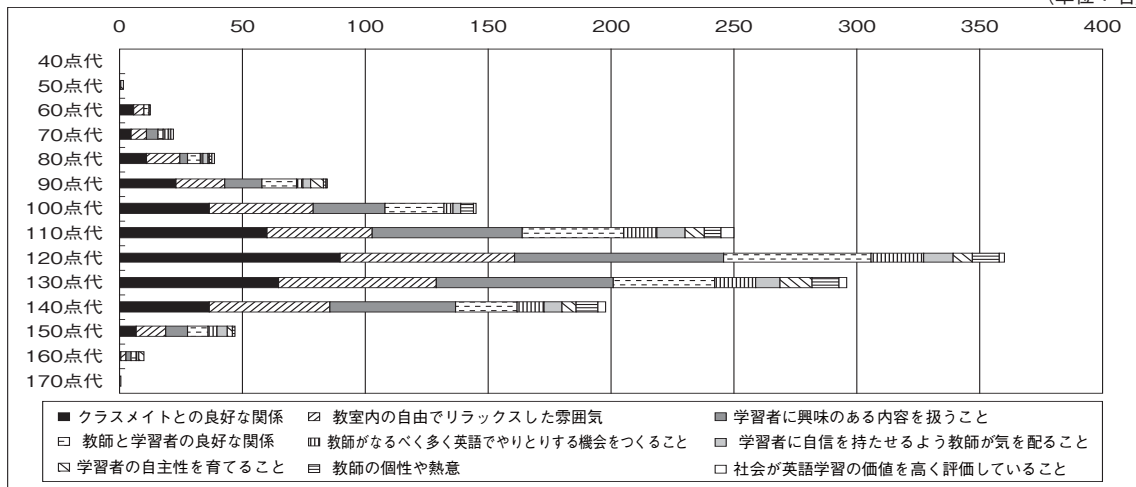


Ⅲ 英語の授業を受ける際、あなたの英語学習へのやる気を起こさせる上で重要だと思うものを次の中から選んでください

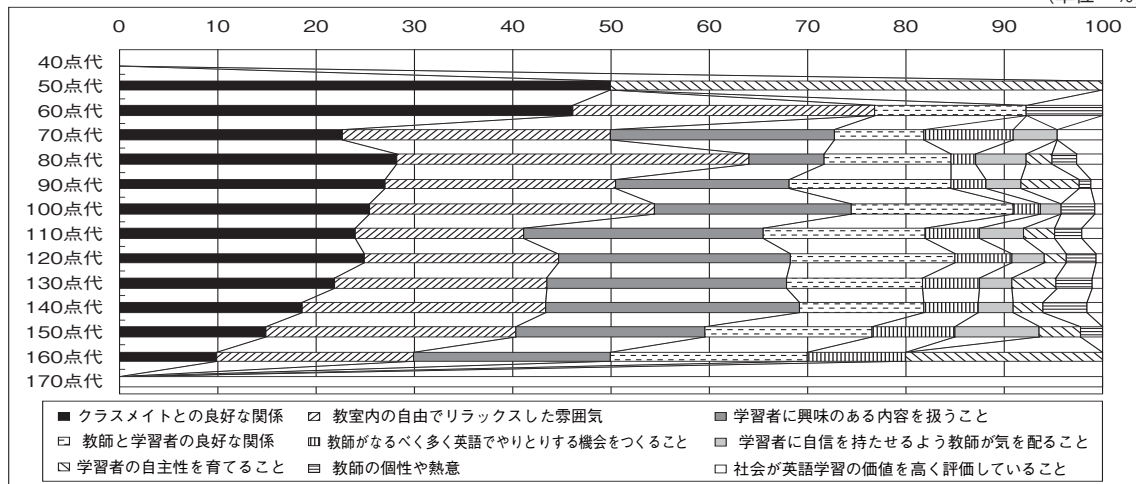
(単位：名)

	クラスメイトとの良好な関係	教室内の自由でリラックスした雰囲気	学習者に興味のある内容を扱うこと	教師と学習者の良好な関係	教師がなるべく多く英語でやりとりする機会をつくること	学習者に自信を持たせるよう教師が気を配ること	学習者の自主性を育てること	教師の個性や熱意	社会が英語学習の価値を高く評価していること	英の学習を高く評価していること	合計
40点代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
50点代	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2	
60点代	6	4	0	2	0	0	0	1	0	13	
70点代	5	6	5	2	2	1	0	0	1	22	
80点代	11	14	3	5	1	2	1	1	1	39	
90点代	23	20	15	14	3	3	5	1	1	85	
100点代	37	42	29	24	4	3	0	5	1	145	
110点代	60	43	61	41	14	11	8	7	5	250	
120点代	90	71	85	60	21	12	8	11	2	360	
130点代	65	64	72	41	17	10	13	11	3	296	
140点代	37	49	51	25	11	7	6	9	3	198	
150点代	7	12	9	8	4	4	2	1	0	47	
160点代	1	2	2	2	1	0	2	0	0	10	
170点代	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
合計	343	327	332	224	78	53	46	47	18	1,468	

(単位：名)



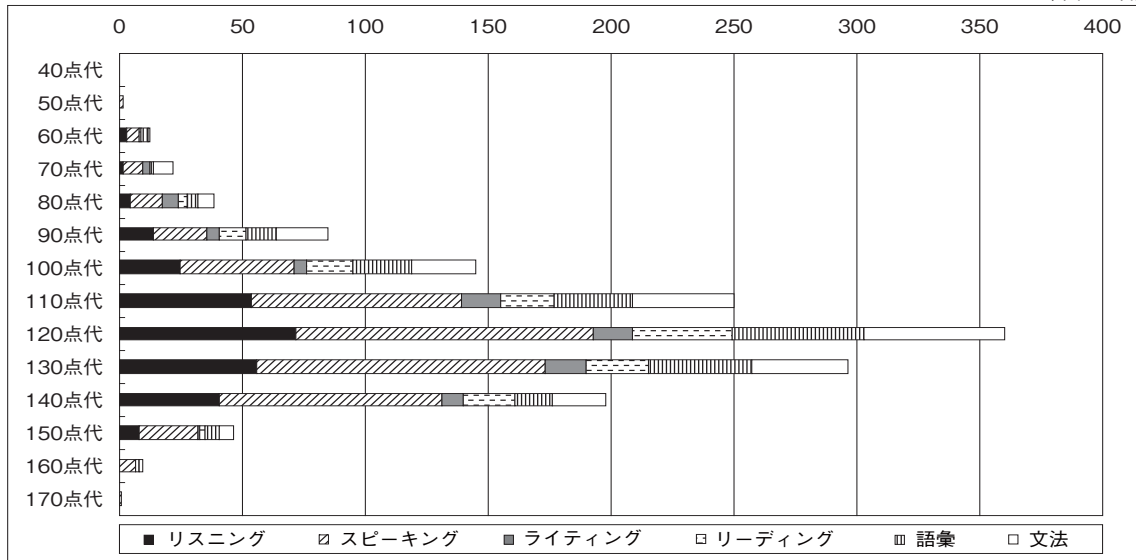
(単位：%)



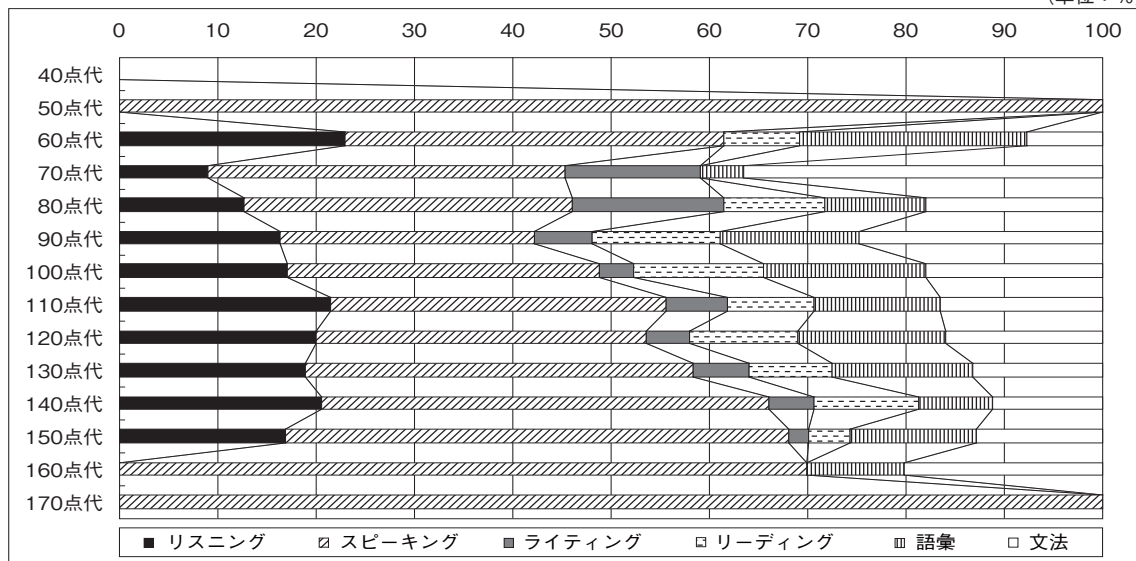
Ⅳ あなたが自分に最も必要だと思う英語のスキルを次から選んでください (単位：名)

	リスニング	スピーキング	ライティング	リーディング	語彙	文法	合計
40点代	0	0	0	0	0	0	0
50点代	0	2	0	0	0	0	2
60点代	3	5	0	1	3	1	13
70点代	2	8	3	0	1	8	22
80点代	5	13	6	4	4	7	39
90点代	14	22	5	11	12	21	85
100点代	25	46	5	19	24	26	145
110点代	54	85	16	22	32	41	250
120点代	72	121	16	40	54	57	360
130点代	56	117	17	25	42	39	296
140点代	41	90	9	21	15	22	198
150点代	8	24	1	2	6	6	47
160点代	0	7	0	0	1	2	10
170点代	0	1	0	0	0	0	1
合計	280	541	78	145	194	230	1,468

(単位：名)



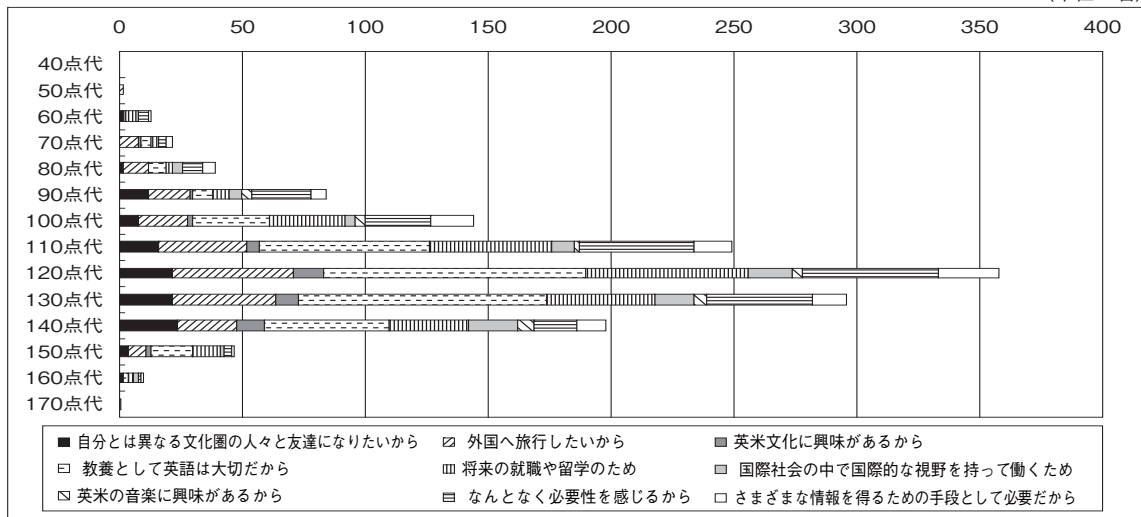
(単位：%)



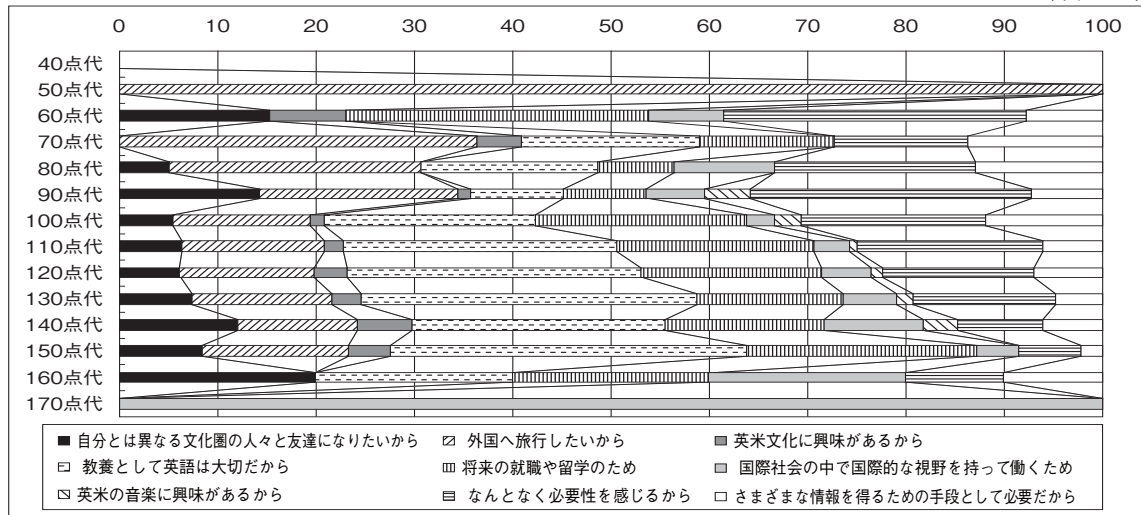
V 次のうちあなたが英語を学習する理由として最も大きなものを選んでください (単位：名)

	自分とは異なる文化圏の人々と友達になりたいから	外国へ旅行したいから	英米文化に興味があるから	教養として英語は大切だから	将来の就職や留学のため	国際社会の中で国際的な視野を持って働くため	英米の音楽に興味があるから	なんとなく必要を感じるから	さまざまな情報を得るための手段として必要だから	合計
40点代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50点代	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
60点代	2	0	1	0	4	1	0	4	1	13
70点代	0	8	1	4	3	0	0	3	3	22
80点代	2	10	0	7	3	4	0	8	5	39
90点代	12	17	1	8	7	5	4	24	6	84
100点代	8	20	2	31	31	4	4	27	17	144
110点代	16	36	5	69	50	9	2	47	15	249
120点代	22	49	12	107	66	18	4	55	25	358
130点代	22	42	9	101	44	16	5	43	14	296
140点代	24	24	11	51	32	20	7	17	12	198
150点代	4	7	2	17	11	2	0	3	1	47
160点代	2	0	0	2	2	2	0	1	1	10
170点代	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
合計	114	215	44	397	253	82	26	232	100	1,463

(単位：名)



(単位：%)

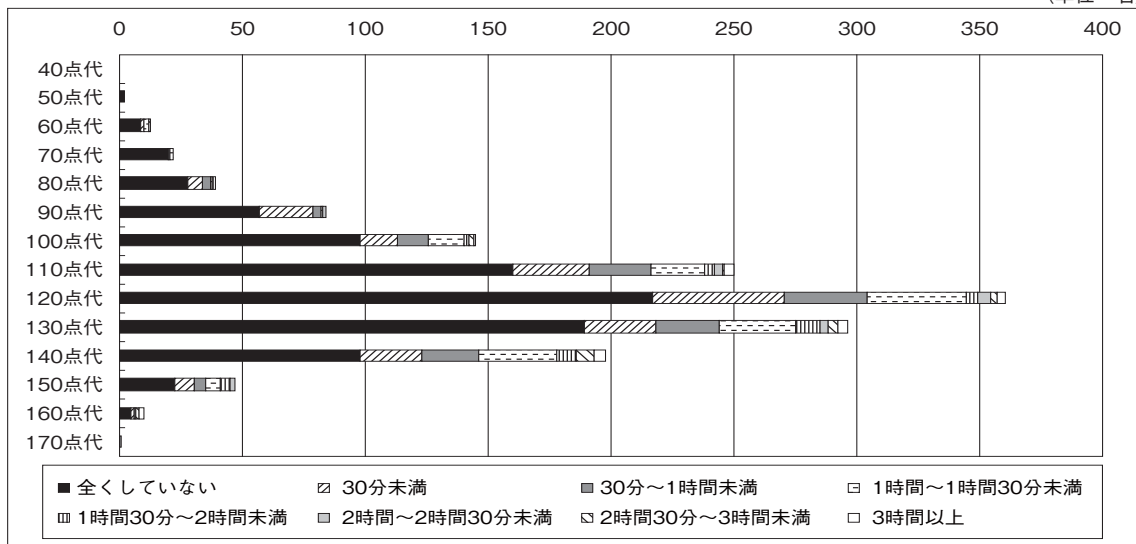


## Ⅵ あなたは授業時間以外で週に何時間くらい英語の勉強をしていますか

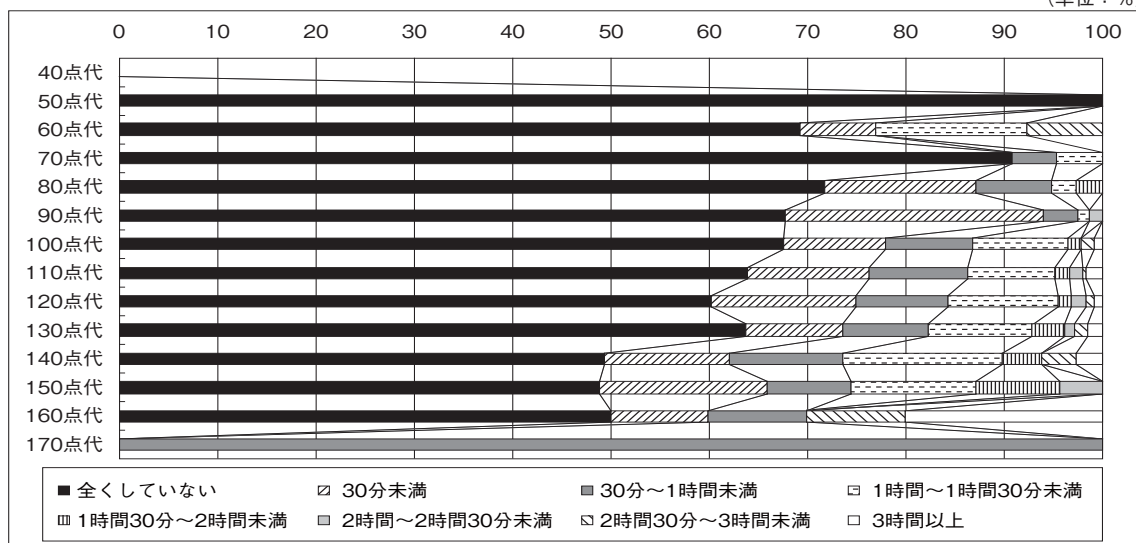
(単位：名)

	全くしていない	30分未満	30分～1時間未満	1時間～1時間30分未満	1時間30分～2時間未満	2時間～2時間30分未満	2時間30分～3時間未満	3時間以上	合計
40点代	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50点代	2	0	0	0	0	0	0	0	2
60点代	9	1	0	2	0	0	1	0	13
70点代	20	0	1	1	0	0	0	0	22
80点代	28	6	3	1	1	0	0	0	39
90点代	57	22	3	1	0	1	0	0	84
100点代	98	15	13	14	2	0	2	1	145
110点代	160	31	25	22	4	3	1	4	250
120点代	217	53	34	40	5	5	3	3	360
130点代	189	29	26	31	10	3	4	4	296
140点代	98	25	23	32	8	0	7	5	198
150点代	23	8	4	6	4	2	0	0	47
160点代	5	1	1	0	0	0	1	2	10
170点代	0	0	1	0	0	0	0	0	1
合計	906	191	134	150	34	14	19	19	1,467

(単位：名)



(単位：%)



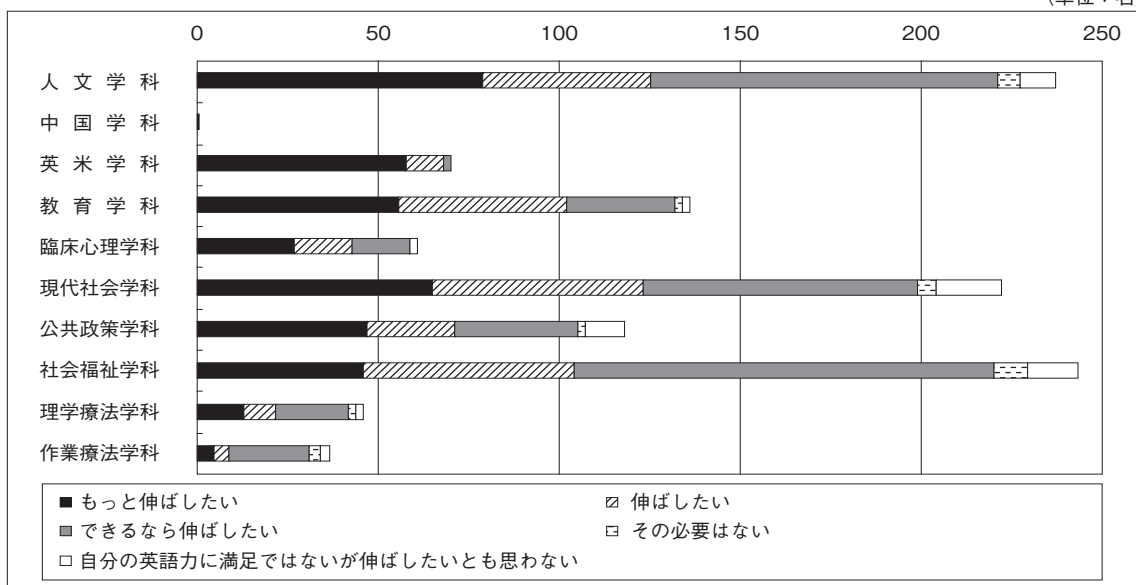
## 2009 年度秋学期 英語基礎力調査アンケート集計結果（学科別）

### I あなたは英語力を伸ばしたいですか

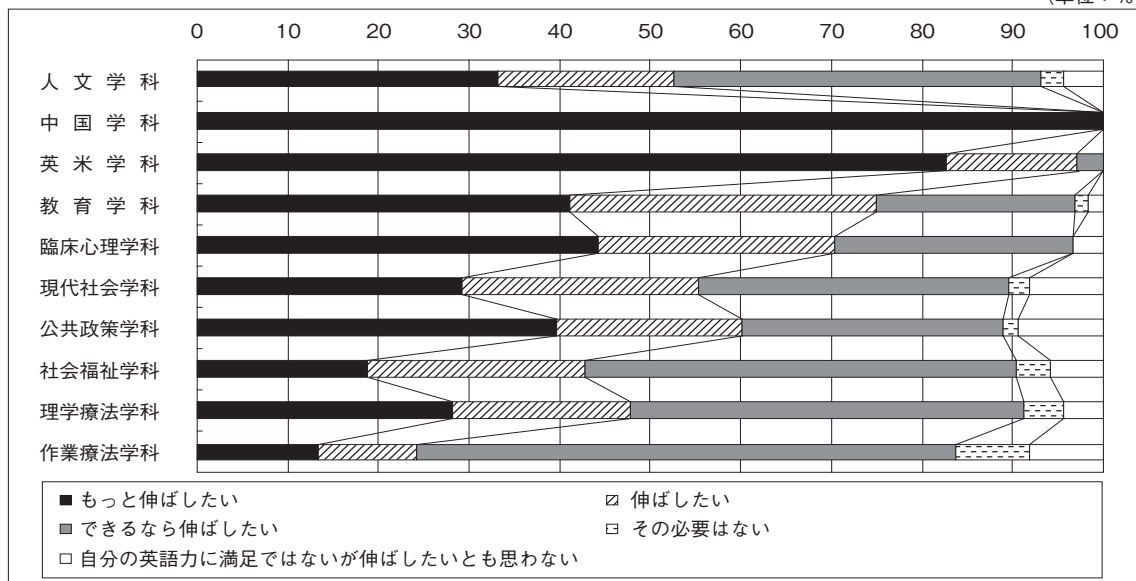
（単位：名）

学科	もっと伸ばしたい	伸ばしたい	できるなら伸ばしたい	その必要はない	自分の英語力に満足ではないが伸ばしたいとも思わない	合計
人文学科	79	46	96	6	10	237
中国学科	1	0	0	0	0	1
英米学科	58	10	2	0	0	70
教育学科	56	46	30	2	2	136
臨床心理学科	27	16	16	0	2	61
現代社会学科	65	58	76	5	18	222
公共政策学科	47	24	34	2	11	118
社会福祉学科	46	58	116	9	14	243
理学療法学科	13	9	20	2	2	46
作業療法学科	5	4	22	3	3	37
合計	397	271	412	29	62	1,171

（単位：名）



（単位：%）

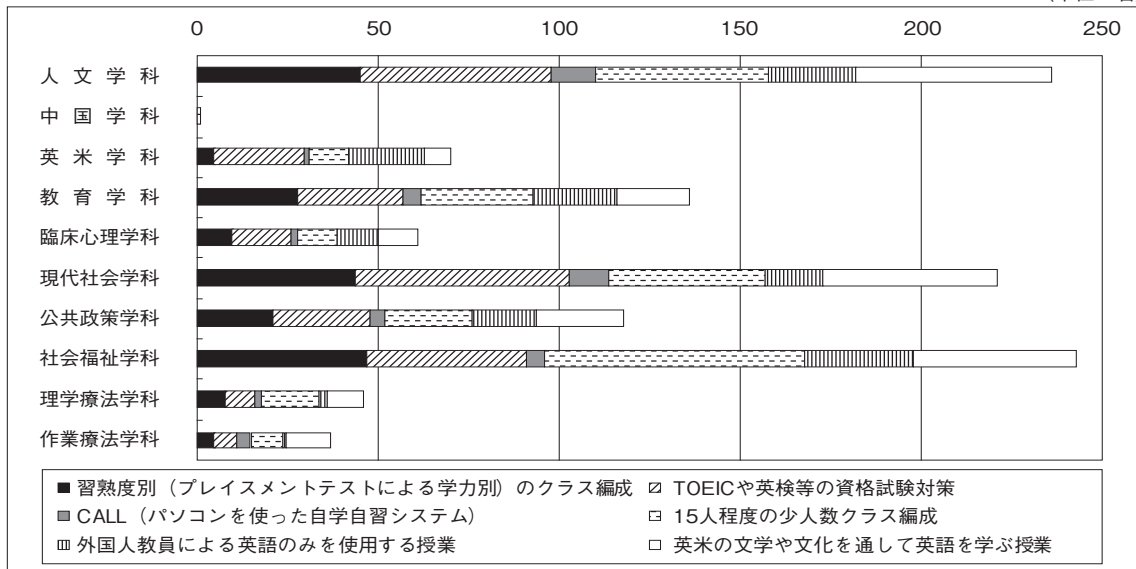


Ⅱ 次のような英語教育への取り組みのうち、あなたの英語学習へのやる気を起こさせる上で重要だと思うものを次の中から選んでください

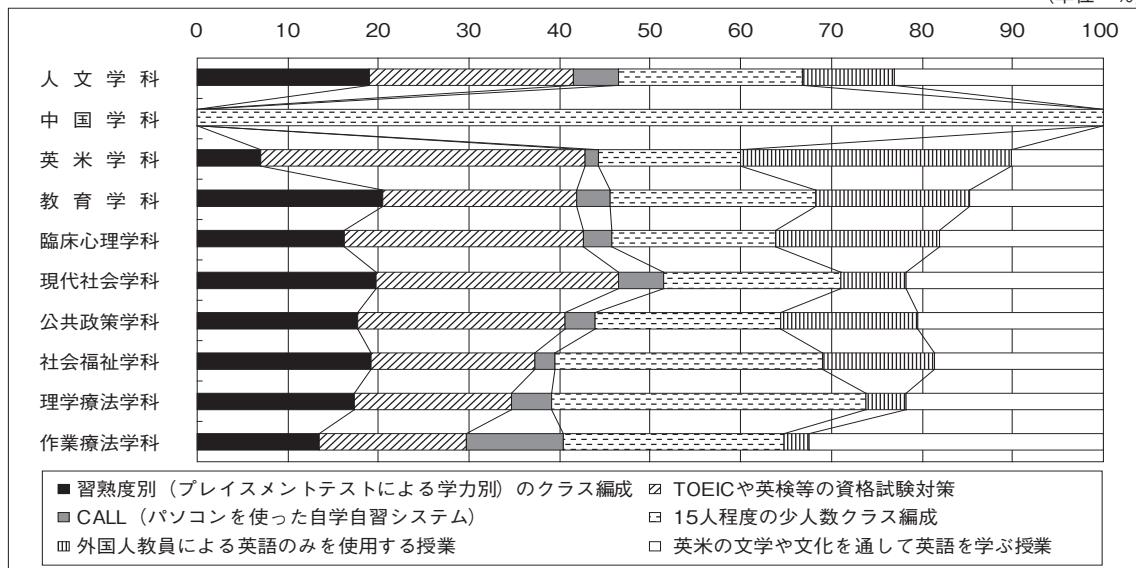
(単位：名)

	習熟度別（プレイスメントテストによる学力別）のクラス編成	TOEIC や 英検等の資格試験対策	CALL（パソコンを使った自学自習システム）	15人程度の少人数クラス編成	外国人教員による英語のみを使用する授業	英米の文学や文化を通して英語を学ぶ授業	合計
人文学科	45	53	12	48	24	54	236
中国学科	0	0	0	1	0	0	1
英米学科	5	25	1	11	21	7	70
教育学科	28	29	5	31	23	20	136
臨床心理学科	10	16	2	11	11	11	61
現代社会学科	44	59	11	43	16	48	221
公共政策学科	21	27	4	24	18	24	118
社会福祉学科	47	44	5	72	30	45	243
理学療法学科	8	8	2	16	2	10	46
作業療法学科	5	6	4	9	1	12	37
合計	213	267	46	266	146	231	1,169

(単位：名)



(単位：%)

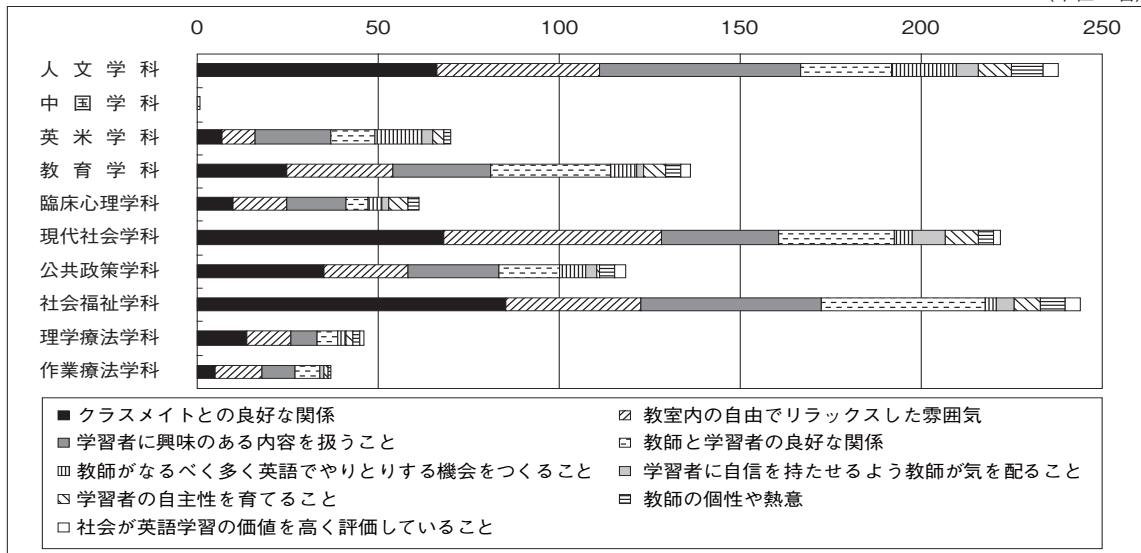


Ⅲ 英語の授業を受ける際、あなたの英語学習へのやる気を起こさせる上で重要だと思うものを次の中から選んでください

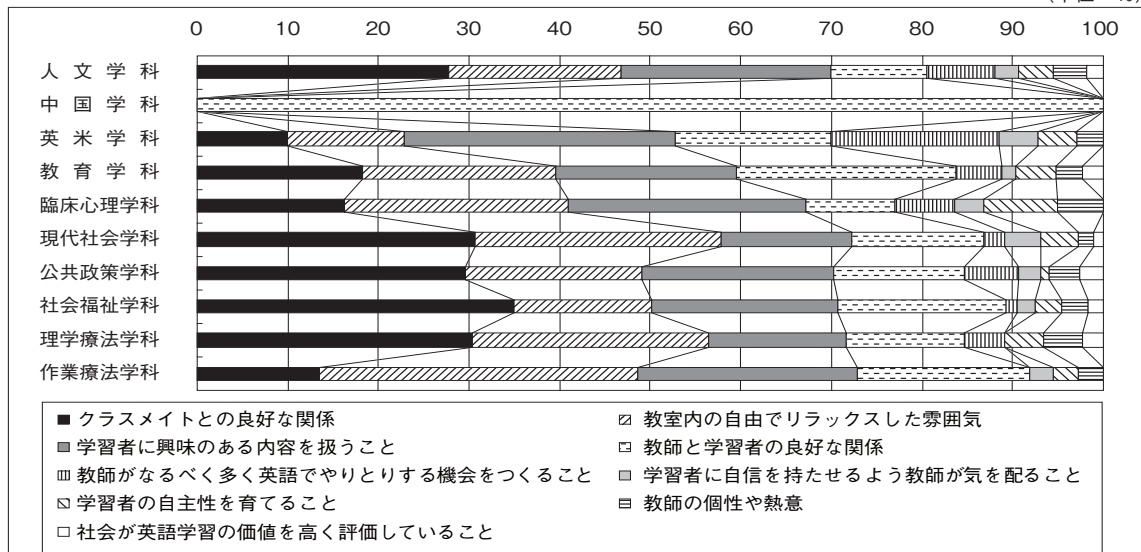
(単位：名)

	クラスメイトとの良好な関係	教室内の自由でリラックスした雰囲気	学習者に興味のある内容を扱うこと	教師と学習者の良好な関係	教師がなるべく多く英語でやりとりする機会をつくること	学習者に自信を持たせるよう教師が気を配ること	学習者の自主性を育てること	教師の個性や熱意	社会が英語学習の価値を高く評価していること	合計
人文学科	66	45	55	25	18	6	9	9	4	237
中国学科	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
英米学科	7	9	21	12	13	3	3	2	0	70
教育学科	25	29	27	33	7	2	6	4	3	136
臨床心理学科	10	15	16	6	4	2	5	3	0	61
現代社会学科	68	60	32	32	5	9	9	4	2	221
公共政策学科	35	23	25	17	7	3	1	4	3	118
社会福祉学科	85	37	50	45	3	5	7	7	4	243
理学療法学科	14	12	7	6	2	0	2	2	1	46
作業療法学科	5	13	9	7	0	1	1	1	0	37
合計	315	243	242	184	59	31	43	36	17	1,170

(単位：名)



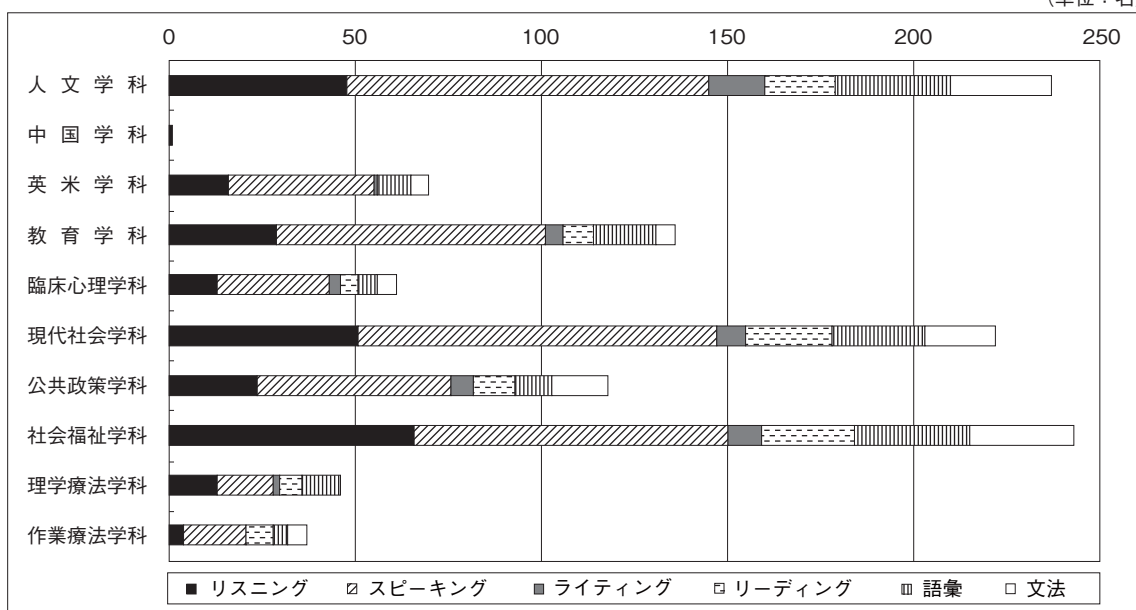
(単位：%)



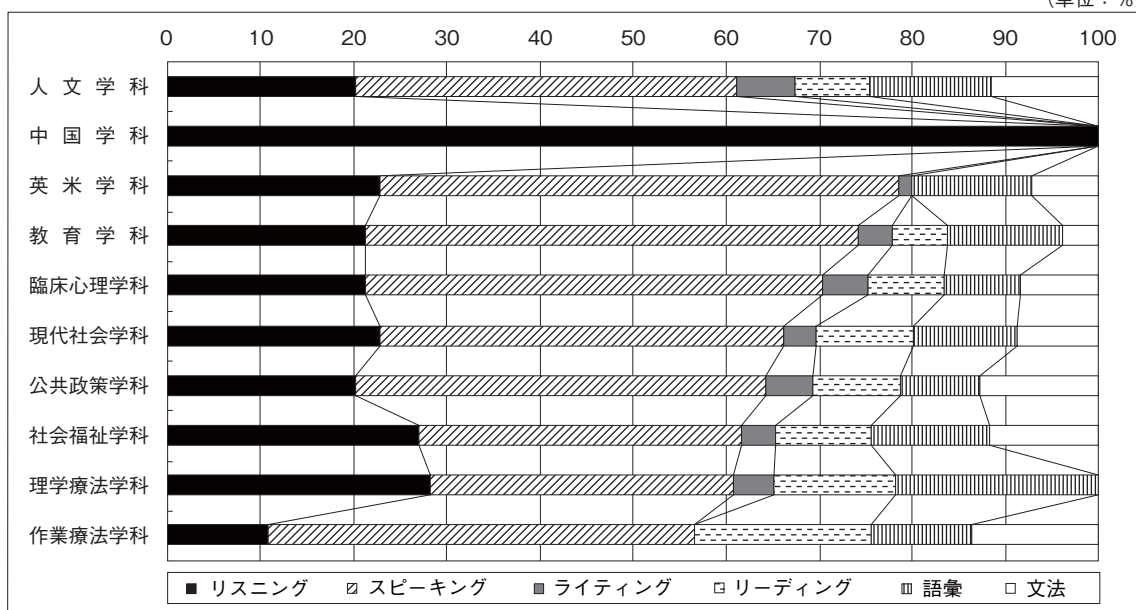
Ⅳ あなたが自分に最も必要だと思う英語のスキルを次から選んでください (単位：名)

	リスニング	スピーキング	ライティング	リーディング	語彙	文法	合計
人文学科	48	97	15	19	31	27	237
中国学科	1	0	0	0	0	0	1
英米学科	16	39	1	0	9	5	70
教育学科	29	72	5	8	17	5	136
臨床心理学科	13	30	3	5	5	5	61
現代社会学科	51	96	8	23	25	19	222
公共政策学科	24	52	6	11	10	15	118
社会福祉学科	66	84	9	25	31	28	243
理学療法学科	13	15	2	6	10	0	46
作業療法学科	4	17	0	7	4	5	37
合計	265	502	49	104	142	109	1,171

(単位：名)



(単位：%)

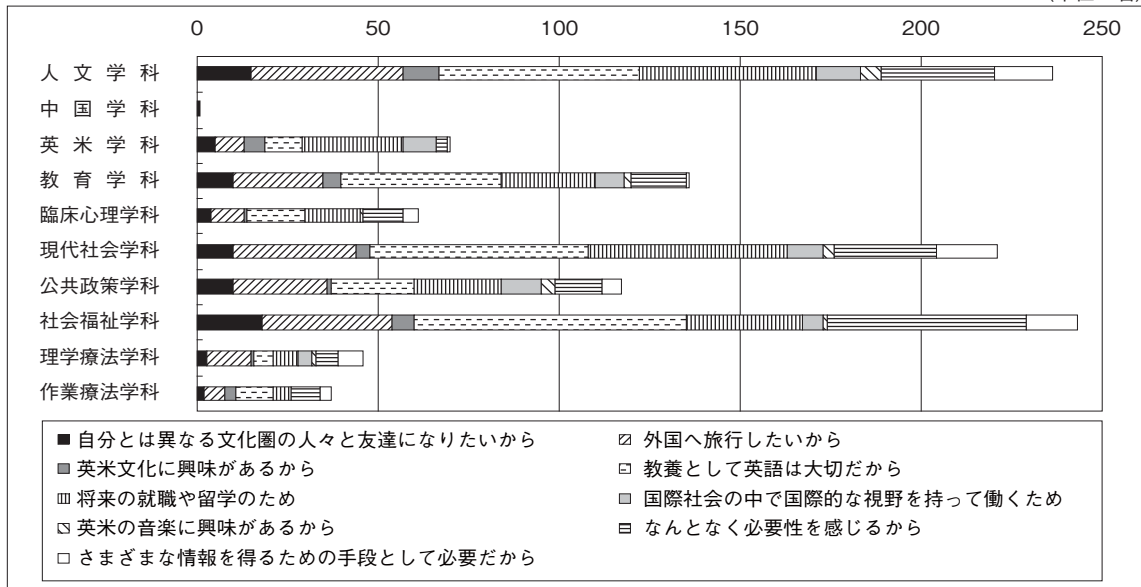




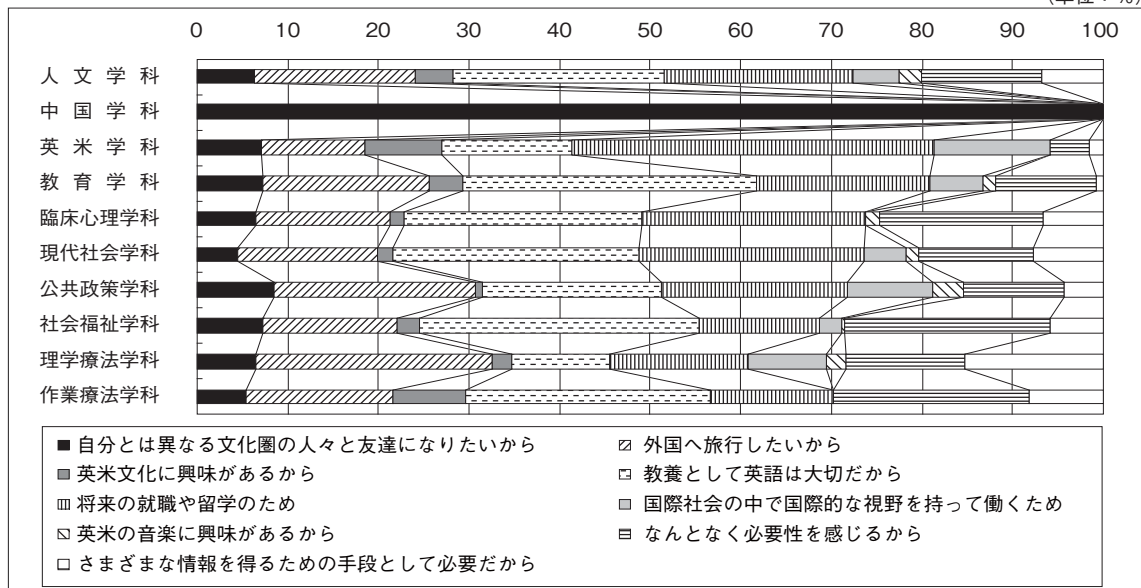
V 次のうちあなたが英語を学習する理由として最も大きなものを選んでください (単位：名)

	自分とは異なる文化圏の人々と友達になりたいから	外国へ旅行したいから	英米文化に興味があるから	教養として英語は大切だから	将来の就職や留学のため	国際社会の中で国際的な視野を持って働くため	英米の音楽に興味があるから	なんとなく必要性を感じるから	さまざまな情報を得るための手段として必要だから	合計
人文学科	15	42	10	55	49	12	6	31	16	236
中国学科	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
英米学科	5	8	6	10	28	9	0	3	1	70
教育学科	10	25	5	44	26	8	2	15	1	136
臨床心理学科	4	9	1	16	15	0	1	11	4	61
現代社会学科	10	34	4	60	55	10	3	28	17	221
公共政策学科	10	26	1	23	24	11	4	13	5	117
社会福祉学科	18	36	6	75	32	6	1	55	14	243
理学療法学科	3	12	1	5	7	4	1	6	7	46
作業療法学科	2	6	3	10	5	0	0	8	3	37
合計	78	198	37	298	241	60	18	170	68	1,168

(単位：名)



(単位：%)

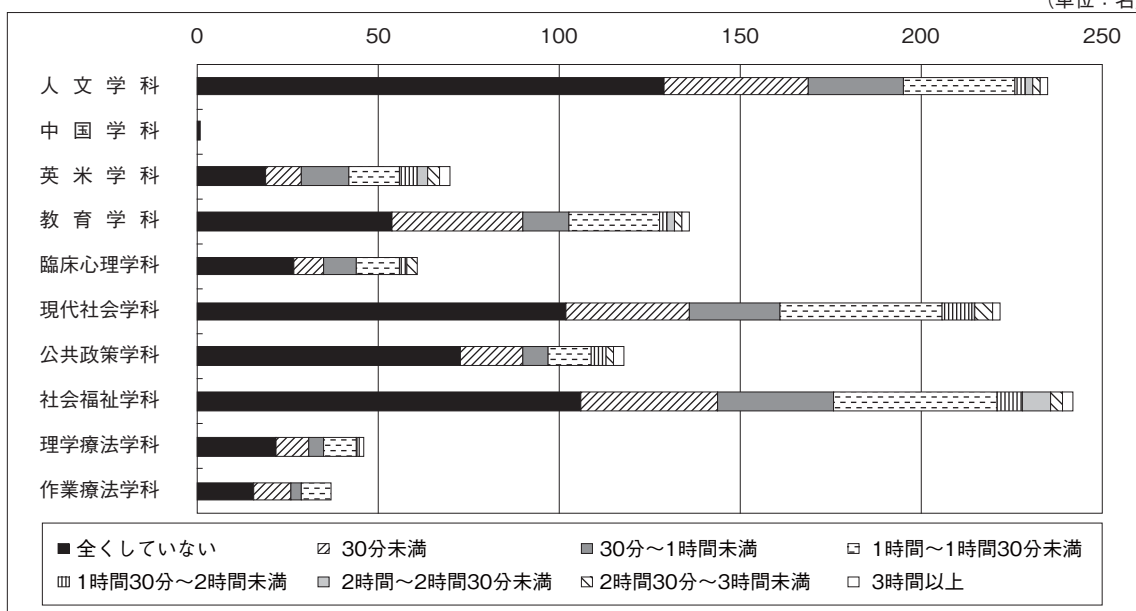


## Ⅵ あなたは授業時間以外で週に何時間くらい英語の勉強をしていますか

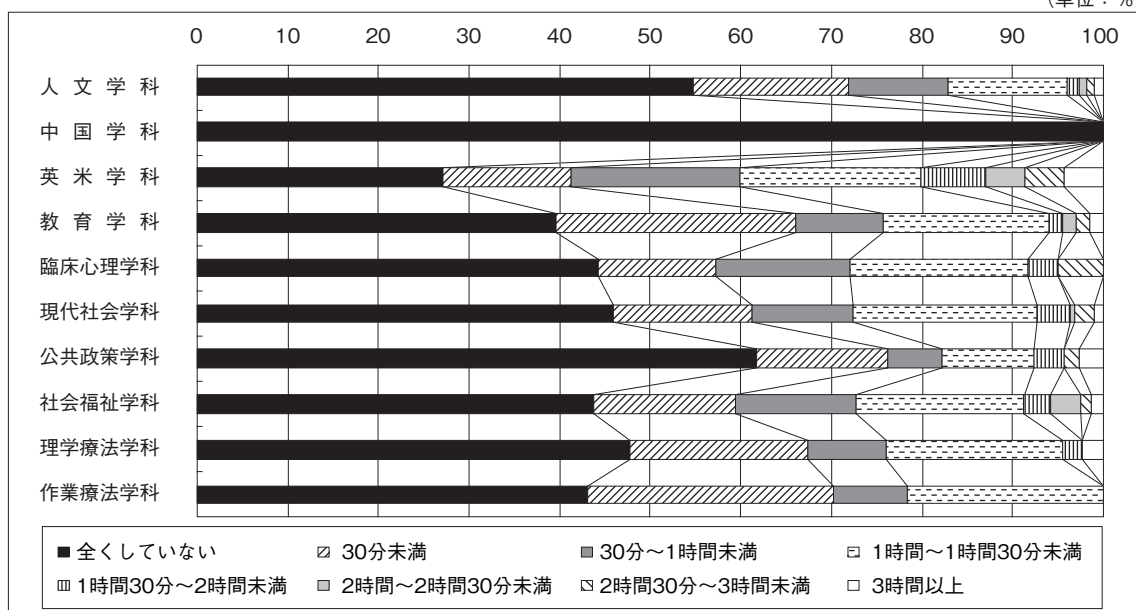
(単位：名)

	全くして いない	30分未満	30分～ 1時間未満	1時間～ 1時間30分 未満	1時間30分 ～2時間 未満	2時間～ 2時間30分 未満	2時間30分 ～3時間 未満	3時間以上	合計
人文学科	129	40	26	31	3	2	2	2	235
中国学科	1	0	0	0	0	0	0	0	1
英米学科	19	10	13	14	5	3	3	3	70
教育学科	54	36	13	25	2	2	2	2	136
臨床心理学科	27	8	9	12	2	0	3	0	61
現代社会学科	102	34	25	45	8	1	5	2	222
公共政策学科	73	17	7	12	4	0	2	3	118
社会福祉学科	106	38	32	45	7	8	3	3	242
理学療法学科	22	9	4	9	1	0	0	1	46
作業療法学科	16	10	3	8	0	0	0	0	37
合計	549	202	132	201	32	16	20	16	1,168

(単位：名)



(単位：%)



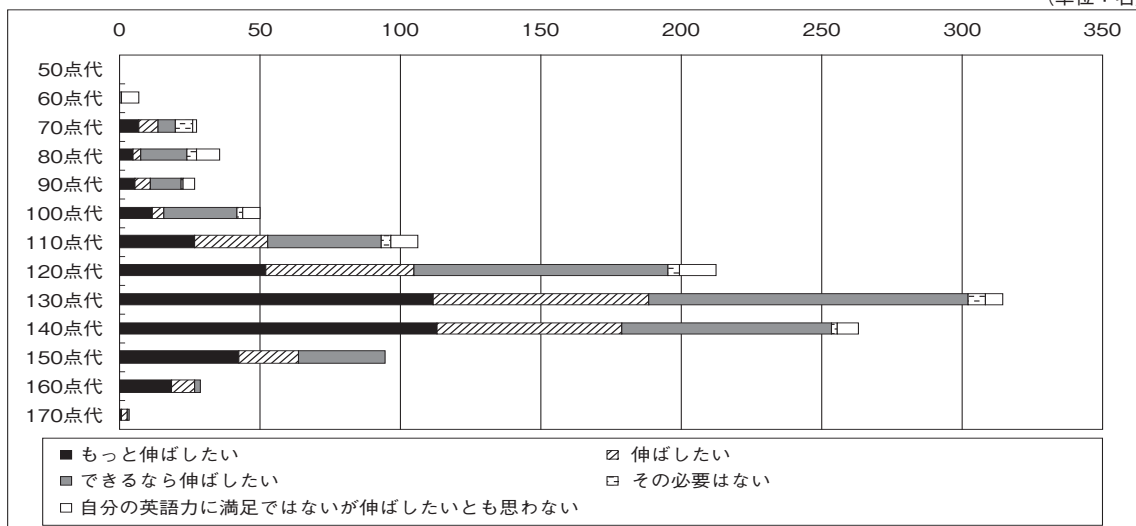
## 2009 年度秋学期 英語基礎力調査アンケート集計結果（得点別）

### I あなたは英語力を伸ばしたいですか

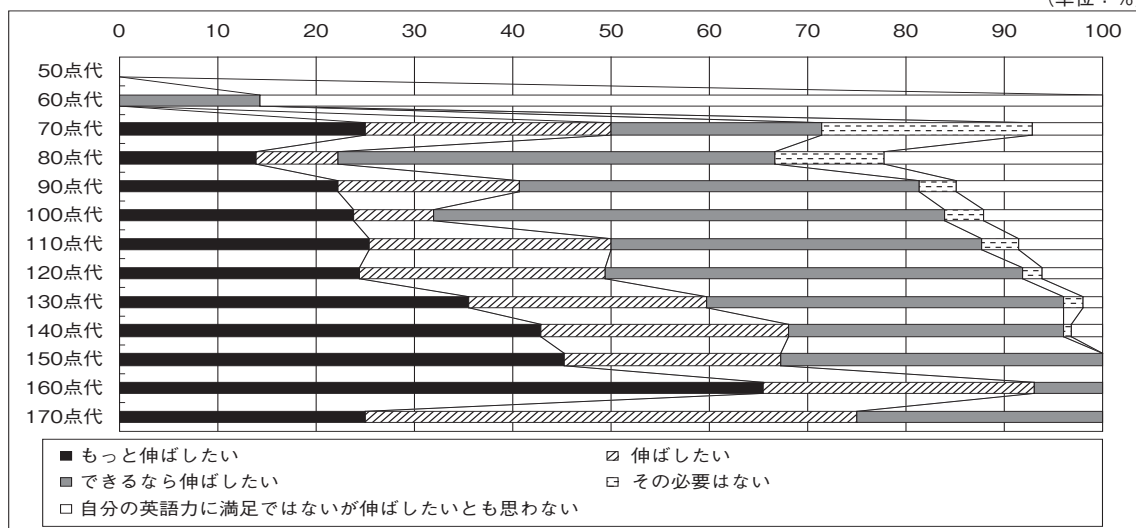
(単位：名)

	もっと伸ばしたい	伸ばしたい	できるなら伸ばしたい	その必要はない	自分の英語力に満足ではないが伸ばしたいと思わない	合計
50点代	0	0	0	0	0	0
60点代	0	0	1	0	6	7
70点代	7	7	6	6	2	28
80点代	5	3	16	4	8	36
90点代	6	5	11	1	4	27
100点代	12	4	26	2	6	50
110点代	27	26	40	4	9	106
120点代	52	53	90	4	13	212
130点代	112	76	114	6	6	314
140点代	113	66	74	2	8	263
150点代	43	21	31	0	0	95
160点代	19	8	2	0	0	29
170点代	1	2	1	0	0	4
合計	397	271	412	29	62	1,171

(単位：名)



(単位：%)

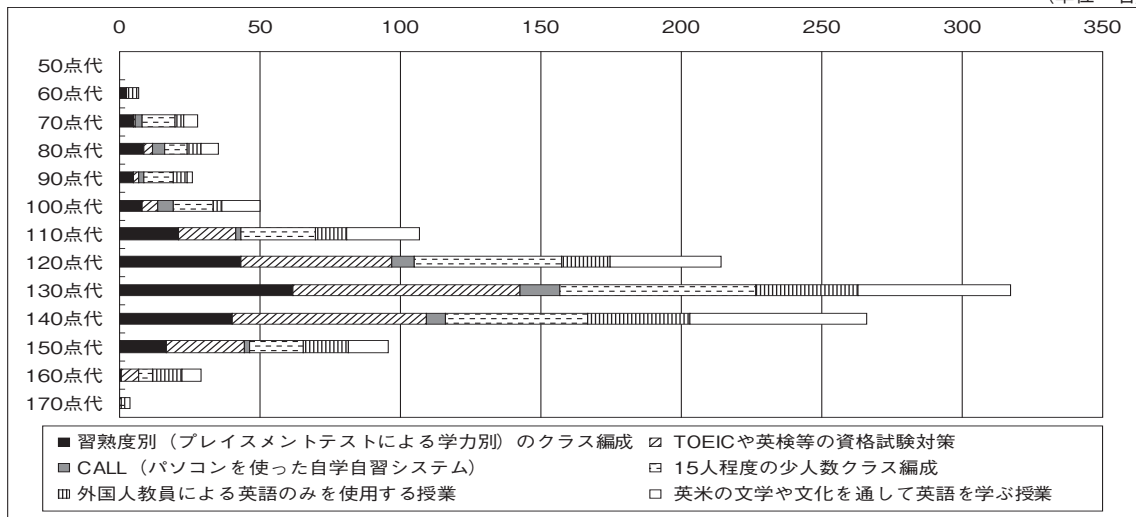


Ⅱ 次のような英語教育への取り組みのうち、あなたの英語学習へのやる気を起こさせる上で重要だと思うものを次の中から選んでください

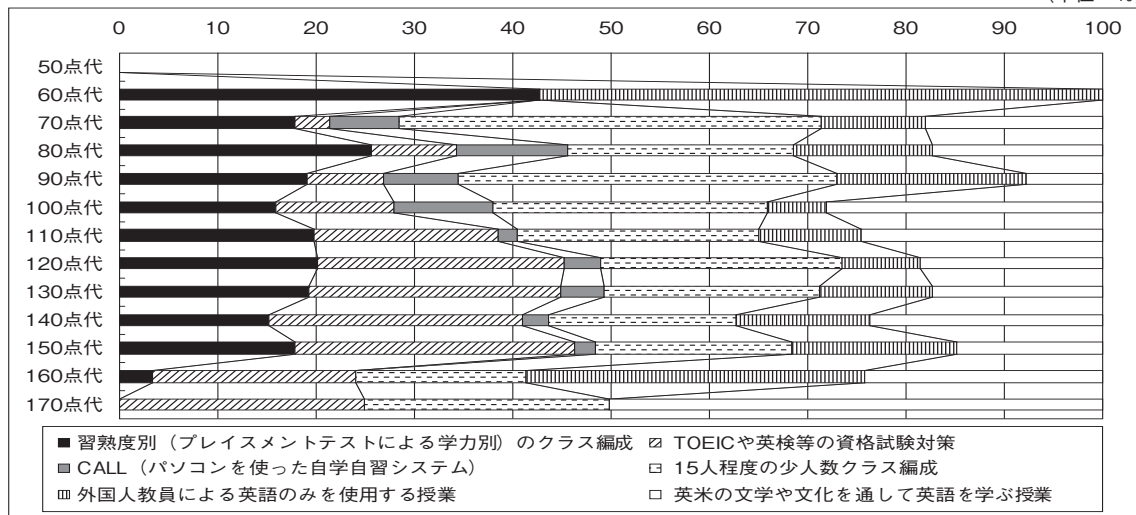
(単位：名)

	習熟度別（プレイスメントテストによる学力別）のクラス編成	TOEIC や英検等の資格試験対策	CALL（パソコンを使った自学自習システム）	15人程度の少人数クラス編成	外国人教員による英語のみを使用する授業	英米の文学や文化を通して英語を学ぶ授業	合計
50点代	0	0	0	0	0	0	0
60点代	3	0	0	0	4	0	7
70点代	5	1	2	12	3	5	28
80点代	9	3	4	8	5	6	35
90点代	5	2	2	10	5	2	26
100点代	8	6	5	14	3	14	50
110点代	21	20	2	26	11	26	106
120点代	43	53	8	52	17	39	212
130点代	61	80	14	69	36	54	314
140点代	40	68	7	50	36	62	263
150点代	17	27	2	19	16	14	95
160点代	1	6	0	5	10	7	29
170点代	0	1	0	1	0	2	4
合計	213	267	46	266	146	231	1,169

(単位：名)



(単位：%)

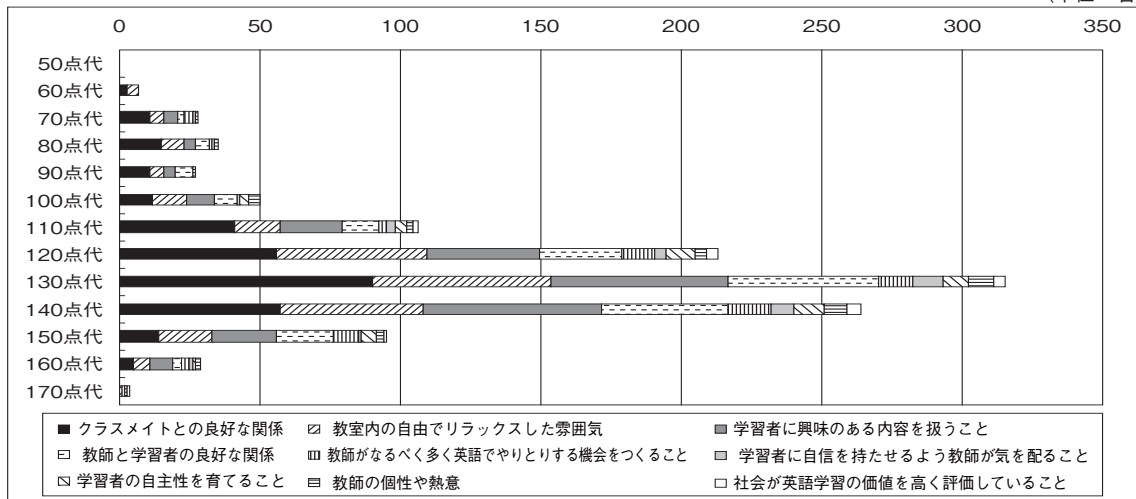


Ⅲ 英語の授業を受ける際、あなたの英語学習へのやる気を起こさせる上で重要だと思うものを次の中から選んでください

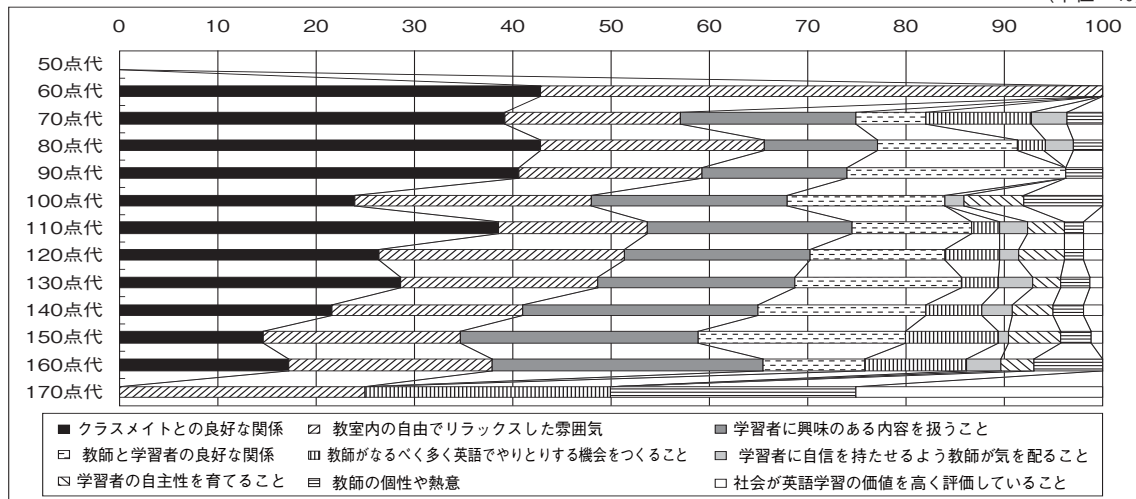
(単位：名)

	クラスメイトとの良好な関係	教室内の自由でリラックスした雰囲気	学習者に興味のある内容を扱うこと	教師と学習者の良好な関係	教師がなるべく多く英語でやりとりする機会をつくること	学習者に自信を持たせるよう教師が気を配ること	学習者の自主性を育てること	教師の個性や熱意	社会が英語学習の価値を高く評価していること	合計
50点代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
60点代	3	4	0	0	0	0	0	0	7	
70点代	11	5	5	2	3	1	0	1	28	
80点代	15	8	4	5	1	1	0	1	35	
90点代	11	5	4	6	0	0	0	1	27	
100点代	12	12	10	8	0	1	3	4	50	
110点代	41	16	22	13	3	3	4	2	106	
120点代	56	53	40	29	12	4	10	4	212	
130点代	90	63	63	53	12	11	9	9	314	
140点代	57	51	63	45	15	8	11	8	263	
150点代	14	19	23	20	9	1	5	3	95	
160点代	5	6	8	3	3	1	1	2	29	
170点代	0	1	0	0	1	0	0	1	4	
合計	315	243	242	184	59	31	43	36	1,170	

(単位：名)



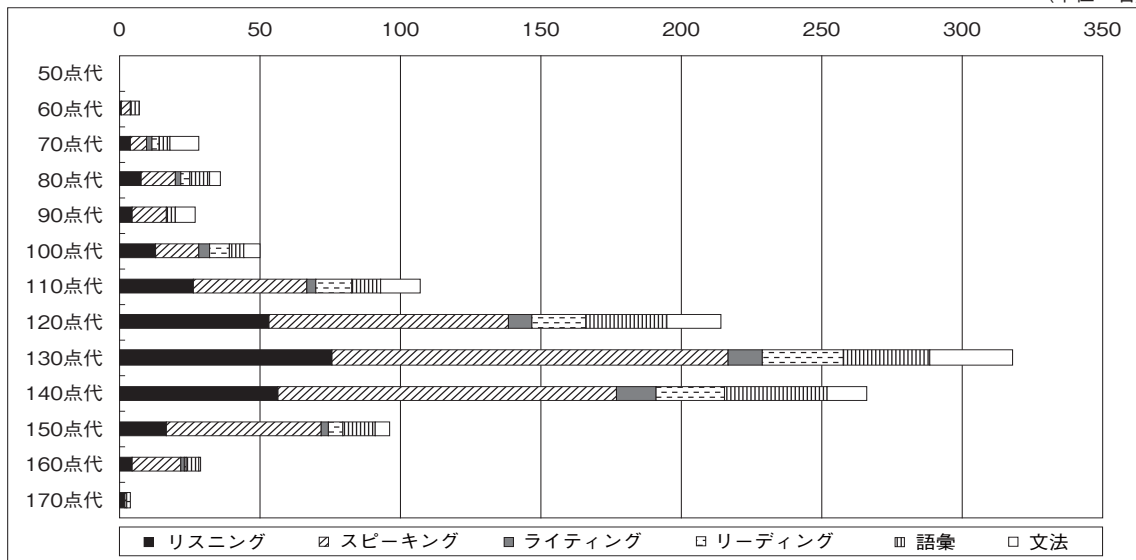
(単位：%)



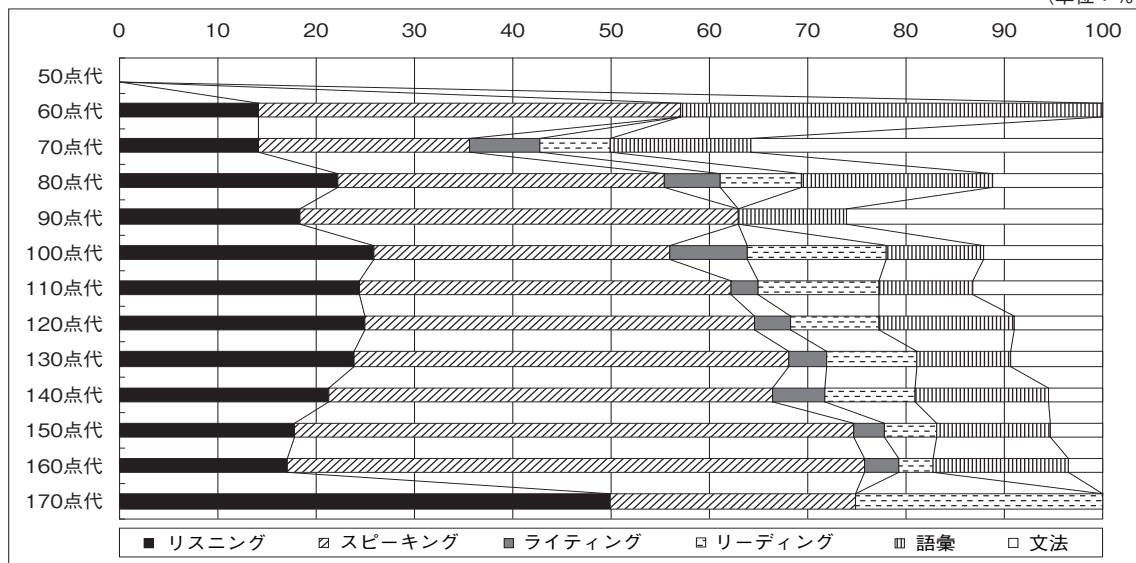
Ⅳ あなたが自分に最も必要だと思う英語のスキルを次から選んでください (単位：名)

	リスニング	スピーキング	ライティング	リーディング	語彙	文法	合計
50点代	0	0	0	0	0	0	0
60点代	1	3	0	0	3	0	7
70点代	4	6	2	2	4	10	28
80点代	8	12	2	3	7	4	36
90点代	5	12	0	0	3	7	27
100点代	13	15	4	7	5	6	50
110点代	26	40	3	13	10	14	106
120点代	53	84	8	19	29	19	212
130点代	75	139	12	29	30	29	314
140点代	56	119	14	24	36	14	263
150点代	17	54	3	5	11	5	95
160点代	5	17	1	1	4	1	29
170点代	2	1	0	1	0	0	4
合計	265	502	49	104	142	109	1,171

(単位：名)



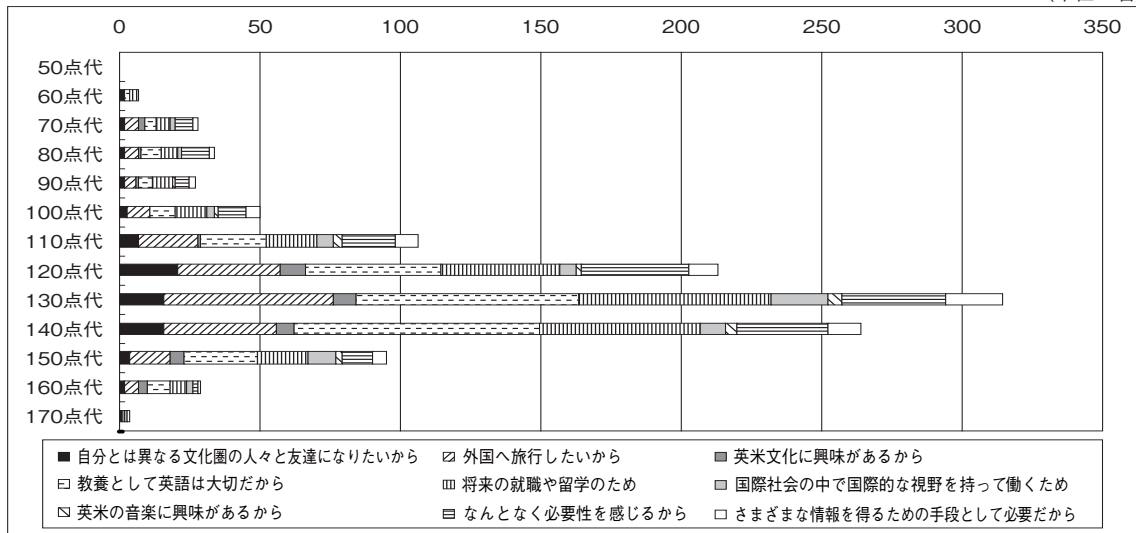
(単位：%)



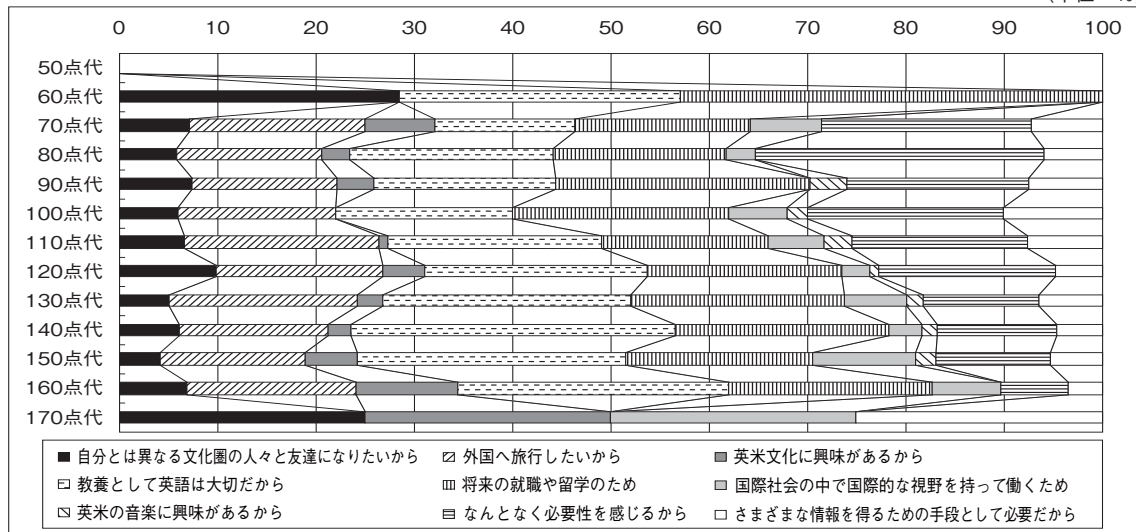
V 次のうちあなたが英語を学習する理由として最も大きなものを選んでください (単位：名)

	自分とは異なる文化圏の人々と友達になりたいから	外国へ旅行したいから	英米文化に興味があるから	教養として英語は大切だから	将来の就職や留学のため	国際社会の中で国際的な視野を持って働くため	英米の音楽に興味があるから	なんとなく必要を感じるから	さまざまな情報を得るための手段として必要だから	合計
50点代	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
60点代	2	0	0	2	3	0	0	0	0	7
70点代	2	5	2	4	5	2	0	6	2	28
80点代	2	5	1	7	6	1	0	10	2	34
90点代	2	4	1	5	7	0	1	5	2	27
100点代	3	8	0	9	11	3	1	10	5	50
110点代	7	21	1	23	18	6	3	19	8	106
120点代	21	36	9	48	42	6	2	38	10	212
130点代	16	60	8	79	68	20	5	37	20	313
140点代	16	40	6	87	57	9	4	32	12	263
150点代	4	14	5	26	18	10	2	11	5	95
160点代	2	5	3	8	6	2	0	2	1	29
170点代	1	0	1	0	0	1	0	0	1	4
合計	78	198	37	298	241	60	18	170	68	1,168

(単位：名)



(単位：%)

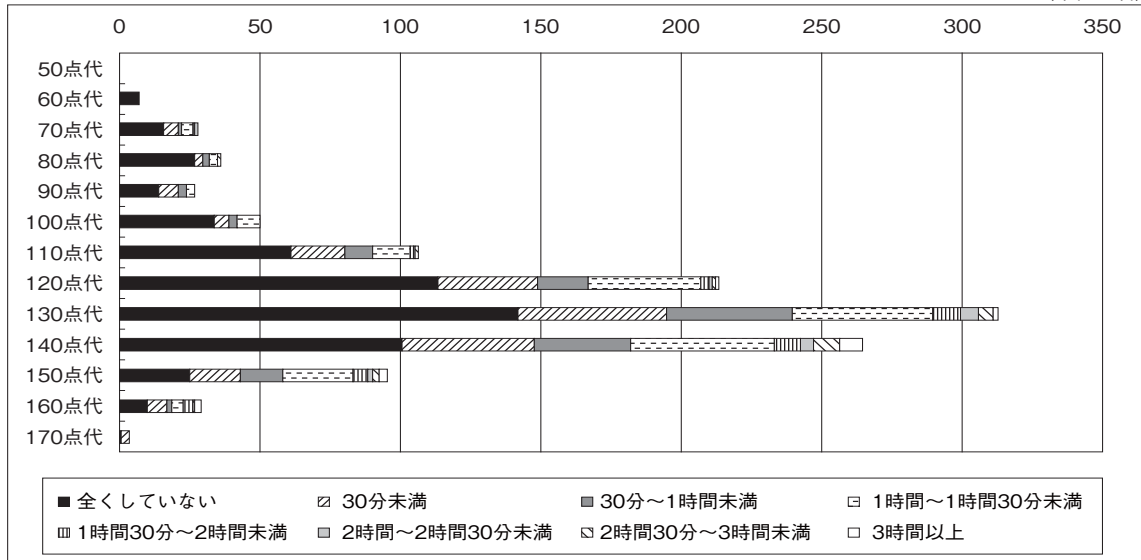


## Ⅵ あなたは授業時間以外で週に何時間くらい英語の勉強をしていますか

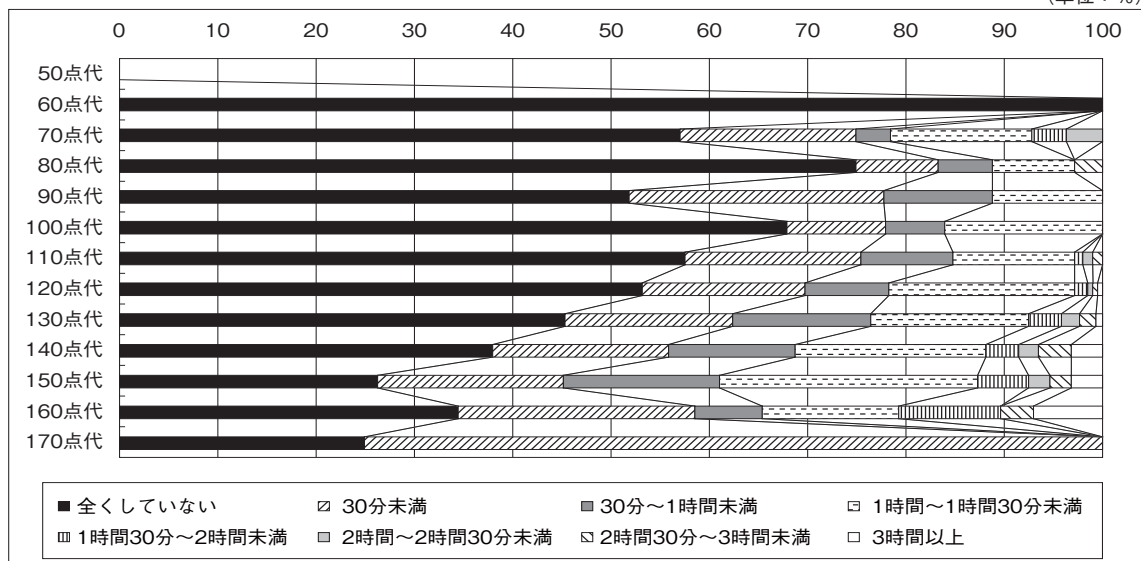
(単位：名)

	全くしていない	30分未満	30分～1時間未満	1時間～1時間30分未満	1時間30分～2時間未満	2時間～2時間30分未満	2時間30分～3時間未満	3時間以上	合計
50点代	0	0	0	0	0	0	0	0	0
60点代	7	0	0	0	0	0	0	0	7
70点代	16	5	1	4	1	1	0	0	28
80点代	27	3	2	3	0	0	1	0	36
90点代	14	7	3	3	0	0	0	0	27
100点代	34	5	3	8	0	0	0	0	50
110点代	61	19	10	13	1	1	1	0	106
120点代	113	35	18	40	3	1	1	1	212
130点代	141	53	44	50	10	6	5	2	311
140点代	100	47	34	51	9	5	9	8	263
150点代	25	18	15	25	5	2	2	3	95
160点代	10	7	2	4	3	0	1	2	29
170点代	1	3	0	0	0	0	0	0	4
合計	549	202	132	201	32	16	20	16	1,168

(単位：名)



(単位：%)



(集計：山本 理絵)



**FD Review**

基礎學力調查

# 基礎学力調査の結果

教授法開発室員 近 藤 敏 夫

## 1. 調査の概要

教授法開発室では2000年度の新入生より基礎学力調査を実施してきた。2009年度はその10回目にあたる。試験問題は2000年度と2001年度がA社の就職対策試験問題、2002年度から2008年度までがB社の就職対策試験問題を使用してきた。対象者は2000年度が1回生のみで、2001年度から2008年度までは1回生と3回生を対象に試験を実施した。実施時期は春学期オリエンテーション期間である。

2009年度はC社の「学習調査」(40分)と「学習実態調査」(20分)を併用することとし、対象者も1回生のみとした。受験日は春学期オリエンテーション期間(2009年4月3日)で、受験率は新入生1,581人中、「学習調査」の受験者1,505人(95.2%)、「学習実態調査」の受験者1,506人(95.3%)であった。

### 2-1 国語の学力

「学力調査(国語)」の問題の構成は、「語彙・表現」、「論理的文章読解」、「情緒的文章読解」の3つに分かれており、全部で29の回答欄が設けられている。

図表1はC社が定めている国語の学力の評価基準である。評価基準はC社の大学受験用の模擬試験(毎年約40万人受験)を参考にして定められている。

図表2は国語の学力(学科別)である。まず、新入生全体の平均点は52.4である。評価基準のAとBが大学の学習に必要とされるレベルであるが、AとBの合計は49.5%である。つまり、本学の新入生の半数が大学の学習に必要とされる国語の学力を持っていないことになる。

学科別の平均点をみると、「臨床心理」(62.9)、「人文」(55.6)、「教育」(55.2)、「理学療法」(55.1)の順に高い。評価基準では、AとBを合計して50%を超える学科は、「臨床心理」(76.5%)、「教育」(59.3%)、「人文」(58.6%)、「理学療法」(58.5%)の5学科である。他の5学科では半数以上の学生が大学の勉強についてくることのできないレベルである。

図表3で入試種別の平均点をみると、「センター試験(前期)」(64.7)、「センター試験(後期)」(61.7)、「一般入試A日程」(55.4)、「一般入試B日程」(54.6)の順で高かった。推薦入試の受験者では、「同窓」(53.1)、「公募制」(52.8)の順で高かった。評価基準で見ると、AとBを合計して50%を超える入試種別は、「センター試験(前期)」(85.7%)、「センター試験(後期)」(65.1%)、「一般入試B日程」(57.3%)、「一般入試A日程」(55.4%)であり、推薦入試では「公募制」(50.0%)のみが50.0%を超えていた。

(注意：図表の数値を合計したとき小数点第1位が0.1ずれて記載されることがあるが、これは図表で小数点第2位以下を四捨五入しているためである。以下同様。)

図表1 国語の学力の評価基準

評価	評価の意味
<b>A</b>	文章を読むための基本的な語彙及び読解手法は習得できている。 大学での講義やテキストの読み込み・理解など、問題ないレベルである。
<b>B</b>	文章を読むための基本的な語彙及び読解手法は概ね習得できている。 大学での講義やテキストの読み込みなどには、ついていけるレベルである。
<b>C+</b>	文章を読むための基本的な語彙及び読解手法はおおよそ習得できているが、大学でのテキストの読み込み・講義の理解などには若干の支障を来す可能性がある。
<b>C-</b>	文章を読むための基本的な語彙及び読解手法はある程度習得できているが、大学での講義や与えられたテキストの内容理解には支障を来す恐れがあり、何らかの補習が必要である。
<b>D+</b>	文章を読むための基本的な語彙及び読解手法の習得に問題が見られ、大学での講義や一般書・新聞等の内容理解がままならないと思われる。学生の学習理解の状況を調査する必要がある。
<b>D-</b>	文章を読むための基本的な語彙及び読解手法が習得できておらず、大学での講義のみならず、一般書や新聞等の読み取りもままならないと思われる。しっかりとしたフォローが必要。

図表2 国語の学力（学科別）

	受験者数	平均点	最高点	最低点	標準偏差	A	B	C+	C-	D+	D-	合計
人文	396	55.6	100	5	17.1	22.7%	35.9%	15.4%	16.2%	6.3%	3.5%	100%
中国	58	44.2	82	21	14.1	6.9%	20.7%	20.7%	29.3%	19.0%	3.4%	100%
英米	83	50.0	91	13	14.8	9.6%	32.5%	22.9%	22.9%	9.6%	2.4%	100%
教育	145	55.2	91	18	14.5	15.2%	44.1%	18.6%	15.9%	3.4%	2.8%	100%
臨床	68	<b>62.9</b>	98	25	15.9	35.3%	41.2%	11.8%	8.8%	2.9%	0.0%	100%
現社	248	51.9	84	10	15.7	14.1%	35.5%	21.4%	16.9%	8.9%	3.2%	100%
公共	134	45.8	95	19	14.4	6.0%	22.4%	24.6%	30.6%	11.9%	4.5%	100%
社福	282	50.0	94	15	15.0	12.1%	29.1%	27.0%	17.7%	10.3%	3.9%	100%
理学	53	55.1	93	23	15.8	17.0%	41.5%	20.8%	11.3%	7.5%	1.9%	100%
作業	38	49.0	84	16	16.4	10.5%	31.6%	23.7%	15.8%	10.5%	7.9%	100%
全体	1,505	52.4	100	5	16.2	15.8%	33.7%	20.5%	18.2%	8.4%	3.4%	100%

※図表中の学科名称は「臨床」が「臨床心理」、「現社」が「現代社会」、「公共」が「公共政策」、「社福」が「社会福祉」、「理学」が「理学療法」、「作業」は「作業療法」である。以下の図表も同様。

※斜体は平均点の最高、網掛けは20%以上

図表3 国語の学力（入試種別）

	受験者数	平均点	最高点	最低点	標準偏差	A	B	C+	C-	D+	D-	合計	
推薦入試	教育連携校	3	50.0	62	37	12.5	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	100%
	指定校	142	44.7	94	11	16.1	7.7%	24.6%	19.0%	23.2%	16.2%	9.2%	100%
	課外活動	34	37.0	87	17	16.5	2.9%	14.7%	5.9%	29.4%	29.4%	17.6%	100%
	スポーツ強化枠	20	28.4	74	5	15.9	5.0%	0.0%	10.0%	20.0%	20.0%	45.0%	100%
	宗門後継者	26	39.3	66	20	13.9	0.0%	23.1%	7.7%	34.6%	15.4%	19.2%	100%
	同窓	23	53.1	91	28	15.8	17.4%	26.1%	26.1%	26.1%	4.3%	0.0%	100%
	公募制	476	52.8	100	15	15.6	16.0%	34.0%	20.0%	19.5%	9.0%	1.5%	100%
一般入試	AO 選抜	23	45.4	80	23	16.3	8.7%	17.4%	34.8%	13.0%	13.0%	13.0%	100%
	帰国生徒入試	2	30.0	36	24	8.5	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100%
	センター試験(前期)	14	<b>64.7</b>	82	46	11.5	35.7%	50.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
	センター試験(後期)	43	<b>61.7</b>	90	25	15.4	37.2%	27.9%	25.6%	7.0%	2.3%	0.0%	100%
	一般入試 A 日程	493	55.4	98	20	15.0	17.6%	37.7%	22.5%	15.4%	5.9%	0.8%	100%
一般入試 B 日程	206	54.6	87	13	14.1	17.0%	40.3%	20.4%	17.0%	3.4%	1.9%	100%	
全体	1,505	52.4	100	5	16.2	15.8%	33.7%	20.5%	18.2%	8.4%	3.4%	100%	

※入試種別のうち、受験者がいないものは表示していない。

※斜体は平均点の最高と第二位、網掛けは20%以上

## 2-2 入試形態別の国語の学力差

図表3では「推薦入試」と「一般入試」の区分がなされているが、この区分では国語の学力の違いを捉えにくい。そこで、入試形態を「面接重視型」、「学力試験型」、「センター型」に分けて比較することにする。

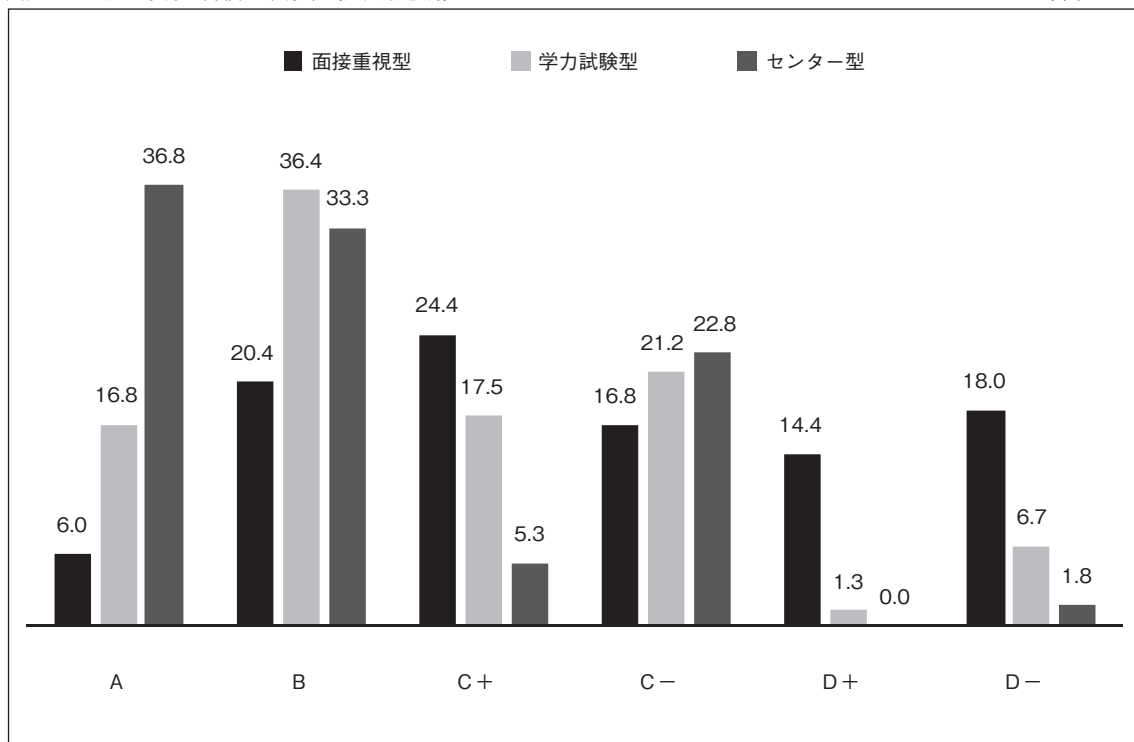
「面接重視型」の入試種別は、「教育連携校」、「指定校」、「課外活動」、「スポーツ強化枠」、「宗門後継者」、「AO 選抜」である（回答者の合計 250 名）。「学力試験型」の入試種別は、「一般入試 A 日程」、「一般入試 B 日程」に加えて、推薦入試の「同窓」と「公募制」が入る（回答者の合計 1,199 名）。現在、「同窓」と「公募制」では面接を実施せず本学作成の基礎能力試験（英語と国語）を課しているため、実質的には一般入試と同じ形態であると考えられる。「センター型」の入試種別は、「センター試験（前期）」と「センター試験（後期）」である（回答者の合計 57 名）。

平均点は「センター型」（62.5）、「学力試験型」（54.2）、「面接重視型」（41.8）の順になり、入試形態別の学力差が大きいことが分かる。

図表4は入試形態別の評価基準の分布である。「センター型」はAレベル（36.8%）が一番多く、「学力試験型」はBレベル（36.4%）、「面接重視型」はC+レベル（24.4%）が一番多い。AとBの合計は、「センター型」（70.2%）、「学力試験型」（53.3%）、「面接重視型」（26.4%）となる。「面接重視型」で入学した学生の7割以上が大学の講義についてくることができないと推測できる。とくに「面接重視型」はD+とD-の合計が32.4%にもなり、このレベルの学生は大学の講義をほとんど理解することができないものと推察される。

図表4 国語の学力の評価基準分布（入試形態別）

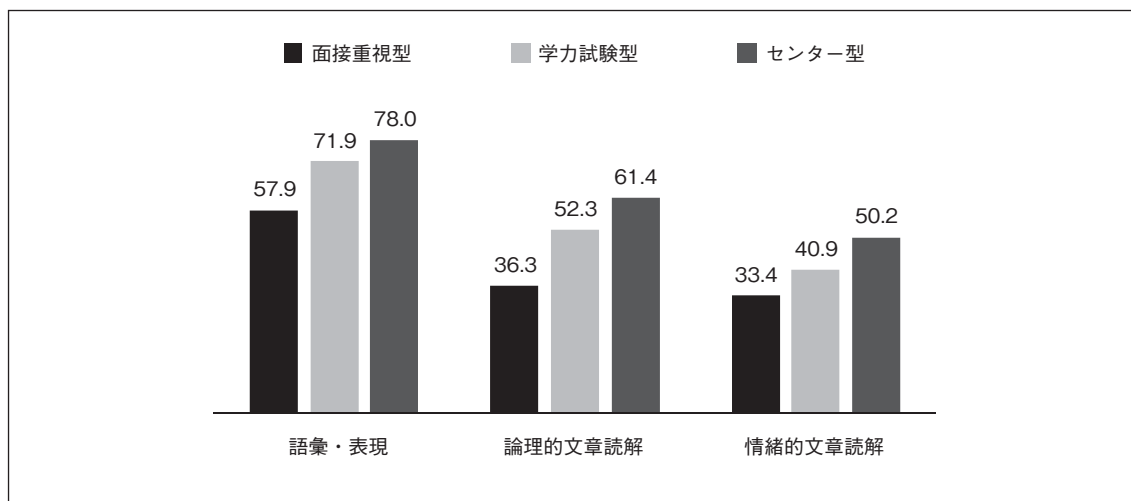
（単位：％）



図表5は、「語彙・表現」、「論理的文章読解」、「情緒的文章読解」の3つの領域で得点率をみたものである。「語彙・表現」の基礎学力でみると、「面接重視型」(57.9%)は「試験重視型」(71.9%)や「センター型」(78.0%)の学生より15ポイント以上も得点率が低い。同じく、「論理的文章読解」でみると、「面接重視型」(36.3%)は「学力試験型」(52.3%)より15ポイント以上、「センター型」(61.4%)より25ポイント以上も得点率が低くなっている。

図表5 領域別の国語の得点率(入試形態別)

(単位：%)



「面接重視型」の学生は入学年度前の11月までに本学に入学が決定している。その後は受験勉強をする必要がないため、高校レベルの学力を習得できなかったものと推測できる。入学決定後、入学までの期間に国語の学力を身につけさせておく必要があるだろう。

### 3-1 志望理由

図表6は本学を志望した理由を上位2つまで選んでもらったものである。本学を選んだ第一の理由は、「志望する学部や学科がある」(32.9%)、「興味・関心のある勉強ができそう」(29.2%)の順に高かった。第二の理由は、「とりたい資格や免許が取れそう」(28.9%)、「志望する学部や学科がある」(22.0%)、「自宅から通える」(17.4%)の順で高かった。本学の学生を全体としてみると、第一の志望理由として「志望する学部や学科がある」と「興味・関心のある勉強ができそう」をあげ、第二の志望理由として「とりたい資格や免許がとれそう」と「自宅から通える」をあげている。

「興味・関心のある勉強ができそう」を第一の理由に選んだ学科は、「臨床心理」(50.0%)、「公共政策」(34.3%)、「現代社会」(32.5%)、「人文」(32.3%)、「社会福祉」(30.5%)の順で高かった。「志望する学部や学科がある」を選んだ学科は、「作業療法」(81.6%)、「理学療法」(69.8%)、「教育」(51.0%)の順で高かった。

本学の特徴の一つである資格や免許取得を本学選定の理由に選んだ学生は学科間で違いが見られた。まず、資格や免許を第一の理由に選んだ学科は、「社会福祉」(27.3%)、「人文」(26.5%)、「教育」(22.1%)の順で高く、予想通りの結果であるといえよう。しかし、「理学療法」と「作業療法」については、資格や免許を第一の理由に挙げる者は5%と本学の

中で最も少なかった。ただし、両学科とも資格や免許を第二の理由にあげる者は40%と多かった。「理学療法」と「作業療法」は、その他の学科とは異なり、第一に「志望する学部や学科があること」、第二に「取りたい資格や免許が取れそう」を本学選定の志望理由として明確に順序づけて答える学生が多い。

図表6 志望理由（本学を選んだ理由を気持ちの強い順に2つ選ぶ）

(第1位)

(単位：%)

	人文	中国	英米	教育	臨床	現社	公共	社福	理学	作業	全体
1_大学のイメージや名前にあこがれて	8.6	17.2	9.6	7.6	2.9	8.4	11.2	6.7	5.7	7.9	8.4
2_興味・関心のある勉強ができそう	32.3	20.7	22.9	15.2	50.0	32.5	34.3	30.5	17.0	5.3	29.2
3_志望する学部や学科がある	24.7	20.7	33.7	51.0	36.8	32.9	20.9	28.4	69.8	81.6	32.9
4_取りたい資格や免許が取れそう	26.5	17.2	18.1	22.1	5.9	10.8	11.2	27.3	5.7	5.3	19.3
5_授業がおもしろくて役立ちそう	0.5	3.4	0.0	0.7	0.0	1.2	3.0	1.1	0.0	0.0	1.0
6_めんどろみが良さそう	1.0	1.7	1.2	0.7	1.5	1.6	0.7	1.1	0.0	0.0	1.1
7_就職のとき頼りになりそう	2.5	8.6	2.4	2.1	0.0	4.0	6.0	1.4	0.0	0.0	2.8
8_学費が安く、奨学金も充実	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	1.5	0.0	0.0	0.0	0.5
9_自宅から通える	3.3	10.3	10.8	0.7	2.9	6.8	11.2	3.5	1.9	0.0	4.9
0_無回答	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

※網掛けは20.0%以上

(第2位)

(単位：%)

	人文	中国	英米	教育	臨床	現社	公共	社福	理学	作業	全体
1_大学のイメージや名前にあこがれて	2.0	8.6	3.6	2.8	4.4	3.6	6.7	1.4	3.8	2.6	3.2
2_興味・関心のある勉強ができそう	15.9	12.1	18.1	11.7	16.2	19.7	14.9	14.2	9.4	10.5	15.3
3_志望する学部や学科がある	23.0	13.8	24.1	21.4	39.7	22.9	19.4	19.5	22.6	13.2	22.0
4_取りたい資格や免許が取れそう	29.8	19.0	24.1	45.5	13.2	14.9	13.4	42.9	39.6	36.8	28.9
5_授業がおもしろくて役立ちそう	2.3	0.0	0.0	1.4	1.5	4.4	1.5	1.8	0.0	0.0	2.0
6_めんどろみが良さそう	3.0	6.9	3.6	1.4	2.9	4.0	4.5	0.4	0.0	0.0	2.7
7_就職のとき頼りになりそう	7.6	12.1	8.4	11.0	2.9	7.2	6.0	6.0	3.8	7.9	7.3
8_学費が安く、奨学金も充実	0.5	0.0	1.2	0.0	1.5	0.8	2.2	0.7	0.0	2.6	0.8
9_自宅から通える	15.7	27.6	14.5	4.8	17.6	21.7	31.3	12.8	20.8	26.3	17.4
0_無回答	0.3	0.0	2.4	0.0	0.0	0.8	0.0	0.4	0.0	0.0	0.4
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

※網掛けは20.0%以上

### 3-2 志望順位と入学意向

図表7は本学を志望したときの順位である。本学を第一志望にしていた学生(41.2%)は半数にみたない。学科別でみると、本学を第一志望にしていたのは、「理学療法」(66.0%)、「作業療法」(55.3%)、「教育」(53.1%)、「社会福祉」(50.4%)である。

図表8は本学の学部・学科に入学したときの気持ちを尋ねたものである。全体では48.6%の学生が「ぜひ入学したかった」と答えており、「まあ入学したかった」の41.1%と合わせると89.7%の学生が本学に入学したことを前向きにとらえていることが窺える。入学志望の段階では、第二志望が36.4%、第三志望以下が22.4%と高い比率だったが、入学式直後(4月3日)に入学意向を尋ねたこともあり、不本意入学者(「あまり入学した

くなかった)は9.4%と少数であった。C社からのアドバイスとして、「あまり入学したくなかったという学生は少数ですので、直接コミュニケーションをとられた方が良いかもしれません」というコメントがあった。

図表7 志望順位

(単位：%)

	人文	中国	英米	教育	臨床	現社	公共	社福	理学	作業	全体
1_第一志望だった	34.6	22.4	25.3	53.1	39.7	38.2	38.8	50.4	66.0	55.3	41.2
2_第二志望だった	41.2	53.4	30.1	33.8	33.8	34.1	36.6	34.0	24.5	36.8	36.4
3_第三志望以下だった	24.0	24.1	44.6	13.1	26.5	27.7	24.6	15.6	9.4	7.9	22.4
0_無回答	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

※網掛けは各学科とも一番高い比率

図表8 入学意向(現在の大学・学部・学科に進んだときの気持ち)

(単位：%)

	人文	中国	英米	教育	臨床	現社	公共	社福	理学	作業	全体
1_ぜひ入学したかった	41.9	36.2	37.3	63.4	47.1	42.6	41.8	57.8	77.4	63.2	48.6
2_まあ入学したかった	48.2	50.0	42.2	31.0	41.2	40.2	50.0	35.8	20.8	31.6	41.1
3_あまり入学したくなかった	8.8	13.8	19.3	4.8	11.8	15.3	8.2	5.3	1.9	5.3	9.4
0_無回答	1.0	0.0	1.2	0.7	0.0	2.0	0.0	1.1	0.0	0.0	0.9
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

※網掛けは各学科とも一番高い比率

### 3-3 大学選択時の参考情報

図表9は、本学を選ぶときに参考にした情報を2つまで順序を付けて答えたもらったものである。第一に参考にしたものは、「大学の総合案内パンフ」(28.3%)、「大学のオープンキャンパス」(15.5%)、「進学情報誌」(15.2%)、「大学のホームページ」(14.9%)の順である。第二に参考にしたものは、「大学のオープンキャンパス」(27.1%)、「大学のホームページ」(21.9%)、「先輩や友人の話」(17.8%)、「大学の総合案内パンフ」(15.7%)の順である。第一位と第二位を合計すると、本学を選ぶときの情報となるのは、「大学の総合案内パンフ」(44.0%)、「大学のオープンキャンパス」(42.6%)、「大学のホームページ」(36.8%)の順になる。なお、第一位と第二位の表をクロスさせたところ、本学を選択するときの順序として、第一に「大学の総合案内パンフ」、「進学情報誌」、「大学のホームページ」で情報を収集し、第二に「大学のオープンキャンパス」や「先輩や友人の話」で内容を確認する者が多いことが推測できる(510名)。

学科別の特徴はあまりみられないが、「理学療法」は「進学情報誌」を参考にする割合が高い。「人文」は「オープンキャンパス」や「先輩や友人の話」を参考にする割合が低い。

図表10と図表11で入試形態別にみると、「面接重視型」は「オープンキャンパス」を参考にした学生が66.4%と多い(第1位22.4%、第2位40.0%)。「学力試験型」は「大学の総合案内パンフ」を参考にした学生が46.0%(第1位29.2%、第2位16.8%)、「大学のホームページ」を参考にした学生が38.8%(第1位14.6%、第2位24.2%)と多い。「センター型」は「大学のホームページ」を参考にした学生が50.9%(第1位15.8%、第2位35.1%)、「進学情報サイト」を参考にした学生が35.1%(第1位22.8%、第2位12.3%)と多い。

図表9 大学選択参考情報 (1番目に参考にしたこと、2番目に参考にしたこと)

(第1位)

(単位：%)

	人文	中国	英米	教育	臨床	現社	公共	社福	理学	作業	全体
1_進学情報誌	15.4	13.8	18.1	14.5	13.2	14.9	12.7	13.8	26.4	21.1	15.2
2_進学情報サイト	10.6	6.9	4.8	13.1	13.2	11.6	13.4	11.0	17.0	15.8	11.4
3_進学説明会	6.1	6.9	1.2	5.5	7.4	5.2	6.7	5.3	3.8	5.3	5.5
4_大学の総合案内パンフ	32.1	31.0	30.1	23.4	23.5	29.3	27.6	27.0	20.8	23.7	28.3
5_大学のホームページ	15.2	15.5	21.7	15.2	17.6	15.3	13.4	12.8	9.4	18.4	14.9
6_大学のオープンキャンパス	13.1	15.5	15.7	16.6	16.2	12.9	13.4	20.9	18.9	13.2	15.5
7_先輩や友人の話	6.3	8.6	8.4	11.7	7.4	9.6	11.9	8.9	3.8	2.6	8.4
8_高校の卒業生の体験談	0.5	1.7	0.0	0.0	1.5	0.0	0.7	0.4	0.0	0.0	0.4
0_無回答	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

※網掛けは20.0%以上

(第2位)

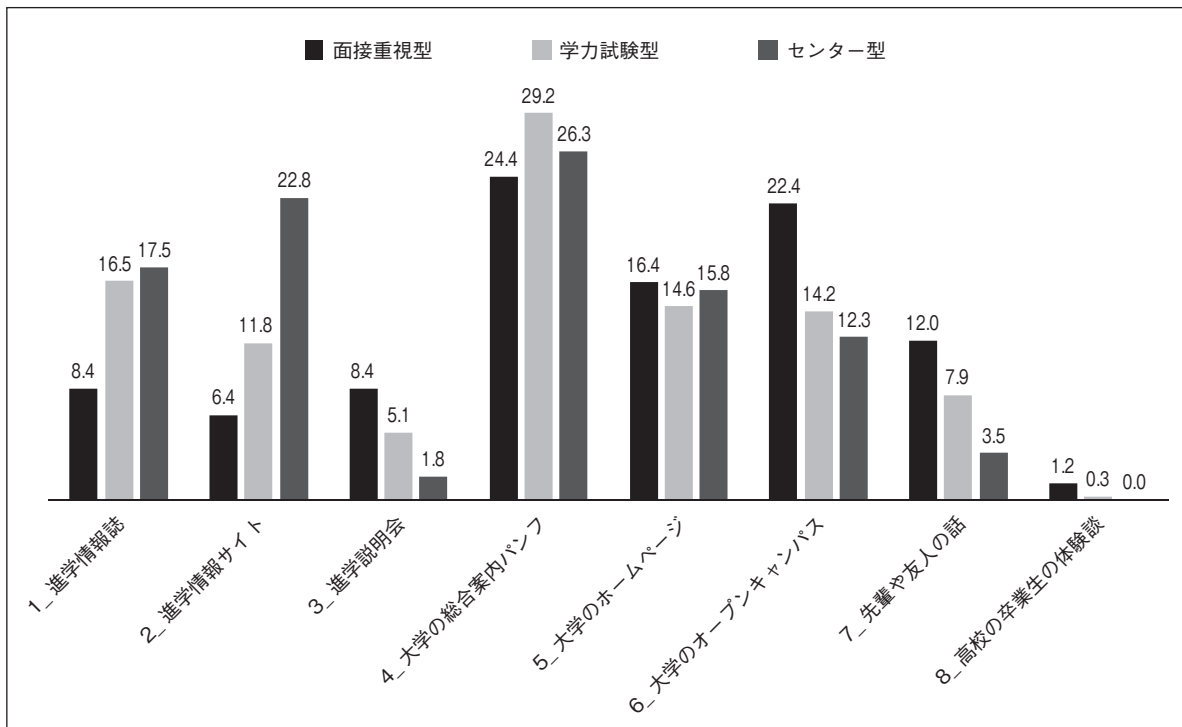
(単位：%)

	人文	中国	英米	教育	臨床	現社	公共	社福	理学	作業	全体
1_進学情報誌	5.8	1.7	7.2	4.1	2.9	4.8	6.0	5.3	1.9	2.6	5.0
2_進学情報サイト	5.8	8.6	6.0	4.1	10.3	3.6	6.7	3.2	15.1	13.2	5.7
3_進学説明会	3.3	1.7	3.6	2.8	2.9	4.8	1.5	2.5	3.8	5.3	3.2
4_大学の総合案内パンフ	17.7	13.8	8.4	18.6	16.2	14.9	18.7	16.0	9.4	5.3	15.7
5_大学のホームページ	27.0	24.1	18.1	19.3	29.4	22.5	18.7	17.0	13.2	26.3	21.9
6_大学のオープンキャンパス	23.2	20.7	26.5	23.4	26.5	26.1	26.9	33.0	39.6	39.5	27.1
7_先輩や友人の話	12.9	25.9	26.5	20.0	10.3	20.1	18.7	20.6	15.1	7.9	17.8
8_高校の卒業生の体験談	3.8	3.4	2.4	6.9	1.5	2.8	1.5	2.1	1.9	0.0	3.1
0_無回答	0.5	0.0	1.2	0.7	0.0	0.4	1.5	0.4	0.0	0.0	0.5
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

※網掛けは20.0%以上

図表10 大学選択参考情報 第1位 (入試形態別)

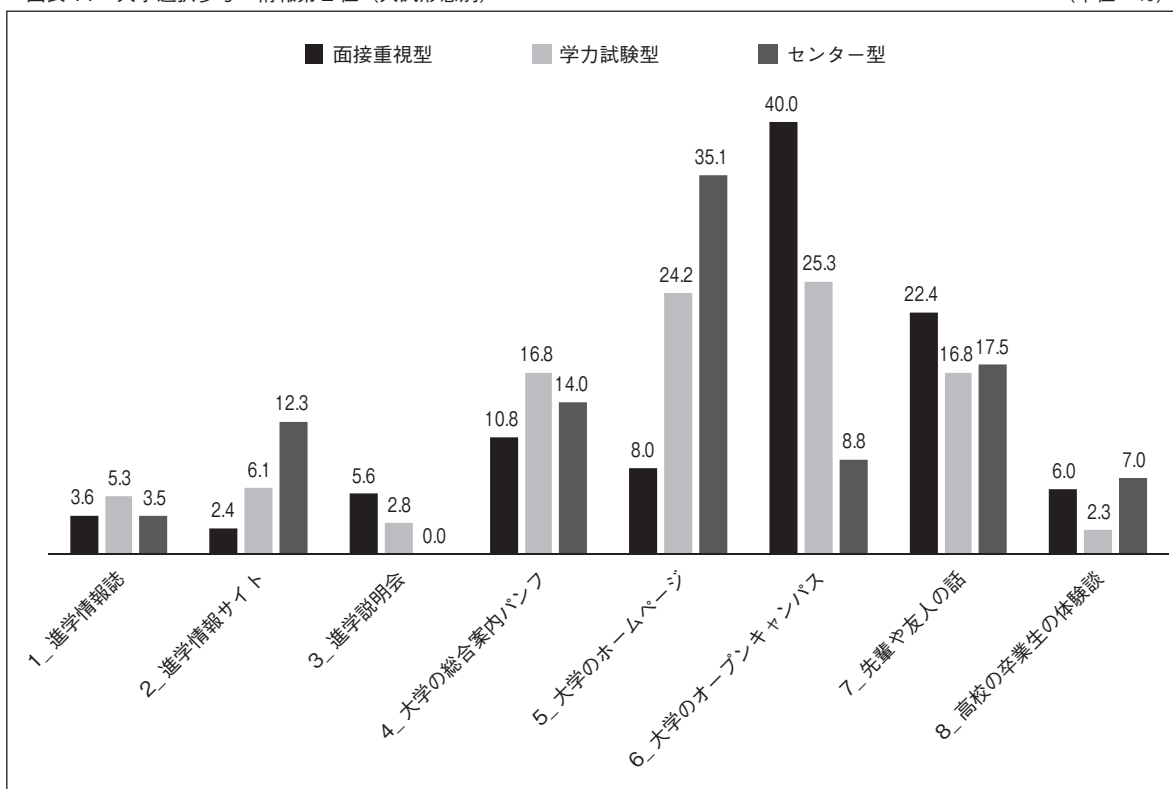
(単位：%)





図表 11 大学選択参考 情報第 2 位 (入試形態別)

(単位：%)



### 3-4 大学進学理由

図表 12 は大学に進学した理由を 2 つまで順位を付けて答えたもらったものである。大学進学のための第一の理由としては、「興味・関心のあることを勉強したい」(29.7%)、「将来のための資格や免許を取りたい」(28.2%)、「社会で役立つ知識・技能を身につけたい」(14.5%)、「専門的な知識・技術を身につけたい」(11.8%) の順で高かった。第一位の理由と第二位の理由を合計すると、「将来のための資格や免許を取りたい」(59.1%) が一番高くなり、ついで「興味・関心のあることを勉強したい」(40.2%)、「社会に役立つ知識・技能を身につけたい」(27.4%)、「専門的な知識・技術を身につけたい」(24.5%) の順になる。本学の特徴の一つとして、資格・免許志向が 6 割と高いことがあげられる。

学科別に資格・免許志向(第一位と第二位の合計)をみると、「教育」(83.4%)、「社会福祉」(72.7%)、「作業療法」(68.4%)、「理学療法」(66.0%)、「人文」(64.1%) の順で高かった。「専門的な知識・技術を身につけたい」を理由にあげた学生は(第一位と第二位の合計)、「理学療法」(67.9%)、「作業療法」(55.3%)、「臨床心理」(33.8%) の順に高かった。「大学卒は就職に有利」を理由にあげた学生は(第一位と第二位の合計)、「公共政策」(38.8%)、「現代社会」(36.2%)、「中国」(27.6%) の順で高かった。

図表 12 大学進学理由 (第1の理由と第2の理由)

(第1位)

(単位：%)

	人文	中国	英米	教育	臨床	現社	公共	社福	理学	作業	全体
1_興味・関心のあることを勉強したい	34.8	13.8	34.9	21.4	64.7	30.9	22.4	25.5	18.9	21.1	29.7
2_高校で学んだことをもっと深めたい	3.5	3.4	2.4	1.4	0.0	0.4	3.0	1.1	0.0	0.0	1.9
3_専門的な知識・技術を身につけたい	7.3	13.8	10.8	13.8	7.4	7.6	5.2	15.6	47.2	31.6	11.8
4_社会で役立つ知識・技能を身につけたい	7.8	22.4	15.7	9.0	4.4	25.3	28.4	12.1	13.2	7.9	14.5
5_将来のための資格や免許を取りたい	32.1	20.7	24.1	51.0	10.3	13.7	11.2	39.7	18.9	34.2	28.2
6_大学卒は就職に有利	8.3	12.1	8.4	0.0	5.9	15.7	19.4	2.5	0.0	2.6	8.2
7_先生や家族の勧め	1.5	3.4	1.2	0.7	4.4	3.2	1.5	0.4	0.0	0.0	1.6
8_とりあえず進学しよう	1.8	8.6	1.2	0.0	1.5	2.0	6.7	1.4	0.0	2.6	2.2
9_周りのみんなが進学する	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
10_もう少し自由に過ごしたい	2.3	1.7	1.2	2.8	1.5	1.2	2.2	1.8	1.9	0.0	1.9
0_無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

※網掛けは 20.0%以上

(第2位)

(単位：%)

	人文	中国	英米	教育	臨床	現社	公共	社福	理学	作業	全体
1_興味・関心のあることを勉強したい	11.6	8.6	9.6	19.3	10.3	8.0	5.2	15.6	7.5	10.5	11.5
2_高校で学んだことをもっと深めたい	3.0	3.4	3.6	2.1	0.0	2.0	2.2	0.7	0.0	0.0	2.0
3_専門的な知識・技術を身につけたい	12.4	3.4	8.4	14.5	26.5	12.9	3.7	13.5	20.8	23.7	12.7
4_社会で役立つ知識・技能を身につけたい	9.3	6.9	20.5	11.0	17.6	16.1	14.9	12.4	15.1	15.8	12.9
5_将来のための資格や免許を取りたい	32.1	31.0	24.1	32.4	23.5	18.1	23.1	33.0	47.2	34.2	28.9
6_大学卒は就職に有利	13.9	15.5	15.7	11.7	5.9	20.5	19.4	11.7	1.9	13.2	14.2
7_先生や家族の勧め	2.5	5.2	2.4	0.0	2.9	2.0	4.5	1.1	0.0	0.0	2.1
8_とりあえず進学しよう	6.8	13.8	3.6	2.1	5.9	8.0	9.0	2.5	3.8	0.0	5.7
9_周りのみんなが進学する	1.3	1.7	3.6	2.1	1.5	2.8	2.2	2.1	1.9	0.0	2.0
10_もう少し自由に過ごしたい	6.6	10.3	8.4	4.1	5.9	9.6	14.9	7.4	1.9	2.6	7.7
0_無回答	0.5	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.3
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

※網掛けは 20.0%以上

### 3-5 大学生生活で力を入れたいこと

図表 13 は、大学生生活で力を入れたいことを 2 つまで順位を付けて答えてもらったものである。1 番目に力を入れたいことは、「資格や免許取得」(46.7%)、「大学での研究や勉強」(26.6%) の順になり、2 番目に力を入れたいことは、「大学での友人との交流」(26.6%)、「クラブ・サークル活動」(26.4%) の順になる。まずは勉強に力を入れ、つぎに友人との交流やクラブ・サークル活動に力を入れる傾向がはっきりとしている。

学科別にみると、「資格や免許取得」に力を入れたい学生は (1 番目と 2 番目の合計)、「教育」(81.4%)、「社会福祉」(80.1%)、「人文」(66.7%)、「作業療法」(63.2%) の順で多かった。「大学での研究や勉強」に力を入れたい学生は (1 番目と 2 番目の合計)、「臨床心理」(72.1%)、「理学療法」(52.8%)、「作業療法」(47.4%) の順に多かった。

図表 13 大学生活で力を入れたいこと (1 番目と 2 番目)

(1 番目)

(単位：%)

	人文	中国	英米	教育	臨床	現社	公共	社福	理学	作業	全体
1_ 大学での研究や勉強	28.0	27.6	26.5	15.9	61.8	26.5	32.1	13.1	45.3	42.1	26.6
2_ 資格や免許取得	47.2	36.2	43.4	66.9	13.2	33.3	29.1	69.1	41.5	39.5	46.7
3_ 卒業後の進路を考える	6.3	6.9	6.0	1.4	7.4	13.3	14.2	2.5	1.9	2.6	6.8
4_ 大学での先生との交流	0.8	0.0	1.2	0.7	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	2.6	0.5
5_ 大学での友人との交流	7.3	15.5	13.3	12.4	4.4	15.7	11.9	9.9	11.3	10.5	10.8
6_ クラブ・サークル活動	7.3	12.1	3.6	2.8	8.8	9.6	8.2	4.3	0.0	0.0	6.4
7_ 学外の専門学校や資格スクール	0.3	0.0	0.0	0.0	1.5	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2
8_ アルバイト	2.0	0.0	1.2	0.0	1.5	1.2	1.5	0.4	0.0	2.6	1.1
9_ 留学・国際交流	0.8	0.0	4.8	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5
10_ ボランティア、地域・社会貢献	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.7	0.0	0.0	0.3
0_ 無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.1
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

※網掛けは 20.0%以上

(2 番目)

(単位：%)

	人文	中国	英米	教育	臨床	現社	公共	社福	理学	作業	全体
1_ 大学での研究や勉強	9.1	6.9	4.8	1.4	10.3	4.8	4.5	5.0	7.5	5.3	6.0
2_ 資格や免許取得	19.4	12.1	8.4	14.5	14.7	8.0	11.2	11.0	11.3	23.7	13.5
3_ 卒業後の進路を考える	8.3	17.2	10.8	10.3	4.4	12.4	14.2	11.0	1.9	10.5	10.4
4_ 大学での先生との交流	1.8	0.0	0.0	0.7	1.5	1.6	1.5	2.1	0.0	0.0	1.4
5_ 大学での友人との交流	24.2	20.7	20.5	39.3	30.9	26.5	17.2	27.7	32.1	36.8	26.6
6_ クラブ・サークル活動	26.0	20.7	31.3	22.1	22.1	30.1	31.3	25.2	28.3	15.8	26.4
7_ 学外の専門学校や資格スクール	0.3	0.0	1.2	0.0	0.0	0.4	0.0	0.4	1.9	0.0	0.3
8_ アルバイト	8.6	17.2	6.0	6.2	11.8	13.7	14.2	8.2	11.3	5.3	10.0
9_ 留学・国際交流	0.5	3.4	16.9	0.7	2.9	0.8	0.7	1.4	0.0	0.0	1.9
10_ ボランティア、地域・社会貢献	1.8	1.7	0.0	4.8	1.5	1.6	5.2	7.8	5.7	2.6	3.5
0_ 無回答	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.1
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

※網掛けは 20.0%以上

### 3-6 学習で力を入れたいこと (1 番目と 2 番目)

図表 14 は、学習で力を入れたいことを 2 つまで順位を付けて答えたもらったものである。1 番目に力を入れたいのは、「講義形式の学習」(36.1%)、「グループ形式の学習」(13.1%)、「語学の学習」(10.0%) の順であった。2 番目に力を入れたいのは、「就職を考える学習」(23.1%)、「調査やフィールドワーク」(12.9%)、「文章表現力の学習」(12.0%) の順になり、本学の学生は実践的な学習も期待していることが推察できる。

学科別にみると、「講義形式の学習」に力を入れたい学生は (1 番目と 2 番目の合計)、「理学療法」(64.2%)、「作業療法」(60.5%)、「臨床心理」(57.4%)、「人文」(51.0%) の順に多かった。「グループ形式の学習」に力を入れたい学生は (1 番目と 2 番目の合計)、「教育」(44.8%)、「作業療法」(39.5%)、「社会福祉」(30.9%) の順に多かった。「就職を考える学習」に力を入れたい学生は (1 番目と 2 番目の合計)、「中国」(43.1%)、「現代社会」(40.2%)、「社会福祉」(34.8%)、「公共政策」(34.3%) の順に多かった。「語学の学習」に力を入れ

たい学生は（1番目と2番目の合計）、「英米」（85.5%）、「中国」（77.6%）が多かった。

図表 14 学習で力を入れたいこと（1番目と2番目）

（1番目）

（単位：%）

	人文	中国	英米	教育	臨床	現社	公共	社福	理学	作業	全体
1_ 講義形式の学習	38.1	24.1	16.9	31.0	41.2	37.8	32.1	38.3	52.8	47.4	36.1
2_ グループ形式の学習	7.8	6.9	16.9	28.3	16.2	10.0	10.4	15.2	11.3	21.1	13.1
3_ 意見を発表し合う学習	4.3	1.7	4.8	14.5	8.8	5.2	9.7	4.3	1.9	0.0	5.8
4_ テーマ学習	8.8	5.2	1.2	2.1	8.8	7.6	6.7	5.3	3.8	5.3	6.3
5_ 実験や観察	1.0	0.0	1.2	0.7	5.9	3.2	3.0	2.5	20.8	7.9	2.9
6_ 調査やフィールドワーク	11.1	1.7	1.2	4.1	4.4	6.8	16.4	13.1	5.7	7.9	9.1
7_ 映像メディアやインターネット	2.3	0.0	1.2	0.7	1.5	10.0	3.0	1.1	0.0	0.0	2.9
8_ 語学の学習	8.6	50.0	54.2	5.5	4.4	4.8	5.2	3.5	0.0	5.3	10.0
9_ 文章表現力の学習	8.6	3.4	1.2	2.8	2.9	4.4	4.5	5.3	0.0	2.6	5.0
10_ 就職を考える学習	8.8	6.9	1.2	10.3	5.9	10.0	8.2	11.0	3.8	2.6	8.6
0_ 無回答	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.4	0.0	0.0	0.3
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

※網掛けは 20.0%以上

（2番目）

（単位：%）

	人文	中国	英米	教育	臨床	現社	公共	社福	理学	作業	全体
1_ 講義形式の学習	12.9	8.6	12.0	9.0	16.2	7.6	11.9	8.5	11.3	13.2	10.6
2_ グループ形式の学習	6.8	10.3	2.4	16.6	8.8	8.4	4.5	15.6	9.4	18.4	9.8
3_ 意見を発表し合う学習	3.8	3.4	6.0	13.8	10.3	3.6	5.2	3.9	3.8	2.6	5.2
4_ テーマ学習	8.3	3.4	1.2	5.5	4.4	9.6	9.0	5.3	5.7	2.6	6.8
5_ 実験や観察	2.0	1.7	0.0	4.1	20.6	1.2	1.5	3.2	30.2	10.5	4.2
6_ 調査やフィールドワーク	11.1	1.7	3.6	15.2	5.9	12.0	22.4	19.1	9.4	5.3	12.9
7_ 映像メディアやインターネット	3.0	0.0	3.6	1.4	2.9	9.6	3.0	1.1	1.9	5.3	3.5
8_ 語学の学習	10.4	27.6	31.3	6.9	8.8	5.6	8.2	10.3	9.4	5.3	10.6
9_ 文章表現力の学習	20.5	5.2	10.8	9.7	13.2	11.6	6.7	7.1	7.5	7.9	12.0
10_ 就職を考える学習	20.2	36.2	28.9	16.6	7.4	30.1	26.1	23.8	11.3	28.9	23.1
0_ 無回答	1.0	1.7	0.0	1.4	1.5	0.4	1.5	2.1	0.0	0.0	1.1
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

※網掛けは 20.0%以上

#### 4-1 大学での不安

図表 15 は、大学での不安を答えてもらったものである。数値は「とても不安だ」と「まあ不安だ」の回答を合計して算出した。不安の順番としては「授業についていけるか」（83.0%）、「大学生活にとけこめるか」（76.2%）、「友人ができるか」（67.5%）の順に高い。全体的に不安感がとても高い数値になっているが、これは入学直後に質問をしたことにも関係していると考えられる。C社からのアドバイスとして「コミュニティ不安、コミュニケーション不安を感じる割合は高い割合でいます。授業や基礎ゼミ、サークル活動などで、自然と解決される学生が多いと思いますが、場合によっては、先生や職員の方からの話しかけなどが導入段階では必要かもしれません」というコメントがあった。

学科別の特徴としては、「やりたい勉強ができるか」に不安が高い学科が「公共政策」

(70.1%)、「現代社会」(67.5%)、「中国」(67.2%)であり、逆に不安が少ない学科は「作業療法」(28.9%)、「教育」(33.8%)、「理学療法」(39.6%)であった。

「勉強したいことがみつかるか」に不安が高い学科は「公共政策」(64.9%)、「中国」(56.9%)、「現代社会」(53.4%)であり、不安が少ない学科は「教育」(17.9%)、「理学療法」(18.9%)、「作業療法」(21.1%)であった。「公共政策」と「現代社会」の学生は勉強で何をすればよいか分からない状態であると推察できる。「教育」、「理学療法」、「作業療法」の学生は勉強の目的をもっているものと推察できる。

「友人ができるか」に不安が高い学科は「現代社会」(75.9%)、「臨床心理」(75.0%)、「中国」(72.4%)であり、あまり不安がない学科は「理学療法」(49.1%)、「作業療法」(52.6%)であった。

図表 16 で入試形態別にみると、「面接重視型」の 54.8%が「大学の授業についていけるか」「とても不安だ」と答えている。

図表 15 大学での不安

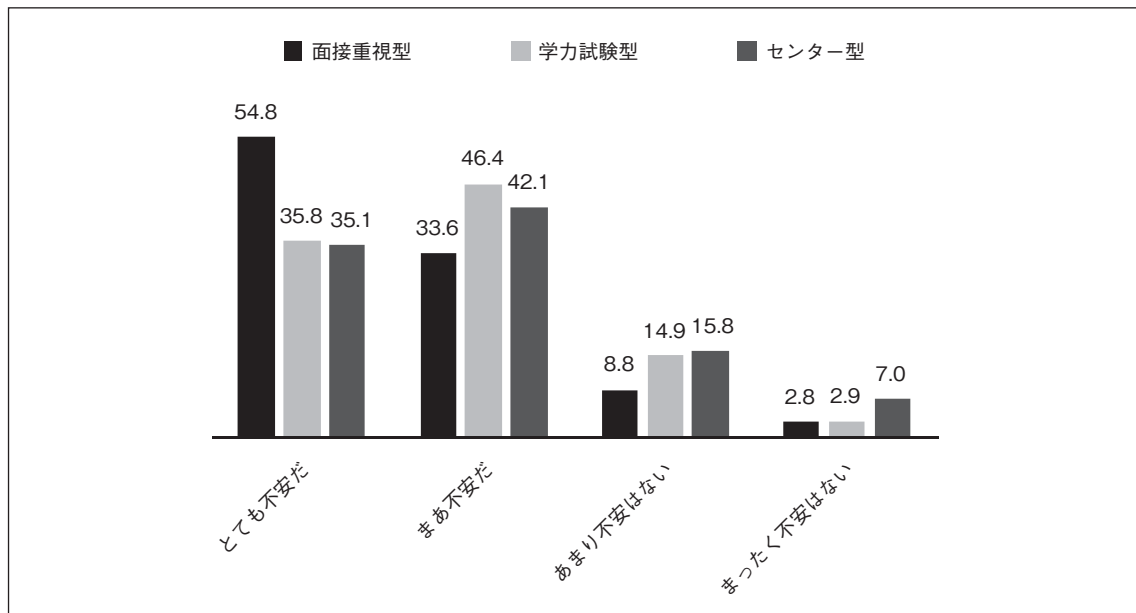
(単位：%)

	人文	中国	英米	教育	臨床	現社	公共	社福	理学	作業	全体
やりたい勉強ができるか	54.3	67.2	49.4	33.8	61.8	67.5	70.1	65.6	39.6	28.9	57.4
勉強したいことがみつかるか	33.3	56.9	31.3	17.9	44.1	53.4	64.9	36.2	18.9	21.1	39.0
授業についていけるか	78.5	79.3	79.5	84.8	82.4	81.1	85.1	87.6	98.1	86.8	83.0
授業が期待通りか	58.8	55.2	59.0	53.1	75.0	68.7	73.1	67.0	56.6	47.4	62.9
大学生活にとけこめるか	73.5	77.6	80.7	75.2	82.4	79.5	73.1	76.2	77.4	71.1	76.2
友人ができるか	67.4	72.4	68.7	62.1	75.0	75.9	69.4	64.5	49.1	52.6	67.5

※網掛けは 70%以上

図表 16 大学の授業についていけるか (入試形態別)

(単位：%)



#### 4-2 卒業後の進路への不安

図表 17 は、卒業後の進路への不安を答えてもらったものである。入学直後の段階で「希望する進路に進めるか不安」な学生が 52.7%、「自分にあった進路を選べるか不安」な学

生が24.3%と高い数値を示している。

学科別にみると、「希望する進路に進めるか不安」と答えた学生が多い学科は「教育」(73.1%)、「作業療法」(71.1%)、「理学療法」(66.0%)の順であった。「自分にあった進路を選べるか不安」と答えた学生が多い学科は「中国」(36.2%)、「現代社会」(34.9%)、「社会福祉」(31.9%)であった。C社からのアドバイスとして、「教育、理学療法、作業療法で希望する進路に進めるか不安を感じている学生が多いようです。教学内容と将来の職業選択を関連付ける指導が、低学年から必要かもしれません」というコメントがあった。

「進路について何を考えればいいのか不安」と「進路について何も考えていなくて不安」を合計してみると、「公共政策」(22.4%)、「中国」(16.9%)、「現代社会」(16.1%)、「英米」(15.5%)、「人文」(13.4%)、「臨床心理」(11.8%)の順で不安を抱いている学生が多い。

図表 17 卒業後の進路への不安

(単位：%)

	人文	中国	英米	教育	臨床	現社	公共	社福	理学	作業	全体
1_希望する進路に進めるか不安	54.3	36.2	59.0	73.1	50.0	41.8	36.6	54.6	66.0	71.1	52.7
2_自分にあった進路を選べるか不安	19.9	36.2	16.9	11.0	27.9	34.9	26.9	31.9	11.3	15.8	24.8
3_進路について何を考えればいいのか不安	8.1	3.4	8.4	2.1	10.3	10.4	12.7	5.0	1.9	2.6	7.3
4_進路について何も考えてなくて不安	5.3	12.1	8.4	1.4	1.5	5.6	9.7	1.1	0.0	0.0	4.5
5_まだ先なので何も考えていない	3.0	5.2	3.6	0.0	1.5	3.2	6.0	1.8	5.7	0.0	2.9
6_今のところ不安はない	9.3	5.2	3.6	12.4	8.8	4.0	8.2	5.3	15.1	10.5	7.6
0_無回答	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.1
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

※網掛けは20.0%以上

### 4-3 卒業後の進路

図表 18 は、大学卒業後の進路について考えを答えてもらったものである。「明確に考えている」学生が23.1%、「ある程度考えている」学生が53.6%で、合計すると76.7%の学生が卒業後の進路について考えている。C社からのアドバイスとして「進路に対する意識は高く、ほとんどの学生が進路を考えています。意欲が高いので低学年からキャリアを意識させる指導も受け入れる素地があるのではないのでしょうか」というコメントがあった。

学科別にみると、「明確に考えている」学生が多いのは「教育」(45.5%)、「英米」(28.9%)、「理学療法」(28.3%)、「臨床心理」(27.9%)の順である。「明確に考えている」と「ある程度考えている」を合計すると、「教育」(95.8%)、「作業療法」(94.8%)、「理学療法」(94.3%)が卒業後の進路について考える学生が多かった。

図表 18 卒業後の進路を考えているか

(単位：%)

	人文	中国	英米	教育	臨床	現社	公共	社福	理学	作業	全体
1_明確に考えている	25.8	10.3	28.9	45.5	27.9	13.3	13.4	20.2	28.3	21.1	23.1
2_ある程度考えている	49.2	44.8	49.4	50.3	48.5	55.4	47.8	61.7	66.0	73.7	53.6
3_あまり考えていない	19.4	32.8	15.7	2.1	20.6	26.5	30.6	16.3	5.7	5.3	18.9
4_まったく考えていない	5.1	8.6	6.0	1.4	2.9	4.4	8.2	1.4	0.0	0.0	4.0
0_無回答	0.5	3.4	0.0	0.7	0.0	0.4	0.0	0.4	0.0	0.0	0.5
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

※網掛けは20.0%以上

## 5. 学習習慣

図表 19 は、おもに高校 3 年時の学習習慣について答えてもらったものである。数値は「十分取り組んだ」と「まあ取り組んだ」を合計して算出している。「板書をノートにとった」学生は 90.8% と多いが、「板書以外も大事なことはノートにとった」学生は 57.3% に減少している。C 社からのアドバイスとして「板書は写すが、黒板に書かれない重要事項はノートにとらない学生が約半数います。大学におけるもっとも重要なスタディスキルの中のひとつですので、早期の習慣づけが必要でしょう」というコメントがあった。

「授業で不明な箇所を質問した」学生が 51.7%、「授業で不明な箇所を後で調べた」学生が 53.0% と、半数近くの学生が不明な箇所を質問したり調べたりしている。「宿題や課題をこなした」学生は 82.7% と多いが、「予習をした」(33.1%)、「復習をした」(30.7%) の比率が低くなる。C 社からのアドバイスとして「新教育課程生の全国的な傾向として、与えられた事柄は比較的従順にこなすと言われてはいますが、貴学でも 80% 近い割合で取り組んで来られたようです。宿題として、テキストのページを決めて読む、あるいはレポートを 1 枚書くなどの課題によって学習習慣を育成するのも有効でしょう。予習習慣、復習習慣のある学生の割合は非常に少ないのが現状です。自学自習を行なうように言うだけでは絶対に実行されませんので、大学ではどのような予習を行なうべきなのかを具体的に指導する必要があるでしょう」というコメントがあった。

図表 20 は、入試形態別に違いがみられた学習習慣である。「面接重視型」の学生は学力試験の入試をする必要がないため、学習習慣が身につけていない可能性が高い。今回の調査でも、「面接重視型」は「不明な箇所を調べる」(38.4%)、「予習をする」(25.2%)、「復習をする」(22.4%)、「参考書・資料集活用」(35.6%)、「コツコツ勉強した」(19.6%) の数値が低くなっており、基本的な学習習慣が形成されていないことが窺える。

図表 19 高校 3 年時の学習習慣

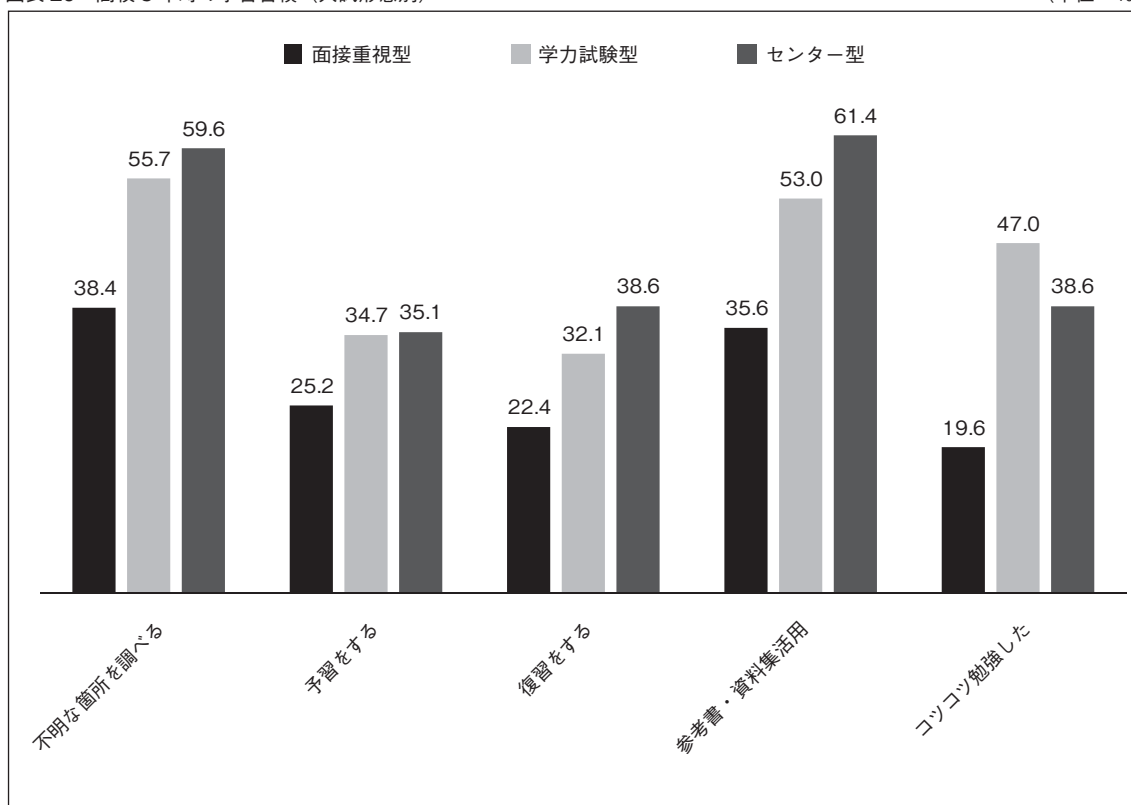
(単位：%)

	人文	中国	英米	教育	臨床	現社	公共	社福	理学	作業	全体
板書をノートにとった	92.2	89.7	94.0	89.0	80.9	90.4	83.6	94.0	96.2	94.7	90.8
板書以外も大事なことはノートにとった	57.6	50.0	61.4	62.8	57.4	53.8	44.0	61.3	64.2	65.8	57.3
授業で不明な箇所を質問した	49.0	46.6	53.0	69.0	47.1	47.4	44.0	53.5	60.4	57.9	51.7
授業で不明な箇所を後で調べた	53.3	48.3	55.4	63.4	64.7	54.2	40.3	47.9	66.0	47.4	53.0
宿題や課題をこなした	83.6	75.9	84.3	84.1	70.6	84.3	73.9	85.1	84.9	94.7	82.7
予習をした	26.3	34.5	48.2	37.9	39.7	34.1	26.9	38.3	30.2	21.1	33.1
復習をした	30.6	36.2	32.5	40.0	29.4	28.9	20.9	30.1	34.0	34.2	30.7
参考書や資料集を活用した	50.8	51.7	51.8	55.2	50.0	47.0	43.3	51.8	54.7	55.3	50.4
自分の意志でコツコツ勉強した	37.1	41.4	36.1	53.8	44.1	41.0	34.3	46.5	52.8	44.7	42.0
計画的な勉強をした	36.4	39.7	48.2	60.0	51.5	47.8	39.6	50.7	60.4	44.7	46.0

※網掛けは 50% 以上

図表 20 高校 3 年時の学習習慣（入試形態別）

（単位：％）



## 6. 今後の課題

学生指導の課題としては、以下の3点がある。(1)「面接重視型」の試験で入学してきた学生は、学力も低く学習習慣も身につけていないため、入学前教育や導入教育・リメディアル教育を実施する必要がある。(2) 入学当初は不安を抱く学生が多いため、教職員からのアドバイスも含めて対策をたてる必要がある。(3) 入学当初から将来の職業について考える学生が多く、低学年からキャリアを意識させる指導が有効であろう。全体的には以上のようにまとめられるが、学科別に学生の特徴を考慮した指導が望まれる。

つぎに、基礎学力調査の課題を挙げる。C社の試験は大学受験の全国模試（毎年約40万人受験）の経験に基づき、学力と学習態度の関係を分析するためにデザインされている。今年度の「基礎学力調査」では試験時間の関係もあって、「国語の学習調査」と「学習実態調査」しか実施できず、学力と学習態度の間に有意な相関をみることができなかった。ただし、春学期オリエンテーション期間に新入生はTOEICの「英語」も受験している。次回の報告書では「英語」の試験結果も「学習実態調査」と連動させて分析したい。その他にも、大学入学後の成績、各種アンケート調査の結果、卒業後の進路等のデータを学生個人の記録としてポートフォリオ化し、学生の実態を把握する際に連動させて分析することが求められる。ポートフォリオの利点は、各種関連データを統計処理して学生全体の傾向をみることができると、学生ひとりひとりを単位とした個別指導の資料にできることである。ポートフォリオ化に向けたシステムの整備と人的支援体制作りが望まれる。



# FD Review

---

ト  
一  
一  
八  
了  
業  
授

# 授業アンケート

教授法開発室員 小林 隆

## 1. はじめに（授業アンケート実施者数・実施率の推移）

本学の授業アンケートは2001年度から始まり、2009年度で9年目を迎えた。実施当初はとにかくアンケートをとる風潮があった。また、教員評価であるとの誤解を受けた時期もあるようだが、ここ4年間は「授業アンケートは教員の評価にあるのではなく、学生の学習状況を把握しそれを授業改善に役立てること」を目的としている。次ページには、実施当初からの授業アンケート実施者数・実施率の推移データを掲載している。2005年度まで5割に満たなかった専任教員のアンケート実施率は、2006年からの3年間で8割を超えた。ただ、2008年度春学期をピークに実施率は低下している。この原因は、「アンケート項目がここ数年ほぼ同様なので、授業アンケートから明らかになる自身の授業の特徴に目新しい発見がない」等にあるものと推察される。

5割前後で推移してきた非常勤講師の実施率は、2008年度に8割弱にまで急伸した。さらに、2009年度は専任教員の実施率を上回っている。非常勤講師の方々のご協力に感謝したい。

なお、実施率が飛躍的に上昇した2006年度は、次のことを教授法開発室会議において確認をしている。（『FD Review vol.2』より）

- ① アンケート調査の対象は、教員の担当科目1科目以上（最低1科目）とする。
- ② アンケート調査の目的が、教員の評価にあるのではなく、学生の理解力・能力を高める（ひいては大学のさらなる質的向上）のための授業の改善に役立てることにあることをPRする。
- ③ 専任教員に対しアンケート調査の意義および実施の理解を深める働きかけを教授会を通じて積極的に行うとともに、実施期間中には専任・非常勤を含めて教員に積極的な協力を働きかける。
- ④ 学長・副学長・学部長に対し大学運営会議を通じてアンケート調査の重要性を訴え、その実施に向けて陣頭に立つことを要請する。
- ⑤ アンケートの調査結果が授業改善に生かせるよう実施時期・調査項目を工夫する。
- ⑥ アンケート調査を含めて授業の改善問題が教授会の議題として取り上げられ、教員相互の教育に対する研鑽をつめるようにする。

今年度も基本的にはこれら6項目は踏襲している。また2007年度からは、より組織的にFD活動を行っていくために教育開発委員会が設置され、各学部や関係各部署との連携を図ることとなった。しかし、学部内では授業改善が個々の教員に任されている現状であり、⑥は依然として課題となっている。その解決のためにも、学部ごとに授業改善にかか

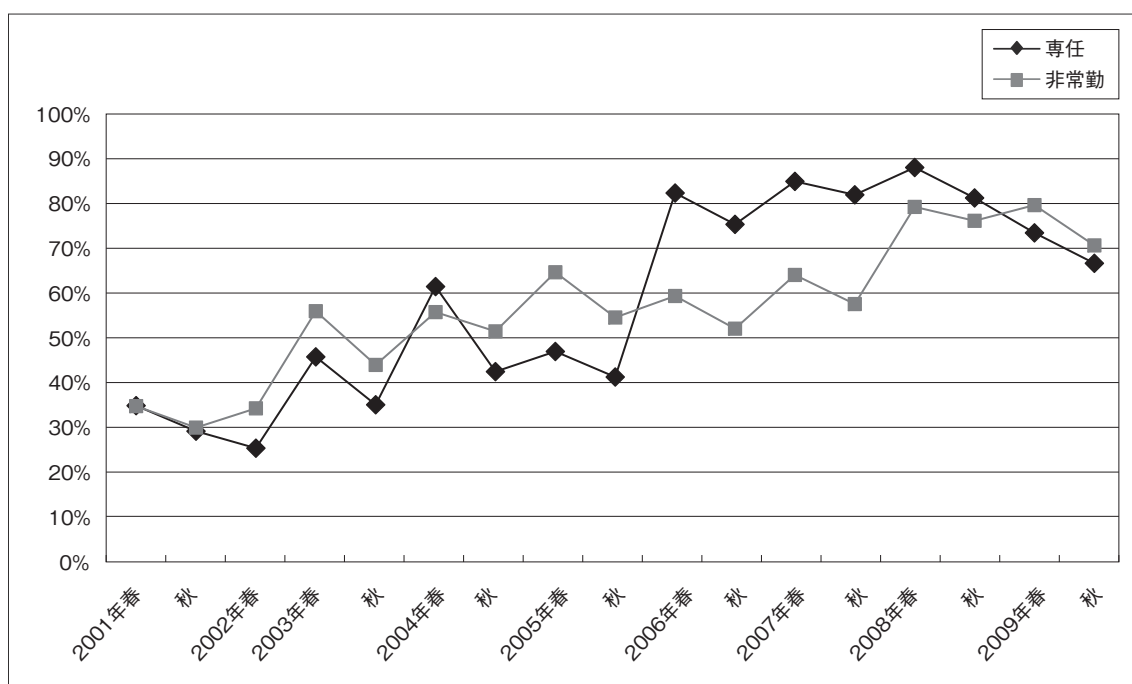
わる「学部内FD」を推進していくことは重要である。また、そのような「学部内FD」はシラバス間の連携を生んだり新しいプロジェクトを立ち上げたりする副次的な効果もあると考える。

### 授業アンケート実施者数・実施率の推移

		2001年春	秋	2002年春	2003年春	秋	2004年春	秋
専任	実施者数(名)	59	49	44	77	59	107	74
	総数(名)	169	168	173	168	168	174	174
	実施率(%)	34.9	29.2	25.4	45.8	35.1	61.5	42.5
非常勤	実施者数(名)	151	130	181	308	242	300	277
	総数(名)	434	434	527	550	550	538	538
	実施率(%)	34.8	30.0	34.3	56.0	44.0	55.8	51.5

2005年春	秋	2006年春	秋	2007年春	秋	2008年春	秋
87	76	140	129	153	146	171	157
185	184	170	171	180	178	194	193
47.0	41.3	82.4	75.4	85.0	82.0	88.1	81.3
321	294	352	309	311	277	382	346
496	538	593	593	485	481	482	454
64.7	54.6	59.4	52.1	64.1	57.6	79.3	76.2

2009年春	秋
144	130
196	195
73.5	66.7
369	331
463	468
79.7	70.7



## 2. 授業アンケートの実施状況（2009年度）

2009年度の全学における専任教員の実施率は、春学期が73.5パーセント、秋学期が66.7パーセントであった。学部・学科間において実施率に差が見られる。作業療法学科は春・秋ともに高い実施率を示している一方、臨床心理学科や公共政策学科の実施率が低い。授業アンケートの実施率が授業改善の意識の軽重に直接結び付くとは思わないが、前述のように「学部内FD」に取り組むことによって意識を高めていくことは必要である。

なお、通信教育課程では、今年も試行的に授業アンケートが行われた。

2009年度授業アンケート学部・学科別実施率（専任教員）

	春学期			秋学期		
	総数(名)	実施者数(名)	実施率(%)	総数(名)	実施者数(名)	実施率(%)
人文学科	48	33	68.8	47	34	72.3
中国学科	7	6	85.7	7	5	71.4
英米学科	7	6	85.7	8	7	87.5
文学部	62	45	72.6	62	46	74.2
教育学科	28	22	78.6	28	15	53.6
臨床心理学科	10	7	70.0	10	4	40.0
教育学部	38	29	76.3	38	19	50.0
現代社会学科	18	15	83.3	18	14	77.8
公共政策学科	14	6	42.9	14	9	64.3
社会学部	32	21	65.6	32	23	71.9
社会福祉学科	30	21	70.0	30	19	63.3
社会福祉学部	30	21	70.0	30	19	63.3
理学療法学科	10	9	90.0	10	5	50.0
作業療法学科	8	7	87.5	8	8	100.0
保健医療技術学部	18	16	88.9	18	13	72.2
外国人契約教員	4	4	100.0	4	3	75.0
実習指導講師	12	8	66.7	11	7	63.6
計	196	144	73.5	195	130	66.7

※専任教員総数218名のうち、以下の人数を除く  
 研修期間8名  
 客員教授9名  
 未開講教員5名  
 計22名

実施率は総数に対する実施者数の割合で算出  
 同科目名で分担講義がある場合、  
 講義をする教員の頭数で計算

※専任教員総数218名のうち、以下の人数を除く  
 研修期間9名  
 客員教授9名  
 未開講教員5名  
 計23名

実施率は総数に対する実施者数の割合で算出  
 同科目名で分担講義がある場合、  
 講義をする教員の頭数で計算

### 3. 授業アンケートの結果から

授業アンケートは、下記のように分類して集計した。以下では(1)～(5)のデータを読み取り、分析と考察を進める。なお、アンケートの大項目は「①あなた自身の取り組みについて」「②授業について」である。分析と考察はこの大項目にまとめて行っていく。データは最後にまとめて掲載している。

- (1) 全体集計
- (2) 学部別集計
- (3) 開講科目種別集計
- (4) 回生別集計
- (5) クラス規模集計

#### (1) 全体集計からの分析・考察

##### ①あなた自身の取り組みについて

- 学生は自身の興味・関心や将来の進路・就職の希望に基づいて科目を履修している。
- 「講義概要（シラバス）を見て関心があった」の割合が昨年度に比べて上昇した。
- 授業時間内は熱心に取り組み内容を理解できたと回答しているが、事前・事後の学習時間は依然として少ない。
- 学生のより深い学びを促すために、説明・理解型授業から思考・創造型授業への転換が求められる。
- e-Learning や学びのコミュニティを活用した授業運営も考えられる。

以下に細かい分析と考察を加える。

履修理由は「必修科目」が53.2パーセントと半数を超え、「講義概要（シラバス）を見て関心があった」（25.0パーセント）「卒業後の進路・就職に役立つ」（14.1パーセント）が続く。これに対して「先輩や友人の薦めがあった」（2.9パーセント）と回答している学生は少ない。この結果から、学生は自身の興味・関心や将来の進路・就職の希望に基づいて主体的に科目を履修していると考えられる。

「講義概要（シラバス）を見て関心があった」の割合が昨年度に比べて上昇した。学生の間でシラバスを読む習慣が定着してきたこと、魅力のある授業が増えてきたことが原因として挙げられる。

次に、欠席回数を見ると0回と1～2回で全回答の87.1パーセントを占め、授業を妨げる行為は約7割の学生が「しなかった」と答えている。また、86.3パーセントの学生が熱心に授業に「取り組んだ」「どちらかといえば取り組んだ」と回答し、81.6パーセントの学生が授業内容を理解することが「できた」「どちらかといえばできた」と回答している。これらの結果からは、毎回の授業には真面目にかつ熱心に取り組み内容も理解できたと自己評価している学生の姿が見て取れる。しかしながら、事前・事後の学習については61.4パーセントの学生が「あまりしなかった」「ほとんどしなかった」と答えている。つまり、

授業アンケートから学生の学習状況を読み取ると、真面目に授業に出席するが事前・事後の学習はあまりしていないことが読み取れる。しかし、授業内容は理解できたと回答している学生が多い。解釈によるが、「理解できた」の意味合いが浅いのではないか。文部科学省の基準では、1単位45時間の学習時間が設定され授業時間はその中の一部とされる。つまり、厳密に言うと単位当たりの学習時間が確保されていないのが実態である。事前・事後の学習をあまりしていないのに熱心に授業に取り組み内容も理解できました。このようなことはあり得るのか。

これまで半期32単位、年間64単位が履修単位の上限であった。これでは単位数分の学習時間を確保することは現実的に不可能である。来年度からは、段階的に年間50単位キャップ制が導入される。このことで、単位当たりの学習時間を確保するための構造的な問題を解決することができる。また、学生のより深い学びを期待するとともに具体的な指導のあり方も考えていく必要がある。そのためにも、単位時間内で完結する授業運営からオープンエンド型の授業運営へ、言い換えれば、説明・理解型の授業運営から思考・創造型の授業運営に転換していくことが求められる。e-Learningや学びのコミュニティを活用した授業運営も考えられよう。加えて、学生の評価も知識量をペーパーで問う従来型の評価から学生の思考や創造力を見る多様な評価方法へ転換していく必要がある。

## ②授業について

- 学生は授業を少し難しいと感じ、授業の進度はちょうど良いと感じている。また、学生に教員の熱意が伝わっている。
- 教員の熱意が伝わっている授業ほど学生の満足度は高い。
- 地道かつ誠実な授業技術向上に対する取り組みと、学生の協働学習をより有機的に促進する取り組みが求められる。

以下に細かい分析と考察を加える。

昨年度より「授業（内容）の難易度はどうでしたか」「授業の進度はどうでしたか」の項目を入れた。これは、教員が学生に求めるものと学生の実態が乖離しているのではないかという問題意識からのものである。

「授業（内容）の難易度はどうでしたか」の設問には「少し難しかった」に43.1パーセント、「自分に合っていた」に44.1パーセントの学生が回答している。また、65.5パーセントの学生が授業の進捗に対して「自分に合っていた」と回答している。このような結果は教員が学生に求めるものと学生の実態は必ずしも大きくは乖離していないと解釈することができる。さらに、「教員の熱意が伝わりましたか」の問いには92パーセントの学生が「非常に伝わった」「伝わった」と回答し、「総合的にこの授業に満足していますか」の問いには86.7パーセントの学生が「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答している。このような結果は、学生と教員のコミュニケーションがとれており、人間関係が構築されている側面があると読み取ることができる。なお、一昨年度行ったアンケートのクロス集計では、教員の熱意が伝わっている授業ほど学生の満足度も高いという結果が出ている。

次に、授業アンケートから読み取れる授業の工夫は、「授業の内容構成」(32.8パーセント)が最も高い割合であった。「講義概要(シラバス)を見て関心があった」の割合が昨年度に比べて上昇したことは前述したが、学生にとって魅力的な授業が増えていると考えられる。「話し方」(31.8パーセント)、「レジュメ」(21.5パーセント)も高い割合を占め、「板書」(15.6パーセント)がそれに続く。学生の学習を質的に向上させるためには、やはり授業内容構成の工夫に加えて基本的な授業技術の向上に努める必要がある。『FD Review vol.2』の「はじめに」には、授業アンケートの自由記述欄における学生の意見が掲載されている。ここでは改めて述べないが、読み返してみると基本的な授業技術向上を具体的に考える材料となり、授業改善の際に大きな示唆を与えてくれる。

## (2) 学部別集計からの分析・考察

### ①あなた自身の取り組みについて

- 文学部・社会学部は「講義概要(シラバス)を見て関心があった」を理由として科目履修をしているが学習状況は比較的低調であり、学習内容の理解度も比較的高くない。
- 教育学部・社会福祉学部は「必修科目」を理由として科目履修をしているが学習状況は比較的良好く、学習内容の理解度も比較的高い。
- 保健医療技術学部は「必修科目」を理由として科目履修し学習状況も良い。昨年度に比べ、学習内容を理解できたと回答した学生の割合が飛躍的に高くなった。

以下に細かい分析と考察を加える。

受講理由は、保健医療技術学部はほとんどが「必修科目」(92.7パーセント)であるのに対し、文学部(35.2パーセント)・社会学部(38.9パーセント)は「シラバスを読んで関心があった」であった。教育学部(66.8パーセント)・社会福祉学部(70.9パーセント)も「必修科目」の割合が多かった。欠席や受講態度、学習時間は「教育学部」「社会福祉学部」「保健医療技術学部」で意識が高い状況であった。これは、将来への見通しや免許・資格等との関係で「教育学部」「社会福祉学部」「保健医療技術学部」は比較的明確に目標を持ちやすいからではないか。授業などを通して学問の真の面白さを伝えたり、キャリア教育を推進し、早い段階で将来に対する目標を持たせ職業意識を高める必要がある。また、講義概要(シラバス)を読み、興味・関心や将来に対する必要性をもとに自身で主体的に学習計画を立てるための支援をしていくことも大切である。一方、授業内容が抽象的になりすぎると学生が学習内容を具体的にイメージできない場合が多いようである。「教育学部」「社会福祉学部」「保健医療技術学部」で比較的学習状況が良い理由は、具体的な場面における学習が多く、内容をイメージし易いという特性も関係しているものと思われる。実学と教養のバランスという視点もあろう。

一昨年度はクロス集計で予習・復習などの学習時間が長いほど授業に対する満足度も高く、短いほど満足度が低かった。これは、学生が必ずしも「楽勝科目」に流れているわけではなく、真に知的欲求を満たし技能の向上を図りたいと考えているものと読み取れる。

## ②授業について

- 文学部・社会学部は学習形態と教員や学生同士のコミュニケーションに工夫を加えたい。
- 教育学部・社会福祉学部・保健医療技術学部は特にシラバス記述に工夫を加えたい。

以下に細かい分析と考察を加える。

授業において学生が工夫を感じた点を割合の多い順に書き出した。下記の通りである。

- ・文学部 話し方 (33.9%) 授業の内容構成 (31.2%) レジユメ (26.8%)
- ・教育学部 授業の内容構成 (36.9%) 話し方 (32.5%) レジユメ (23.9%)  
学習形態 (20.8%)
- ・社会学部 話し方 (27.0%) 授業の内容構成 (25.7%) レジユメ (25.4%)
- ・社会福祉学部 レジユメ (32.2%) 授業の内容構成 (29.8%) 話し方 (29.3%)
- ・保健医療技術学部 授業の内容構成 (34.5%) レジユメ (27.%) 話し方 (24.3%)  
パワーポイント (23.4%)

授業において学生が工夫を感じた点を割合の少ない順に書き出した。下記の通りである。

- ・文学部 学習形態 (5.3%) パワーポイント (6.1%) 学習形態 (7.3%)  
教員や学生同士のコミュニケーション (8.0%)
- ・教育学部 シラバスの記述 (3.1%) マイクの使い方 (7.5%)
- ・社会学部 学習形態 (4.3%) 教員や学生同士のコミュニケーション (5.0%)
- ・社会福祉学部 シラバスの記述 (2.9%) パワーポイント (3.1%)
- ・保健医療技術学部 マイクの使い方 (3.9%) シラバスの記述 (2.5%) 視聴覚教材 (5.1%)

学部によって授業の規模や内容に特性があると考えられるが、文学部・社会学部は学習形態と教員や学生同士のコミュニケーションに、教育学部・社会福祉学部・保健医療技術学部は特にシラバスの記述に工夫を加える必要があるとも読み取ることができる。

## (3) 開講科目種別集計からの分析・考察

### ①あなた自身の取り組みについて

- 専門基礎科目の学習状況は、共通科目や外国語科目と比べて芳しくない。ただ、昨年度と比較すると専門基礎科目の学習状況は改善している。

以下に細かい分析と考察を加える。

履修理由は、共通科目 (58.6 パーセント) と外国語科目 (86.1 パーセント) で「必修科目」が多く、専門基礎科目 (46.3 パーセント) は「講義概要 (シラバス) を見て関心があった」が多かった。専門基礎科目の「講義概要 (シラバス) を見て関心があった」(46.3 パーセント) は、昨年度に比べ、8 パーセントほど上昇している。学生にとって魅力のある授業が増えていると考えられる。



また、「これまでこの授業での欠席をどれくらいしましたか」の問いには、共通科目は0回に49.8パーセント、1～2回に39.1パーセントの学生が回答した。外国語科目は同45.1パーセントと41.3パーセント、専門基礎科目は同43.0パーセントと44.5パーセントであった。昨年度は専門基礎科目の出席状況が芳しくなかったが、今年度は3領域ともに同等の割合であった。

また、専門基礎科目は、「1回の授業につき、事前事後の学習（予習・復習）をどのくらいしましたか？」の問いに対し、「十分学習した」7.3パーセント、「ある程度学習した」が18.8パーセントであった。依然として7割以上の学生が専門科目に対して事前・事後の学習を「あまりしなかった」「ほとんどしなかった」と回答しているが、昨年度に比べると8パーセントほど割合が上昇した。授業に「熱心に取り組んだ」の割合も23.2パーセントから29.0パーセントに上昇しており、総合的に見て、専門基礎科目の学習状況が改善してきていると判断できる。授業改善をはじめとし、学生に対して様々な働きかけがあったものと推察される。

## ②授業について

○専門基礎科目は共通科目や外国語科目と比較して満足度が芳しくない。ただ、昨年度に比べると専門基礎科目の満足度は向上している。

○どの領域も「授業の内容構成」に工夫を感じている学生が多い。

○共通科目と専門基礎科目は学習形態と教員や学生同士のコミュニケーションに、外国語科目は特にパワーポイントやマイクの使用に工夫を加えたい。

以下に細かい分析と考察を加える。

「授業（内容）の難易度はどうでしたか」の設問に対して「かなり難しかった」「少し難しかった」と回答した学生は、共通科目で55.9パーセント、外国語科目で47.9パーセント、専門基礎科目で57.3パーセントであった。専門基礎科目は難しいととらえている学生が比較的多い。また、専門基礎科目は授業の満足度が低調（共通科目が「満足している」40.7パーセントに対して33.1パーセント）である。しかし、昨年度に比べると、この項目も幾分改善している。

授業において学生が工夫を感じた点を割合の多い順に書き出した。下記の通りである。

- ・ 共通科目                      話し方（38.1%）授業の内容構成（33.7%）
- ・ 外国語科目                  授業の内容構成（43.3%）話し方（36.4%）
- ・ 専門基礎科目                話し方（28.5%）授業の内容構成（26.4%）板書（21.3%）

授業において学生が工夫を感じた点を割合の少ない順に書き出した。下記の通りである。

- ・ 共通科目                      シラバスの記述（3.7%）視聴覚教材（4.5%）学習形態（5.7%）
- ・ 外国語科目                  パワーポイント(0.8%) シラバスの記述(3.1%) マイクの使い方(3.3%)
- ・ 専門基礎科目                学習形態（2.5%）教員や学生同士のコミュニケーション（3.9%）  
シラバスの記述（5.8%）

どの領域も「授業の内容構成」や「話し方」に工夫を感じている学生が多い。また、領域によって授業の特性があると考えられるが、共通科目と専門基礎科目は学習形態と教員や学生同士のコミュニケーションに、外国語科目は特にパワーポイントやマイクの使用に工夫を加える必要があると読み取ることができる。

#### (4) 回生別集計からの分析と考察

##### ①あなた自身の取り組みについて

○上回生になるほど主体的に科目選択をしているが、それが良好な学習状況に結びついていない。

以下に細かい分析と考察を加える。

全体的に見て、上回生の学習状況が芳しくない。例えば、欠席2回以内は1回生で91.4パーセント、2回生で89.7パーセント、3回生で84.4パーセント、4回生で60パーセント、5回生以上では41.4パーセントである。

これに対して、「講義概要（シラバス）を見て関心があった」は1回生が22.0パーセント、2回生が24.9パーセント、3回生が26.0パーセント、4回生36.9パーセントであった。

上回生になるほど科目選択の自由が高まるが、これが良い学習状況に必ずしも結びついていない。「1回の授業につき、事前・事後の学習（予習・復習）をどのくらいしましたか？」や「熱心に授業に取り組みましたか」も、回生間の顕著な差異は認められない。授業内容に対する理解度は上回生になるほど上昇するが、学生に対するゼミ等での指導が必要である。

##### ②授業について

○上回生になるほど、教員の熱意が伝わり授業の満足度も高くなっている。学生の学習を促進する要素には授業の内容構成や工夫、テクニックもさることながら暖かい人間関係づくりが不可欠なことは言うまでもない。

以下に細かい分析と考察を加える。

1回生から5回生以上のすべての学年において、「授業（内容）の難易度はどうでしたか」で顕著な差は認められなかった。「少し難しかった」と回答した学生は、1回生が46.5パーセント、2回生が41.9パーセント、3回生が41.4パーセント、4回生が38.9パーセント、5回生以上が42.8パーセントであった。

しかし、「教員の熱意が伝わりましたか」「総合的にこの授業に満足していますか」の設問では学年が上がるにしたがって肯定的な回答が増えている。例えば、「教員の熱意は伝わりましたか」の問いに「非常に伝わった」と回答した学生は、1回生が26.5パーセントなのに対して4回生は39.7パーセントであった。また、「総合的にこの授業に満足していますか」の問いに「満足している」と回答した学生は、1回生が37.7パーセントなのに対

して4回生は51.2パーセントとなっている。これは、ゼミや普段の学生生活での関わりなどによって教員とコミュニケーションをとる機会が多くなり、関係が構築されてきていることもその一因としてあげられよう。一昨年度のアンケートではクロス集計の結果、教員と学生の関係が良好な科目は学生の理解度も満足度も高いという傾向が見られた。やはり、学生の学習を促進する要素には授業の内容構成や工夫、テクニックもさることながら暖かい人間関係づくりが不可欠なことは言うまでもない。

## (5) クラス規模集計からの分析と考察

### ①あなた自身の取り組みについて

○大規模での授業になるにしたがって学生の学習状況は芳しくない。全体的な授業運営の点で仕方がないのではあるが、大規模クラスへの環境的な支援や授業の工夫のあり方も検討していく必要がある。

以下に細かい分析と考察を加える。

かねてから懸案となっている授業の適正規模の問題である。一言で言うと、大規模での授業になるにしたがって学生の学習状況は芳しくなくなっている。例えば、「熱心に授業に取り組みましたか」の設問に対して「取り組んだ」と回答した学生は、30名未満で44.9パーセント、30名以上50名未満で37.0パーセント、50名以上100名未満で28.1パーセント、100名以上150名未満で25.2パーセント、150名以上で30.0パーセントである。また、「授業を理解することができましたか」の問いに対して、30名未満では37.4パーセントが「できた」、51.0パーセントが「どちらかといえばできた」と回答しているのに対して、150名以上のクラスでは「できた」が25.0パーセント、51.4パーセントが「どちらかといえばできた」と回答している。

### ②授業について

○少人数のクラスほど「授業の内容構成」に対する関心が高い。大規模クラスでは、「話し方」に加え「学習形態」やコミュニケーションにも工夫を加え、学生の学習をより活性化させていきたい。

○大規模クラスになるにしたがって、学生の授業に対する満足度は低下している。

授業運営の工夫により学生の学習の質を改善することは可能であろう。以下では、クラス規模別に学生が授業に対して感じている工夫をまとめてみた。

授業において学生が工夫を感じた点を割合の多い順に書き出した。下記の通りである。

- ・ 30名未満 授業の内容構成 (41.0%) 話し方 (35.2%)
- ・ 30名以上 50名未満 授業の内容構成 (37.4%) 話し方 (31.9%)
- ・ 50名以上 100名未満 話し方 (29.8%) 授業の内容構成 (27.3%) レジюме (26.8%)
- ・ 100名以上 150名未満 話し方 (31.9%) 授業の内容構成 (24.5%)
- ・ 150名以上 話し方 (29.6%) 授業の内容構成 (28.3%)

授業において学生が工夫を感じた点を割合の少ない順に書き出した。下記の通りである。

- ・ 30名未満 マイクの使い方 (2.4%) パワーポイント (4.5%)
- ・ 30名以上 50名未満 マイクの使い方 (5.8%) パワーポイント (7.8%)
- ・ 50名以上 100名未満 学習形態 (5.8%)  
教員や学生同士のコミュニケーション (6.3%)
- ・ 100名以上 150名未満 教員や学生同士のコミュニケーション (3.8%)  
学習形態 (5.7%)
- ・ 150名以上 学習形態 (3.5%)  
教員や学生同士のコミュニケーション (3.6%)

50名までの少人数のクラスでは、「授業の内容構成」に工夫を感じている学生が最も多かった。これは、必然的に教員や学生同士との距離を近く感じているため、授業の根幹である「授業の内容構成」に目がいきやすくなっているものとも解釈できる。つまり、少人数のクラスほど純粋に学習内容に興味・関心を持ちやすくなっているのではないか。次に大規模クラスを見ていく。大規模のクラスでは「話し方」に工夫を感じている学生が最も多かった。これに対して、「学習形態」や「教員や学生同士のコミュニケーション」に工夫を感じている割合が少ない。これは、講義形式の授業が多いことを示している。大規模クラスでも「話し方」に加えて学習形態やコミュニケーションにも工夫を加え、学生の学習をより活性化させていきたい。ただ、教員単独ではかなりの負担となる。この点については、TAを有効に利用していくなどの方法が考えられる。

最後に、「総合的にこの授業に満足していますか」の問いでは、30名未満のクラスでは54.3パーセントが「満足している」、38.4パーセントが「どちらかといえば満足している」と回答し、150名以上のクラスでは37.60パーセントが「満足している」、46.1パーセントが「どちらかといえば満足している」と回答している。つまり、大規模での授業になるに従って学生の「満足度」は低下している。施設面を含めて考えていきたい課題である。

## 4. 総括

「授業アンケート」を担当して3年目となる。ここで改めてアンケートから明らかになった課題をまとめておきたい。

- ① 授業には熱心に参加するが、事前・事後の学習を深くしていない学生が多い。原因は2点あると考察する。1点目は前述のようにカリキュラム編成上の問題である。カリキュラムをスリム化して学生の学習時間を確保することが求められる。2点目は授業構成の問題である。時間内で説明してわからせる理解型の授業ばかりでなく、知的刺激や課題を与えるなどの工夫から思考・創造型の授業へ転換していくことである。つまり、知識や技能をわかりやすく伝達する伝統的な授業観から、様々な考えを交流する授業観への転換が求められよう。この点では、e-Learningを活用することも考えられる。さらに、学生の評価も知識の量をペーパーで問う従来型の評価から学生の思考や創造力を見る多様な評価方法へ転換していく必要もあろう。
- ② 授業において、教員や学生同士の交流を望む学生が多い。また、このような授業は学生の「理解度」「満足度」が高い。①と同様に、e-Learningを活用することも考えられる。また、「授業の内容構成」に関心が高い学生が多い。授業の難易度が「少し難しかった」方が学生の満足度は高い。知的刺激を望んでいると考えられる。
- ③ とは言うものの、「声が明瞭で話がわかりやすい」「板書の量や構成が適当」「資料やパワーポイントの量や構成が適当」という授業の基本的なところが学生の学習を促進していることも読み取れる。学生の目線にたった授業運営が望まれる。今回も、例えば「丁寧に読める字で書いてもらいたい。」「たくさん、しかも速いスピードで書いていくので、ノートをとることで精一杯。」「板書が思いつきの板書としか思えない。構成を考えてもらいたい。」「パワーポイントの画面が変わるスピードが速くついていけない。」「パワーポイントが文字ばかりで理解しにくい。」など、学生から学び手として現実的な指摘があった。板書・パワーポイント・資料配付の長所や短所を理解し意図的・計画的に使い分けていきたいものである。
- ④ 学生の「理解度」「満足度」が高い授業は以下のような授業であると考えられる。
  - ・ わかったという実感が持てたとき
  - ・ 様々な考え方に触れたとき（教員や学生同士の交流）
  - ・ 更にわからないことが出てきたとき
  - ・ 今までの概念を覆されたとき
  - ・ 本質を追究する面白さに気づいたとき
  - ・ 自身の生き方に影響を与えると実感できたとき

以上のことは昨年度も述べた。先生方の授業運営に対する熱意と工夫の結果、学生の学

習の質を高める授業にはこれらの要素が含まれていたものと考えられる。いずれにしても、学生の授業の「理解度」や授業に対する「満足度」は年々上昇している。全学的なFD活動が根付いてきた証しである。

「授業アンケート」の実施率は、今年度初めて低下した。「授業アンケート」はその役割を終えたのではないかと指摘もある。しかしながら、日常の授業を学生の視点に立って見つめ直し、改善を加えていくことは、普遍として求められることである。さらに、今後は「授業アンケート」を「学部内FD」の資料として位置づけていくことも考えられる。



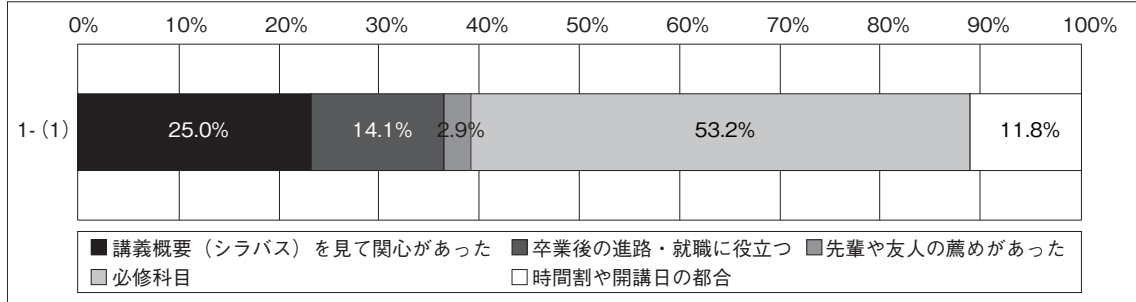
## 2009年度 授業アンケート 全体集計

### 1. あなた自身の取り組みについて

(1) 履修理由について。

[単位：名(延べ)]

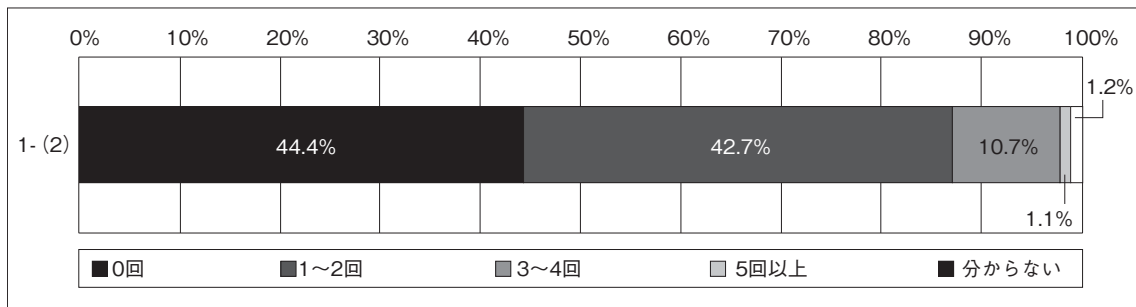
講義概要(シラバス)を見て関心があった	卒業後の進路・就職に役立つ	先輩や友人の薦めがあった	必修科目	時間割や開講日の都合	合計
12,362	6,972	1,414	26,317	5,825	49,429



(2) これまでのこの授業での欠席をどのくらいしましたか。

[単位：名(延べ)]

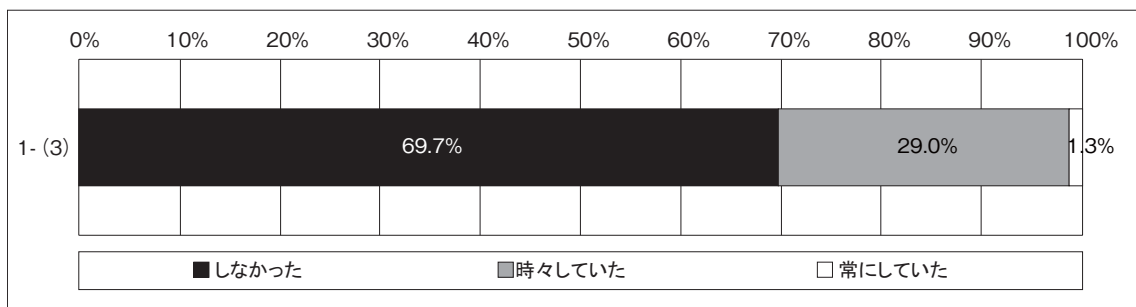
0回	1～2回	3～4回	5回以上	分からない	合計
21,960	21,130	5,278	552	573	49,493



(3) 授業を妨げる行為(私語・携帯・遅刻・途中退室等)はしませんでしたか。

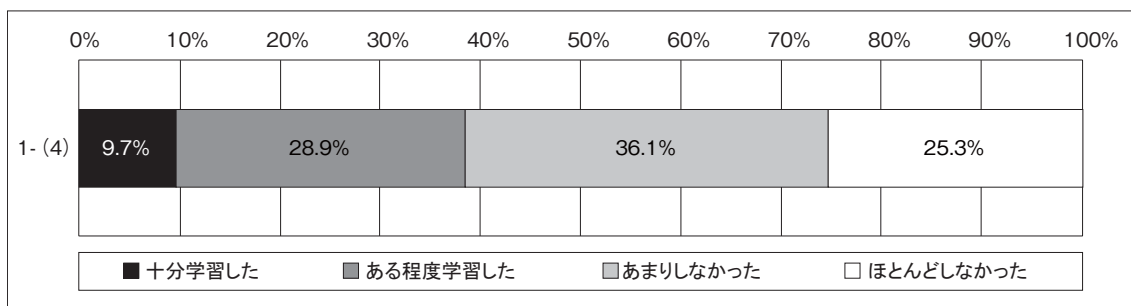
[単位：名(延べ)]

しなかった	時々していた	常にしていた	合計
34,379	14,307	620	49,306



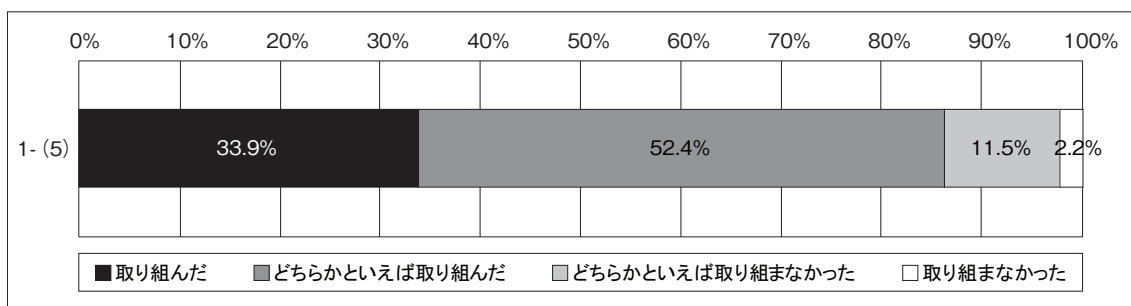
(4) 1回の授業につき、事前事後の学習（予習・復習）をどのくらいしましたか。 [単位：名（延べ）]

十分学習した	ある程度学習した	あまりしなかった	ほとんどしなかった	合計
4,763	14,248	17,799	12,496	49,306



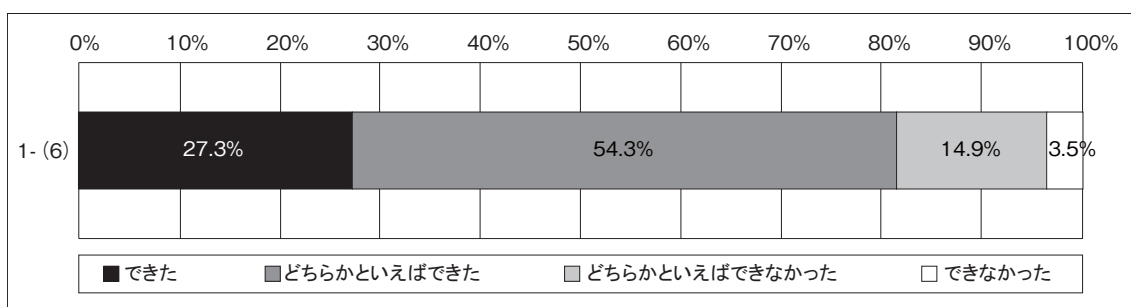
(5) 熱心に授業に取り組みましたか。 [単位：名（延べ）]

取り組んだ	どちらかといえば取り組んだ	どちらかといえば取り組まなかった	取り組まなかった	合計
16,685	25,813	5,646	1,095	49,239



(6) 授業内容を理解する事はできましたか。 [単位：名（延べ）]

できた	どちらかといえばできた	どちらかといえばできなかった	できなかった	合計
13,460	26,709	7,357	1,707	49,233



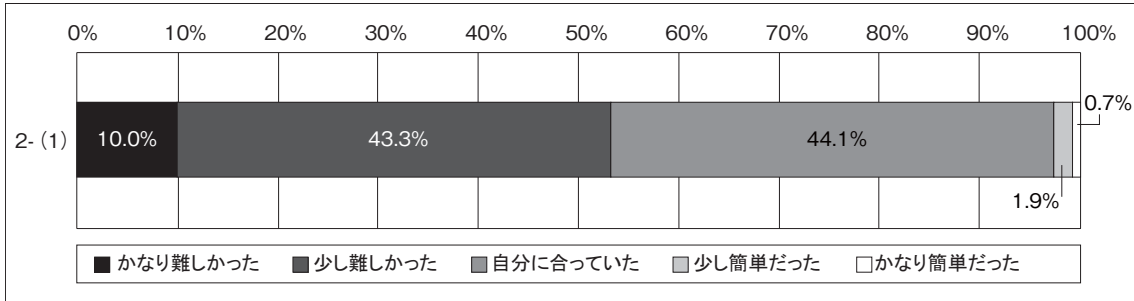


## 2. 授業について

(1) 授業（内容）の難易度はどうでしたか。

[単位：名（延べ）]

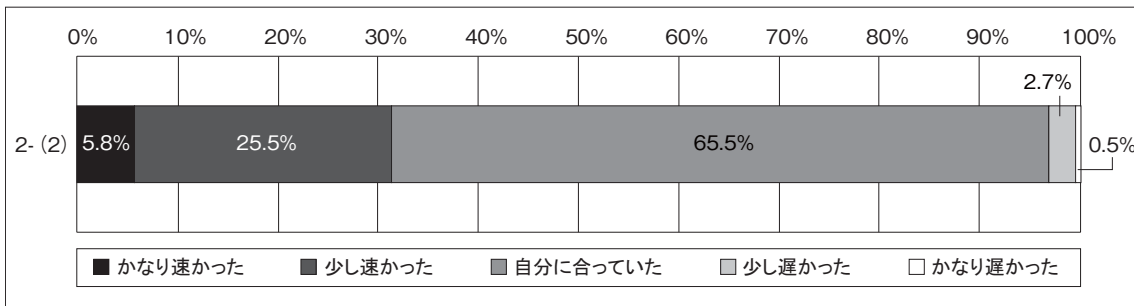
かなり難しかった	少し難しかった	自分に合っていた	少し簡単だった	かなり簡単だった	合計
4,967	21,436	21,857	926	330	49,516



(2) 授業の進度はどうでしたか。

[単位：名（延べ）]

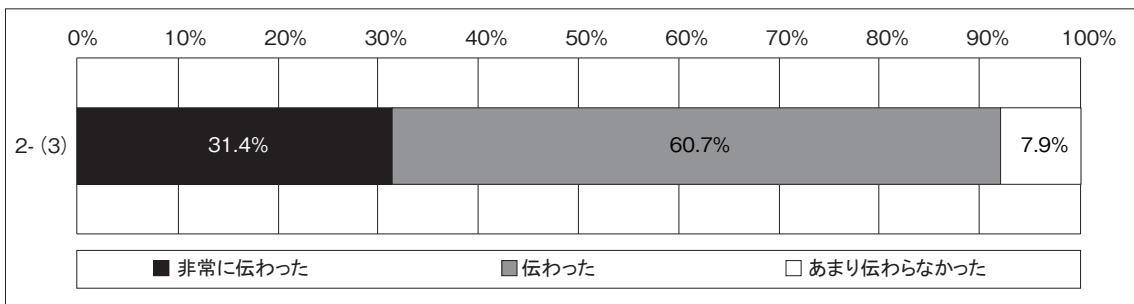
かなり速かった	少し速かった	自分に合っていた	少し遅かった	かなり遅かった	合計
2,850	12,592	32,273	1,343	237	49,295



(3) 教員の熱意は伝わりましたか。

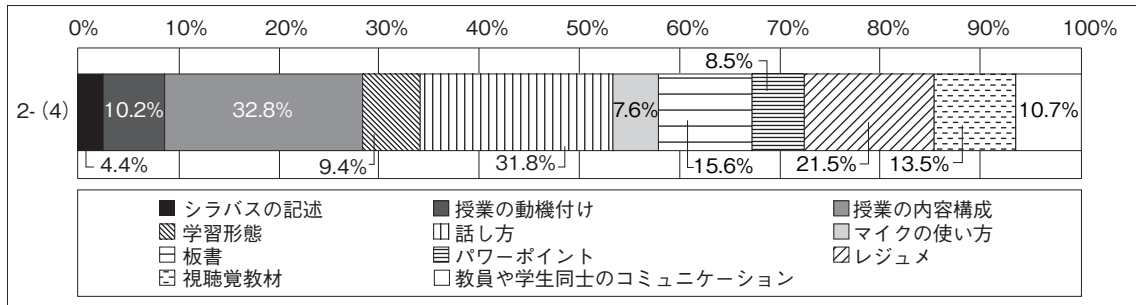
[単位：名（延べ）]

非常に伝わった	伝わった	あまり伝わらなかった	合計
15,263	29,494	3,863	48,620



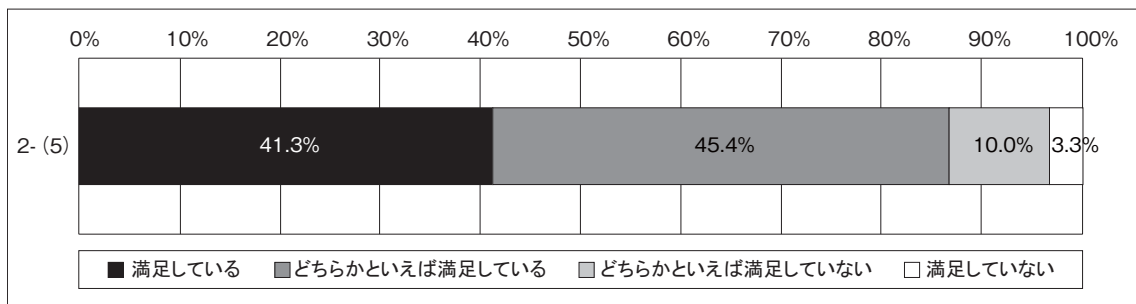
(4) 授業のどのような点に工夫を感じましたか。あてはまるものを全て選んでください。 [単位：名(延べ)]

シラバスの記述	授業の動機付け	授業の内容構成	学習形態 (グループ学習・ フィールドワーク等)	話し方	マイクの使い方
1,979	4,618	14,813	4,250	14,397	3,430
板書	パワーポイント	レジュメ	視聴覚教材 (ビデオ・DVD等)	教員や学生同士の コミュニケーション (e-learningを含む)	合計
7,050	3,863	9,734	6,097	4,837	45,206



(5) 総合的にこの授業に満足していますか。 [単位：名(延べ)]

満足している	どちらかといえば満足している	どちらかといえば満足していない	満足していない	合計
17,329	19,089	4,218	1,366	42,002



## 2009年度 授業アンケート 学部別集計

※学部の割り当ては以下に行なっています。

文学部 : 人文学科 ・ 中国学科 ・ 英米学科

教育学部 : 教育学科 ・ 臨床心理学科

社会学部 : 現代社会学科 ・ 公共政策学科

社会福祉学部 : 社会福祉学科

保健医療技術学部 : 理学療法学科 ・ 作業療法学科

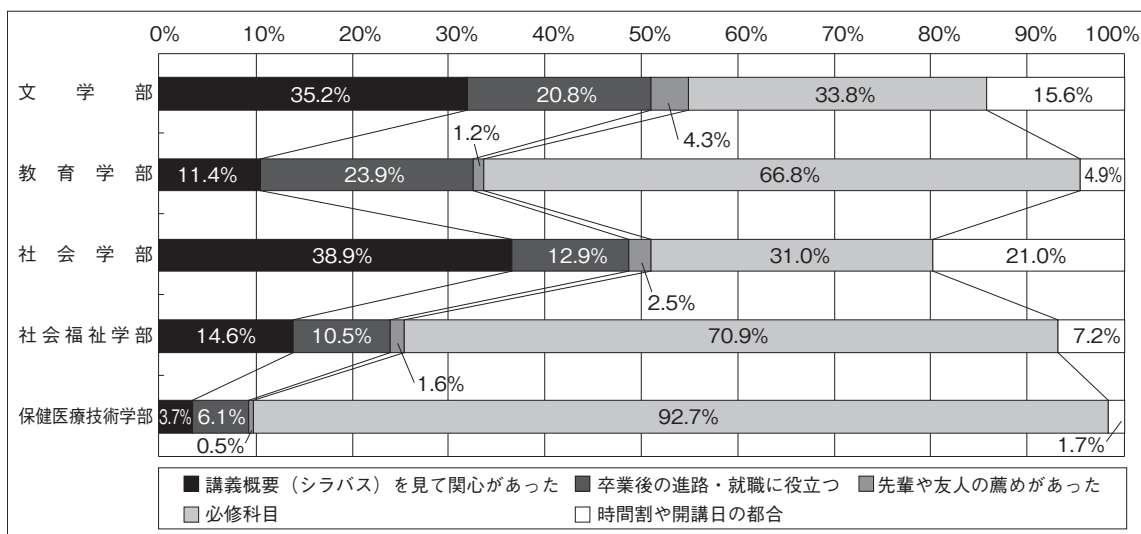
※全学共通科目・専門基礎科目は科目種別集計で集計しています

### 1. あなた自身の取り組みについて

(1) 履修理由について。

[単位：名(延べ)]

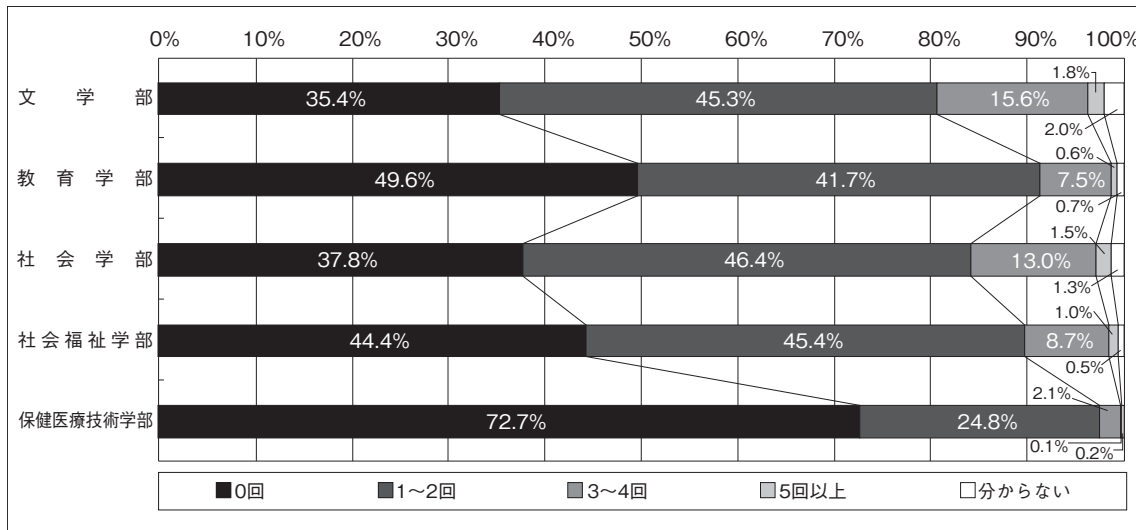
	講義概要(シラバス)を見て関心があった	卒業後の進路・就職に役立つ	先輩や友人の薦めがあった	必修科目	時間割や開講日の都合	合計
文学部	3,265	1,929	398	3,140	1,449	9,281
教育学部	850	1,778	87	4,965	362	7,432
社会学部	2,405	797	155	1,917	1,299	6,176
社会福祉学部	886	638	94	4,301	436	6,064
保健医療技術学部	86	141	11	2,134	38	2,301



(2) これまでのこの授業での欠席をどのくらいしましたか。

[単位：名(延べ)]

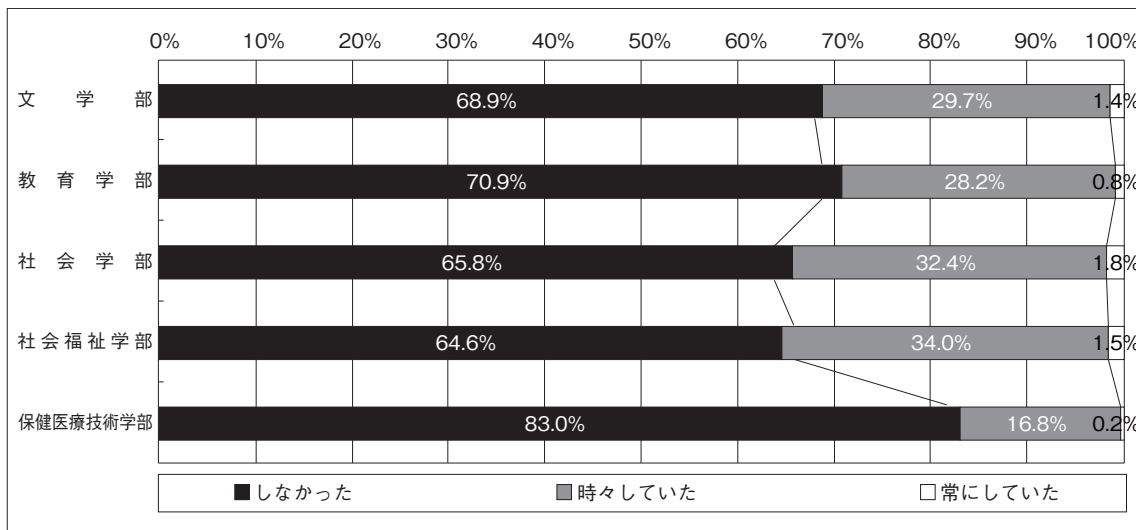
	0回	1～2回	3～4回	5回以上	分からない	合計
文 学 部	3,292	4,209	1,450	163	183	9,297
教 育 学 部	3,695	3,101	557	42	49	7,444
社 会 学 部	2,339	2,871	804	95	80	6,189
社会福祉学部	2,697	2,755	529	59	33	6,073
保健医療技術学部	1,677	573	49	3	4	2,306



(3) 授業を妨げる行為(私語・携帯・遅刻・途中退室等)はしませんでしたか。

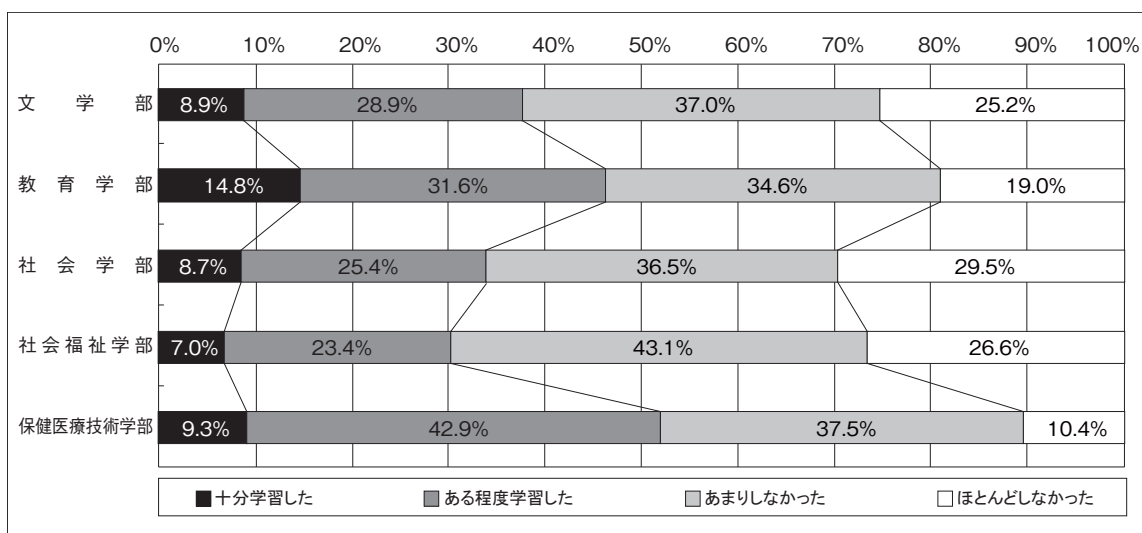
[単位：名(延べ)]

	しなかった	時々していた	常にしていた	合計
文 学 部	6,372	2,746	131	9,249
教 育 学 部	5,267	2,096	61	7,424
社 会 学 部	4,061	2,000	108	6,169
社会福祉学部	3,903	2,054	88	6,045
保健医療技術学部	1,904	385	4	2,293



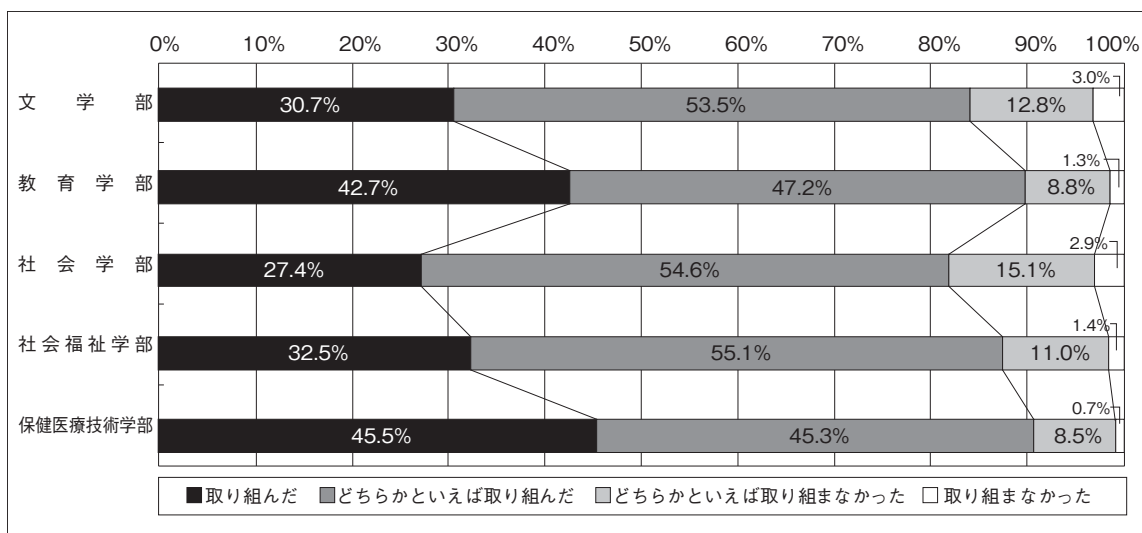
(4) 1回の授業につき、事前事後の学習（予習・復習）をどのくらいしましたか。 [単位：名（延べ）]

	十分学習した	ある程度学習した	あまりしなかった	ほとんどしなかった	合計
文 学 部	824	2,676	3,422	2,337	9,259
教 育 学 部	1,102	2,347	2,566	1,407	7,422
社 会 学 部	537	1,564	2,249	1,819	6,169
社会福祉学部	422	1,418	2,610	1,609	6,059
保健医療技術学部	213	983	859	238	2,293



(5) 熱心に授業に取り組みましたか。 [単位：名（延べ）]

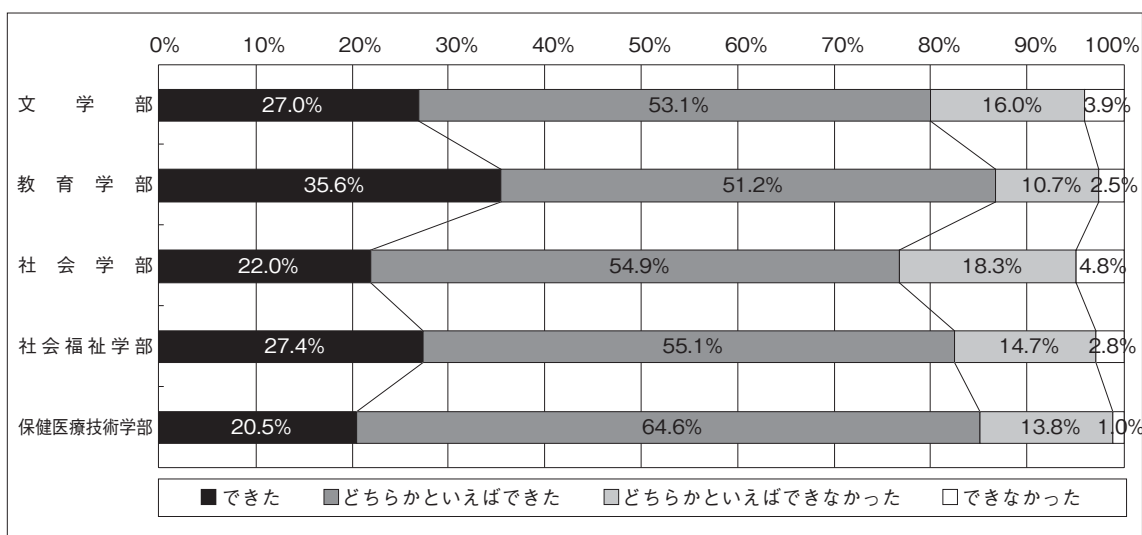
	取り組んだ	どちらかといえば取り組んだ	どちらかといえば取り組まなかった	取り組まなかった	合計
文 学 部	2,834	4,940	1,179	281	9,234
教 育 学 部	3,171	3,498	655	94	7,418
社 会 学 部	1,688	3,362	930	180	6,160
社会福祉学部	1,961	3,330	664	86	6,041
保健医療技術学部	1,041	1,036	194	17	2,288



(6) 授業内容を理解する事はできましたか。

[単位：名(延べ)]

	できた	どちらかといえば できた	どちらかといえば できなかった	できなかった	合計
文 学 部	2,494	4,914	1,478	362	9,248
教 育 学 部	2,637	3,796	796	182	7,411
社 会 学 部	1,354	3,374	1,125	297	6,150
社会福祉学部	1,656	3,326	885	170	6,037
保健医療技術学部	470	1,479	315	24	2,288

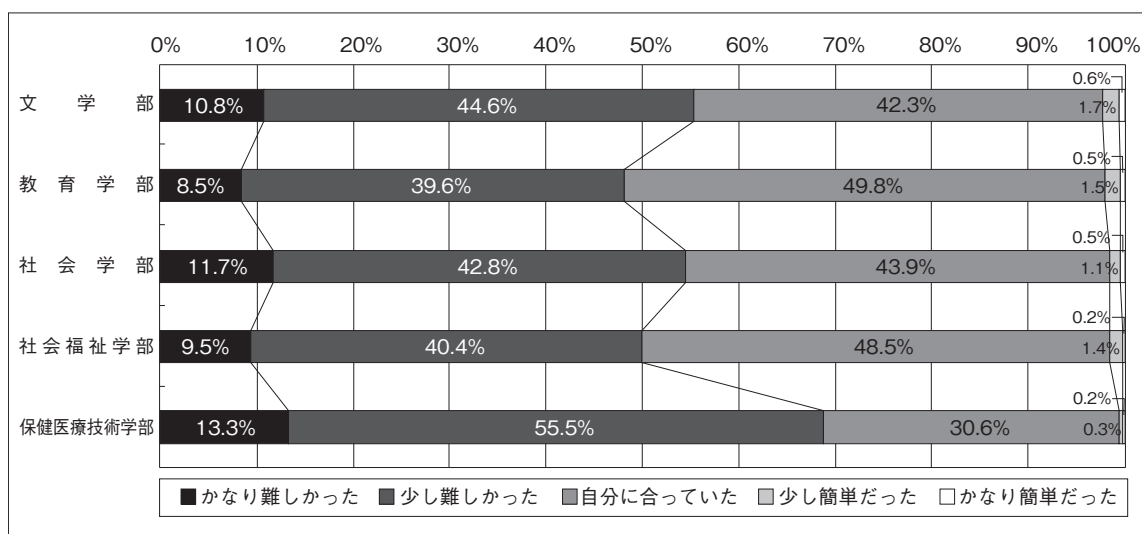


## 2. 授業について

(1) 授業(内容)の難易度はどうでしたか。

[単位：名(延べ)]

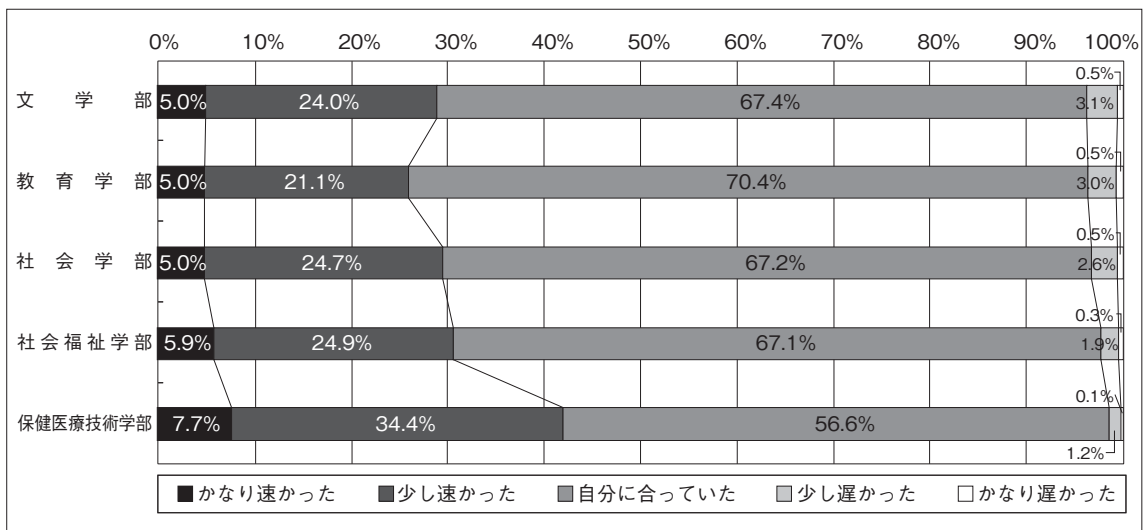
	かなり難しかった	少し難しかった	自分に合っていた	少し簡単だった	かなり簡単だった	合計
文 学 部	1,003	4,146	3,935	160	57	9,301
教 育 学 部	633	2,954	3,713	115	36	7,451
社 会 学 部	725	2,645	2,714	68	32	6,184
社会福祉学部	578	2,455	2,944	83	14	6,074
保健医療技術学部	307	1,276	704	8	5	2,300



(2) 授業の進度はどうでしたか。

[単位：名(延べ)]

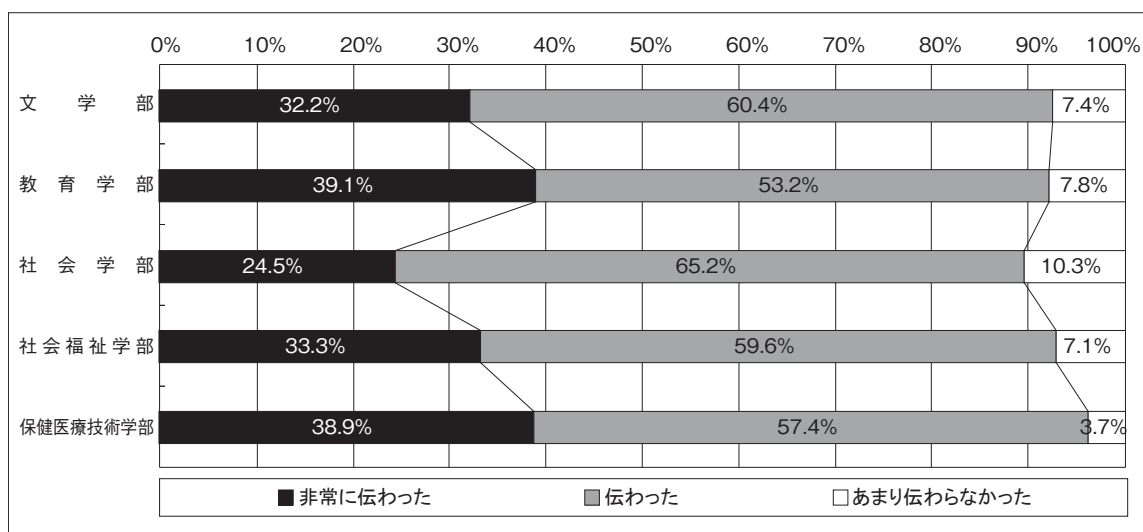
	かなり速かった	少し速かった	自分に合っていた	少し遅かった	かなり遅かった	合計
文 学 部	465	2,225	6,241	291	42	9,264
教 育 学 部	369	1,564	5,227	220	40	7,420
社 会 学 部	305	1,521	4,139	161	31	6,157
社会福祉学部	357	1,506	4,058	113	17	6,051
保健医療技術学部	177	788	1,296	27	2	2,290



(3) 教員の熱意は伝わりましたか。

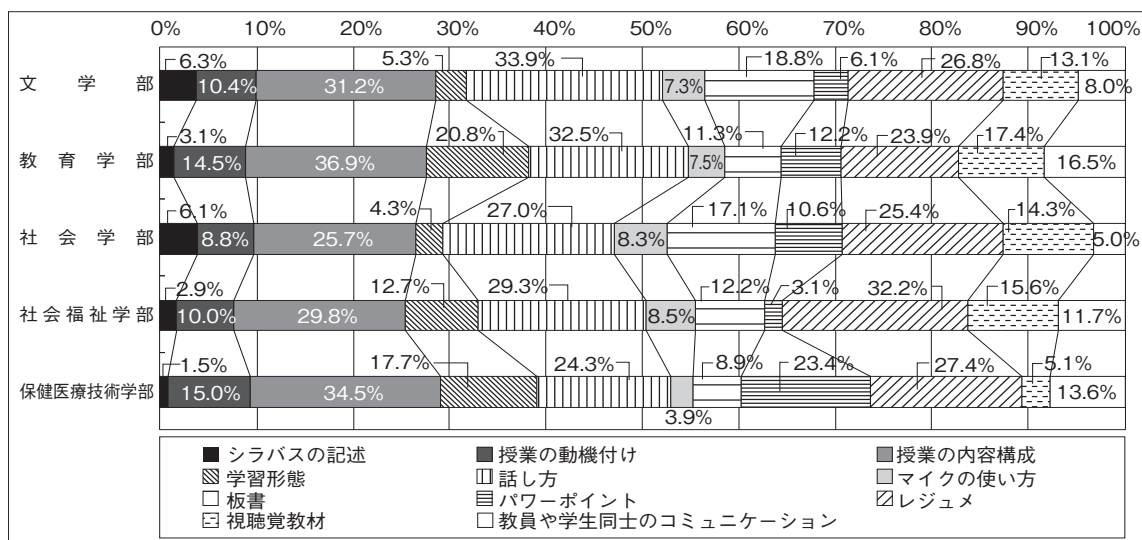
[単位：名(延べ)]

	非常に伝わった	伝わった	あまり伝わらなかった	合計
文 学 部	2,933	5,510	673	9,116
教 育 学 部	2,849	3,878	568	7,295
社 会 学 部	1,486	3,955	628	6,069
社会福祉学部	1,996	3,571	424	5,991
保健医療技術学部	876	1,294	84	2,254



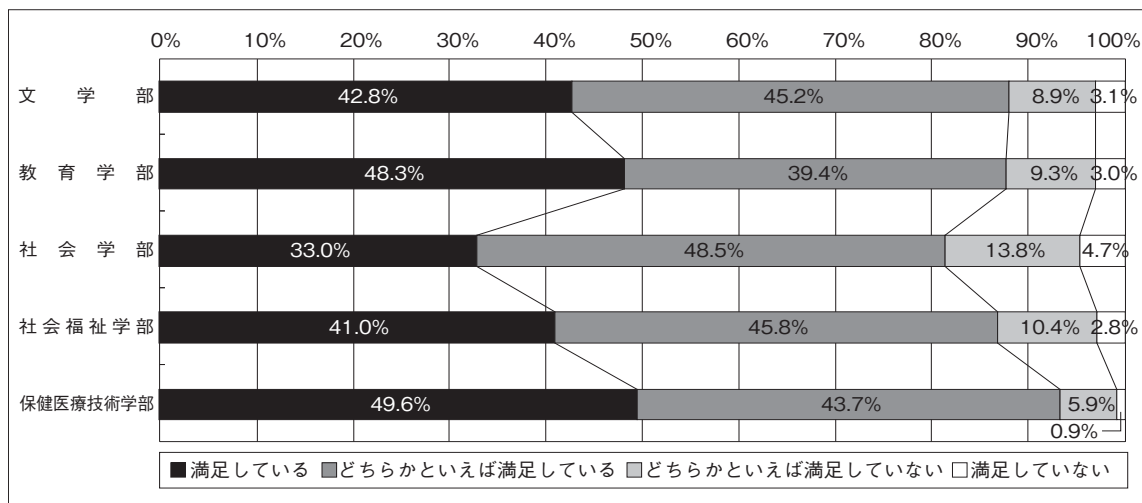
(4) 授業のどのような点に工夫を感じましたか。あてはまるものを全て選んでください。 [単位：名(延べ)]

	シラバスの記述	授業の動機付け	授業の内容構成	学習形態 (グループ学習・ フィールドワーク等)	話し方	マイクの使い方
文 学 部	535	880	2,639	448	2,871	617
教 育 学 部	210	991	2,515	1,418	2,213	508
社 会 学 部	335	488	1,423	239	1,495	459
社会福祉学部	162	558	1,659	704	1,628	474
保健医療技術学部	33	322	740	379	522	83
	板書	パワーポイント	レジュメ	視聴覚教材 (ビデオ・DVD等)	教員や学生同士の コミュニケーション (e-learningを含む)	合計
文 学 部	1,596	514	2,269	1,105	676	8,467
教 育 学 部	770	835	1,631	1,186	1,127	6,818
社 会 学 部	946	588	1,405	793	275	5,532
社会福祉学部	679	171	1,794	870	649	5,564
保健医療技術学部	192	502	589	110	293	2,147



(5) 総合的にこの授業に満足していますか。 [単位：名(延べ)]

	満足している	どちらかといえば満足している	どちらかといえば満足していない	満足していない	合計
文 学 部	3,360	3,548	695	241	7,844
教 育 学 部	3,041	2,483	587	189	6,300
社 会 学 部	1,688	2,485	709	240	5,122
社会福祉学部	2,088	2,335	529	145	5,097
保健医療技術学部	991	874	118	17	2,000





## 2009 年度 授業アンケート 開講科目種別集計

科目種別は以下の3分割で分類しています。

共通科目：全学共通科目の仏教・リテラシー・キャリア・スポーツ

外国語科目：全学共通科目の外国語科目

専門基礎科目：専門基礎科目

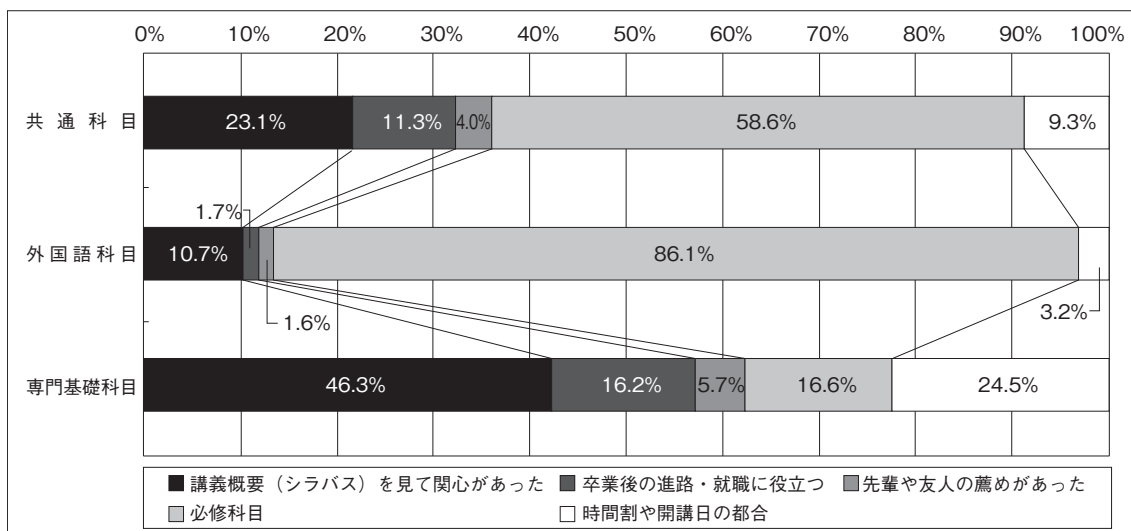
※学部基幹科目・学科基礎科目・コース科目・発展科目は学部集計で集計しています。

### 1. あなた自身の取り組みについて

(1) 履修理由について。

[単位：名(延べ)]

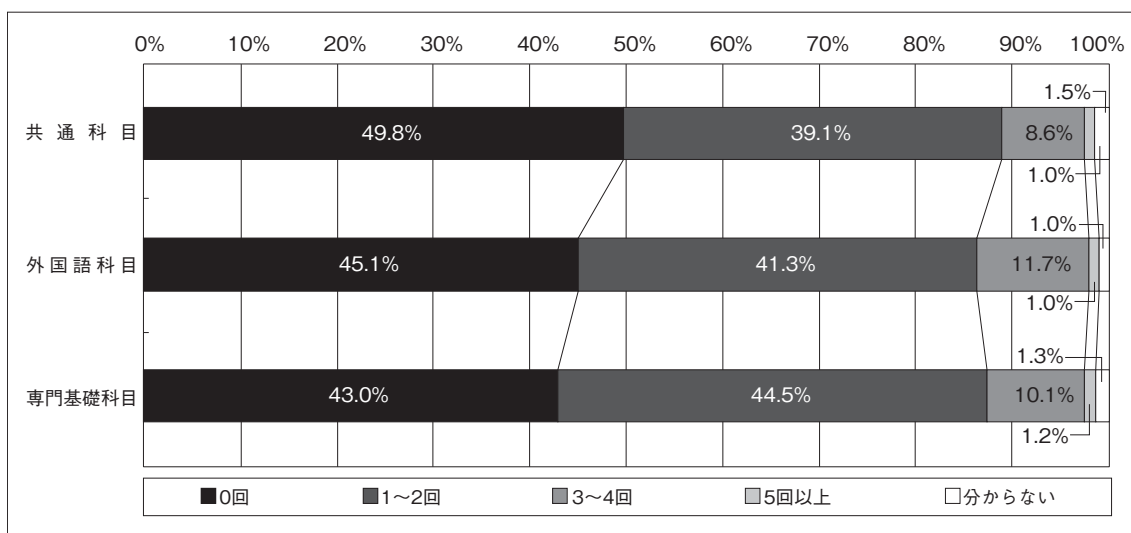
	講義概要(シラバス)を見て関心があった	卒業後の進路・就職に役立つ	先輩や友人の薦めがあった	必修科目	時間割や開講日の都合	合計
共通科目	984	483	172	2,501	395	4,268
外国語科目	776	122	118	6,243	234	7,249
専門基礎科目	3,041	1,065	374	1,092	1,607	6,564



(2) これまでのこの授業での欠席をどのくらいしましたか。

[単位：名（延べ）]

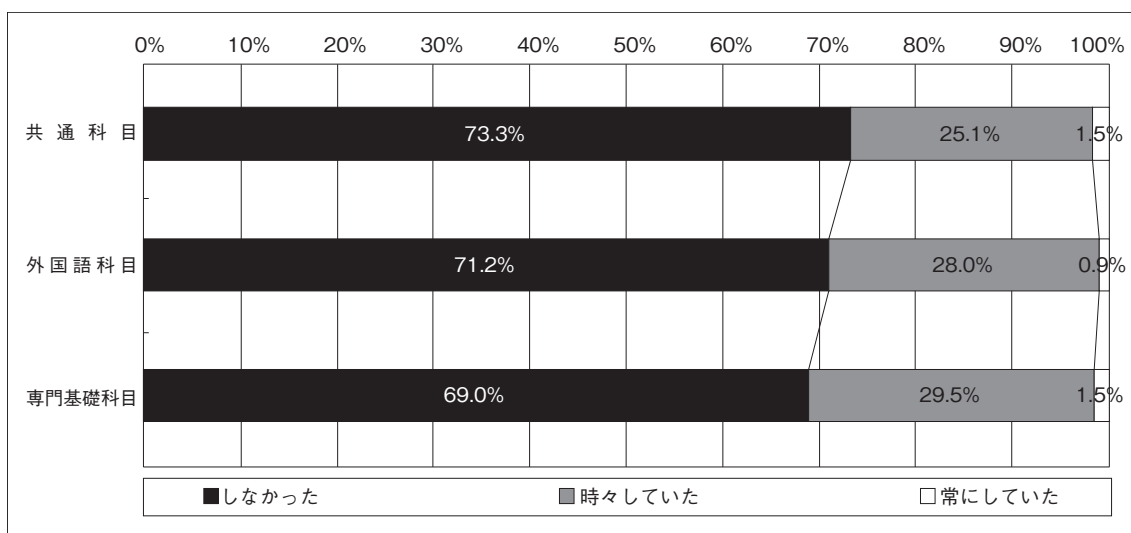
	0回	1～2回	3～4回	5回以上	分からない	合計
共通科目	2,128	1,669	367	44	63	4,271
外国語科目	3,268	2,991	847	69	74	7,249
専門基礎科目	2,826	2,921	662	76	86	6,571



(3) 授業を妨げる行為（私語・携帯・遅刻・途中退室等）はしませんでしたか。

[単位：名（延べ）]

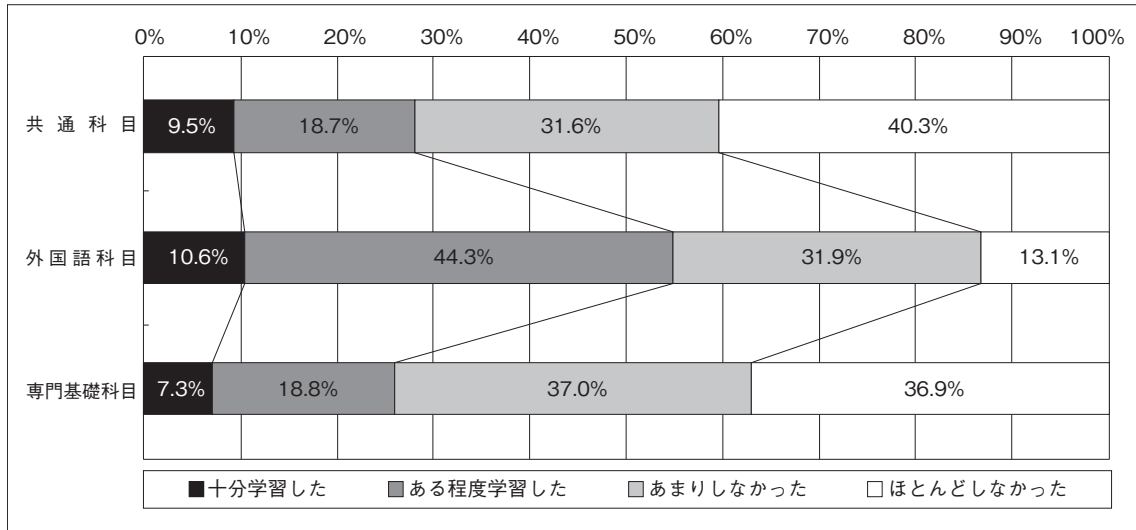
	しなかった	時々していた	常にしていた	合計
共通科目	3,125	1,070	66	4,261
外国語科目	5,145	2,021	64	7,230
専門基礎科目	4,518	1,931	96	6,545



(4) 1回の授業につき、事前事後の学習（予習・復習）をどのくらいしましたか。

[単位：名（延べ）]

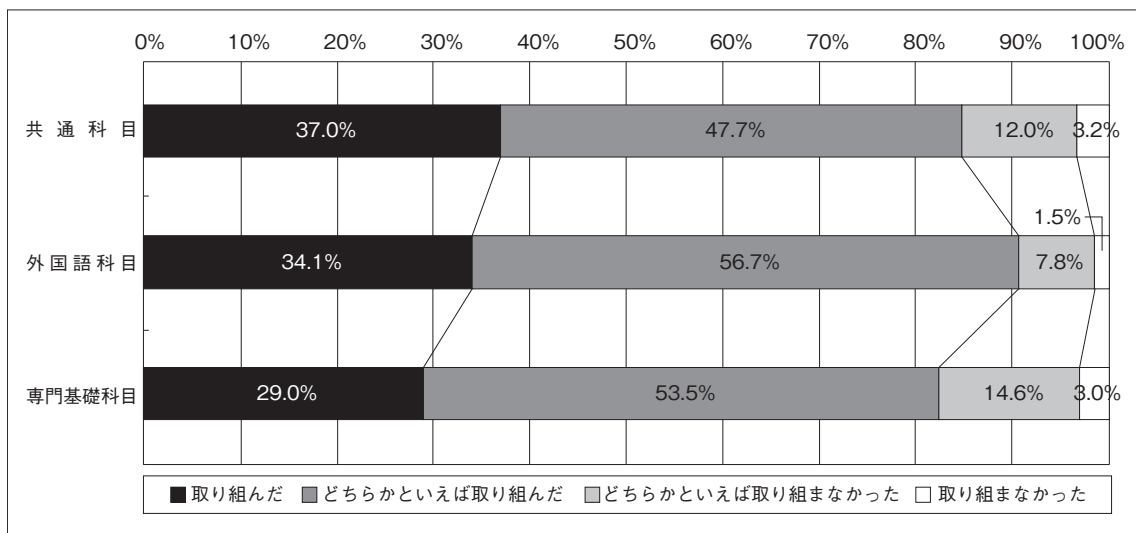
	十分学習した	ある程度学習した	あまりしなかった	ほとんどしなかった	合計
共通科目	404	794	1,344	1,715	4,257
外国語科目	766	3,196	2,302	948	7,212
専門基礎科目	475	1,231	2,419	2,416	6,541



(5) 熱心に授業に取り組みましたか。

[単位：名（延べ）]

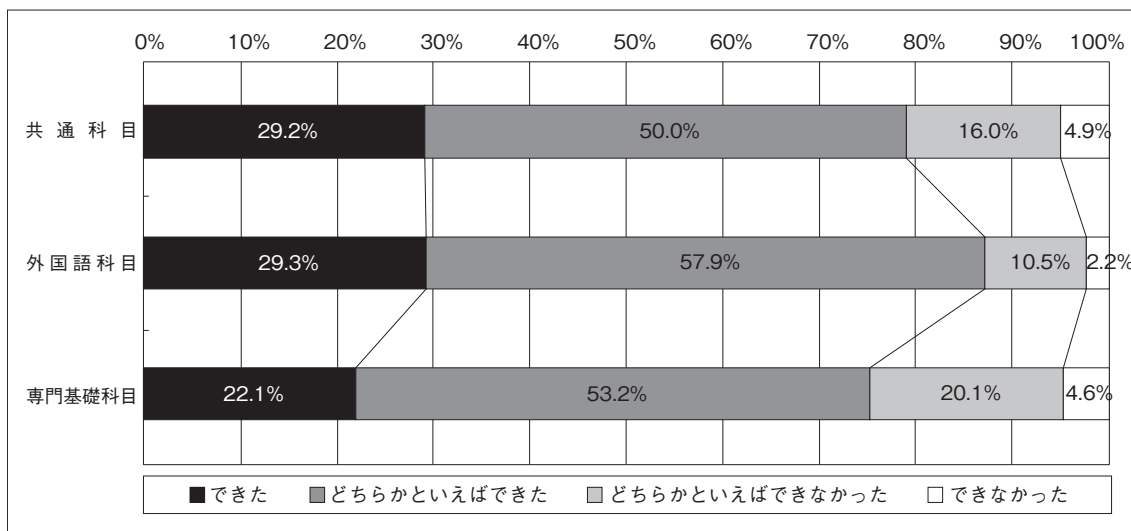
	取り組んだ	どちらかといえば取り組んだ	どちらかといえば取り組まなかった	取り組まなかった	合計
共通科目	1,576	2,031	511	136	4,254
外国語科目	2,461	4,091	560	108	7,220
専門基礎科目	1,895	3,493	951	193	6,532



(6) 授業内容を理解する事はできましたか。

[単位：名(延べ)]

	できた	どちらかといえば できた	どちらかといえば できなかった	できなかった	合計
共通科目	1,242	2,127	681	208	4,258
外国語科目	2,117	4,179	757	161	7,214
専門基礎科目	1,443	3,477	1,311	303	6,534

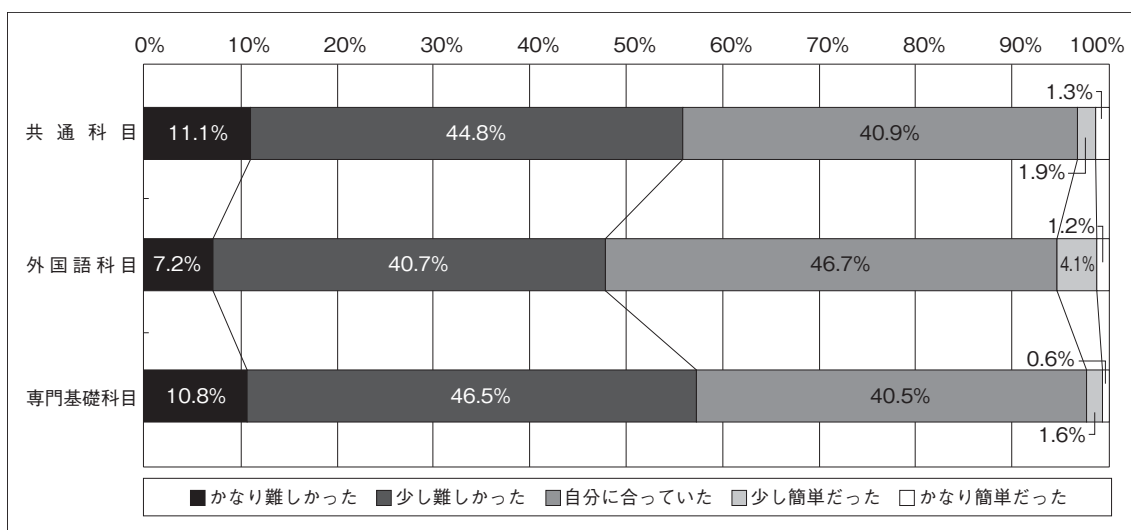


## 2. 授業について

(1) 授業(内容)の難易度はどうでしたか。

[単位：名(延べ)]

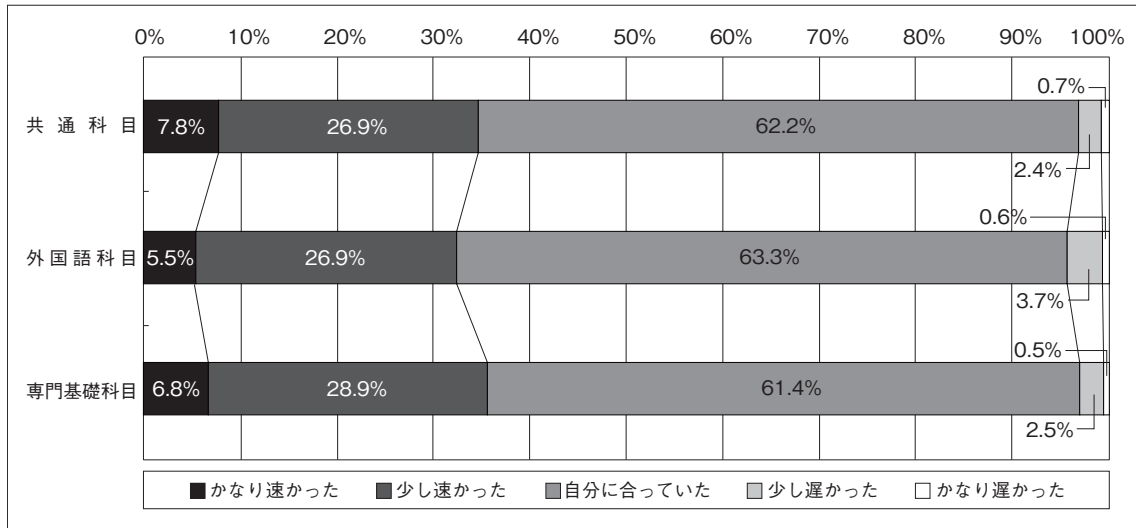
	かなり難しかった	少し難しかった	自分に合っていた	少し簡単だった	かなり簡単だった	合計
共通科目	477	1,917	1,749	81	55	4,279
外国語科目	523	2,955	3,389	300	90	7,257
専門基礎科目	709	3,057	2,662	107	41	6,576



(2) 授業の進度はどうでしたか。

[単位：名（延べ）]

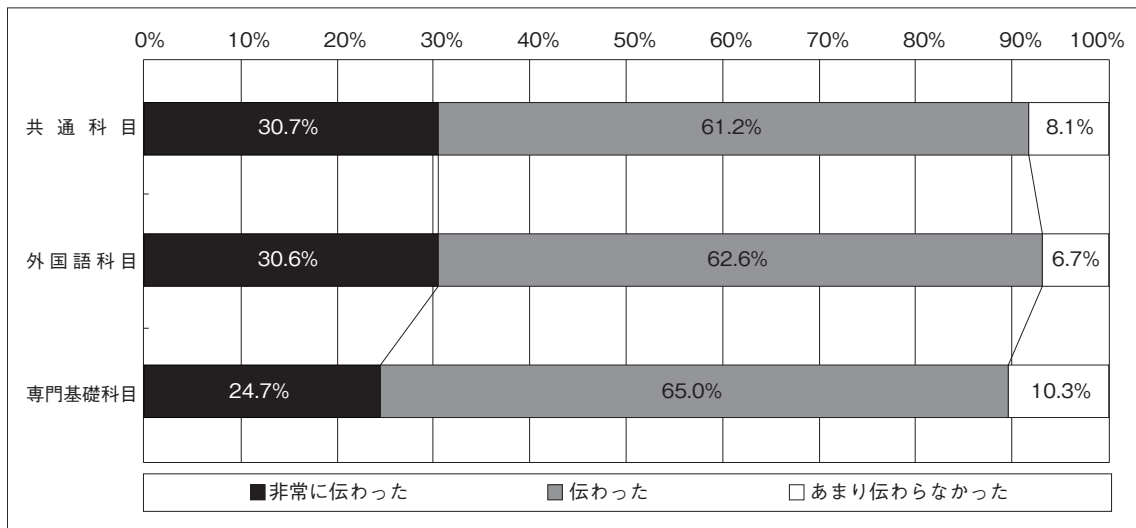
	かなり速かった	少し速かった	自分に合っていた	少し遅かった	かなり遅かった	合計
共通科目	333	1,144	2,648	104	29	4,258
外国語科目	399	1,942	4,562	265	44	7,212
専門基礎科目	445	1,892	4,020	161	32	6,550



(3) 教員の熱意は伝わりましたか。

[単位：名（延べ）]

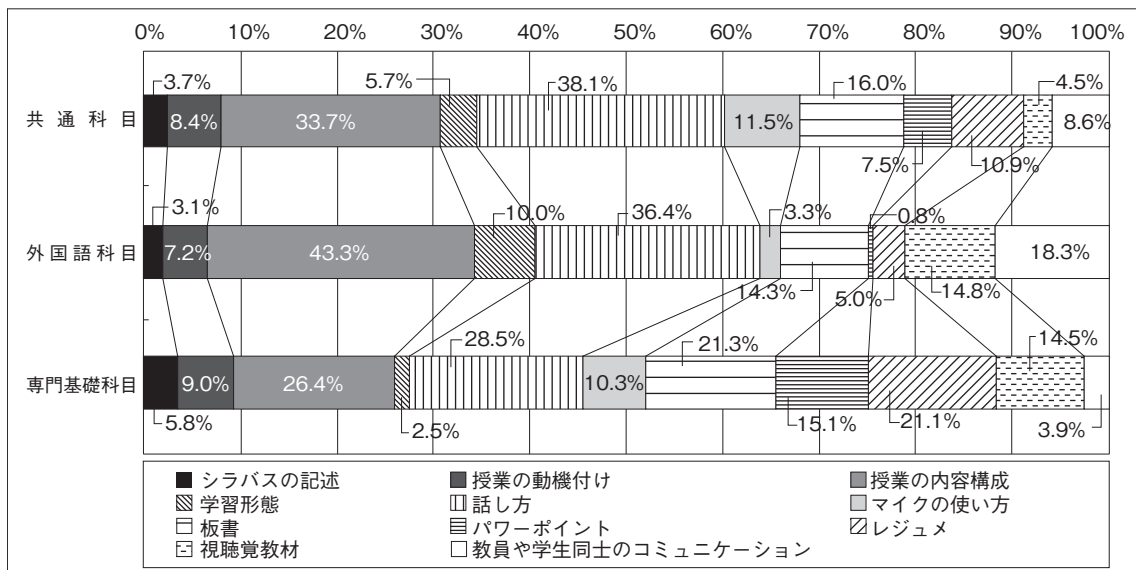
	非常に伝わった	伝わった	あまり伝わらなかった	合計
共通科目	1,289	2,572	339	4,200
外国語科目	2,188	4,476	482	7,146
専門基礎科目	1,592	4,199	665	6,456



(4) 授業のどのような点に工夫を感じましたか。あてはまるものを全て選んでください。

[単位：名(延べ)]

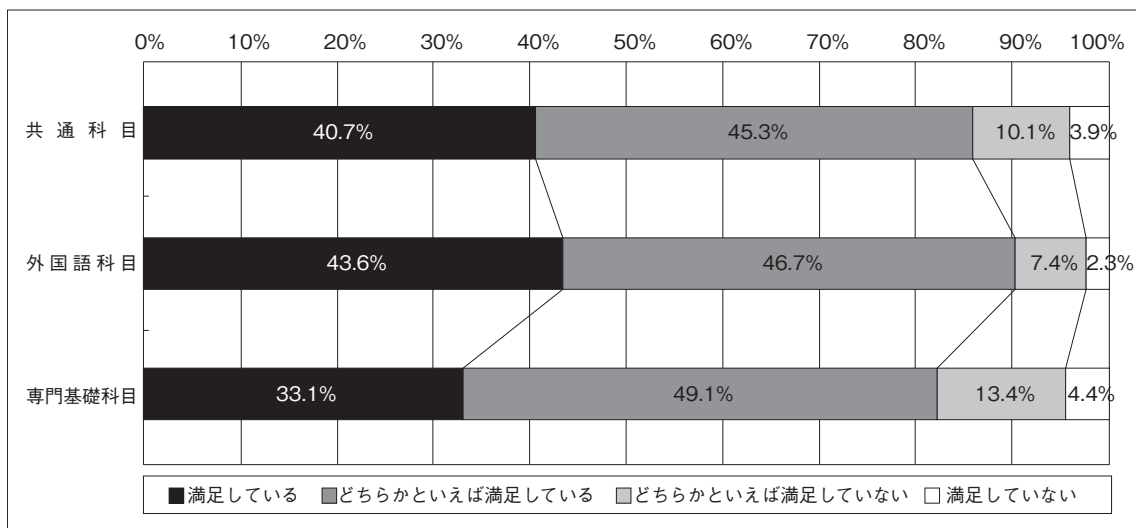
	シラバスの記述	授業の動機付け	授業の内容構成	学習形態 (グループ学習・ フィールドワーク等)	話し方	マイクの使い方
共通科目	145	329	1,323	225	1,496	453
外国語科目	210	481	2,886	664	2,429	217
専門基礎科目	347	541	1,578	147	1,705	618
	板書	パワーポイント	レジュメ	視聴覚教材 (ビデオ・DVD等)	教員や学生同士の コミュニケーション (e-learningを含む)	合計
共通科目	627	295	430	175	339	3,931
外国語科目	953	52	336	984	1,218	6,667
専門基礎科目	1,276	905	1,261	866	234	5,987



(5) 総合的にこの授業に満足していますか。

[単位：名(延べ)]

	満足している	どちらかといえば満足している	どちらかといえば満足していない	満足していない	合計
共通科目	1,485	1,653	368	144	3,650
外国語科目	2,777	2,979	472	148	6,376
専門基礎科目	1,832	2,714	740	242	5,528



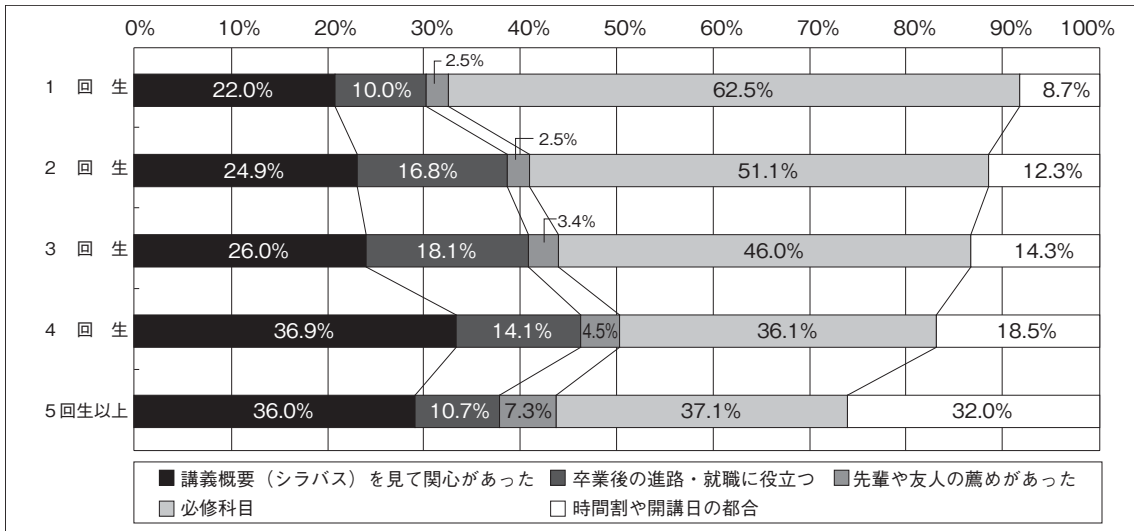
## 2009年度 授業アンケート 回生別集計

### 1. あなた自身の取り組みについて

(1) 履修理由について。

[単位：名（延べ）]

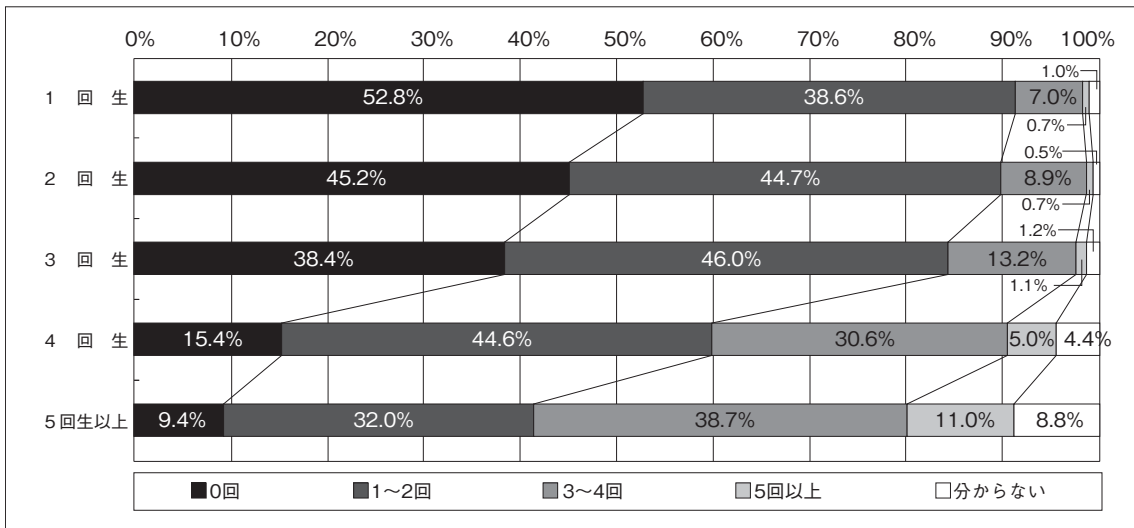
	講義概要（シラバス） を見て関心があった	卒業後の進路・ 就職に役立つ	先輩や友人の 薦めがあった	必修科目	時間割や開講日 の都合	合計
1 回 生	3,895	1,765	436	11,054	1,530	17,678
2 回 生	4,070	2,747	402	8,347	2,015	16,345
3 回 生	2,420	1,685	313	4,283	1,333	9,321
4 回 生	1,135	434	140	1,111	571	3,080
5 回生以上	64	19	13	66	57	178



(2) これまでのこの授業での欠席をどのくらいしましたか。

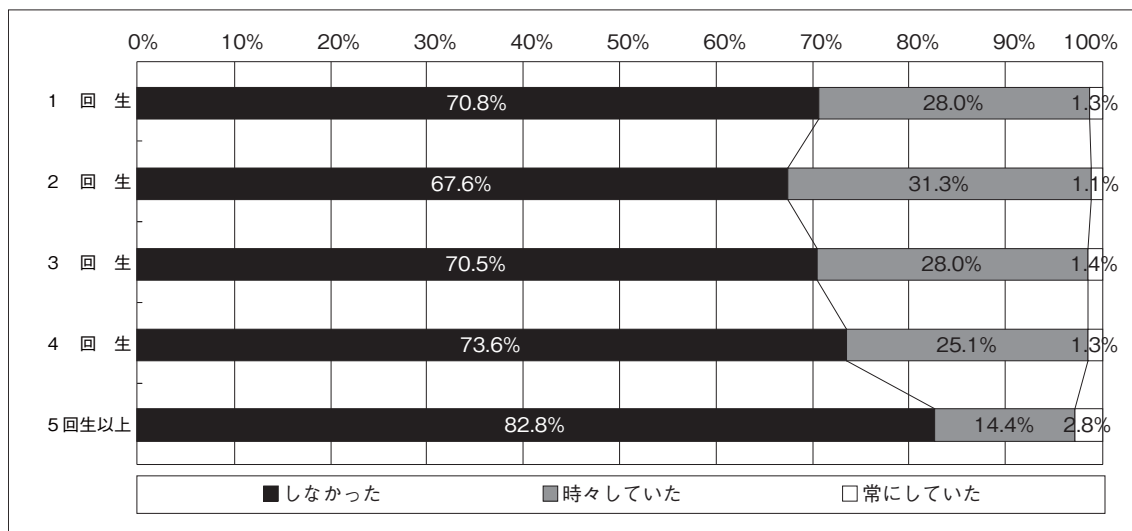
[単位：名（延べ）]

	0回	1～2回	3～4回	5回以上	分からない	合計
1 回 生	9,336	6,823	1,238	118	169	17,684
2 回 生	7,403	7,318	1,453	112	90	16,376
3 回 生	3,589	4,294	1,232	106	115	9,336
4 回 生	476	1,375	944	154	137	3,086
5 回生以上	17	58	70	20	16	181



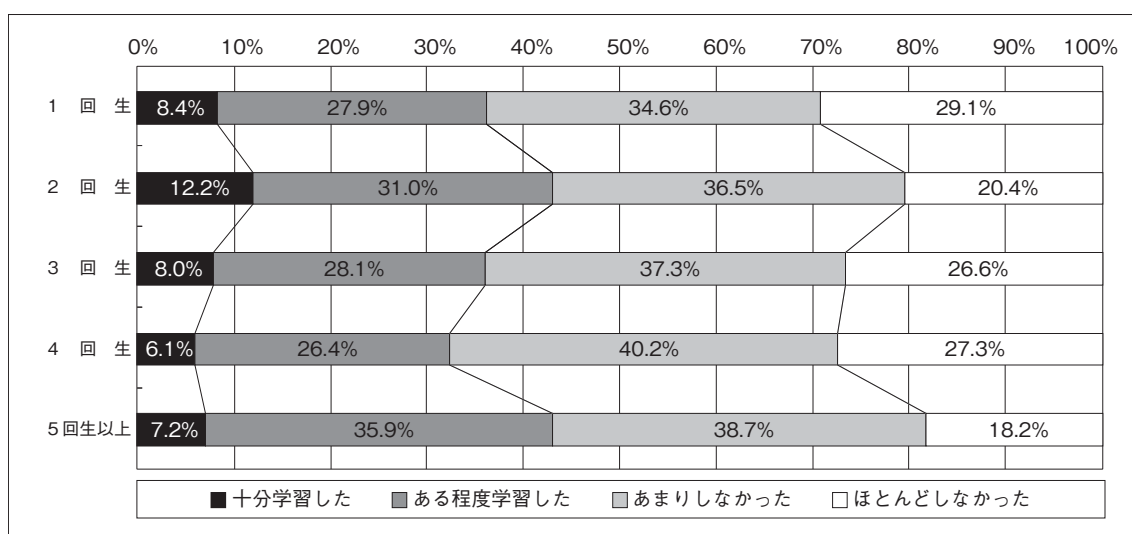
(3) 授業を妨げる行為（私語・携帯・遅刻・途中退室等）はしませんでしたか。 [単位：名（延べ）]

	しなかった	時々していた	常にしていた	合計
1 回 生	12,475	4,932	221	17,628
2 回 生	11,023	5,103	184	16,310
3 回 生	6,564	2,610	131	9,305
4 回 生	2,250	769	40	3,059
5 回生以上	149	26	5	180



(4) 1 回の授業につき、事前事後の学習（予習・復習）をどのくらいしましたか。 [単位：名（延べ）]

	十分学習した	ある程度学習した	あまりしなかった	ほとんどしなかった	合計
1 回 生	1,488	4,912	6,089	5,126	17,615
2 回 生	1,982	5,047	5,956	3,319	16,304
3 回 生	746	2,613	3,468	2,470	9,297
4 回 生	188	814	1,238	841	3,081
5 回生以上	13	65	70	33	181

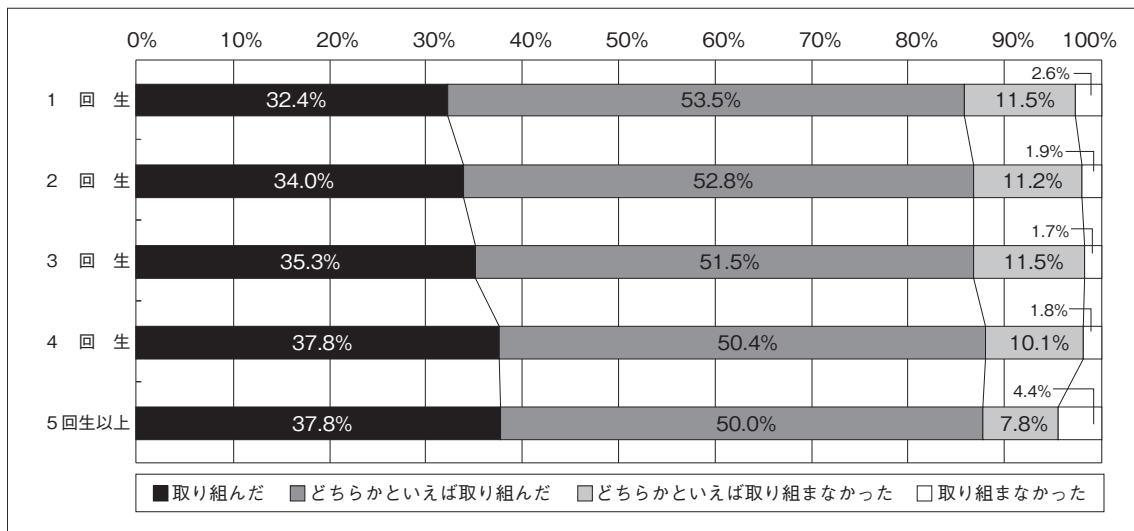




(5) 熱心に授業に取り組みましたか。

[単位：名(延べ)]

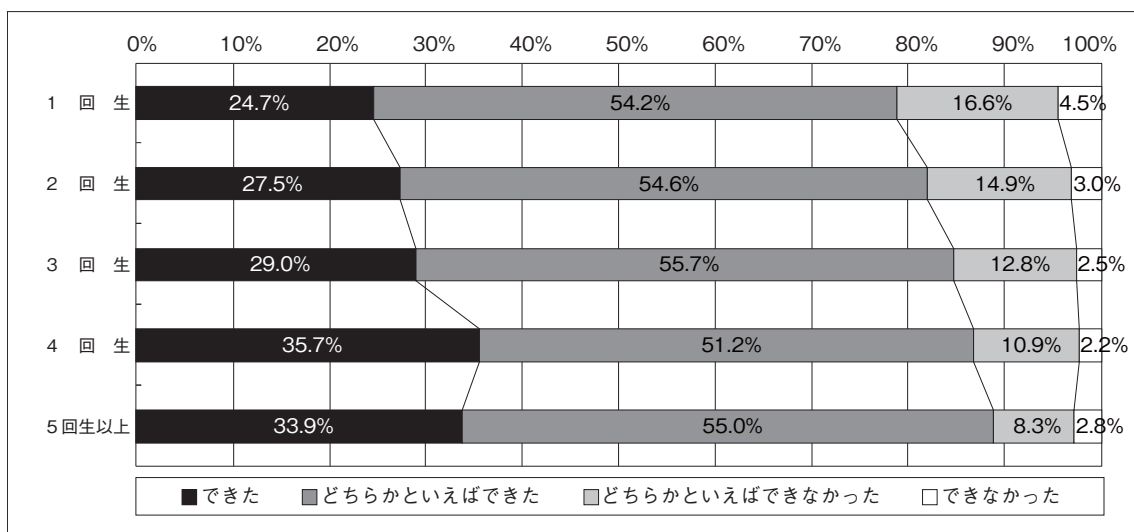
	取り組んだ	どちらかといえば取り組んだ	どちらかといえば取り組まなかった	取り組まなかった	合計
1 回 生	5,701	9,419	2,022	462	17,604
2 回 生	5,539	8,614	1,831	317	16,301
3 回 生	3,276	4,780	1,065	160	9,281
4 回 生	1,157	1,543	308	56	3,064
5回生以上	68	90	14	8	180



(6) 授業内容を理解する事はできましたか。

[単位：名(延べ)]

	できた	どちらかといえばできた	どちらかといえばできなかった	できなかった	合計
1 回 生	4,345	9,550	2,926	784	17,605
2 回 生	4,480	8,904	2,430	486	16,300
3 回 生	2,694	5,174	1,186	228	9,282
4 回 生	1,093	1,568	335	68	3,064
5回生以上	61	99	15	5	180

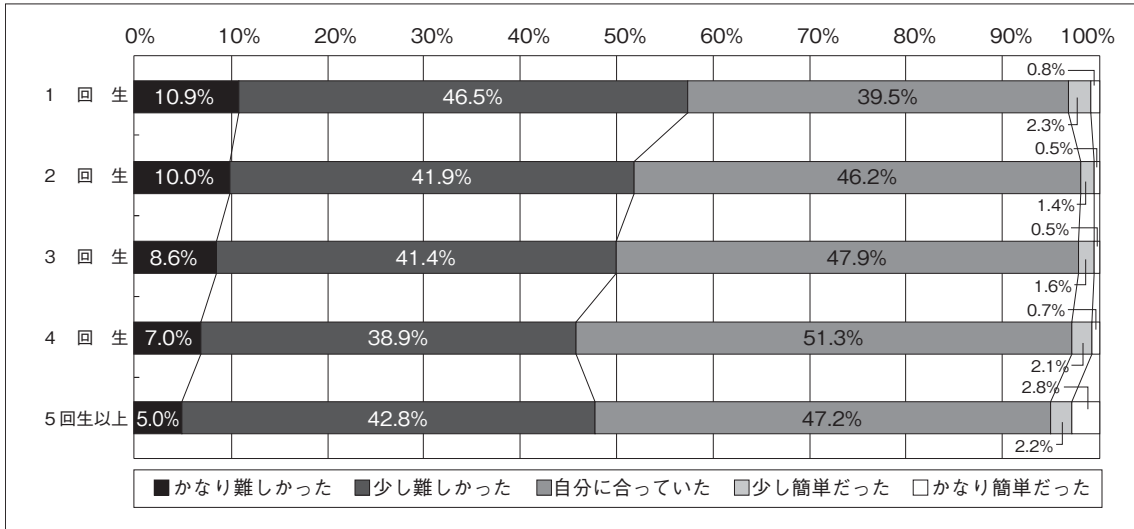


## 2. 授業について

(1) 授業（内容）の難易度はどうでしたか。

[単位：名（延べ）]

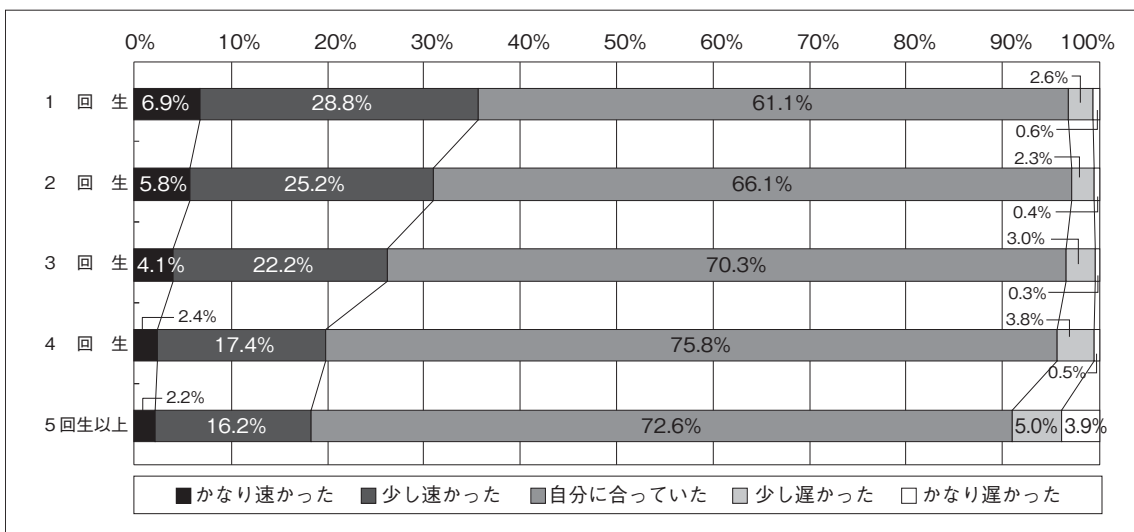
	かなり難しかった	少し難しかった	自分に合っていた	少し簡単だった	かなり簡単だった	合計
1 回 生	1,934	8,216	6,987	401	148	17,686
2 回 生	1,639	6,861	7,568	227	87	16,382
3 回 生	805	3,860	4,471	153	43	9,332
4 回 生	216	1,200	1,585	65	22	3,088
5 回生以上	9	77	85	4	5	180



(2) 授業の進捗はどうでしたか。

[単位：名（延べ）]

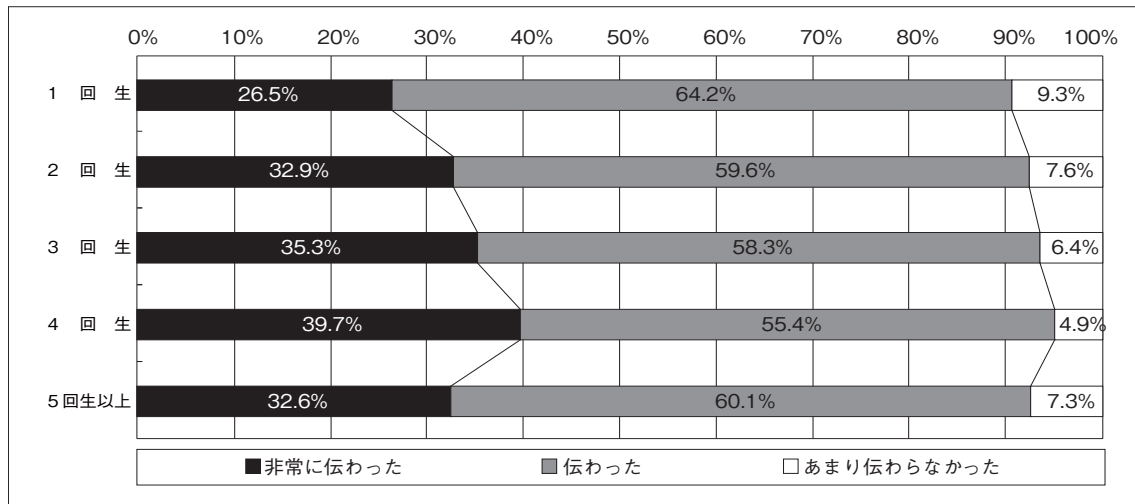
	かなり速かった	少し速かった	自分に合っていた	少し遅かった	かなり遅かった	合計
1 回 生	1,211	5,079	10,774	460	97	17,621
2 回 生	953	4,117	10,790	380	72	16,312
3 回 生	383	2,063	6,530	283	30	9,289
4 回 生	75	535	2,324	118	15	3,067
5 回生以上	4	29	130	9	7	179



(3) 教員の熱意は伝わりましたか。

[単位：名(延べ)]

	非常に伝わった	伝わった	あまり伝わらなかった	合計
1 回 生	4,611	11,190	1,625	17,426
2 回 生	5,268	9,550	1,212	16,030
3 回 生	3,240	5,349	590	9,179
4 回 生	1,204	1,679	147	3,030
5 回生以上	58	107	13	178



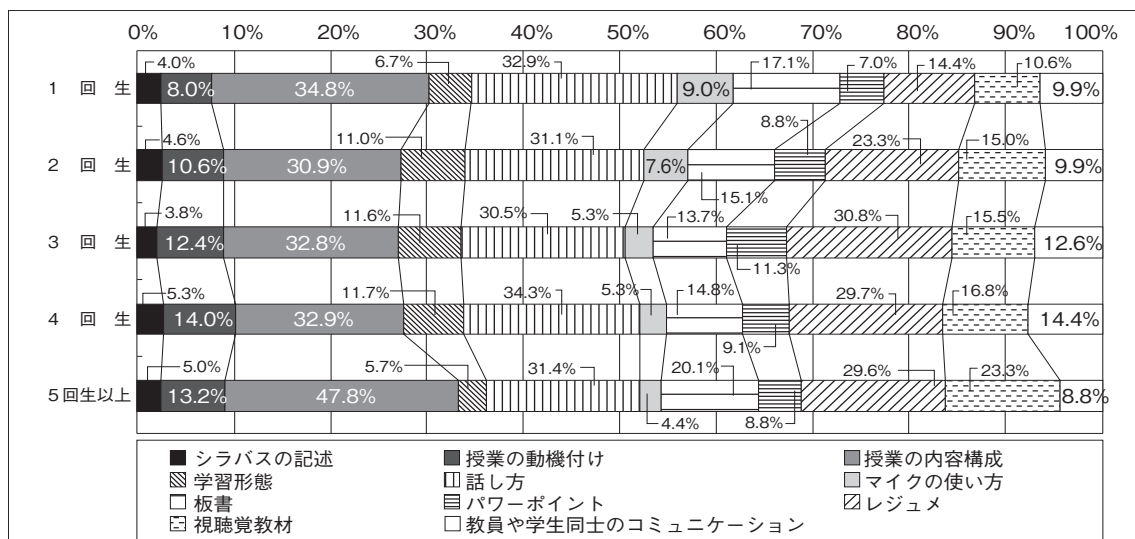
(4) 授業のどのような点に工夫を感じましたか。あてはまるものを全て選んでください。

[単位：名(延べ)]

	シラバスの記述	授業の動機付け	授業の内容構成	学習形態 (グループ学習・ フィールドワーク等)	話し方	マイクの使い方	合計
1 回 生	658	1,303	5,679	1,099	5,369	1,466	16,329
2 回 生	684	1,579	4,611	1,647	4,636	1,140	14,926
3 回 生	322	1,049	2,764	975	2,575	449	8,431
4 回 生	149	396	932	332	970	151	2,831
5 回生以上	8	21	76	9	50	7	159

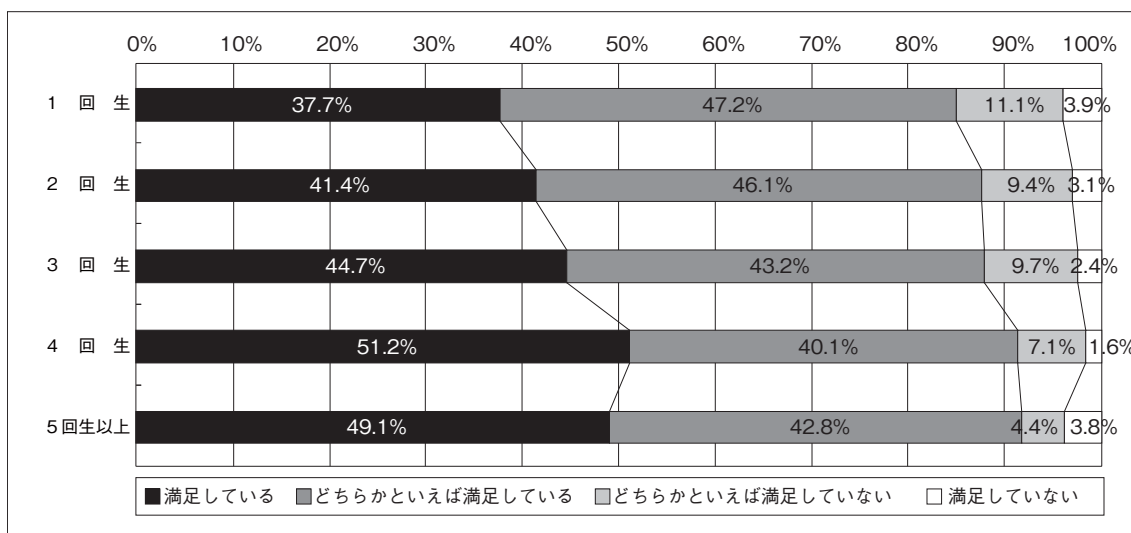
	板書	パワーポイント	レジュメ	視聴覚教材 (ビデオ・DVD 等)	教員や学生同士の コミュニケーション (e-learning を含む)	合計
1 回 生	2,788	1,143	2,348	1,734	1,611	16,329
2 回 生	2,251	1,312	3,475	2,236	1,477	14,926
3 回 生	1,153	953	2,600	1,305	1,061	8,431
4 回 生	419	258	841	476	408	2,831
5 回生以上	32	14	47	37	14	159



(5) 総合的にこの授業に満足していますか。

[単位：名(延べ)]

	満足している	どちらかといえば満足している	どちらかといえば満足していない	満足していない	合計
1 回 生	5,777	7,234	1,702	599	15,312
2 回 生	5,753	6,402	1,301	425	13,881
3 回 生	3,504	3,387	764	190	7,845
4 回 生	1,314	1,030	181	41	2,566
5 回 生以上	78	68	7	6	159



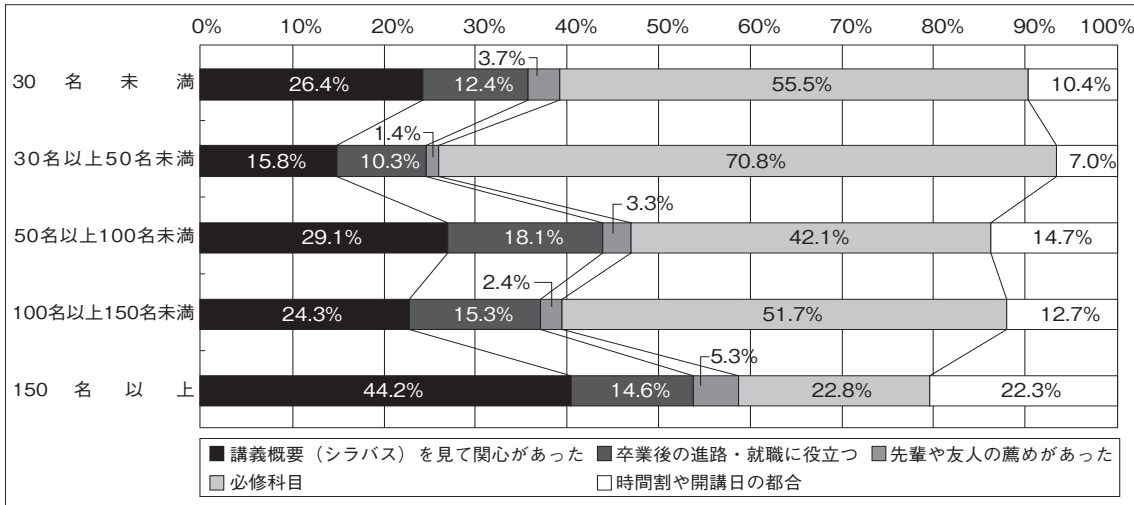
## 2009年度 授業アンケート クラス規模別集計

### 1. あなた自身の取り組みについて

(1) 履修理由について。

[単位：名(延べ)]

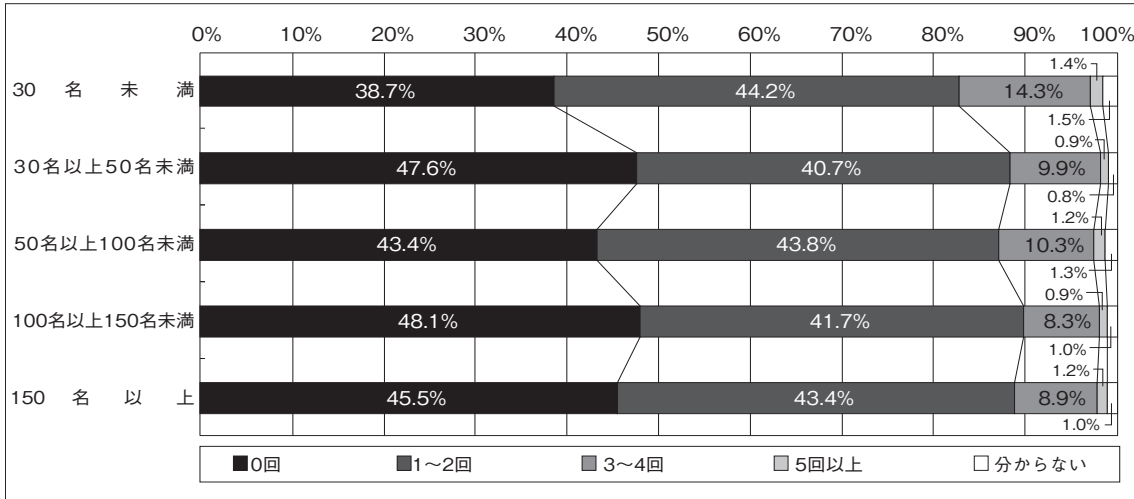
	講義概要(シラバス)を見て関心があった	卒業後の進路・就職に役立つ	先輩や友人の薦めがあった	必修科目	時間割や開講日の都合	合計
30名未満	2,816	1,323	397	5,916	1,112	10,660
30名以上50名未満	2,160	1,410	197	9,691	954	13,683
50名以上100名未満	4,298	2,680	487	6,233	2,168	14,789
100名以上150名未満	1,791	1,130	177	3,809	936	7,364
150名以上	1,297	429	156	668	655	2,933



(2) これまでのこの授業での欠席をどのくらいしましたか。

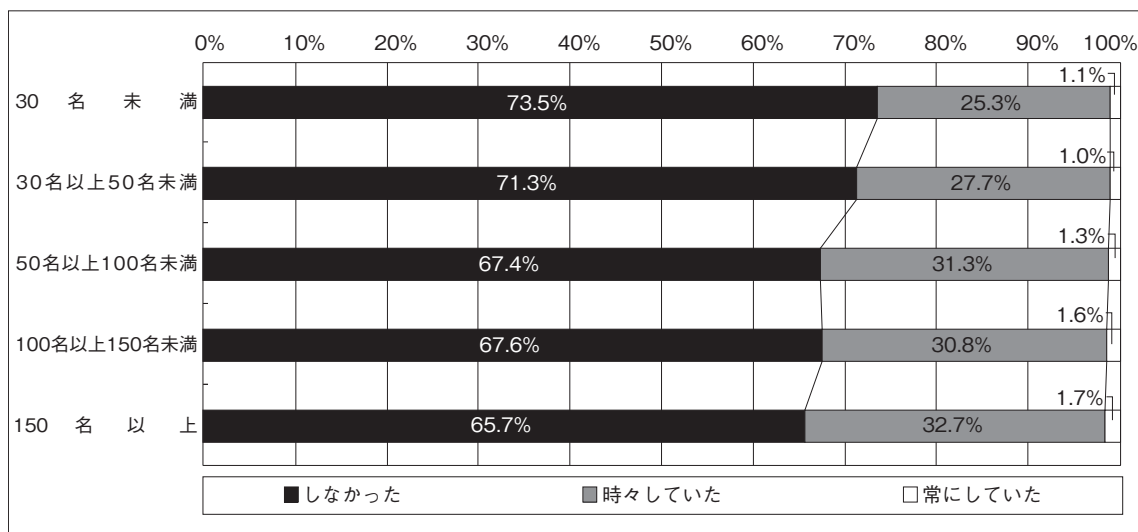
[単位：名(延べ)]

	0回	1～2回	3～4回	5回以上	分からない	合計
30名未満	4,125	4,709	1,519	147	159	10,659
30名以上50名未満	6,528	5,580	1,361	120	115	13,704
50名以上100名未満	6,431	6,493	1,526	185	193	14,828
100名以上150名未満	3,537	3,073	609	66	76	7,361
150名以上	1,339	1,275	263	34	30	2,941



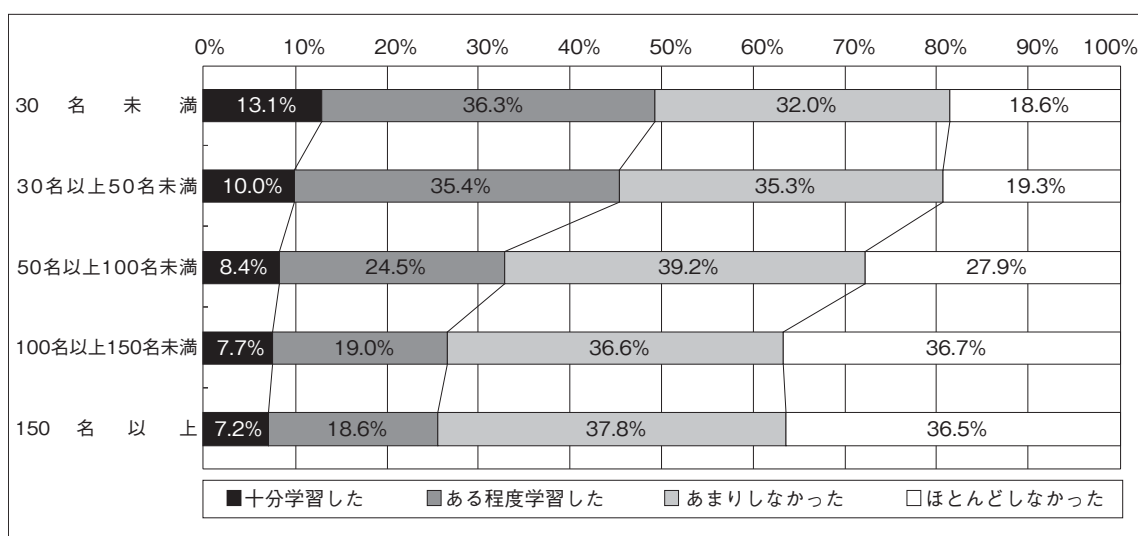
(3) 授業を妨げる行為（私語・携帯・遅刻・途中退室等）はしませんでしたか。 [単位：名（延べ）]

	しなかった	時々していた	常にしていた	合計
30名未満	7,808	2,688	122	10,618
30名以上 50名未満	9,742	3,785	142	13,669
50名以上 100名未満	9,950	4,616	192	14,758
100名以上 150名未満	4,954	2,261	115	7,330
150名以上	1,925	957	49	2,931



(4) 1回の授業につき、事前事後の学習（予習・復習）をどのくらいしましたか。 [単位：名（延べ）]

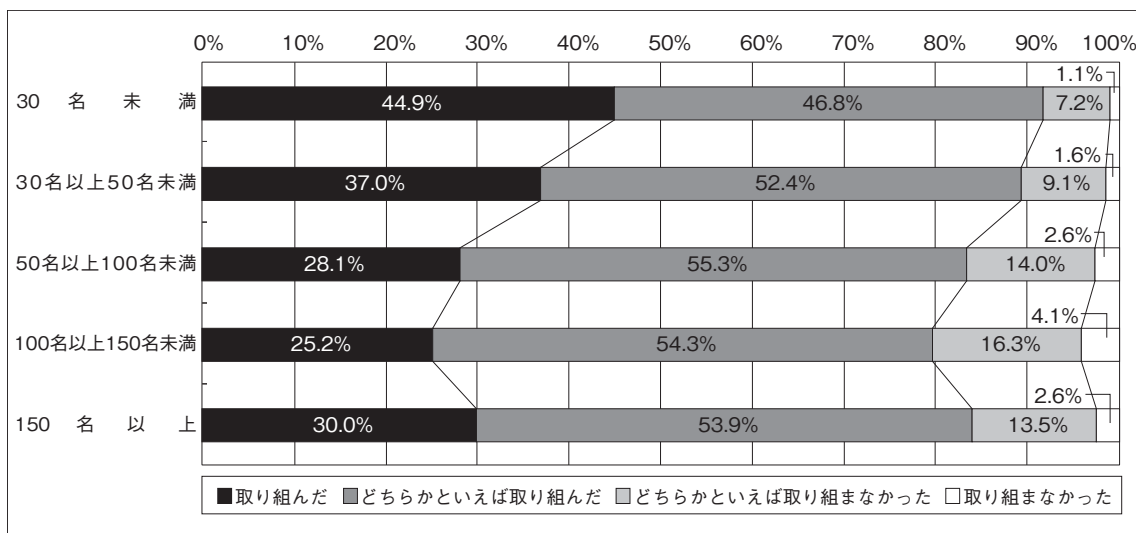
	十分学習した	ある程度学習した	あまりしなかった	ほとんどしなかった	合計
30名未満	1,391	3,857	3,403	1,980	10,631
30名以上 50名未満	1,365	4,826	4,809	2,638	13,638
50名以上 100名未満	1,235	3,625	5,794	4,116	14,770
100名以上 150名未満	563	1,398	2,688	2,697	7,346
150名以上	209	542	1,105	1,065	2,921



(5) 熱心に授業に取り組みましたか。

[単位：名(延べ)]

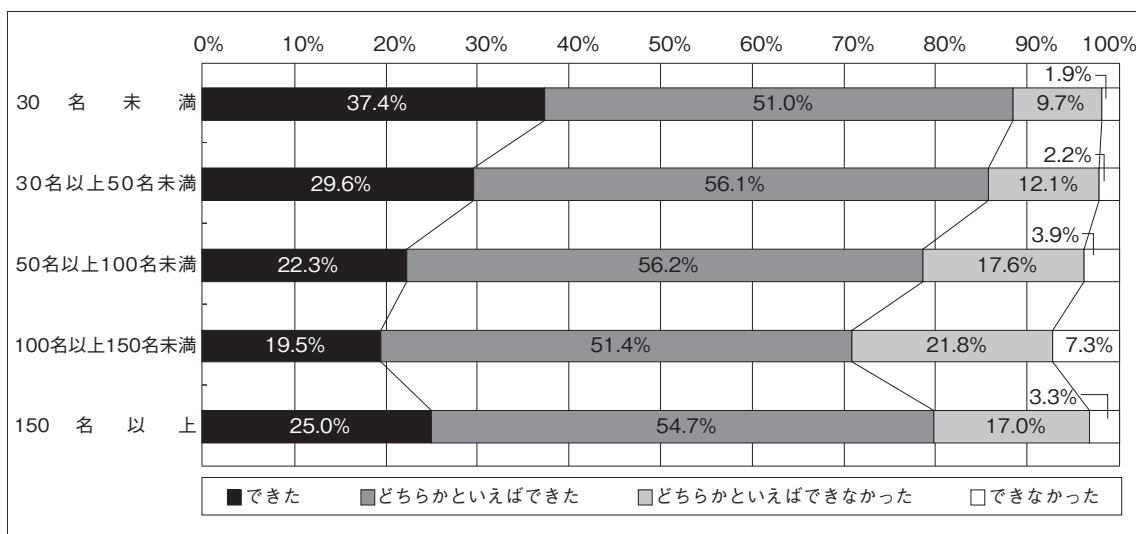
	取り組んだ	どちらかといえば 取り組んだ	どちらかといえば 取り組まなかった	取り組まなかった	合計
30名未満	4,776	4,969	765	116	10,626
30名以上 50名未満	5,041	7,144	1,238	212	13,635
50名以上 100名未満	4,146	8,152	2,057	389	14,744
100名以上 150名未満	1,843	3,969	1,190	303	7,305
150名以上	879	1,579	396	75	2,929



(6) 授業内容を理解する事はできましたか。

[単位：名(延べ)]

	できた	どちらかといえば できた	どちらかといえば できなかった	できなかった	合計
30名未満	3,970	5,413	1,027	204	10,614
30名以上 50名未満	4,032	7,648	1,646	297	13,623
50名以上 100名未満	3,293	8,278	2,589	575	14,735
100名以上 150名未満	1,435	3,772	1,600	535	7,342
150名以上	730	1,598	495	96	2,919

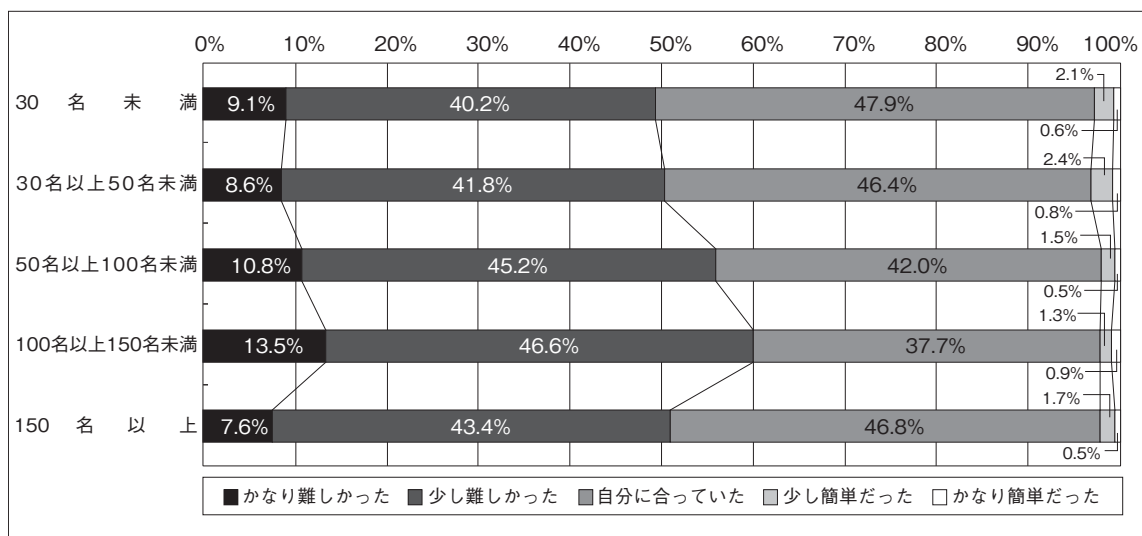


## 2. 授業について

(1) 授業（内容）の難易度はどうでしたか。

[単位：名（延べ）]

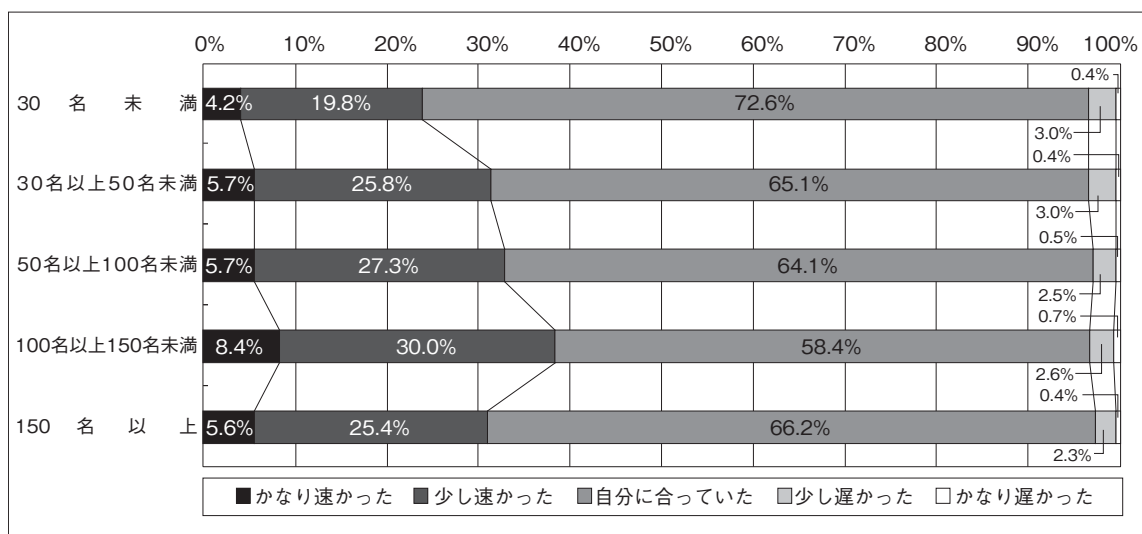
	かなり難しかった	少し難しかった	自分に合っていた	少し簡単だった	かなり簡単だった	合計
30名未満	971	4,299	5,119	224	68	10,681
30名以上 50名未満	1,182	5,732	6,365	329	103	13,711
50名以上 100名未満	1,598	6,691	6,218	229	78	14,814
100名以上 150名未満	992	3,435	2,778	95	66	7,366
150名以上	224	1,279	1,377	49	15	2,944



(2) 授業の進捗はどうでしたか。

[単位：名（延べ）]

	かなり速かった	少し速かった	自分に合っていた	少し遅かった	かなり遅かった	合計
30名未満	448	2,109	7,718	314	47	10,636
30名以上 50名未満	779	3,516	8,875	406	61	13,637
50名以上 100名未満	840	4,026	9,464	368	67	14,765
100名以上 150名未満	618	2,197	4,278	187	51	7,331
150名以上	165	744	1,938	68	11	2,926

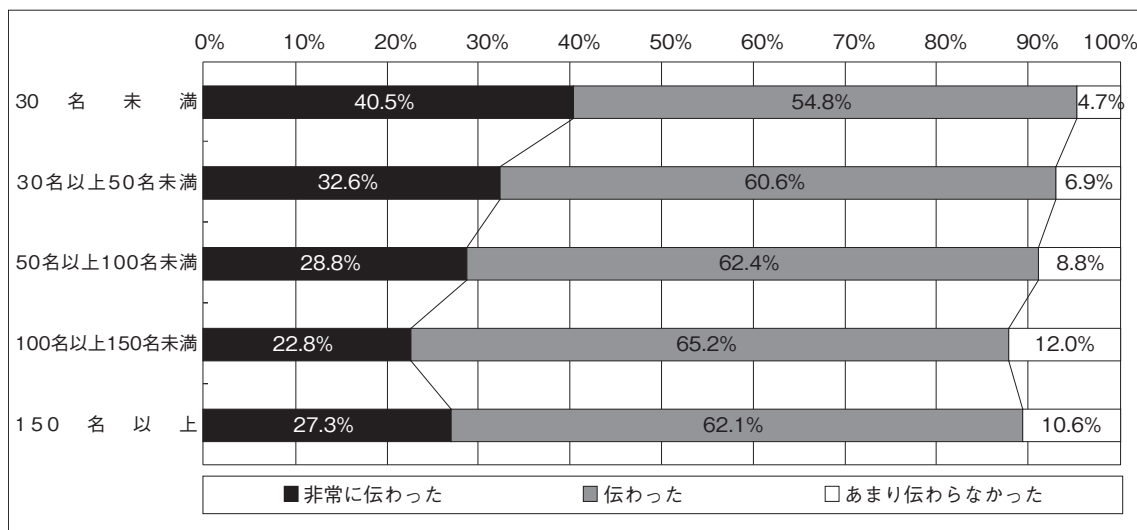




(3) 教員の熱意は伝わりましたか。

[単位：名(延べ)]

	非常に伝わった	伝わった	あまり伝わらなかった	合計
30名未満	4,258	5,759	492	10,509
30名以上 50名未満	4,385	8,159	923	13,467
50名以上 100名未満	4,184	9,066	1,271	14,521
100名以上 150名未満	1,646	4,709	869	7,224

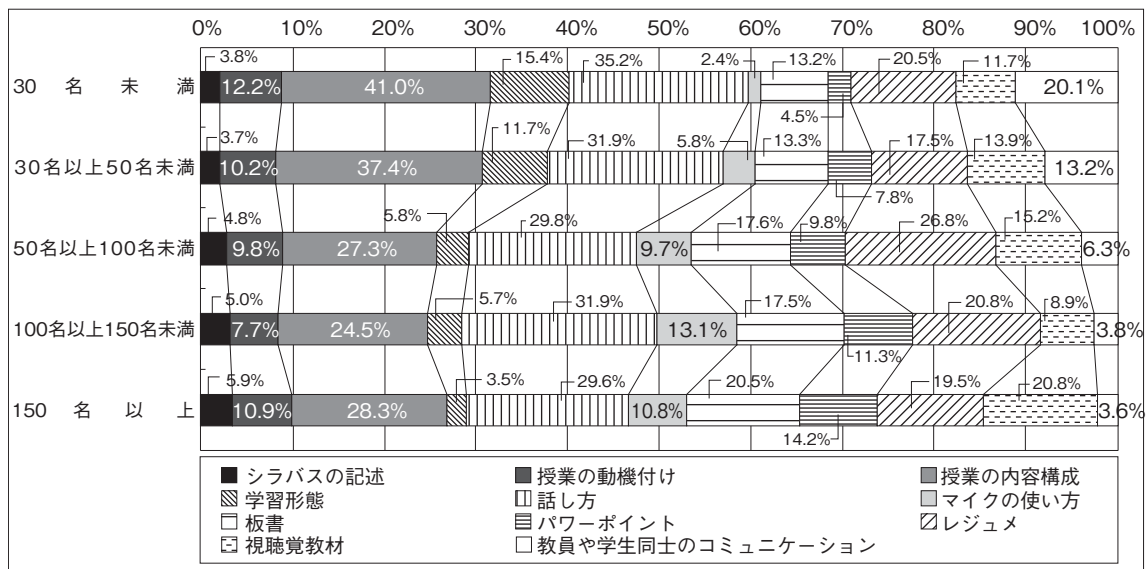


150名以上	790	1,801	308	2,899
--------	-----	-------	-----	-------

(4) 授業のどのような点に工夫を感じましたか。あてはまるものを全て選んでください。

[単位：名(延べ)]

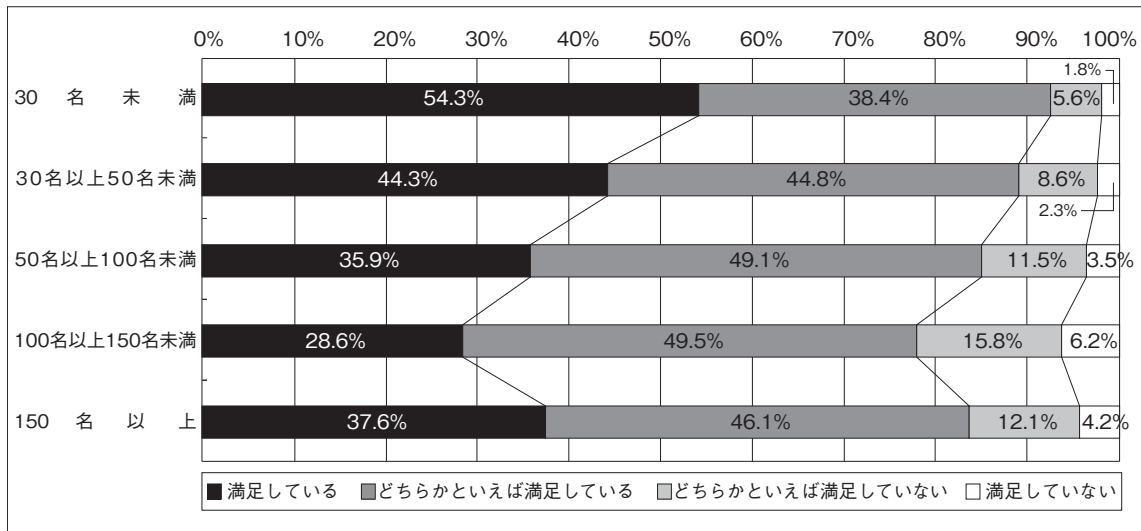
	シラバスの記述	授業の動機付け	授業の内容構成	学習形態 (グループ学習・ フィールドワーク等)	話し方	マイクの使い方
30名未満	379	1,212	4,061	1,526	3,484	239
30名以上 50名未満	460	1,277	4,687	1,469	3,997	732
50名以上 100名未満	654	1,327	3,690	787	4,024	1,308
100名以上 150名未満	328	510	1,615	373	2,098	862
150名以上	158	292	760	95	794	289
	板書	パワーポイント	レジュメ	視聴覚教材 (ビデオ・DVD等)	教員や学生同士の コミュニケーション (e-learningを含む)	合計
30名未満	1,306	441	2,034	1,156	1,987	9,905
30名以上 50名未満	1,672	972	2,195	1,748	1,650	12,537
50名以上 100名未満	2,370	1,326	3,614	2,052	856	13,495
100名以上 150名未満	1,153	743	1,368	583	247	6,585
150名以上	549	381	523	558	97	2,684



(5) 総合的にこの授業に満足していますか。

[単位：名（延べ）]

	満足している	どちらかといえば満足している	どちらかといえば満足していない	満足していない	合計
30名未満	4,968	3,510	510	163	9,151
30名以上 50名未満	5,205	5,270	1,008	276	11,759
50名以上 100名未満	4,469	6,117	1,428	438	12,452
100名以上 150名未満	1,773	3,071	978	386	6,208
150名以上	914	1,121	294	103	2,432



(集計：山本 理絵)

**〔佛教大学授業アンケート〕 \*通学・通信課程共通**

教授法開発室

科目名： \_\_\_\_\_ 曜日： \_\_\_\_\_ 講時： \_\_\_\_\_ 種別： \_\_\_\_\_  
 (通信教育課程の場合はスクーリング種別を記入してください)

【マーク記入例】 悪い例： ● 悪い例： ○ ⊗ ⊘

●あなたの所属について下記から選んでください。

- |    |             |          |               |       |           |      |      |
|----|-------------|----------|---------------|-------|-----------|------|------|
| 課程 | ① 通学課程      | ② 通信教育課程 |               |       |           |      |      |
| 学科 | ① 人文        | ② 中国     | ③ 英米          | ④ 教育  | ⑤ 臨床      | ⑥ 福祉 | ⑦ 公共 |
|    | ⑧ 社福        | ⑨ 理学     | ⑩ 作業          | ⑪ 別科  | ⑫ 大学院修士課程 |      |      |
|    | ⑬ 大学院博士後期課程 | ⑭ 課程本科生  | ⑮ 科目履修コース     |       | ⑯ 教養講座    |      |      |
|    | ⑰ 本科入学資格コース | ⑱ 併修生    | ⑲ その他(科目履修生含) |       |           |      |      |
| 回生 | ① 1回生       | ② 2回生    | ③ 3回生         | ④ 4回生 | ⑤ 5回生以上   |      |      |

●本アンケートは、学生の皆さんの「学習の状況」を測るアンケートです。以下の設問について、あてはまるものを選んでください。記入は鉛筆（HB・B）を使用してください。

1. あなた自身の取り組みについて。
- (1) 履修理由について、あてはまるものを全て選んでください。
- ① 講義概要(シラバス)を読んで関心があった
  - ② 卒業後の進路・就職に役立つ
  - ③ 先輩や友人の薦めがあった
  - ④ 必修科目
  - ⑤ 時間割や開講日の都合
- (2) これまでのこの授業での欠席をどのくらいしましたか。(通信教育課程は除く)
- ① 0回
  - ② 1～2回
  - ③ 3～4回
  - ④ 5回以上
  - ⑤ 分からない
- (3) 授業を妨げる行為(私語・携帯・遅刻・途中退室等)はしませんでしたか。
- ① しなかった
  - ② 時々していた
  - ③ 常にしていた
- (4) 1回の授業につき、事前事後の学習(予習・復習)をどのくらいしましたか。
- ① 十分学習した
  - ② ある程度学習した
  - ③ あまりしなかった
  - ④ ほとんどしなかった
- (5) 熱心に授業に取り組みましたか。
- ① 取り組んだ
  - ② どちらかといえば取り組んだ
  - ③ どちらかといえば取り組まなかった
  - ④ 取り組まなかった
- (6) 授業内容を理解することはできましたか。
- ① できた
  - ② どちらかといえばできた
  - ③ どちらかといえばできなかった
  - ④ できなかった
2. 授業について
- (1) 授業(内容)の難易度はどうでしたか。
- ① かなり難しかった
  - ② 少し難しかった
  - ③ 自分に合っていた
  - ④ 少し簡単だった
  - ⑤ かなり簡単だった
- (2) 授業の進度はどうでしたか。
- ① かなり遅かった
  - ② 少し遅かった
  - ③ 自分に合っていた
  - ④ 少し遅かった
  - ⑤ かなり遅かった
- (3) 教員の熱意は伝わりましたか。
- ① 非常に伝わった
  - ② 伝わった
  - ③ あまり伝わらなかった
- (4) 授業のどのような点に工夫を感じましたか。あてはまるものをすべて選んでください。
- ① シラバスの記述
  - ② 授業の動機付け
  - ③ 授業内容構成
  - ④ 学習形態(グループ学習・フィールドワーク等)
  - ⑤ 話し方
  - ⑥ マイクの使い方
  - ⑦ 板書
  - ⑧ パワーポイント
  - ⑨ レジュメ
  - ⑩ 視聴覚教材(ビデオ・DVD等)
  - ⑪ 教員や学生同士とのコミュニケーション(e-Learningを含む)
- (5) 総合的にこの授業に満足していますか。
- ① 満足している
  - ② どちらかといえば満足している
  - ③ どちらかといえば満足していない
  - ④ 満足していない

3. 自由記述欄

(1) 上記の2-(4)で答えた以外にも、授業で感じた工夫があれば具体的に記述してください。

(2) 授業を通して理解が深まったことや興味が増したことがあれば、記述してください。

(3) 担当教員からの設問「 \_\_\_\_\_ 」

(4) 担当教員へのメッセージ等を自由に記述してください。

**FD Review**

開業公衆

FD Review

# 授業公開

教授法開発室長 藤 松 素 子

## 1. 授業公開をめぐる議論の到達点

授業公開のあり方については、昨年度までに様々な議論を積み重ねてきた。

『FD Review Vol.3』においては、授業公開の実施形態について「研究授業」「一部参観、お勧め時間帯指定方式」「プレゼンテーション方式」「ビデオ化」「授業の種類選別と“見どころ”のメニュー化」等々の具体的提案がなされた (pp.80 - 83)。この到達点をふまえて2008年度においては、上述した「研究授業」「プレゼンテーション方式」の折衷案である「模擬授業」を教員研修として実施する提案がなされたが準備不足により具体化することができず、秋学期に従来型の授業公開を実施することとなった。公開した授業は5科目で、参加者は平均2.4名に過ぎなかったが、授業公開実施後には授業担当教員と教授法開発室員合同の研究会がなされ、担当者・参加者双方にとって授業改善につながるいくつかのヒントが得られる貴重な場を持つことができた。

2009年度においては、授業期間中の一定期間を設定し、特定の教員が提供する1科目に1回、任意で参加する方式では、多くの教員の参加はほとんど望めず、従来と同様のことが繰り返されるだけであるという認識から検討を始めた。すなわち、従来型の授業公開を実施しても、そもそも授業改善について問題意識の薄い教員、あるいは参加意欲はありながらも、自己の担当する授業や諸会議が重なり日程的に参加できない教員の参加を促すことにはつながらないということである。

具体的な実施方法を種々議論し、結果的には教学部長と協議の上、教員研修として授業公開を実施することになった。ただし、実施日時が授業期間外であった為、実際の授業を公開するというスタイルではなく、前述した「プレゼンテーション方式」に近い形式を採用することとなった。

当日の具体的な内容については、「教授法開発室だより」vol.17において小林隆室員による報告が掲載されているのでそちらに譲るが、「授業公開を通して考える～学生を中心にすえた授業のデザインとは～」と題して、本学教員2名が担当する講義形式・演習形式の授業風景の映像を流しながら、それぞれの授業概要・評価・工夫点等についてプレゼンテーションをし、コメンテーターからコメントを受けるという形式での実施となった。

教員研修として自己の授業や他の会議が設定されていない時間帯に実施したことにより、従来型の授業公開に比べれば多くの教員が参加でき、2名の教員の授業方法から多くのことを学び、コメンテーターからFD活動についての基本的な考え方・進め方を学ぶ機会となり、参加者にとっては非常に有益な場となったといえよう。他方で、強制力を伴うものとして位置づけられていなかったこともあり、全員参加をめざすという意味では課題を残すこととなった。

## 2. 2009年度秋学期の取り組み

2009年度春学期の授業公開としての取り組みは、上述したように9月16日の教員研修会の実施として位置づけた。参加者を増やすという目的は遂げられたが、各教員が目的意識をもって授業改善に取り組むという点においては依然として課題が残る結果となった。

そこで、秋学期においては、教授法開発室主導で行う全学的取り組みについては実施を見合せ、学部・学科内独自の課題に適合的な授業公開を実施することに力を注ぐこととした。

各学部・学科における教授法上の改善点、教授内容の検討、学部全体の教育の質保証に向けての課題は様々である。個々の教員にとって一般的な教授法の習得や、自らの授業改善に取り組むというだけでなく、自らが属する学部・学科全体の授業改善にダイレクトに結びつく取り組みを企画することの方がより効果的であろうと考えた為である。

具体的には第5回教育開発委員会（2009.9.30）において、以下のような提案を行った。

- (1) 同一科目を複数クラスで実施している科目、科目間でとりわけ連携・調整が必要な科目等において、学部・学科内で共通認識をもち、シラバスの統一、教授方法の共有化、授業運営上の課題、カリキュラムの検討のために授業公開、ディスカッション、検討会等を実施する。
- (2) 学部・学科内での授業改善を目的とするが、授業公開として全学にひらかれたものとして企画する。
- (3) 企画・運営・事後の報告等については、学部・学科主導で行い、具体的には室員および各学部教務担当主任・通信担当主任等で担う。
- (4) 実施に際して必要な支援については室員を通じて教育開発課に依頼する。

以上の内容について各学部・学科で検討されたようであるが、その内容を更に教授法開発として総合的に把握し、全学の取り組みとしてフィードバックするまでには及ばなかった。

## 3. 今後の課題

2010年度から新学部が増設され、7学部体制がスタートする。全学共通科目においても新カリキュラムが走り出し、第1 Semesterにおいては「初年次教育」が全学的に導入される。大学全体における授業運営上の諸課題、また各学部・学科独自の教育方法・教育内容上の課題が益々顕著になることが予想される。

2008年度からの学士課程教育におけるFD義務化の流れの中で、本学においても組織的にFD活動に取り組む必要性は論をまたない。しかしながら、比較的早い段階からFD活動の一方法として授業公開が提案されてきたものの、全国的な動向をみても、組織的・全学的取り組みとして、授業公開が定着しているところは多くない。その背景は、既に本学の課題として述べてきたこととほぼ合致している。

次年度に向けては、授業公開という形式にこだわるのではなく、個々の教員にとってより有益であり、かつ組織的な授業改善に結び付けることができる新たな取り組みに着手すべきであると考えている。昨年度までの議論を更に一歩進めることを提案したい。

**FD Review**

---

*e-Learning*



# e-Learning システム使用状況と今後の展開

教授法開発室員 達富洋二

協力：教育研究連携調査課  
(旧 メディア教材開発・知財課)

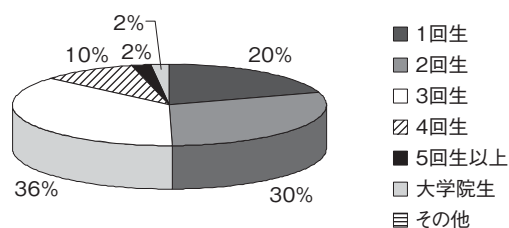
2009年度のe-Learning活用の概要を紹介する。アンケートはメディア教材開発・知財課が実施したもので、ここではアンケートの実数とそのグラフを載せる。

※以下の表、グラフにおいては、小数点第1位で四捨五入をしているため、各項目の合計が100%とならない場合があります。

## 1. 春学期のアンケート結果

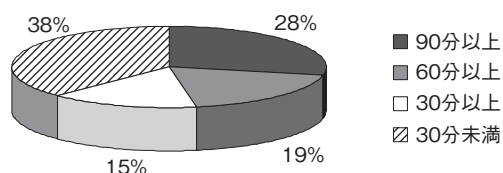
### 1.0 回生別 e-Learning 活用状況

回生	人数	比率
1回生	31	20%
2回生	46	30%
3回生	57	37%
4回生	15	10%
5回生以上	3	2%
大学院生	3	2%
その他	0	0%
合計	155	



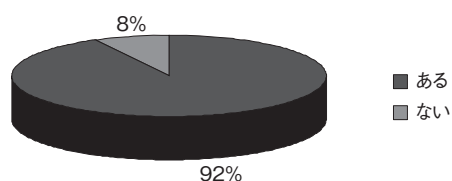
### 1.1 1回の授業につき、予習復習をどのくらいしましたか。

時間	人数	比率
90分以上	44	28%
60分以上	29	19%
30分以上	24	15%
30分未満	58	37%
合計	155	



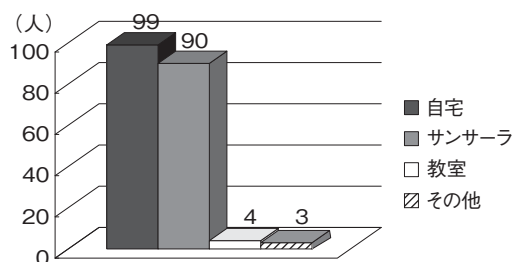
### 1.2 あなたの自宅にインターネット環境はありますか。

有無	人数	比率
ある	143	92%
ない	12	8%
合計	155	



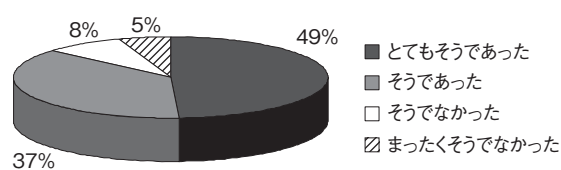
### 1.3 e-Learning はどこで行っていますか。(複数選択可)

場所	人数
自宅	99
サンサーラ	90
教室	4
その他	3



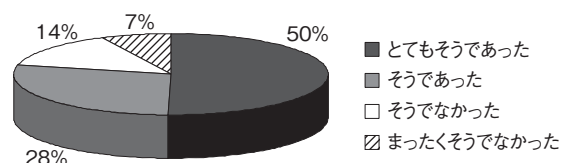
### 1.4 e-Learning を活用することで、学習に必要な情報をえることができた。

	人数	比率
とてもそうであった	76	49%
そうであった	58	37%
そうでなかった	13	8%
まったくそうでなかった	8	5%
合計	155	



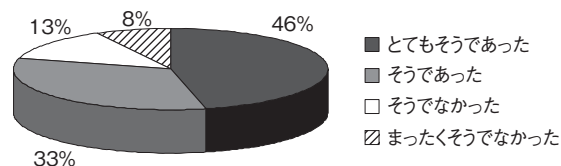
### 1.5 e-Learning を活用することで、授業内容の予習ができた。

	人数	比率
とてもそうであった	78	50%
そうであった	44	28%
そうでなかった	22	14%
まったくそうでなかった	11	7%
合計	155	



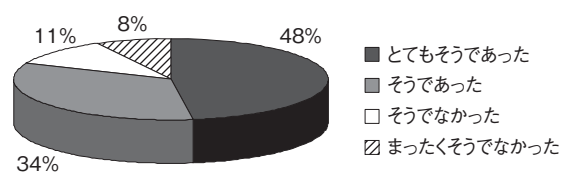
### 1.6 e-Learning を活用することで、授業時間外に学習がすすんだ。

	人数	比率
とてもそうであった	72	46%
そうであった	51	33%
そうでなかった	20	13%
まったくそうでなかった	12	8%
合計	155	



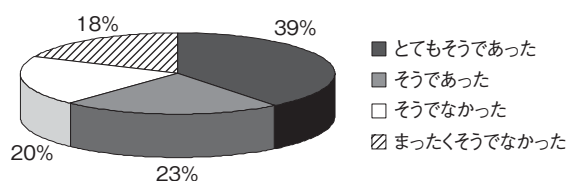
### 1.7 e-Learning を活用することで、学習内容の理解や蓄積ができた。

	人数	比率
とてもそうであった	74	48%
そうであった	52	34%
そうでなかった	17	11%
まったくそうでなかった	12	8%
合計	155	



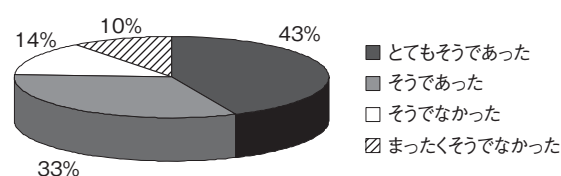
### 1.8 e-Learning を活用することで、教員や他の受業生との交流が増えた。

	人数	比率
とてもそうであった	61	39%
そうであった	35	23%
そうでなかった	31	20%
まったくそうでなかった	28	18%
合計	155	



### 1.9 e-Learning を活用することで、講義全体の流れや欠席時の内容把握ができた。

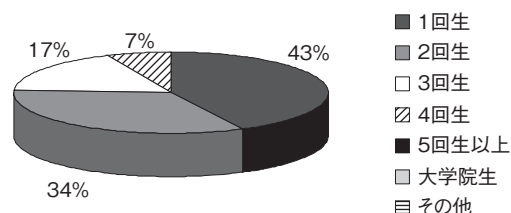
	人数	比率
とてもそうであった	67	43%
そうであった	51	33%
そうでなかった	21	14%
まったくそうでなかった	16	10%
合計	155	



## 2. 秋学期のアンケート結果

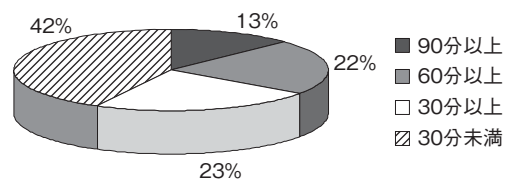
### 2.0 回生別 e-Learning 活用状況

回生	人数	比率
1回生	215	43%
2回生	170	34%
3回生	86	17%
4回生	33	7%
5回生以上	0	0%
大学院生	1	0%
その他	0	0%
合計	505	



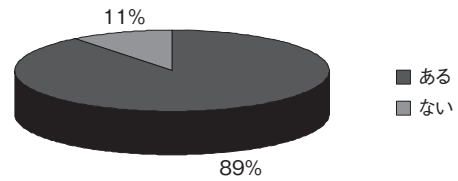
### 2.1 1回の授業につき、予習復習をどのくらいしましたか。

時間	人数	比率
90分以上	64	13%
60分以上	111	22%
30分以上	117	23%
30分未満	213	42%
合計	505	



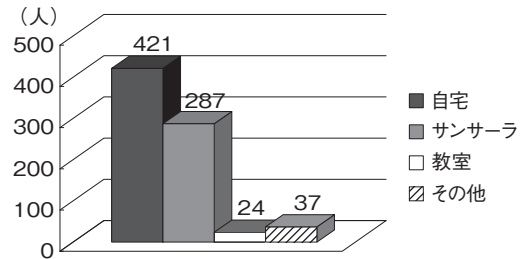
## 2.2 あなたの自宅にインターネット環境はありますか。

有無	人数	比率
ある	451	89%
ない	54	11%
合計	505	



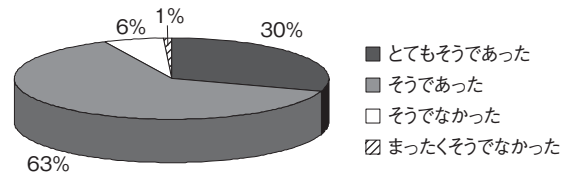
## 2.3 e-Learning はどこで行っていますか。(複数選択可)

場所	人数
自宅	421
サンサーラ	287
教室	24
その他	37



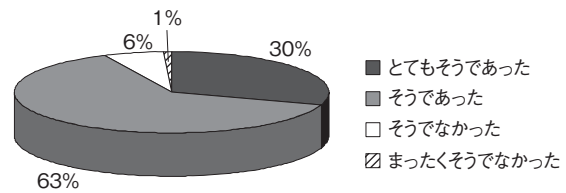
## 2.4 e-Learning を活用することで、学習に必要な情報をえることができた。

	人数	比率
とてもそうであった	151	30%
そうであった	319	63%
そうでなかった	31	6%
まったくそうでなかった	4	1%
合計	505	



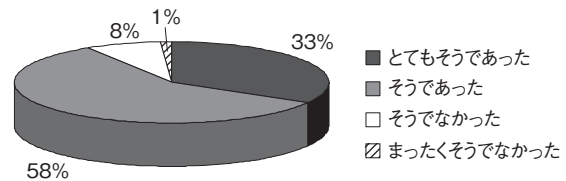
## 2.5 e-Learning を活用することで、授業内容の予習ができた。

	人数	比率
とてもそうであった	151	30%
そうであった	319	63%
そうでなかった	31	6%
まったくそうでなかった	4	1%
合計	505	



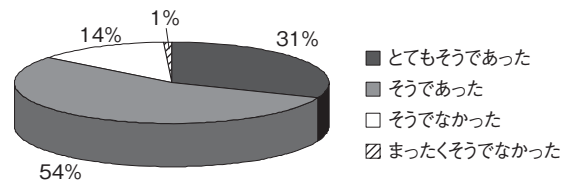
## 2.6 e-Learning を活用することで、授業時間外に学習がすすんだ。

	人数	比率
とてもそうであった	169	33%
そうであった	291	58%
そうでなかった	40	8%
まったくそうでなかった	5	1%
合計	505	



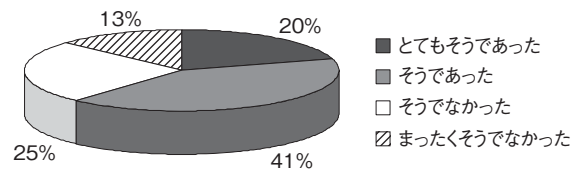
## 2.7 e-Learning を活用することで、学習内容の理解や蓄積ができた。

	人数	比率
とてもそうであった	157	31%
そうであった	275	54%
そうでなかった	69	14%
まったくそうでなかった	4	1%
合計	505	



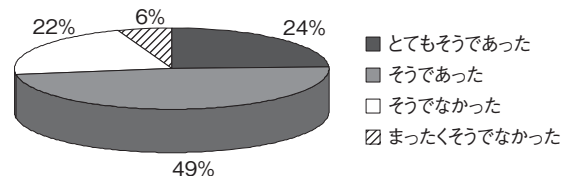
## 2.8 e-Learning を活用することで、教員や他の受業生との交流が増えた。

	人数	比率
とてもそうであった	103	20%
そうであった	209	41%
そうでなかった	127	25%
まったくそうでなかった	66	13%
合計	505	



## 2.9 e-Learning を活用することで、講義全体の流れや欠席時の内容把握ができた。

	人数	比率
とてもそうであった	123	24%
そうであった	245	49%
そうでなかった	109	22%
まったくそうでなかった	28	6%
合計	505	



## 3. 傾向

春学期と秋学期とでは時間割が異なるため、両学期の活用人数を比べることはできない。また、授業ごとに教授法が異なるため、活用の目的や状況を比べることもできない。ここでは、本学における e-Learning のおおむねの活用状況及び傾向について記述する。

### (0) e-Learning を活用している回生

e-Learning を活用している授業は 1 回生の科目及び 2 回生の科目に多いと言える。履修している科目数が多いことも関係しているが (3 回生以上になると履修科目数が少なくなる)、初年次教育とも重ね、この時期に e-Learning を活用した学習方法に慣れることは大切なことだと考える。

### (1) 1 回の授業の予習復習の時間

予復習に要する時間がどのくらいが適切かということも一概には言えないが、両学期ともに 35 パーセント以上の学生が e-Learning を使って予復習を行っている。一日に 3 科

目の授業を履修しているならば、一日の予復習時間は3時間以上ということになるわけであるから、この結果は高く評価していいと思われる。予復習をすることが少ない傾向があると言われる最近の学生にとって、本学の e-Learning は有効なものであると考えられる。

(2) 自宅のインターネット環境の有無

90パーセント程度の学生が自宅にインターネット環境を有している。今日的傾向であり、今後も増えていくであろう。

(3) e-Learning を行う場所

自宅とサンサーラで e-Learning を行っていることが多い。2010 年度より本格的導入となる新 e-Learning システムにおける掲示板は携帯電話からも利用が可能となるため、自宅もしくはサンサーラでの使用だけではない e-Learning の活用が見られるであろう。そのこともふまえ、教員は e-Learning による教授法を改善していきたいものである。

(4) e-Learning と情報収集

90パーセント前後の学生が e-Learning による学習に必要な情報収集について満足しているようである。デジタルコンテンツ・教材箱の活用は教員にとっても、学生にとっても有効である。欠席時の対応にも役立つが、著作権等にも配慮が必要になってくると考えられる。

(5) e-Learning と予習

80パーセント以上の学生が e-Learning による予習を行っている。(1)の項でも述べたが、e-Learning は予習に対して有効である。あらかじめ予習テンプレートを作成しておいたり、参考資料を準備しておいたりするなど、デジタルコンテンツ・教材箱の活用と重ねて活用することで、更なる学習支援になると考えられる。

(6) e-Learning と授業時間外の学習

80パーセント以上の学生が e-Learning による授業時間外の学習を行っている。(5)の項と同様、学生が自身の学習スケジュールによって e-Learning を活用している姿が見られる。学生によって24時間の予定が異なることから考えても、e-Learning は有効な学習支援ツールであると言える。

(7) e-Learning と学習の理解・蓄積・整理

80パーセント以上の学生が e-Learning による学習の理解・蓄積・理解ができていると考えられる。これまで、教員に提出したレポートやグループで作成した学習成果、各自のノートなど、学習の記録を一元管理できないことが少なくなかったが、e-Learning によるデジタルコンテンツ及びテキスト管理によって、それが可能になった。このことは、単に学習記録の蓄積や整理ということにとどまらず、学習の理解を深めることになっていると考えられる。

## (8) e-Learning と交流

60 パーセント以上の学生が e-Learning によって教員や学生との交流が増えたと感じている。授業において直接対峙するとともに、e-Learning 上のコミュニケーションは学生にとって魅力的である。(3) でもふれたように、携帯電話からのアクセスも可能になる新 e-Learning システムの掲示板機能によって交流はさらに深まると考えられる。

## (9) e-Learning による学習の概要把握 (欠席時の対処)

70 パーセント以上の学生が e-Learning によって学習の概要を把握している。本年度は新型インフルエンザによる特別配慮を要することもあり、欠席対応に e-Learning が有効に機能したと考えられる。

謝辞 本稿執筆にあたっては、メディア教材開発・知財課の協力を得た。感謝致します。

## 付／初年次からのピア・ラーニングとイー・ラーニング (教授法開発だより 18 号／達富洋二稿)

### 1. 問題の所在

学生が自らの資質や能力を知るとともに、教職に対する意欲を維持しながらその達成に向けて学習計画を立て、それを展開していけるような教育を初年次から行いたいと考えている。そのために必要な力、とりわけ実際の学習段階において必要な力としては、批判的に読解する力、論理的に記述する力、必要な情報を編集する力、創造的に表現する力、学びを評価する力などのアカデミックスキルがあげられる。これらの力が十分でないために、大学での学習に困惑し、十分な学習成果をあげることができないという事実がある。そのことは、ながく抱いてきた教職に就くことへの将来設計をあきらめることにもなりかねない。夢を叶えることができる学士課程であるためにも、学生の力の育成について具体的な方策をもたなければならない。

### 2. 教授法の内容と方法

2004 年度より、

- ・ 目指す将来像を具体化させる力
- ・ 計画を立てる力
- ・ 日々の学びを支え合う仲間をつくる力

の育成を目的として、大学での授業にピア・ラーニング（既習上回生の参加を取り入れた編成）を取り入れた。また、2006 年度からは、

- ・ 批判的に読解する力
- ・ 論理的に記述する力
- ・ 必要な情報を編集する力
- ・ 創造的に表現する力
- ・ 学びを評価する力

の育成を目的として、ピア・ラーニングの充実も図り、イー・ラーニングを取り入れていた。

教職に就くことを目標にしてきた入学生は、アカデミックスキルなどの力に不十分さはあるが、あこがれの職業としての教職にかかわる内容への関心は高く、教職にかかわる学習には積極的である。とりわけ教科教育法などについては、教師になることに近づいたような印象をもつこともあり学習意欲は旺盛である。そこで、専門教科及び教科教育法の授業において、その教科内容の理解に向かう中でアカデミックスキルを育成するとともに、学ぶ過程で育ちつつあるアカデミックスキルを活用して専門教科及び教科教育法の確かな理解を図ることができるような授業を行うこととした。

## 2.1 学習計画の提起

2単位の科目における学習時間である90時間を15週で行うには、1週あたり1.5時間の授業と4.5時間の予復習等を行うことになる。この4.5時間の学習方法を学生の自由にするのではなく、シラバスに準拠した「学習のてびき」に沿って行うこととした。学生が学習を連続させていけるように以下のような準備を行った。

- ・予習のための課題を設定する。
- ・教材を公開する。
- ・予習の仕方と記述の方法を示す。
- ・参考文献を紹介する。
- ・復習の課題例を設定する。
- ・復習の教材を公開する。
- ・復習の仕方と記述の方法を示す。

これらの準備や個別指導にかかる教員負担を簡便化し、指導の効率化を図るために、イー・ラーニングにおける「学習の記録」「教材箱」「フォーラム」などの機能を活用した。

## 2.2 学習行為の提案

授業目標を達成させるには、学生自身が目的をもって学習計画を立て、学びを展開し、評価を行うことが必要であるが、学生が個人でそれを完結させることは容易ではない。ここにピア・ラーニングを取り入れることで、これらが有機的に結びつき学習効果を高めることができると考えた。

15回の授業の初回に5名程度のグループをつくり、それ以降はこのグループで活動を行った。グループには1人以上の上回生（既習）が含まれるようにした。その上回生は教員の代行を行うのではなく、あくまでも共同体の一員としての支援者である。信頼関係のあるグループとなるように編成時に時間を確保して自己紹介やグループ内での自身の役割、グループの学習目標などについての話し合いを行った。その後の平常の授業では、授業過程にアカデミックスキルの育成を図る時間を設定するとともに、随時ピア・ラーニングを取り入れた。



### 2.3 学習評価の提示

それぞれの学生が、授業のはじめには「本時の学習目標」を設定し、授業の終わりには「本時の学習評価」を行うようにした。また学習評価は自己評価だけではなくグループ内評価も行った。その記録はイー・ラーニング上に集積し、グラフ化して各自が確認できるようになっている。教員からの評価は記述所見で行い、イー・ラーニングやコミュニケーションノート（名称「64字のえとせとら」）を通じて各学生に返した。

### 2.4 学習機会の提供

授業の成果を確かめたり、実践知と関連づけたりするために、学校ボランティアやインターンシップ、京都市京都府両教育委員会との包括協定による小大連携学校実践プログラムなどで学ぶ機会をもった。また、実際に学外に行くことができない状況では、上回生の学校実践経験や教育実習体験を交流することで臨場感のある談話交流ができるようにした。

## 3. 成果

本事例の特徴は、ピア・ラーニングのかたちによる対話型授業にイー・ラーニングによる遠隔型学習を取り入れたことである。ピア・ラーニングの充実によって授業は活性化することは間違いない。しかし、「おしゃべり」ではなく、目標達成に向けた「話し合い」を成立させるには、学習者一人一人が「話したいことがら」をもっておく必要がある。話すべき内容のないところに、充実した対話は成立しにくい。そこで遠隔型学習であるイー・ラーニングを取り入れた。自身の都合のよい時間は場所で予習ができ、それをフォーラムに書き込むことでやりとりができる。そして授業のいはては複数の学習や及び教員と対話をするわけである。ここでの話し合いは間違いなく「本物」である。教職を目指す者の「本物」の話し合いは学習目標の達成に向けて協働的なものとなったと考えられる。

### 3.1 自学自習の質を高める／学習方法の提起（イー・ラーニング）

教員が15回の授業の全体計画を詳細に検討し、各回の授業で用いる教材を学生に公開する時間を考慮することによって、学生の関心や意欲は高まった。すべての教材が常にイー・ラーニング上に公開されているということも学生には便利だが、前回の授業に関連して適時性のある教材が公開されることや、この瞬間に手に入れたい教材が随時追加公開されることも学習意欲を促進したようである。また、必要に応じて検索の方法や検索先を紹介したり、オフィスアワーを案内したりすることも効果的であったと考えられる。

約70種の教材を準備したが、すべての教材において閲覧回数は期待を大きく超えるものであった。ダウンロードした資料を授業に持参するとともに、それと関連づけてノートを整理したり、必要な情報を他から検索して編集したりするなど自主的な学びにつながったと考えられる。

### 3.2 共同体として学びを支え合う／学習行為の提案（ピア・ラーニング）

グループの構成を固定することにより、コミュニケーションに連続性が生まれ、学びの共同体としての意識が強くなったようである。また、個々の発言がつながりをもち創造的な談話へと質的に深まったものになった。その結果、学生自身が目的をもって学習計画を立て、学びを展開し、評価を行っていくという学習過程の充実はおおむね達成されたと考えられる。このことは教員が感じるだけでなく、グループ内でも実感していた。

### 3.3 読解や記述の学習をてびきする／学習方法の提起（イー・ラーニング）

課題を提出すると届けられる教員からの所見は、アカデミックスキルにかかわった具体的なものであるため、学生が自身の予習や復習を自己評価するための参考になったようである。授業時のエピソードを交えた所見は学生にとっては理解しやすいようで、今後の課題を具体化させることにつながったという声があった。また、各回の授業後に学習到達評価を行うことで、次回の学習計画を立てることができたと考えられる。

### 3.4 協働的学習をうながす／学習方法の提起（ピア・ラーニング＋イー・ラーニング）

イー・ラーニングによって24時間中かかわることができるため、授業が日常生活に入り込んでいるようである。時間別のアクセス状況は、夜間に多い傾向があるが、それほど偏ったものではなく、各自の学習習慣に応じたものになっていると考えられる。ピア・グループにおいて実際に対話することと、自宅でのフォーラムでやりとりとを併用する傾向が強く、対話型と遠隔型とが一体化したコミュニケーションであったようである。

### 3.5 学習意欲を喚起する／学習方法の提起（ピア・ラーニング＋イー・ラーニング）

随時、評価（教員やグループからの評価）を受けられるということは、本時の授業の復習としての手がかりとなるだけでなく、次時の授業における予習のてびきとなり、必要な情報を編集しようとする意識を高め、学習意欲を喚起することにつながったと考えられる。

### 3.6 学習の評価を集積する／学習評価の提示（イー・ラーニング）

本科目の学習目標と到達評価、及び毎時間の学習目標と到達評価を残し、グラフ化することにより、学びの総括を行うとともに次時からの学習計画を立てることができるようになり、主体的な学びをうながすことにつながったと考えられる。

### 3.7 学習の軌跡を可視化する／学習方法の提起（イー・ラーニング）

自分自身の学びのポートフォリオ化を図り、それを何度も見て振り返り整理することにより、学びを評価する力をはたかせることができた。また、自身の学習の軌跡を客観的に見る習慣が定着したと考えられる。

### 3.8 学習実践と授業とを重ねる／学習機会の提供

学校ボランティアやインターンシップ、京都市京都府両教育委員会との包括協定による小大連携学校実践プログラムなどの機会を通して、実践的に学ぶ機会を提供することは

きた。また、そのことを話題にしたコミュニケーションは臨場感に溢れたものとなり、教職に就くことへの期待を高めるとともに、自身の課題を見つめ直す機会にもなっていた。



#### 4. 課題

本授業におけるピア・ラーニングとイー・ラーニングの教育効果については、イー・ラーニングの「アンケート」による評価と、学生と担当教員間で行っているコミュニケーションノートによる評価によって判断し、おおむね良好としているが、ここに客観的なものはない。教育効果の測定の方法について検討していきたい。

また、学外での学校実践にふれる機会における評価についても同様で、その効果については詳細な検討ができていない。また、ピア・グループにおける上回生についてはライブヒストリーの記述を通して十分な検討を行っているが、それがグループ内で共有されているとは言えない。内容の充実と、効果の測定方法、記述とグループ内での共有の方法については今後の課題としたい。

#### 謝辞

本実践事例で活用した「デジタルえんま帖」の運用を支援して下さったメディア教材開発・知財課に感謝致します。

#### 註

本稿は2009年度京都地区私立大学教職課程研究連絡協議会研究大会（2010年2月19日／立命館大学）での口頭発表の予稿をもとに執筆したものである。

# FD Review

育  
教  
前  
學  
入

# 入学前教育

教授法開発室長 藤 松 素 子

## 1. はじめに

2008年度入試より導入した入学前教育における2コース制（レポート作成コース・授業体験コース）は今年度で3年目を迎えた。2009年度入試では特別推薦に教育連携校枠が新設され、2010年度入試では更に法人系列校が加わった。また、学部再編により新たに2学部が増設されたわけであるが、入学前教育の対象者数自体は前年度とほぼ同じ数にとどまっているため、個々のデータを前年度と比較しやすいといえるであろう。

今年度の特徴としては、レポート作成コースのみの受講者割合が前年度と比べて12.9%減であったのに対して、授業体験コースのみの受講者割合は20.3%の増、両コースとも受講した者の割合も6.6%増となっている。今年度においては、それぞれのコースの位置づけや、実施内容・方法を検討し、若干の変更を加えた上で実施したわけであるが、その評価も含めて更に検討していくことが必要であると思われる。

## 2. 入学前教育の実施概要

### 2-1 目的

入学後の学部・学科（コース）における専門教育の導入

- ・本学に対する理解の向上
- ・学部（学科）に対する理解の向上
- ・学習意欲向上
- ・学習に対する意識付け
- ・学習への不安緩和

### 2-2 対象者

12月中に最終入学者データが揃う下記の入試における各入学手続き完了者を対象とする。特別推薦には本年度より法人系列校が加わった。入試種別ごとの対象者内訳は以下のとおり。

- |              |       |               |       |
|--------------|-------|---------------|-------|
| ・AO 選抜……………  | 25 名  | ・同窓入試……………    | 25 名  |
| ・特別推薦入試      |       | ・宗門後継者入試…………… | 16 名  |
| 法人系列校……………   | 28 名  | ・帰国生徒入試……………  | 3 名   |
| 教育連携校……………   | 23 名  | 合計……………       | 284 名 |
| 指定校……………     | 110 名 |               |       |
| 課外活動……………    | 32 名  |               |       |
| スポーツ強化枠…………… | 22 名  |               |       |

## 2-3 方法・内容

レポート作成コースと授業体験コースの2種別。いずれか一方を任意に選択し受講することを基本とし、両コース共に受講することも認める。各コースの実施内容は以下のとおり。

### <レポート作成コース>

#### ○AO 選抜

##### 英米学科

- ① 英文購読、英文聴解
- ② 英作文
- ③ 電話インタビュー（ネイティブである本学専任教員1名・外国人契約講師1名の計2名と電話で15分ほどの会話をする。）

##### 教育学科

課題にかかわる文献を1冊読み、自分の考えをまとめる。参考書を明記する。

##### 公共政策学科

提示した3つのテーマから一つを選択し、それに関わる図書を1冊選び、その内容をまとめた上で自己の見解をまとめる。参考書を明記する。

##### 社会福祉学科

- ① 指定図書を読み、関心のある章をひとつとりあげ、不明な箇所を調べた内容を記述した上で当該章についての感想をまとめる。
- ② 学部企画に参加し、その感想をまとめる。
- ③ AO入試の際に調べた内容に関わって、ボランティア活動等を行った上で更に検討した内容についてレポートにまとめる。まとめた内容については入学後に報告会を実施する。

##### 理学療法学科

課題についてまとめる。

##### 作業療法学科

参考として提示した2冊の参考文献を参考として課題に答える。

※上記6学科以外はAO選抜を実施していない。

※英米学科の③を除き、提出されたレポートはすべて添削を加えて返却。

○特別推薦入試（法人系列校・教育連携校・指定校・課外活動・スポーツ強化枠）・同窓入試・帰国生徒入試

##### 仏教学部

※本年度は特推・同窓・帰国の各入試定員がない為、設題設定なし。

## 文学部

### 日本文学学科

課題についてのレポート作成。

### 中国学科

課題についてのレポート作成。

### 英米学科

英語による自己紹介文の作成。

## 歴史学部

### 歴史学科

課題についてのレポート作成。

### 歴史文化学科

課題についてのレポート作成。

## 教育学部

### 教育学科

課題にかかわる文献を1冊読み、自分の考えをまとめる。参考書を明記する。

### 臨床心理学科

資料を読み、練習問題を解く。

## 社会学部

### 現代社会学科

提示した3つのテーマから一つを選択し、それに関わる図書を1冊選び、その内容をまとめた上で自己の見解をまとめる。参考書を明記する。

### 公共政策学科

提示した3つのテーマから一つを選択し、それに関わる図書を1冊選び、その内容をまとめた上で自己の見解をまとめる。参考書を明記する。

## 社会福祉学部

課題についてのレポート作成。

## 保健医療技術学部

### 理学療法学科

課題についてのレポート作成。

### 作業療法学科

参考として提示した2冊の参考文献を参考として課題に答える。

## ○特別推薦入試（宗門後継入試）

日常勤行の暗誦。僧侶となる決意についてまとめる。

※提出されたレポートはすべて添削を加えて返却。

<授業体験コース>

○AO 選抜・特別推薦入試・同窓入試・帰国生徒入試・宗門後継者入試

実施日：2010年3月7日（日）

スケジュール

9:30	10:30	11:00	11:15	11:45	12:30	13:15	14:00
受付	自校教育	移動	学びの導入	1講時	昼食・休憩	2講時	

【自校教育】

- 10：30～10：35 挨拶・趣旨説明……………教学部長 八木 透
- 10：35～10：55 自校教育……………学 長 山極 伸之
- 10：55～11：00 事務伝達事項

【各学部の講義】

学部名	時間	講義名	担当者	教室
仏教学部	学びの導入	学部ガイダンス	福原 隆善	5-303
	1講時	大学で学ぶ		
	2講時	仏教を学ぶ		
文学部	学びの導入	学部ガイダンス	持留 浩二	5-101
	1講時	留学しよう -英語圏大学留学のABC-	栗野 修司	
	2講時	役に立つ学問	持留 浩二	
歴史学部	学びの導入	学部ガイダンス	渡邊 忠司	5-201
	1・2講時	近世の京都町奉行と与力・同心		
教育学部	学びの導入	学部ガイダンス	原 清治	5-202
	1講時	カウンセリングの実際	荒井 真太郎	
	2講時	教育学部での学びとは	竹内 晋平	
社会学部	学びの導入	学部ガイダンス	辰巳 伸知	5-301
	1講時	グローバル化と多文化共生	大谷 栄一	
	2講時	在学生からのレクチャー・質疑応答	辰巳 伸知	
社会福祉学部	学びの導入	学部ガイダンス	黒岩 晴子	5-302
	1・2講時	社会福祉の援助について考える		
保健医療技術学部	学びの導入	学部ガイダンス	日下 隆一	5-204
	1講時	理学療法概論	日下 隆一	
	2講時	リハビリテーションにおける注意力と安全管理	荻山 和生	



## <対面授業>

○特別推薦入試（教育連携校）

実施学部：教育学部

受講者数：10名

### 第1回

実施日時：2010年2月9日（火）10：00～14：00

会場：担当教員研究室

内容：

- ① 入学前教育の概要説明、第1回の説明
- ② 自己紹介
- ③ 高校卒業レポートの報告
- ④ 佛教大学教育学部の概要説明
- ⑤ 大学での学びと研究
- ⑥ 今日的教育問題についての懇話
- ⑦ 課題図書についての意見交流
- ⑧ 文献検索、文献読解方法、レジュメ作成方法等の指導
- ⑨ 今後の予定
- ⑩ 第1回の総括

### 第2回

実施日時：2010年3月7日（日）終日

会場：5-202教室

内容：全学一斉の入学前教育プログラム（授業体験コース）に参加

### 第3回

実施日時：2010年3月9日（火）10：00～13：00

会場：担当教員研究室

内容：

- ① 第3回の説明
- ② 課題発表と討論
- ③ 大学生活について
- ④ 全3回の総括

### 3. 入学前教育の実施結果

#### 3-1 全体総括

レポート作成コース受講者数 (表 1)

	AO		特推										同窓		帰国		宗門		学科合計			学部合計			総合計		
			法人系列		教育連携		指定校		課外活動		スポーツ																
	入学手続者数	受講者数	入学手続者数	受講者数	入学手続者数	受講者数	入学手続者数	受講者数	入学手続者数	受講者数	入学手続者数	受講者数	入学手続者数	受講者数	入学手続者数	受講者数	入学手続者数	受講者数	入学手続者数	受講者数	受講率 (%)	入学手続者数	受講者数	受講率 (%)	入学手続者数	受講者数	
仏教	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16	8	16	8	50.0	16	8	50.0	284	99
日本文学	-	-	2	1	-	-	12	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	5	35.7	42	18	42.9		
中国	-	-	1	0	-	-	5	0	-	-	1	0	2	0	-	-	-	-	9	0	0.0						
英米	4	3	1	0	-	-	6	3	3	3	2	2	2	1	1	1	-	-	19	13	68.4						
歴史	-	-	2	1	3	1	8	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	6	46.2	20	8	40.0			
歴史文化	-	-	2	1	-	-	5	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	2	28.6						
教育	4	4	3	0	10	6	12	7	-	-	3	3	4	1	0	0	-	-	36	21	58.3	43	26	60.5			
臨床	-	-	1	1	3	2	1	1	-	-	1	0	1	1	-	-	-	-	7	5	71.4						
現社	-	-	4	0	2	0	26	7	7	3	9	1	3	0	1	0	-	-	52	11	21.2	89	17	19.1			
公共	5	1	4	0	2	0	9	1	8	2	6	1	3	1	-	-	-	-	37	6	16.2						
社福	5	0	7	0	3	1	26	13	14	5	-	-	8	2	1	0	-	-	64	21	32.8	64	21	32.8			
理学	2	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	3	1	33.3	10	1	10.0			
作業	5	0	1	0	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0	-	-	-	-	7	0	0.0						
入試種別合計	25	8	28	4	23	10	110	41	32	13	22	7	25	7	3	1	16	8	284	99	34.9	284	99	34.9			
受講率 (%)	32.0		14.3		43.5		37.3		40.6		31.8		28.0		33.3		50.0		34.9			34.9			34.9		

※ AO の英米と社福に関しては第 3 課題までである。ここでの受講者数は全ての課題を終了した人数である

授業体験コース受講者数 (表 2)

	AO			特推						同窓	帰国	宗門	学科合計				学部合計			総合計																		
				法人系列		教育連携		指定校					課外活動		スポーツ		入学手続者数	申込者数	受講者数	受講率(%)	入学手続者数	申込者数	受講者数	受講率(%)	入学手続者数	申込者数	受講者数											
	入学手続者数	申込者数	受講者数	入学手続者数	申込者数	受講者数	入学手続者数	申込者数	受講者数	入学手続者数	申込者数	受講者数	入学手続者数	申込者数	受講者数	入学手続者数												申込者数	受講者数	入学手続者数	申込者数	受講者数						
仏教	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16	8	8	16	8	8	50.0	16	8	8	50.0															
日本文学	-	-	-	2	1	1	-	-	-	12	10	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	11	10	71.4										
中国	-	-	-	1	1	1	-	-	-	5	2	2	-	-	-	1	1	0	2	0	1	-	-	-	-	-	-	9	4	4	44.4	42	28	26	61.9			
英米	4	4	3	1	0	0	-	-	-	6	5	5	3	2	2	2	0	0	2	1	1	1	1	1	-	-	-	19	13	12	63.2							
歴史	-	-	-	2	2	2	3	2	2	8	5	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	9	9	69.2							
歴史文化	-	-	-	2	2	2	-	-	-	5	4	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	6	6	85.7	20	15	15	75.0			
教育	4	3	3	3	3	3	10	7	7	12	11	11	-	-	-	3	0	0	4	1	1	0	0	0	-	-	-	36	25	25	69.4							
臨床	-	-	-	1	1	1	3	3	3	1	1	1	-	-	-	1	1	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-	7	7	7	100.0	43	32	32	74.4	284	189	186
現社	-	-	-	4	4	4	2	2	2	26	17	17	7	4	4	9	2	2	3	2	2	1	1	1	-	-	-	52	32	32	61.5							
公共	5	4	4	4	4	4	2	2	2	9	6	5	8	4	4	6	1	1	3	2	2	-	-	-	-	-	-	37	23	22	59.5	89	55	54	60.7			
社福	5	3	3	7	6	6	3	2	2	26	18	18	14	7	7	-	-	-	8	4	4	1	1	1	-	-	-	64	41	41	64.1	64	41	41	64.1			
理学	2	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	3	3	3	100.0							
作業	5	5	5	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	7	7	7	100.0	10	10	10	100.0			
入試種別合計	25	21	20	28	25	25	23	18	18	110	79	77	32	17	17	22	5	4	25	13	14	3	3	3	16	8	8	284	189	186	65.5	284	189	186	65.5			
受講率(%)	80.0			89.3			78.3			70.0			53.1			18.2			56.0			100.0			50.0			65.5				65.5			65.5			

受講率=受講者数÷入学手続者数

(表1) はレポート作成コース受講者数、(表2) は授業体験コース受講者数について、学部・学科、入試種別ごとに整理したものである。入学前教育の対象者は全体で284名であるが、レポート作成コース受講者は99名(34.9%)、授業体験コース受講者数は186名(65.5%)、両コース共に受講した者は58名(20.4%)にのぼる。実受講数は227名で全体の79.9%であり、2009年度入試の66%、2008年度入試の70%を大きく上回る受講率となった。

ただし、レポート作成コース受講者は2009年度の116名(41.1%)を6.2ポイント下回

り、2008年度の108名(35.3%)と近似となっている。これに対して、授業体験コースは2009年度の109名(38.7%)を31ポイント上回り、2008年度の168名(54.9%)と比較しても10ポイントほど上回っている。今年度の特徴として、授業体験コースの受講率の高さが際立っているといえるであろう。

レポート作成コースの実施時期・内容・方法等において例年と比べて大きな変化はみられない。他方、授業体験コースにおいては実施日が昨年度と比べると6日遅く、一昨年度より5日遅くなっている。実施方法についても在学生在が参画しての取り組みとなっていることなどが例年と異なる要素として指摘できる。授業体験コースの実施日程の検討に際して、日程や内容・方法を検討することが重要であるといえるであろう。

### 3-2 入試種別ごとの受講者数の動向

それぞれのコースにおける受講動向を入試種別でみたものが(表3・4・5)である。まず(表3)であるが、レポート作成コースのみに参加した入試種別ごとの受講者数の割合を示している。母集団が小さいことを考慮して受講率のみを比較してみると特別推薦(スポーツ強化枠)と同(課外活動)がそれぞれ31.8%、21.9%と比較的高くなっている。全体の傾向が似通っている2008年度入試と比較してみると、ほぼ同じ傾向であることがわかるが、特別推薦(課外活動)のみ、2008年度6.5%だったものが今回2割強にのびていることが特徴として指摘できよう。また、2009年度入試と比較してみると、AO選抜の43.5%が4.9%に、特別推薦(指定校)の23.8%が13.6%に、同窓の22.2%が8.0%に、宗門後継の37.0%が18.8%と減少している。

次に(表4)をみってみる。授業体験コースのみに参加した受講生の動向が示されているが、受講率の高い方から特別推薦(法人系列校)の78.6%(22名)、帰国生徒66.7%(2名)、AO選抜の56.0%(14名)、特別推薦(教育連携校)52.2%(12名)の順である。2008年度、2009年度と比較してみると、両年度ともに特別推薦(指定校)と同窓の受講率が高い傾向にあったが、今年度は先にみたその他の入試受験者の参加率が高かったことが特徴となっている。他方、最も受講率が低かった特別推薦(スポーツ強化枠)は過年度共に0.0%、5.0%(1名)となっており、同様に宗門後継者も2008年度9.4%(3名)、2009年度3.7%(1名)と一貫して低い傾向が続いていることがわかる。

最後に(表5)をみってみる。レポート作成コース・授業体験コースの両コース共に受講した者についての動向を示している。実数は少ないが受講率の高い方から順に、帰国生徒33.3%、宗門後継者31.3%、特別推薦(教育連携校)26.1%、AO選抜24.0%、特別推薦(指定校)23.6%となっている。過去2回と比べてもAO選抜と特別推薦(指定校)は相対的に高い傾向がみられる。他方で特別推薦(スポーツ強化枠)は過去2回ともに0.0%となっている。

以上のことより、授業体験コースに参加しやすい日程を設定できた場合には、特別推薦(スポーツ強化枠)を除くほぼすべての入試受験者が授業体験コースに積極的に参加し、両コース共の受講率も20%前後になることがわかった。特別推薦(スポーツ強化枠)においては実施時期の問題か、終日拘束されるという条件の問題のためなのか、その原因は明確ではないが、レポート作成コースへの参加が主であり、授業体験コースへのインセンティブは働きにくい傾向にあることが明らかになっているといえよう。

入試種別受講者数（レポート作成コースのみ）（表 3）

入試種別	手続完了者数（名）	受講者数（名）	受講率（%）	受講者数内訳（%）
AO 選抜	25	2	8.0	4.9
特別推薦入試（法人系列校）	28	1	3.6	2.4
特別推薦入試（教育連携校）	23	4	17.4	9.8
特別推薦入試（指定校）	110	15	13.6	36.6
特別推薦入試（課外活動）	32	7	21.9	17.1
特別推薦入試（スポーツ強化枠）	22	7	31.8	17.1
同窓入試	25	2	8.0	4.9
宗門後継者入試	16	3	18.8	7.3
帰国生徒入試	3	0	0.0	0.0
合計	284	41	14.4	100

入試種別受講者数（授業体験コースのみ）（表 4）

入試種別	手続完了者数（名）	受講者数（名）	受講率（%）	受講者数内訳（%）
AO 選抜	25	14	56.0	10.9
特別推薦入試（法人系列校）	28	22	78.6	17.2
特別推薦入試（教育連携校）	23	12	52.2	9.4
特別推薦入試（指定校）	110	51	46.4	39.8
特別推薦入試（課外活動）	32	11	34.4	8.6
特別推薦入試（スポーツ強化枠）	22	4	18.2	3.1
同窓入試	25	9	36.0	7.0
宗門後継者入試	16	3	18.8	2.3
帰国生徒入試	3	2	66.7	1.6
合計	284	128	45.1	100

入試種別受講者数（両コース）（表 5）

入試種別	手続完了者数（名）	受講者数（名）	受講率（%）	受講者数内訳（%）
AO 選抜	25	6	24.0	10.3
特別推薦入試（法人系列校）	28	3	10.7	5.2
特別推薦入試（教育連携校）	23	6	26.1	10.3
特別推薦入試（指定校）	110	26	23.6	44.8
特別推薦入試（課外活動）	32	6	18.8	10.3
特別推薦入試（スポーツ強化枠）	22	0	0.0	0.0
同窓入試	25	5	20.0	8.6
宗門後継者入試	16	5	31.3	8.6
帰国生徒入試	3	1	33.3	1.7
合計	284	58	20.4	100

### 3-3 学部学科別受講者の動向

次いで、学部学科別受講者の動向についてみておきたい。2010年4月に仏教学部・歴史学部が新設され、文学部が再編されたことにより、当該学部に関しては過年度との比較が単純にできないため、ここでは学科ごとの特徴に着目することとする。

（表6）をみてわかるように、前述したとおり、今年度はレポート作成コースのみ受講したものは少ない。その中でも中国学科、歴史文化学科、臨床心理学科、理学療法学科、

作業療法学科の参加者はゼロであった。

他方、(表7)にあるように、授業体験コースのみの受講率が高く、特に理学療法学科が66.7%、作業療法学科が100%、歴史文化学科57.1%、現代社会学科が55.8%、公共政策学科が51.4%となっている。

また、(表8)の両方共の受講率については、高い方から臨床心理学科71.4%、英米学科47.4%、教育学科38.9%という結果であった。これに対して中国学科、作業療法学科で両コース受講した者はゼロであった。

全体傾向が近似している2008年度入試との比較をしてみると、レポート作成コースのみの受講において、中国学科、公共政策学科、理学療法学科、作業療法学科の3学科が受講者ゼロになっている。今年度の公共政策学科は8.1%であるが実数は3名であり比較的低位であることにおいては共通しているといえよう。しかしながら、2008年度の臨床心理学科の受講率は28.6%となっていてこの点だけが違う傾向を示している。

一方、2010年度授業体験コースのみ受講率では、英米学科(15.8%)、仏教学科(18.8%)、臨床心理学科(28.6%)が低いが、2008年度入試においては、臨床心理学科(0.0%)、人文学科(25.9%)、教育学科(29.3%)が低い。2008年度入試の英米学科受講率は40.0%で全体受講率に比してむしろ高くなっている。

両コース共に受講している率では、2008年度も今年度と同様に低いのが中国学科(0.0%)、現代社会学科(10.4%)であった。反対に2008年度入試において受講率の高かったのは作業療法学科(66.7%)、臨床心理学科(57.1%)、理学療法(40.0%)の順であったが、今年度は臨床心理学科は更に20ポイントほど高くなっているが、理学療法学科・作業療法学科では著しく下がっている。

こうしてみると、学部学科毎の動向に一貫した傾向はあまりみられない。そこで、各学部・学科における入学手続き者がいかなる入試によるものであるのかに着目してみた。前掲した(表1)により各学科の入学手続き完了者における入試種別ごとの内訳をみると、中国学科においては特別推薦(指定校)、臨床心理学科においては特別推薦(教育連携校)、公共政策においては特別推薦(指定校)・(課外活動)、理学療法学科・作業療法学科においてはAO選抜が多いことがわかる。

前述したとおり、特別推薦(指定校)ではレポート作成コースのみ受講者は平均受講率とほぼ同じであり、授業体験コースのみ受講が高く、両コース受講もやや高い傾向にある。特別推薦(課外活動)はレポート作成コースのみが高く、授業体験コースのみはやや低く、両コース受講もやや低い傾向にあった。また、特別推薦(教育連携校)では、レポート作成コースのみは平均受講率よりやや少なく、授業体験コースはやや高く、両コース受講は高い傾向にあった。そして、AO選抜においてはレポート作成コースのみが低く、授業体験コースは高く、両コース受講は平均受講率とほぼ同じであった。

こうしてみると、公共政策学科、理学療法学科、作業療法学科においては入試種別の傾向がそのまま出ているが、中国学科、臨床心理学科においてはそれとは異なる傾向がみられるようである。臨床心理学科においては両コースとも受講している者の割合が高く問題とする必要はないが、中国学科における受講率の低さについては何らかの検討が必要だと考えられる。

学部・学科別受講者数（レポート作成コースのみ）（表6）

学部・学科	手続完了者数（名）	受講者数（名）	受講率（%）	受講者数内訳（%）
仏教学科	16	3	18.8	7.3
仏教学部	16	3	18.8	7.3
日本文学科	14	2	14.3	4.9
中国学科	9	0	0.0	0.0
英米学科	19	4	21.1	9.8
文学部	42	6	14.3	14.6
歴史学科	13	3	23.1	7.3
歴史文化学科	7	0	0.0	0.0
歴史学部	20	3	15.0	7.3
教育学科	36	7	19.4	17.1
臨床心理学科	7	0	0.0	0.0
教育学部	43	7	16.3	17.1
現代社会学科	52	8	15.4	19.5
公共政策学科	37	3	8.1	7.3
社会学部	89	11	12.4	26.8
社会福祉学科	64	11	17.2	26.8
社会福祉学部	64	11	17.2	26.8
理学療法学科	3	0	0.0	0.0
作業療法学科	7	0	0.0	0.0
保健医療技術学部	10	0	0.0	0.0
合計	284	41	14.4	100

学部・学科別受講者数（授業体験コースのみ）（表7）

学部・学科	手続完了者数（名）	受講者数（名）	受講率（%）	受講者数内訳（%）
仏教学科	16	3	18.8	2.3
仏教学部	16	3	18.8	2.3
日本文学科	14	7	50.0	5.5
中国学科	9	4	44.4	3.1
英米学科	19	3	15.8	2.3
文学部	42	14	33.3	10.9
歴史学科	13	6	46.2	4.7
歴史文化学科	7	4	57.1	3.1
歴史学部	20	10	50.0	7.8
教育学科	36	11	30.6	8.6
臨床心理学科	7	2	28.6	1.6
教育学部	43	13	30.2	10.2
現代社会学科	52	29	55.8	22.7
公共政策学科	37	19	51.4	14.8
社会学部	89	48	53.9	37.5
社会福祉学科	64	31	48.4	24.2
社会福祉学部	64	31	48.4	24.2
理学療法学科	3	2	66.7	1.6
作業療法学科	7	7	100.0	5.5
保健医療技術学部	10	9	90.0	7.0
合計	284	128	45.1	100

学部・学科別受講者数（両コース）（表 8）

学部・学科	手続完了者数（名）	受講者数（名）	受講率（%）	受講者数内訳（%）
仏教学科	16	5	31.3	8.6
仏教学部	16	5	31.3	8.6
日本文学科	14	3	21.4	5.2
中国学科	9	0	0.0	0.0
英米学科	19	9	47.4	15.5
文学部	42	12	28.6	20.7
歴史学科	13	3	23.1	5.2
歴史文化学科	7	2	28.6	3.4
歴史学部	20	5	25.0	8.6
教育学科	36	14	38.9	24.1
臨床心理学科	7	5	71.4	8.6
教育学部	43	19	44.2	32.8
現代社会学科	52	3	5.8	5.2
公共政策学科	37	3	8.1	5.2
社会学部	89	6	6.7	10.3
社会福祉学科	64	10	15.6	17.2
社会福祉学部	64	10	15.6	17.2
理学療法学科	3	1	33.3	1.7
作業療法学科	7	0	0.0	0.0
保健医療技術学部	10	1	10.0	1.7
合計	284	58	20.4	100





### 3-4 居住地地域別受講者の動向

まず、手続き完了者（入学前教育対象者）の動向について居住地別にみてみよう（表9）。全手続き完了者284名のうち47.9%が京都府、13.7%が大阪府、12.7%が滋賀県、6.0%が奈良県、3.1%が兵庫県、2.1%が和歌山県と、上位は近畿圏で占められている。

居住地別手続き完了者数（表9）

居住地	手続き完了者数(名)	比率(%)
北海道	3	1.1
青森県	1	0.4
宮城県	1	0.4
茨城県	1	0.4
千葉県	1	0.4
東京都	1	0.4
石川県	1	0.4
福井県	4	1.4
長野県	2	0.7
静岡県	1	0.4
愛知県	5	1.8
三重県	3	1.1
滋賀県	36	12.7
京都府	136	47.9
大阪府	39	13.7
兵庫県	10	3.5
奈良県	17	6.0
和歌山県	6	2.1
鳥取県	2	0.7
広島県	3	1.1
山口県	1	0.4
徳島県	2	0.7
香川県	3	1.1
高知県	3	1.1
熊本県	2	0.7
合計	284	100.0



ついで実際の受講者の動向について居住地別にみてみることにする。（表10・11・12）は、居住地別受講者数をあらわしたものであるが、京都府についてのみ京都市内・外別、および京都市内の行政区別に掲載しておいた。

（表10）のレポート作成コースのみの受講者数でみると、京都府が最も多く15名（36.6%）うち京都市内8名、京都市外7名となっている。その他の都道府県においてはほとんど差異がみられない。

今回入学手続き完了者の上位であった京都府・大阪府・滋賀県について、2008年度入試・2009年度入試と今年度を比較してみると、京都府は14名（29.6%）⇒22名（28.6%）⇒15名（36.6%）、大阪府は7名（14.9%）⇒9名（11.7%）⇒2名（4.9%）、滋賀県は2名（4.3%）⇒16名（20.8%）⇒4名（9.8%）となっている。レポート作成コースのみの

参加者数が少ない中で京都府のみが8ポイント増加していることがわかる。

(表11)の授業体験コースのみの参加動向をみてみても、やはり最も多いのが京都府で77名(60.2%)、うち京都市内50名、市外27名となっている。次いで滋賀県18名(14.1%)、大阪府16名(12.5%)と3府県で86.8%を占めている。

先と同様に2008年度・2009年度と今年度の動向をみてみると、京都府は61名(57.0%)⇒44名(62.9%)⇒77名(60.2%)、大阪府は18名(16.8%)⇒9名(12.9%)⇒16名(12.5%)、滋賀県は16名(15.0%)⇒5名(12.8%)⇒18名(14.1%)となっている。滋賀県は2009年度で減少、今年度若干増加しているという意味で全体動向と一致している。京都府は2009年度で5ポイント増加し今年度は若干減少しており、大阪府は右肩下がりとなっているという点において特徴があるといえよう。

(表12)の両コースとも受講者についてみると、最も多いのが京都府の22名(37.9%)で、京都市内13名、市外は9名となっている。次いで奈良県の9名(15.5%)、滋賀県・大阪府がそれぞれ8名(13.8%)となっている。

2008年度・2009年度・今年度の推移をみてみると、京都府は28名(45.9%)⇒21名(53.8%)⇒22名(37.9%)、大阪府は15名(24.6%)⇒7名(17.9%)⇒8名(13.8%)、滋賀県は9名(14.8%)⇒5名(12.8%)⇒8名(13.8%)となっている。京都府はほぼ横ばい、大阪府は減少傾向、滋賀県は昨年度からややもちなおし2008年度とほぼ同じということとなる。

居住地別受講者数(レポート作成コースのみ)(表10)

レポート作成コースのみ			レポート作成コースのみ			レポート作成コースのみ		
居住地	受講者数(名)	比率(%)	居住地	受講者数(名)	比率(%)	居住地	受講者数(名)	比率(%)
北区	0	0.0	京都市内	8	53.3	京都府	15	36.6
上京区	1	12.5	京都市外	7	46.7	北海道	2	4.9
左京区	2	25.0	京都府	15	100.0	青森県	1	2.4
中京区	1	12.5				宮城県	0	0.0
東山区	0	0.0				茨城県	0	0.0
下京区	1	12.5				千葉県	0	0.0
南区	0	0.0				東京都	0	0.0
右京区	0	0.0				石川県	1	2.4
伏見区	2	25.0				福井県	1	2.4
山科区	1	12.5				長野県	1	2.4
西京区	0	0.0				静岡県	1	2.4
京都市内	8	100.0				愛知県	1	2.4
						三重県	1	2.4
						滋賀県	4	9.8
						大阪府	2	4.9
						兵庫県	2	4.9
						奈良県	1	2.4
						和歌山県	0	0.0
						鳥取県	1	2.4
						広島県	2	4.9
						山口県	0	0.0
						徳島県	0	0.0
						香川県	1	2.4
						高知県	2	4.9
						熊本県	2	4.9
						合計	41	100.0

居住地別受講者数（授業体験コースのみ）（表 11）

授業体験コースのみ			授業体験コースのみ			授業体験コースのみ		
居住地	受講者数 (名)	比率 (%)	居住地	受講者数 (名)	比率 (%)	居住地	受講者数 (名)	比率 (%)
北区	5	10.0	京都市内	50	64.9	京都府	77	60.2
上京区	4	8.0	京都市外	27	35.1	北海道	0	0.0
左京区	3	6.0	京都府	77	100.0	青森県	0	0.0
中京区	5	10.0				宮城県	0	0.0
東山区	4	8.0				茨城県	0	0.0
下京区	4	8.0				千葉県	0	0.0
南区	3	6.0				東京都	0	0.0
右京区	8	16.0				石川県	0	0.0
伏見区	9	18.0				福井県	0	0.0
山科区	1	2.0				長野県	1	0.8
西京区	4	8.0				静岡県	0	0.0
京都市内	50	100.0				愛知県	1	0.8
						三重県	1	0.8
						滋賀県	18	14.1
						大阪府	16	12.5
						兵庫県	6	4.7
						奈良県	4	3.1
						和歌山県	2	1.6
						鳥取県	0	0.0
						広島県	0	0.0
						山口県	1	0.8
						徳島県	0	0.0
						香川県	1	0.8
						高知県	0	0.0
						熊本県	0	0.0
						合計	128	100.0

居住地別受講者数（両コース）（表 12）

両コース			両コース			両コース		
居住地	受講者数 (名)	比率 (%)	居住地	受講者数 (名)	比率 (%)	居住地	受講者数 (名)	比率 (%)
北区	4	30.8	京都市内	13	59.1	京都府	22	37.9
上京区	0	0.0	京都市外	9	40.9	北海道	0	0.0
左京区	2	15.4	京都府	22	100.0	青森県	0	0.0
中京区	0	0.0				宮城県	1	1.7
東山区	0	0.0				茨城県	1	1.7
下京区	1	7.7				千葉県	0	0.0
南区	0	0.0				東京都	0	0.0
右京区	2	15.4				石川県	0	0.0
伏見区	1	7.7				福井県	2	3.4
山科区	1	7.7				長野県	0	0.0
西京区	2	15.4				静岡県	0	0.0
京都市内	13	100.0				愛知県	2	3.4
						三重県	1	1.7
						滋賀県	8	13.8
						大阪府	8	13.8
						兵庫県	1	1.7
						奈良県	9	15.5
						和歌山県	3	5.2
						鳥取県	0	0.0
						広島県	0	0.0
						山口県	0	0.0
						徳島県	0	0.0
						香川県	0	0.0
						高知県	0	0.0
						熊本県	0	0.0
						合計	58	100.0

最後に関西圏2府4県にしばって、今回のコース受講動向をみてみた。

(表13) および(図1)によれば、実人数の多寡はあるものの、両コース受講率の高いのは奈良県(64.3%)、和歌山県(60.0%)となっている。これに対して実人数の上位は授業体験のみ率が高い傾向にあり、京都府(67.5%)、滋賀県(60.0%)、大阪府(61.5%)である。また、兵庫県は授業体験のみ率が最も高く66.7%で、両コース受講率が最も低い11.1%となっている。

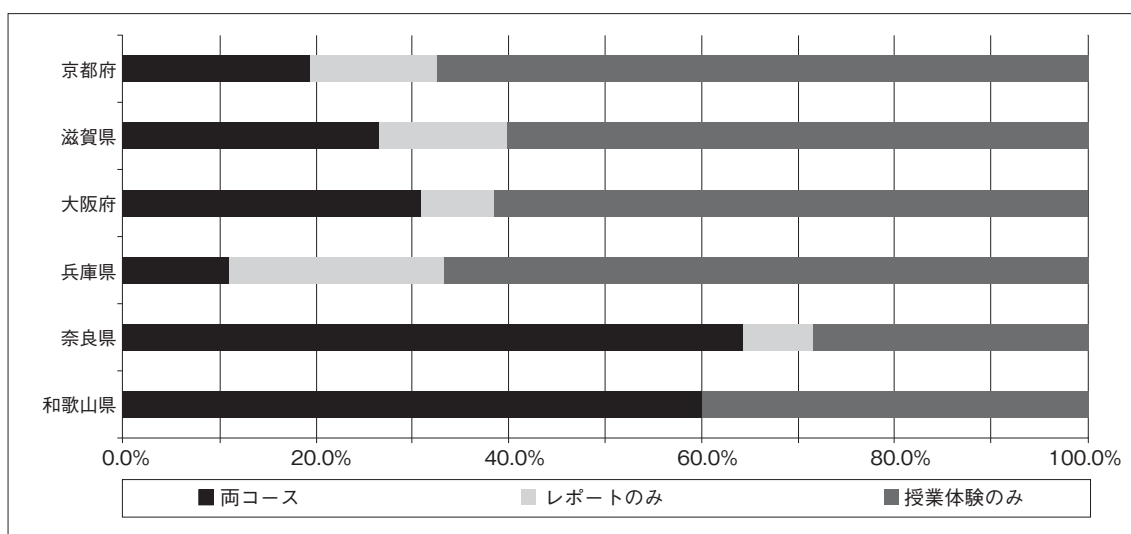
以上のことから、そもそも入学手続き完了者の分布が関西圏に偏在しているという事実があるとはいえ、当該地域の受講率は必ずしも高いとはいえない。また、遠方の地域は比較的レポート受講率が高い傾向がみられ(北海道・青森・石川・長野・広島・高知・熊本など)、入学手続き完了者が若干名であったとしても両コース受講率の高い県もみられる(宮城県・茨城県・福井県・愛知県など)。

現在用意している2コースの棲み分けを明確にしながら、京都府・滋賀県・大阪府をはじめとする関西圏における授業体験コースの受講率を高めるための方策を検討することと同時に、地理的条件等で参加が困難な地域の入学手続き完了者への対応についても検討していくことが必要であろう。

居住地別延べ受講者数におけるコース別受講率 (表13)

居住地	延べ受講者数(名)	両コース(%)	レポートのみ(%)	授業体験のみ(%)	合計(%)
京都府	114	19.3	13.2	67.5	100.0
滋賀県	30	26.7	13.3	60.0	100.0
大阪府	26	30.8	7.7	61.5	100.0
兵庫県	9	11.1	22.2	66.7	100.0
奈良県	14	64.3	7.1	28.6	100.0
和歌山県	5	60.0	0.0	40.0	100.0

(図1) 居住地別延べ受講者数におけるコース別受講率 (%)



## 4. 受講者対象のアンケート調査結果

### 4-1 調査概要

入学前教育終了後に受講者に対してアンケート調査を実施している。レポート作成コース受講者に対しては文書により依頼し、回答は郵送で返送を依頼している。他方で授業体験コース受講者に対しては、受講終了後に実施しその場で回収を行っている。

レポート作成コース受講者のうちAO選抜入試（以下、AO選抜と略）の回答率は81.8%、特別推薦（法人系列・教育連携・指定校・課外活動・スポーツ）同窓・帰国生徒・宗門後継者（以下、特薦等と略）の回答率は68.1%となっている。全体の回答率を学科別にみると、仏教学科50.0%、日本文学科100.0%、英米学科90.0%、歴史学科50.0%、歴史文化学科100.0%、教育学科52.9%、臨床心理学科80.0%、現代社会学科54.5%、公共政策学科60.0%、社会福祉学科76.2%、理学療法学科100.0%となっている。学科によって受講数も異なるため単純な比較はできないが仏教、歴史、教育、現代社会が5割台にとどまっている。

授業体験コースの回答率は88.7%。入試種別でみるとAO選抜95.0%、特別推薦85.8%、同窓78.6%、帰国生徒100.0%となっている。さらに学部別にみると、仏教学部100.0%、文学部88.5%、歴史学部93.3%、教育学部96.9%、社会学部74.1%、社会福祉学部95.1%、保健医療学部100.0%となっている。全体に回答率が極めて高い中で社会学部の低さが若干めだつ。

レポート作成コース受講者に対する設問は、①実施方法について（出題形式・提出期限）、②課題について（内容）、③添削等について（内容・返却時期）、④受講について（大学の授業への関心・有効性）、⑤実施してほしい内容等についての自由記述で構成されている。

他方、授業体験コース受講者に対する設問は、①参加目的、②実施内容（自校教育・ガイダンス・授業【午前・午後】）、③入学前教育について（大学生になることへの不安・その解消・大学の授業への関心度・有効性）、④受講の感想についての自由記述、⑤実施してほしい内容等についての自由記述で構成されている。すべての集計結果は148頁以降に一括して掲載しておく。

### 4-2 レポート作成コース受講者アンケートについて

レポート作成コース受講者アンケートのQ1-1「今回のレポート課題の出題形式（論述・要約など）について、いかがでしたか？」に対して「わかりやすかった」と回答したのは、AO選抜で78%、特薦等で74%であった。2008年度調査においては、それぞれ70%・64%、2009年度調査では70%・61%であったのと比較すると、特薦等において10ポイント以上の伸びをみせている。学部別にみて平均と異なる傾向を見せているのが、特薦等における仏教学科で「わかりやすかった」25%、「わかりにくかった」50%、「どちらともいえない」25%という結果だった。また、歴史文化学科では「わかりにくかった」「どちらともいえない」が50%ずつであった。仏教学科は受講者8名、歴史文化学科では受講者2名という状況の中での回答のため、回答者の個人的見解が直接あらわれていることは否めないが、次年度実施に際して検討を要するといえよう。

Q1-2「提出期限について、いかがでしたか？」に対しては「適当であった」という回答

がAO選抜では89%、特薦等では87%であった。「早すぎた」は双方ともに11%という結果だった。特薦等において平均と異なる傾向があったのは3学科であり、仏教学科、歴史文化学科、現代社会学科において「適当であった」と「早すぎた」がそれぞれ50%となっている。

Q2-1「課題について、内容はどうでしたか？」に対して「適当であった」という回答がAO選抜では100%、特薦等では81%という結果であった。2009年度調査と比べて「適当であった」とする回答が大幅に増えている。平均と異なる結果であったのは5学科で、仏教学科では「難しすぎた」が100%、英米学科では「適当であった」が78%「難しすぎた」が22%、歴史学科では「適当であった」が67%、「難しすぎた」が33%、歴英文化学科では「適当であった」「難しすぎた」が50%ずつ、臨床心理学科は「適当だった」が75%「難しすぎた」が25%という結果だった。

Q3-1「添削等の内容について、満足しましたか？」に対しては「満足した」という回答がAO選抜では75%、特薦等では82%であった。2008年度調査ではAO選抜が90%、特薦等が85%、2009年度調査ではAO選抜が80%、特薦等が81%であったのと比較すると、AO選抜での満足度がさがり、特薦等ではほぼ横ばいであることがわかる。この問いに「満足していない」という回答があるのは英米学科の11%、歴史学科の33%、現代社会学科の16%であった。

また、Q3-2「返却時期について、いかがでしたか？」については「適当であった」という回答がAO選抜では100%、特薦等では94%であったが、「遅すぎた」という回答も6%あった。学科別で「遅すぎた」という回答がやや高いのは、仏教学科の25%、日本文学科の20%、英米学科の11%、現代社会学科17%であった。

Q4-1「レポート作成コースを受けて、大学の授業に関心が持てましたか？」については「持てた」という回答がAO選抜では78%、特薦等では73%、「持てなかった」はAO選抜では0%、特薦等では3%、「どちらともいえない」がAO選抜で22%、特薦等では24%であった。「持てなかった」「どちらともいえない」が平均よりやや多かったのは次の7学科である。仏教学科は「持てた」75%、「持てなかった」25%、日本文学科は「持てた」60%、「持てなかった」20%、「どちらともいえない」20%、英米学科は「持てた」67%、「どちらともいえない」33%、歴史文化学科は「どちらともいえない」100%、臨床心理学科は「持てた」50%、「どちらともいえない」50%、現代社会学科・公共政策学科が共に「持てた」67%「どちらともいえない」33%という結果であった。

最後のQ4-2「レポート作成コースは大学の授業に役立つと思いましたか？」に対して「思った」という回答はAO選抜で100%、特薦等では84%であった。肯定する回答がやや低いのは、仏教学科の「思った」75%、「思わなかった」25%、英米学科「思った」67%「どちらともいえない」33%、臨床心理学科「思った」75%、「どちらともいえない」25%、現代社会学科・公共政策学科が共に「思った」67%「どちらともいえない」33%という結果であった。

以上のように、個別にみるとやや課題の残る回答もみられたが、全体的には概ね肯定的な回答であったといえよう。何より、Q1-1・Q2-1等の課題の出題形式や内容にわかりにくさ、難しさを感じるがあったとしても、高校までの授業内容との違いにより、そう認識する受講生がいることは想像しうることである。回答者が具体的に何に問題を感じて

いるのかを検討する為には、巻末の自由回答をみて見る事が有益であろう。以下、原文のまま抜粋してみる。

### < AO 選抜 >

文学部

#### 【英米学科】

- ・もう少し課題を増やしてほしいです。

教育学部

#### 【教育学科】

- ・添削に「ここは～したほうがよい」等が書かれてなく、果たしてこのレポートが良かったのか悪かったのか分からなかったので、5段階ぐらいの評定が欲しい。
- ・指定したいくつかの本の中から選んでレポートを書くのであればもう少し時間にゆとりを持って書けたと思います。本を選ぶだけでもけっこうな時間を費やしたから。

社会学部

#### 【公共政策学科】

- ・添削していただき、ありがとうございました。もっと、本の内容を入れて添削していただいたら、良かったかなと思いました。

社会福祉学部

#### 【社会福祉学科】

- ・特にありません。授業体験とても良かったです。大学の授業に関心、興味が持てました。
- ・入学前教育は大変、有意義であり、勉強になりました。

### < 特薦等 >

文学部

#### ○日本文学科

- ・入学前にどの様な勉強をしておけばよいのか、具体的に教えてほしかったです。
- ・特にありません。

#### ○英米学科

- ・もう少しわかりやすく解答してほしかった。
- ・大学の授業ではどんなレポートを書いたりするのか、テストはどのような形式なのか、などの課題を出して欲しかったです。
- ・もっと宿題的なものが多ければいいと思います

#### ○臨床心理学科

- ・問題が習っていない部分でわからなかったので、学校の先生に教えてもらいました。知らなかった

事をこの機会に学べて良かった反面、大学での授業についていけるかどうか少し心配になりました。  
・間違えてる解答の答えも知りたいです。ご丁寧に添削して頂きありがとうございました。大学での授業内容が少しわかり良かったです。

#### 【社会福祉学部】

##### ○社会福祉学科

- ・内容も量も適当でありよかったですと思います。
- ・特にありません。

#### 【保健医療技術学部】

##### ○理学療法学科

- ・レポートなどの知識面での課題だけでなく学力面での数式や化学式などを使う課題があってもいいと思いました。

回答者は入学前教育(レポート作成コース)に対して、異なる二つの内容を要求している。すなわち、ひとつは大学における授業内容・方法等についての内容に関わるもの(特薦等の日本分学科・英米学科等)であり、もうひとつは高校までの学習のリメディアルとしての学習内容に関わるもの(特薦等の臨床心理学科・理学療法学科等)である。回答者が要求するものと、本コースにおいて提供しているものとにギャップを感じる場合に改善要求が表明されると考えられるため、本コースにおけるレポート作成課題が何のために出題されているのかを正しく理解した上で取り組んでもらえるための工夫が必要であるということであろう。次年度にむけての検討課題としたい。

また、添削に対するコメント(AO選抜教育学科・公共政策学科等)を読むと、高校までの授業における作文添削のような内容を期待するものと、内容に踏み込んでの添削内容を期待しているものとに分かれているのがわかる。更に評価についても5段階評価等の具体的なものを求めていることが理解できる。以上のようなことも含めて、本コースの位置づけ、内容、指導方法、評価基準等についても検討することが必要だといえるであろう。

#### 4-3 授業体験コース受講者アンケートについて

Q1-1「授業体験コースに参加した目的は何ですか?」という問いに対しては、「大学の雰囲気を知るため」24%、「大学での授業内容を知るため」23%、「友人をつくるため」10%が上位3位となっている。この傾向は2008年度・2009年度調査から変わっておらず、今回の入試種別、学部別でも共通している。単に「自宅が大学に近かったため」(2%)や「特に具体的な目的はない」(2%)というような回答はほとんどなく、多くの受講生が目的意識をもって参加しているといえるであろう。

Q2の内容を問う質問に対しても概ね良好な回答がよせられている。それぞれ「わかりやすかった」という回答は①「自校教育」で82%、②「各学部ガイダンス」で89%、③「午前の体験授業」で84%、④「午後の体験授業」89%となっている。これも入試種別、学部別でもほぼ共通する傾向を示している。多くの受講生は満足していると評価してよいで



あろう。

Q3は4問設定されている。Q3-1「大学生になるのに不安を感じていましたか？」に対しては「感じていた」58%、「感じていなかった」17%、「どちらともいえない」25%との回答であった。

2008年度調査では、「感じていた」69%、「感じていなかった」13%、「どちらともいえない」18%、2009年度調査では「感じていた」65%、「感じていなかった」15%、「どちらともいえない」20%であるのと比較してみると、「感じていた」が減少しているが、「感じていなかった」はほぼ同じ、「どちらともいえない」が昨年度比10ポイント増となっている。

今年度においては、入試種別で比較してもほとんど同じ傾向が示されているが、学部別にみると社会福祉学部において不安を「感じていた」が74%とやや多い。他方で不安を「感じていた」回答が少ないのが、仏教学部25%、歴史学部50%となっている。

Q3-1で「感じていた」回答のみに設定されたQ3-2では「(授業体験コースを受講して)大学生になる不安は少なくなりましたか？」とたずねている。これに対しては「不安は全くなくなった」15%「不安はなくならなかった」22%「どちらともいえない」63%という回答であった。2008年度個調査では「不安は全くなくなった」21%、「不安はなくならなかった」17%、「どちらともいえない」62%、2009年度調査では「不安は全くなくなった」20%、「不安はなくならなかった」20%、「どちらともいえない」60%であった。ほぼ例年通りの回答であったといえるが、「不安は全くなくなった」が5ポイントほど減少し、「不安はなくならなかった」が微増している。

今年度においては、入試種別での違いはほとんどみられないが、学部別にみるとやや異なっている。社会福祉学部においては、先の質問での大学入学への不安が平均より16ポイントほど高かったが、受講後に「不安は全くなくなった」の回答が32%と平均より17ポイント高くなっている。他方、教育学部においては「不安は全くなくなった」は0%、「不安はなくならなかった」50%、「どちらともいえない」50%という結果であった。社会学部でも「不安は全くなくなった」9%、「不安はなくならなかった」9%、「どちらともいえない」82%となっている。

Q3-3の「授業体験コースを受けて、大学の授業に関心を持ってましたか？」に対しては、「持てた」85%、「持てなかった」1%、「どちらともいえない」14%との回答であった。レポート作成コースに比しても明らかに関心度が高まったと評価できるであろう。2008年度調査ではそれぞれ、84%、1%、15%、2009年度では82%、2%、16%であり、例年とほぼ同様に大学に対する期待感を高めるために非常に有益であることが示されている。

入試種別で比較しても、ほぼ同じ傾向が示されているが、学部別にみると社会学部において関心を「持てた」70%「持てなかった」3%「どちらともいえない」27%となっており、関心を「持てた」という回答が平均より15ポイント低いことがわかる。

Q3-4の「授業体験コースは大学の授業に役立つと思えましたか？」に対する回答は「思った」89%、「思わなかった」1%、「どちらともいえない」10%であった。2008年度調査では、それぞれ82%、1%、17%、2009年度調査では80%、1%、19%であり、例年以上に役立つという回答が多かったといえる。

入試種別での違いは明らかでないが、学部別では少し違いが指摘できる。役に立つと

「思った」の回答がやや少ない歴史学部は71%、「思わなかった」は0%であるが、「どちらともいえない」が29%。社会学部は「思った」が79%、「思わなかった」3%、「どちらともいえない」が18%であった。

調査の最後に受講後の感想と授業体験コースでやってほしかった内容についての自由記述欄を設けた。その全文は巻末資料にまとめてあるが、そのうちのごく一部だけを紹介しておきたい。受講生が評価してくれた点についてはそのまま受けとめればよいであろうが、何らかの要望、不満点等については、次年度の取り組みを検討する際の大切な材料になるからである。

不安の解消(Q3-2)、関心度の高まり(Q3-3)、入学前教育の有効性(Q3-4)に対して、肯定的回答が全体の傾向と比べやや少なかった歴史学部、教育学部、社会学部における自由記述の内容からそのてがかりをみつけてみたい。

#### ○授業後の感想

##### 【歴史学科】

- ・少し、難しいなと思った。でも、色々な歴史を勉強した上で大学でも教えてもらい深く歴史のことをしりたいと思った。
- ・難しそうだと思ったけど、これから勉強しようと思います！
- ・難しすぎていまいちわからなかった。

##### 【教育学科】

- ・大学の難しさを体験できた。春休みの大事さを知ることができてよかったと思う。
- ・いろいろな先生の話しをきかせていただいて、もっと気をひきしめて大学生になるべきだと思いました。実習たのしかったです。
- ・自分で何事も考えていかなければならないといけないので難しいことだなと思いました。
- ・4月の大学入学までの残りの日数をイギあるものにしなければいけないと思った。
- ・4月の授業が楽しみですが、不安でもあります。
- ・大学での雰囲気がつかめて良かった。気持ちを引き締めて入学式を迎えたいと思いました。

##### 【臨床心理学科】

- ・予想していた通りの雰囲気でした。でも思ったより大学は大変そうです。
- ・大学生活に向けての気持ちや準備などについて知れてよかった。

##### 【現代社会学科】

- ・ダイナミックさに欠けるものがあつた。今までの学校生活では学ぶことの出来なかつたことが学べると思い、希望にみちています。

##### 【公共政策学科】

- ・こんな感じなんだなと思った。在校生の人の話を聞いてためになる事が少しはあつた。
- ・時間が長かつた。

○授業体験コースで実施してほしかったこと

**【現代社会学科】**

- ・アクロバット、サークル紹介（くわしく）。
- ・部活動、サークルについて聞く場を設けて欲しかった。

**【公共政策学科】**

- ・サークルの紹介。
- ・授業もいいが、政治家の講演などでも良かったんじゃないかなと思った。
- ・もっとみんなと交流ができるようなことがあったらいいなと思いました。（ゲームとか）
- ・もっと友達づくりをしたかったのですが、きっかけがあまりなく、うまくいきませんでした。なので、そういう機会をどんどん増やしていった方が（増やしてもらえたら）と思います。

自由記述の内容をみると、授業の難しさや、大学生活への不安感はずしもマイナスなものではなく、更なる学習の必要性を感じさせるものであることがわかる。他方で、多様な受講生がいることを前提に授業を展開することも必要であり、何より授業体験コースの位置づけやねらいを受講生に明確に伝えると同時に、担当者もそれを意識した展開ができるようにするためにも、全学としての方針を再度共有することが重要であるといえよう。

## 5. おわりに

以上、みてきたように2010年度入試における入学前教育は受講生の全体的増加、事後の受講生からの評価共に概ね良好であったと評価することができる。他方で、過去2回から積み残してきた課題としては、レポート作成コースと授業体験コースの棲み分け、それぞれにおけるプログラムの内容・方法についての検討の必要性が指摘できよう。

レポート作成コースでは、実施時期との関係もあるが、受講生も高校教育のリメディアルを求めている傾向が強く、おそらくそれを意識した内容・方法に移行していくことが有効であると考えられる。その意味では、必ずしも学部教員によるレポート課題の提示と添削指導という形態・内容である必要はないであろう。初年度に行ったように外部機関に委託して、4月1日からスムーズに大学生として学べるための補習をじっくり実施することも一案である。また、これまで同様に学部教員によるレポート課題の提示を行う際にも、添削においては高校での授業課題と同様に、より具体的に内容に踏み込んだ添削とし、評価も明確にすることが求められているため、実施体制を再検討する必要があるだろう。

他方、授業体験コースでは、アンケート結果にも明らかのように、受講生は「佛教大学を知る」、「佛教大学での授業内容を知る」、そして「仲間をつくる」ことを目的にしている。現状でも概ねこの期待に応えている内容・方法にはいるが、そうであればこそ、受講を任意にしておくことの是非、一般入試による入学手続き完了者への対象拡大の是非等についても議論をしていく必要があるように思われる。学生の為の大学を創造していく上での第1歩として、今後も入学前教育の在り方を更に検討していくべきであると考えられる。

# 入学前教育 アンケート集計結果

## レポート作成コース アンケート集計 AO 選抜

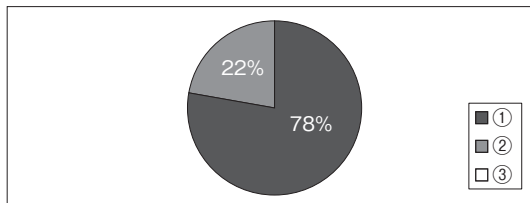
受講者数 11人 | 回答者数 9人 | 回答率 81.8%

### Q1 実施方法について

Q1-1. 今回のレポート課題の出題形式（論述・要約など）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	7
②	わかりにくかった	2
③	どちらともいえない	0

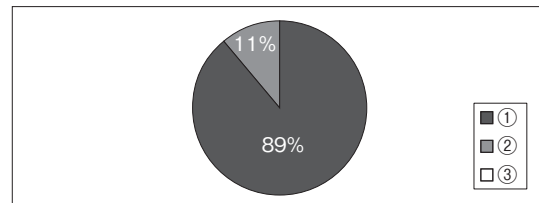
総回答者数 9



Q1-2. 提出期限について、いかがでしたか？

①	適当であった	8
②	早すぎた	1
③	遅すぎた	0

総回答者数 9



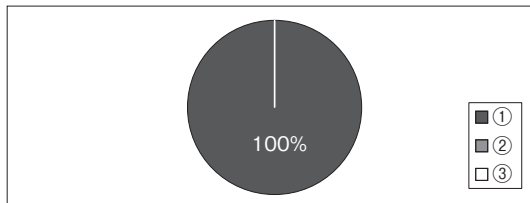
### Q2 課題について

Q2-1. 課題について、内容はどうか？

#### 第1 課題

①	適当であった	8
②	簡単すぎた	0
③	難しすぎた	0

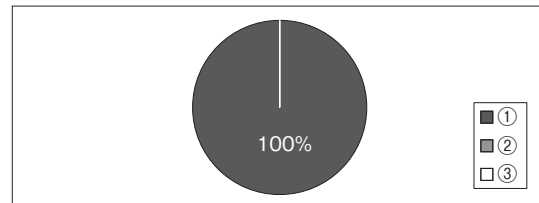
総回答者数 8



#### 第2 課題（英米学科・社会福祉学科のみ回答）

①	適当であった	4
②	簡単すぎた	0
③	難しすぎた	0

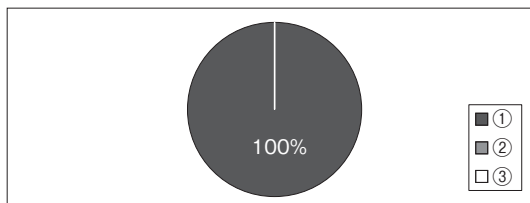
総回答者数 4



第3 課題（英米学科の場合は電話インタビューについて回答してください）

①	適当であった	4
②	簡単すぎた	0
③	難しすぎた	0

総回答者数 4



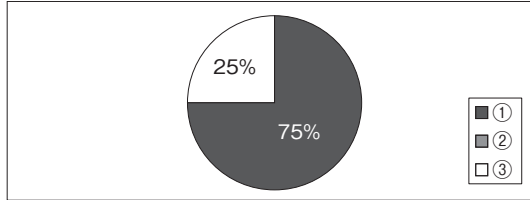
Q3 添削等について

Q3-1. 添削等の内容について、満足しましたか？

第1 課題

①	満足した	6
②	満足しなかった	0
③	どちらともいえない	2

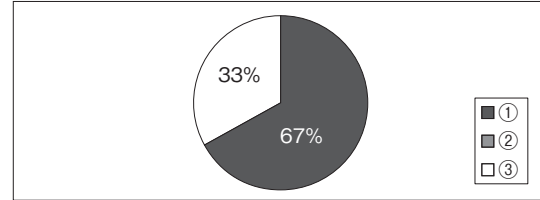
総回答者数 8



第2 課題（英米学科・社会福祉学科のみ回答してください）

①	満足した	2
②	満足しなかった	0
③	どちらともいえない	1

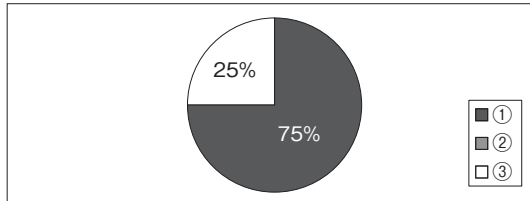
総回答者数 3



第3 課題（英米学科の場合は電話インタビューについて回答してください）

①	適当であった	3
②	簡単すぎた	0
③	難しすぎた	1

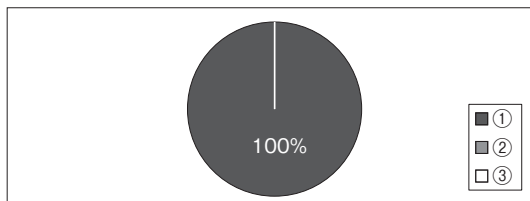
総回答者数 4



Q3-2. 添削等の返却の時期について、いかがでしたか？

①	適当であった	9
②	早すぎた	0
③	遅すぎた	0

総回答者数 9

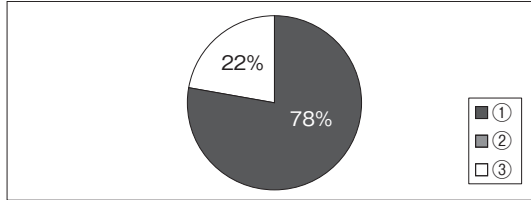


**Q4 入学前教育（レポート作成コース）について**

Q4-1. 入学前教育（レポート作成コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	7
②	持てなかった	0
③	どちらともいえない	2

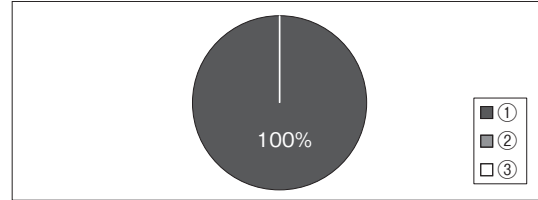
総回答者数 9



Q4-2. 入学前教育（レポート作成コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	9
②	思わなかった	0
③	どちらともいえない	0

総回答者数 9



**Q5 入学前教育で実施してほしいこと（解答方法、課題内容など）**

文学部

【英米学科】

・もう少し課題を増やしてほしいです。

教育学部

【教育学科】

・添削に「ここは～したほうがよい」等が書かれてなく、果たしてこのレポートが良かったのか悪かったのか分からなかったの、5段階ぐらいの評定が欲しい。  
 ・指定したいくつかの本の中から選んでレポートを書くのであればもう少し時間にゆとりを持って書けたと思います。本を選ぶだけでもけっこうな時間を費やしたから。

社会学部

【公共政策学科】

・添削していただき、ありがとうございました。もっと、本の内容を入れて添削していただいたら、良かったかなと思いました。

社会福祉学部

【社会福祉学科】

・特にありません。授業体験とても良かったです。大学の授業に関心、興味が持てました。  
 ・入学前教育は大変、有意義であり、勉強になりました。

保健医療技術学部

【理学療法学科】

記述なし

【作業療法学科】

記述なし

**レポート作成コース アンケート集計**  
**特別推薦・同窓・帰国生徒・宗門後継者【全学部総計】**

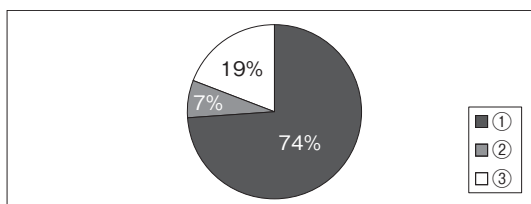
受講者数 91人    回答者数 62人    回答率 68.1%

**Q1 実施方法について**

Q1-1. 今回のレポート課題の出題形式（論述・要約など）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	46
②	わかりにくかった	4
③	どちらともいえない	12

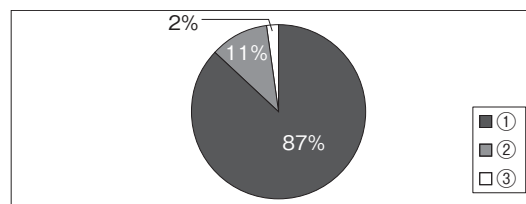
総回答者数 62



Q1-2. 提出期限について、いかがでしたか？

①	適当であった	54
②	早すぎた	7
③	遅すぎた	1

総回答者数 62

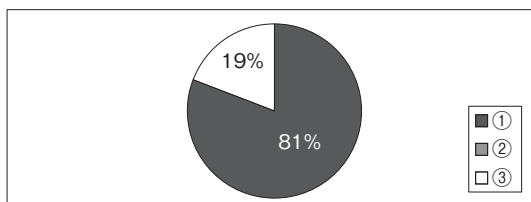


**Q2 課題について**

Q2-1. 課題について、内容はどうか？

①	適当であった	50
②	簡単すぎた	0
③	難しすぎた	12

総回答者数 62

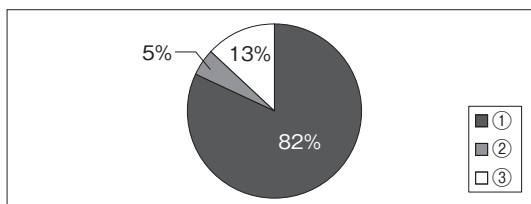


**Q3 添削等について**

Q3-1. 添削等の内容について、満足しましたか？

①	満足した	51
②	満足しなかった	3
③	どちらともいえない	8

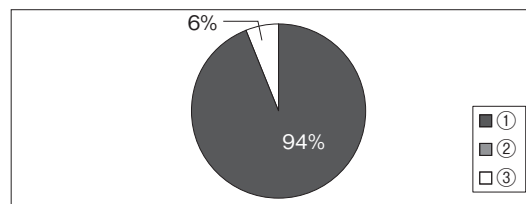
総回答者数 62



Q3-2. 添削等の返却の時期について、いかがでしたか？

①	適当であった	58
②	早すぎた	0
③	遅すぎた	4

総回答者数 62

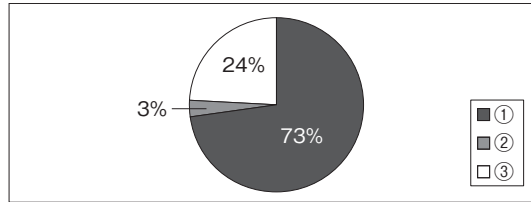


**Q4 入学前教育（レポート作成コース）について**

Q4-1. 入学前教育（レポート作成コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	45
②	持てなかった	2
③	どちらともいえない	15

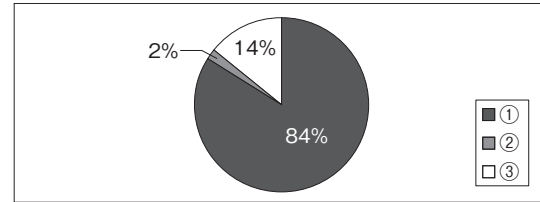
総回答者数 62



Q4-2. 入学前教育（レポート作成コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	52
②	思わなかった	1
③	どちらともいえない	9

総回答者数 62



**Q5 入学前教育で実施してほしいこと（解答方法、課題内容など）**

仏教学部

【仏教学科】

記述なし

文学部

【日本文学科】

・入学前にどのような勉強をしておけばよいのか、具体的に教えてほしいです。

【英米学科】

- ・もう少しわかりやすく解答してほしい。
- ・大学の授業ではどんなレポートを書いたりするのか、テストはどのような形式なのか、などの課題を出して欲しいです。
- ・もっと宿題的なものが多い方がいいと思います。

※中国学科の受講者なし

歴史学部

記述なし

教育学部

【教育学科】

記述なし

【臨床心理学科】

- ・問題が習っていない部分でわからなかったため、学校の先生に教えてもらいました。知らなかった事をこの機会に学べて良かった反面、大学での授業についていけるかどうか少し心配になりました。
- ・間違えてる解答の答えも知りたいです。ご丁寧に添削して頂きありがとうございました。大学での授業内容が少しわかり良かったです。

社会学部

記述なし

社会福祉学部

【社会福祉学科】

- ・内容も量も適当でありよかったですと思います。
- ・特にありません。

保健医療技術学部

【理学療法学科】

- ・レポートなどの知識面での課題だけでなく学力面での数式や化学式などを使う課題があってもいいと思いました。

※作業療法学科の受講者なし



## レポート作成コース アンケート集計 宗門後継者【仏教学部】

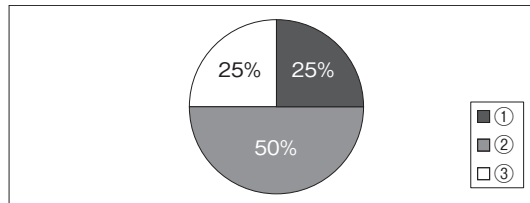
受講者数	8人	回答者数	4人
		回答率	50.0%

### Q1 実施方法について

Q1-1. 今回のレポート課題の出題形式（論述・要約など）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	1
②	わかりにくかった	2
③	どちらともいえない	1

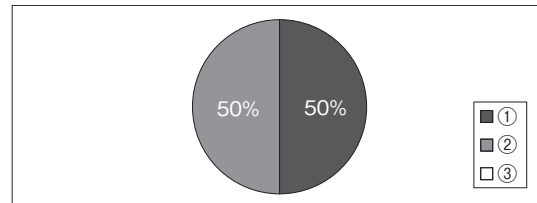
総回答者数 4



Q1-2. 提出期限について、いかがでしたか？

①	適当であった	2
②	早すぎた	2
③	遅すぎた	0

総回答者数 4

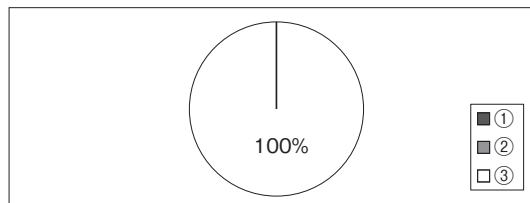


### Q2 課題について

Q2-1. 課題について、内容はどうか？

①	適当であった	0
②	簡単すぎた	0
③	難しすぎた	4

総回答者数 4

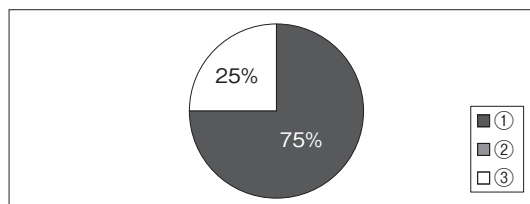


### Q3 添削等について

Q3-1. 添削等の内容について、満足しましたか？

①	満足した	3
②	満足しなかった	0
③	どちらともいえない	1

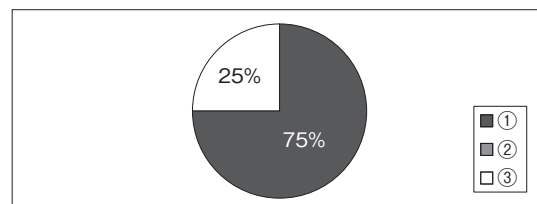
総回答者数 4



Q3-2. 添削等の返却の時期について、いかがでしたか？

①	適当であった	3
②	早すぎた	0
③	遅すぎた	1

総回答者数 4

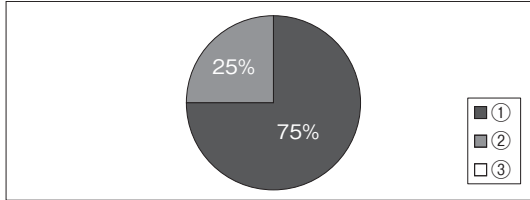


Q4 入学前教育（レポート作成コース）について

Q4-1. 入学前教育（レポート作成コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	3
②	持てなかった	1
③	どちらともいえない	0

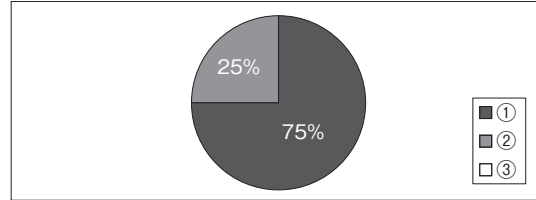
総回答者数 4



Q4-2. 入学前教育（レポート作成コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	3
②	思わなかった	1
③	どちらともいえない	0

総回答者数 4



Q5 入学前教育で実施してほしかった事（解答方法、課題内容など）

※記述なし

レポート作成コース アンケート集計  
特別推薦・同窓・帰国生徒【文学部】

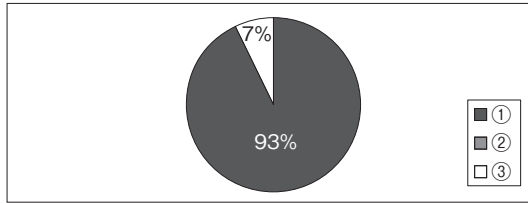
受講者数	15人	回答者数	14人	回答率	93.3%
------	-----	------	-----	-----	-------

Q1 実施方法について

Q1-1. 今回のレポート課題の出題形式（論述・要約など）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	13
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	1

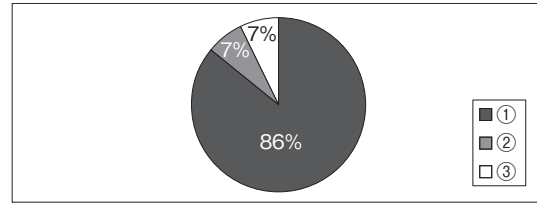
総回答者数 14



Q1-2. 提出期限について、いかがでしたか？

①	適当であった	12
②	早すぎた	1
③	遅すぎた	1

総回答者数 14

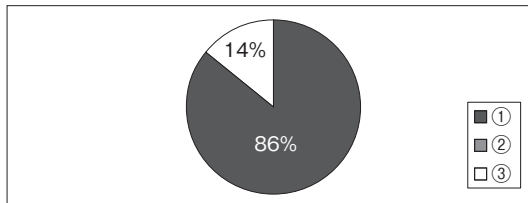


Q2 課題について

Q2-1. 課題について、内容はどうでしたか？

①	適当であった	12
②	簡単すぎた	0
③	難しすぎた	2

総回答者数 14

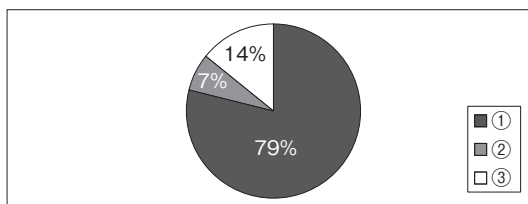


Q3 添削等について

Q3-1. 添削等の内容について、満足しましたか？

①	満足した	11
②	満足しなかった	1
③	どちらともいえない	2

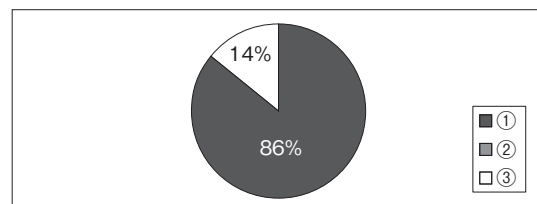
総回答者数 14



Q3-2. 添削等の返却の時期について、いかがでしたか？

①	適当であった	12
②	早すぎた	0
③	遅すぎた	2

総回答者数 14

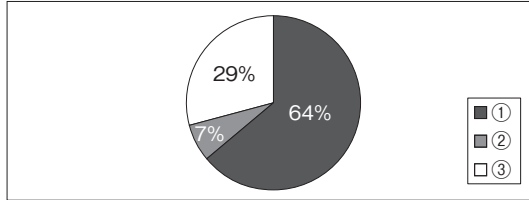


Q4 入学前教育（レポート作成コース）について

Q4-1. 入学前教育（レポート作成コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	9
②	持てなかった	1
③	どちらともいえない	4

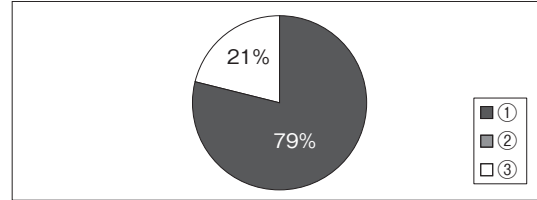
総回答者数 14



Q4-2. 入学前教育（レポート作成コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	11
②	思わなかった	0
③	どちらともいえない	3

総回答者数 14



Q5 入学前教育で実施してほしかった事（解答方法、課題内容など）

【日本文学科】

- ・入学前にどのような勉強をしておけばよいのか、具体的に教えてほしかったです。
- ・特にありません。

【英米学科】

- ・もう少しわかりやすく解答してほしかった。
- ・大学の授業ではどんなレポートを書いたりするのか、テストはどのような形式なのか、などの課題を出して欲しかったです。
- ・もっと宿題的なものが多ければいいと思います。

※中国学科の受講者なし

レポート作成コース アンケート集計  
特別推薦・同窓・帰国生徒【日本文学科】

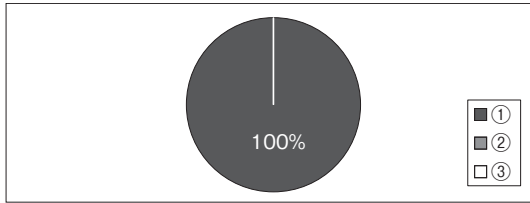
受講者数	5人	回答者数	5人	回答率	100.0%
------	----	------	----	-----	--------

Q1 実施方法について

Q1-1. 今回のレポート課題の出題形式（論述・要約など）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	5
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	0

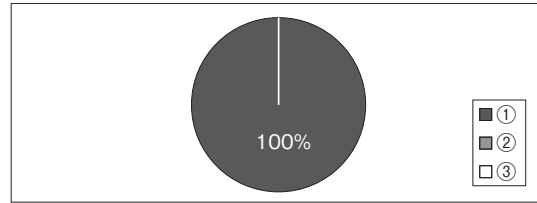
総回答者数 5



Q1-2. 提出期限について、いかがでしたか？

①	適当であった	5
②	早すぎた	0
③	遅すぎた	0

総回答者数 5

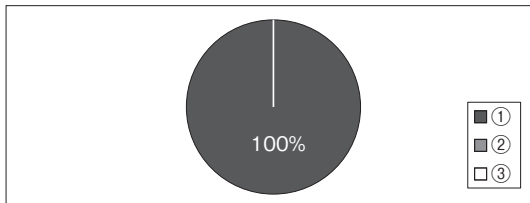


Q2 課題について

Q2-1. 課題について、内容はどうか？

①	適当であった	5
②	簡単すぎた	0
③	難しすぎた	0

総回答者数 5

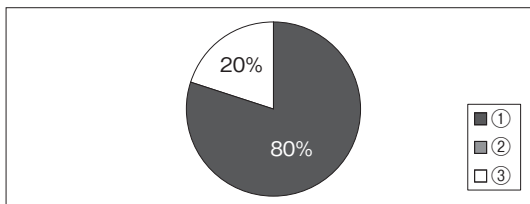


Q3 添削等について

Q3-1. 添削等の内容について、満足しましたか？

①	満足した	4
②	満足しなかった	0
③	どちらともいえない	1

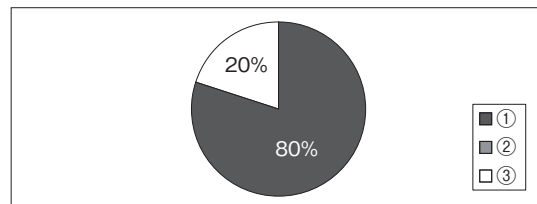
総回答者数 5



Q3-2. 添削等の返却の時期について、いかがでしたか？

①	適当であった	4
②	早すぎた	0
③	遅すぎた	1

総回答者数 5

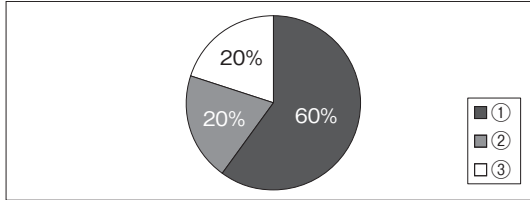


Q4 入学前教育（レポート作成コース）について

Q4-1. 入学前教育（レポート作成コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	3
②	持てなかった	1
③	どちらともいえない	1

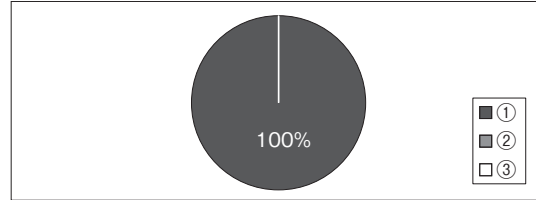
総回答者数 5



Q4-2. 入学前教育（レポート作成コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	5
②	思わなかった	0
③	どちらともいえない	0

総回答者数 5



Q5 入学前教育で実施してほしかった事（解答方法、課題内容など）

- ・入学前にどのような勉強をしておけばよいのか、具体的に教えてほしかったです。
- ・特にありません。

レポート作成コース アンケート集計  
特別推薦・同窓・帰国生徒・【英米学科】

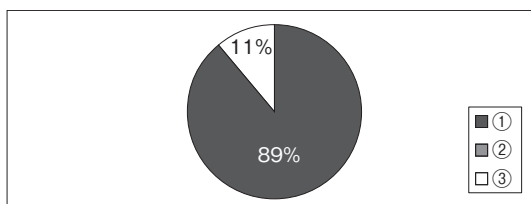
受講者数	10人	回答者数	9人	回答率	90.0%
------	-----	------	----	-----	-------

Q1 実施方法について

Q1-1. 今回のレポート課題の出題形式（論述・要約など）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	8
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	1

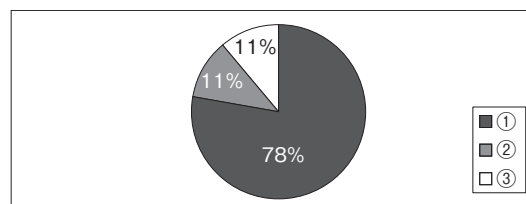
総回答者数 9



Q1-2. 提出期限について、いかがでしたか？

①	適当であった	7
②	早すぎた	1
③	遅すぎた	1

総回答者数 9

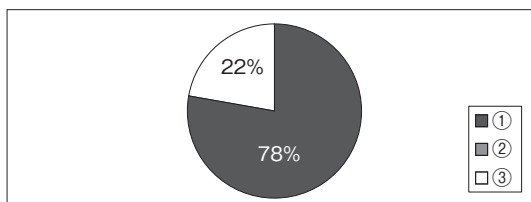


Q2 課題について

Q2-1. 課題について、内容はどうか？

①	適当であった	7
②	簡単すぎた	0
③	難しすぎた	2

総回答者数 9

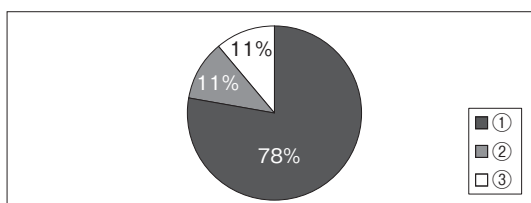


Q3 添削等について

Q3-1. 添削等の内容について、満足しましたか？

①	満足した	7
②	満足しなかった	1
③	どちらともいえない	1

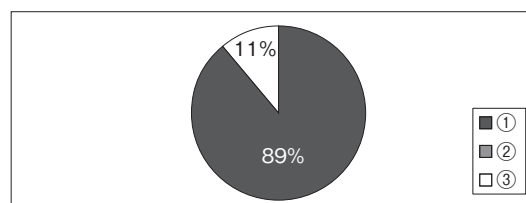
総回答者数 9



Q3-2. 添削等の返却の時期について、いかがでしたか？

①	適当であった	8
②	早すぎた	0
③	遅すぎた	1

総回答者数 9

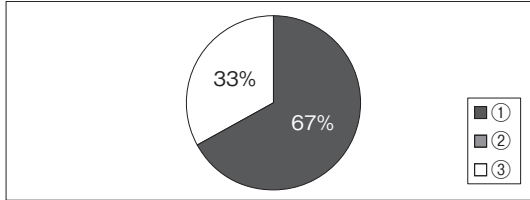


Q4 入学前教育（レポート作成コース）について

Q4-1. 入学前教育（レポート作成コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	6
②	持てなかった	0
③	どちらともいえない	3

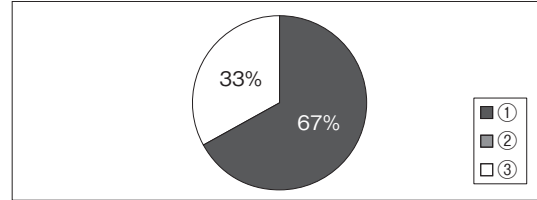
総回答者数 9



Q4-2. 入学前教育（レポート作成コース）は、大学の授業に役立つと思えましたか？

①	思った	6
②	思わなかった	0
③	どちらともいえない	3

総回答者数 9



Q5 入学前教育で実施してほしかった事（解答方法、課題内容など）

- ・もう少しわかりやすく解答してほしかった。
- ・大学の授業ではどんなレポートを書いたりするのか、テストはどのような形式なのか、などの課題を出して欲しかったです。
- ・もっと宿題的なものが多ければいいと思います



レポート作成コース アンケート集計  
特別推薦・同窓・帰国生徒【歴史学部】

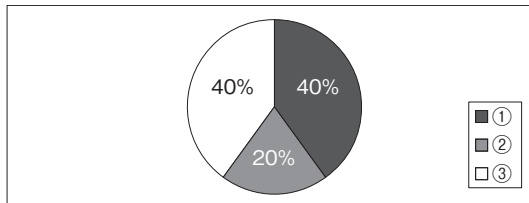
受講者数 8人 回答者数 5人 回答率 62.5%

Q1 実施方法について

Q1-1. 今回のレポート課題の出題形式（論述・要約など）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	2
②	わかりにくかった	1
③	どちらともいえない	2

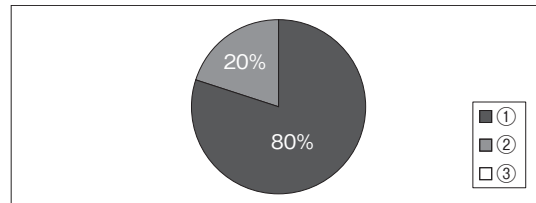
総回答者数 5



Q1-2. 提出期限について、いかがでしたか？

①	適当であった	4
②	早すぎた	1
③	遅すぎた	0

総回答者数 5

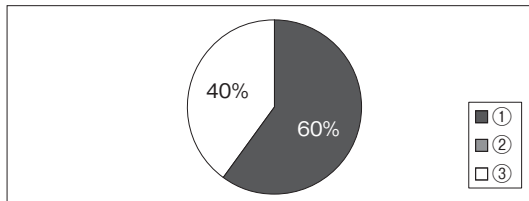


Q2 課題について

Q2-1. 課題について、内容はどうか？

①	適当であった	3
②	簡単すぎた	0
③	難しすぎた	2

総回答者数 5

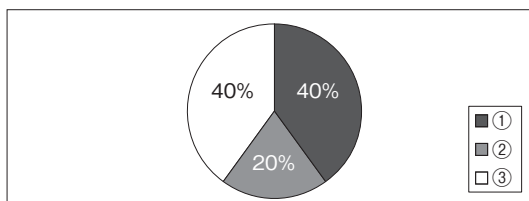


Q3 添削等について

Q3-1. 添削等の内容について、満足しましたか？

①	満足した	2
②	満足しなかった	1
③	どちらともいえない	2

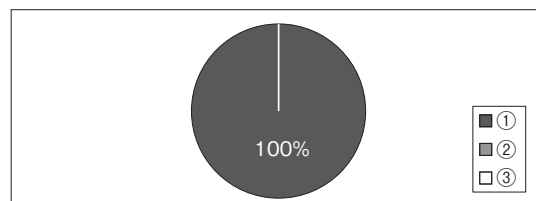
総回答者数 5



Q3-2. 添削等の返却の時期について、いかがでしたか？

①	適当であった	5
②	早すぎた	0
③	遅すぎた	0

総回答者数 5

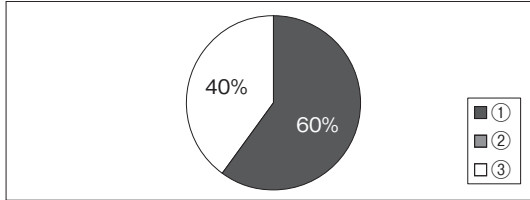


Q4 入学前教育（レポート作成コース）について

Q4-1. 入学前教育（レポート作成コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	3
②	持てなかった	0
③	どちらともいえない	2

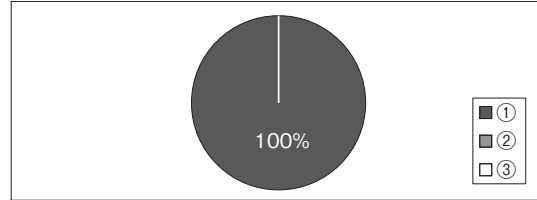
総回答者数 5



Q4-2. 入学前教育（レポート作成コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	5
②	思わなかった	0
③	どちらともいえない	0

総回答者数 5



Q5 入学前教育で実施してほしかった事（解答方法、課題内容など）

※記述なし。

レポート作成コース アンケート集計  
特別推薦・同窓・帰国生徒【歴史学科】

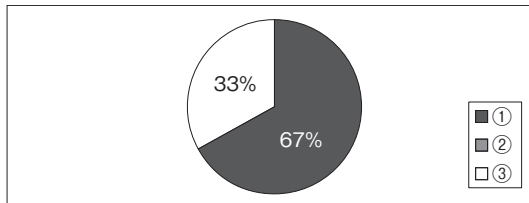
受講者数	6人	回答者数	3人	回答率	50.0%
------	----	------	----	-----	-------

Q1 実施方法について

Q1-1. 今回のレポート課題の出題形式（論述・要約など）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	2
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	1

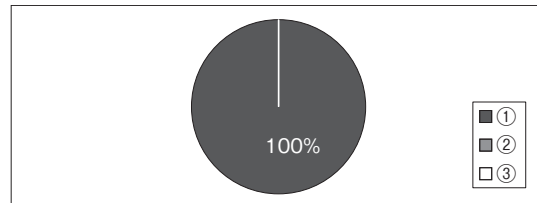
総回答者数 3



Q1-2. 提出期限について、いかがでしたか？

①	適当であった	3
②	早すぎた	0
③	遅すぎた	0

総回答者数 3

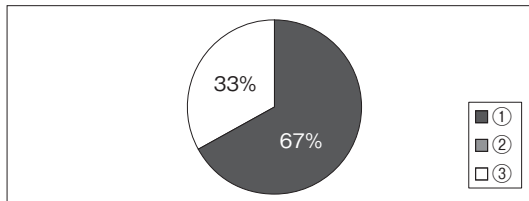


Q2 課題について

Q2-1. 課題について、内容はどうか？

①	適当であった	2
②	簡単すぎた	0
③	難しすぎた	1

総回答者数 3

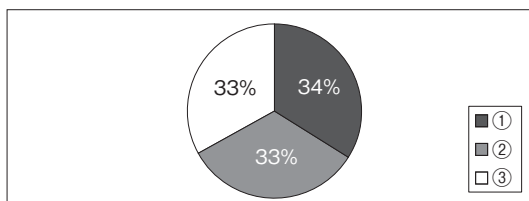


Q3 添削等について

Q3-1. 添削等の内容について、満足しましたか？

①	満足した	1
②	満足しなかった	1
③	どちらともいえない	1

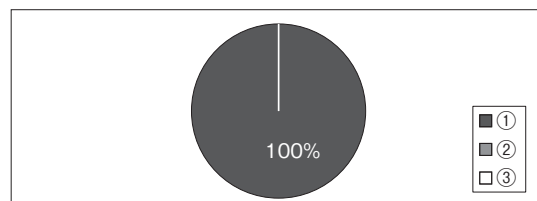
総回答者数 3



Q3-2. 添削等の返却の時期について、いかがでしたか？

①	適当であった	3
②	早すぎた	0
③	遅すぎた	0

総回答者数 3

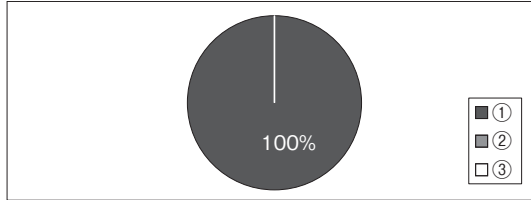


Q4 入学前教育（レポート作成コース）について

Q4-1. 入学前教育（レポート作成コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	3
②	持てなかった	0
③	どちらともいえない	0

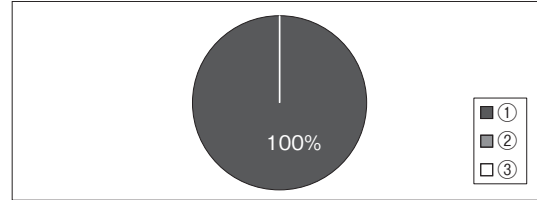
総回答者数 3



Q4-2. 入学前教育（レポート作成コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	3
②	思わなかった	0
③	どちらともいえない	0

総回答者数 3



Q5 入学前教育で実施してほしかった事（解答方法、課題内容など）

※記述なし

レポート作成コース アンケート集計  
特別推薦・同窓・帰国生徒【歴史文化学科】

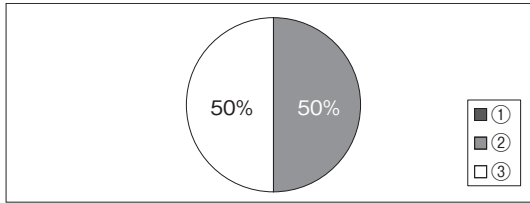
受講者数	2人	回答者数	2人	回答率	100.0%
------	----	------	----	-----	--------

Q1 実施方法について

Q1-1. 今回のレポート課題の出題形式（論述・要約など）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	0
②	わかりにくかった	1
③	どちらともいえない	1

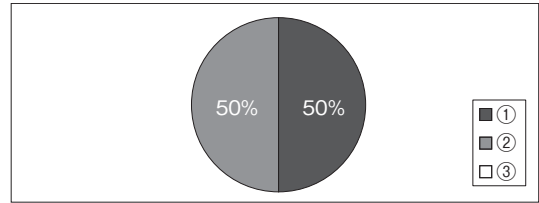
総回答者数 2



Q1-2. 提出期限について、いかがでしたか？

①	適当であった	1
②	早すぎた	1
③	遅すぎた	0

総回答者数 2

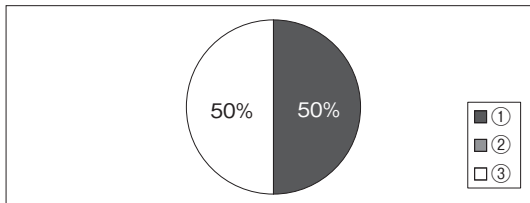


Q2 課題について

Q2-1. 課題について、内容はどうか？

①	適当であった	1
②	簡単すぎた	0
③	難しすぎた	1

総回答者数 2

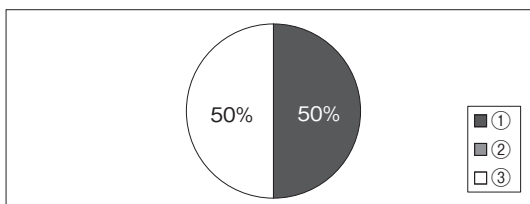


Q3 添削等について

Q3-1. 添削等の内容について、満足しましたか？

①	満足した	1
②	満足しなかった	0
③	どちらともいえない	1

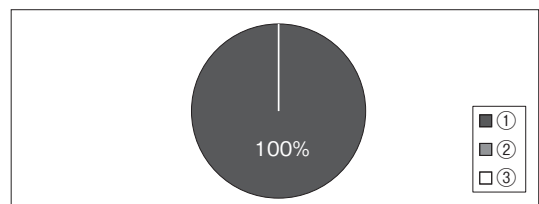
総回答者数 2



Q3-2. 添削等の返却の時期について、いかがでしたか？

①	適当であった	2
②	早すぎた	0
③	遅すぎた	0

総回答者数 2

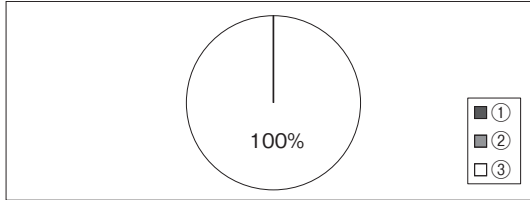


Q4 入学前教育（レポート作成コース）について

Q4-1. 入学前教育（レポート作成コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	0
②	持てなかった	0
③	どちらともいえない	2

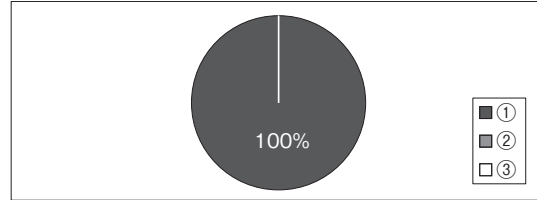
総回答者数 2



Q4-2. 入学前教育（レポート作成コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	2
②	思わなかった	0
③	どちらともいえない	0

総回答者数 2



Q5 入学前教育で実施してほしかった事（解答方法、課題内容など）

※記述なし

レポート作成コース アンケート集計  
特別推薦・同窓・帰国生徒【教育学部】

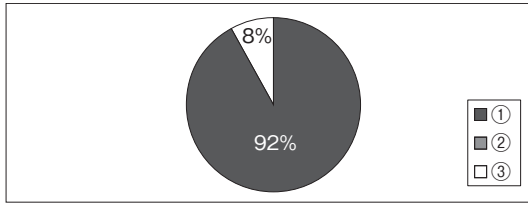
受講者数	22人	回答者数	13人	回答率	59.1%
------	-----	------	-----	-----	-------

Q1 実施方法について

Q1-1. 今回のレポート課題の出題形式（論述・要約など）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	12
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	1

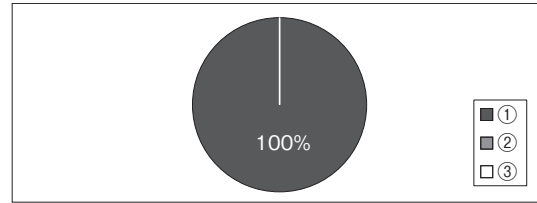
総回答者数 13



Q1-2. 提出期限について、いかがでしたか？

①	適当であった	13
②	早すぎた	0
③	遅すぎた	0

総回答者数 13

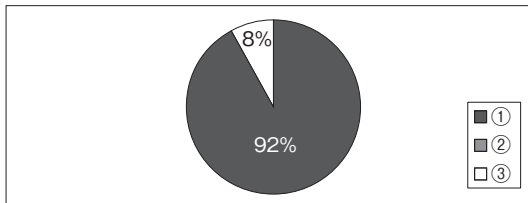


Q2 課題について

Q2-1. 課題について、内容はどうでしたか？

①	適当であった	12
②	簡単すぎた	0
③	難しすぎた	1

総回答者数 13

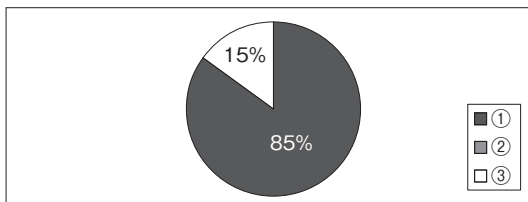


Q3 添削等について

Q3-1. 添削等の内容について、満足しましたか？

①	満足した	11
②	満足しなかった	0
③	どちらともいえない	2

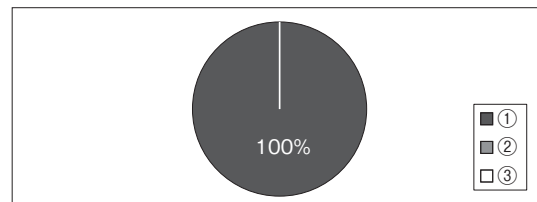
総回答者数 13



Q3-2. 添削等の返却の時期について、いかがでしたか？

①	適当であった	13
②	早すぎた	0
③	遅すぎた	0

総回答者数 13

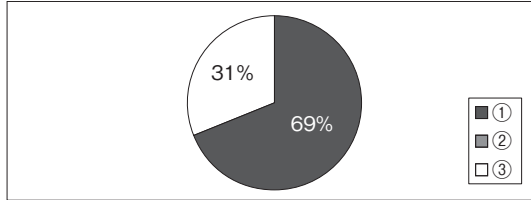


**Q4 入学前教育（レポート作成コース）について**

Q4-1. 入学前教育（レポート作成コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	9
②	持てなかった	0
③	どちらともいえない	4

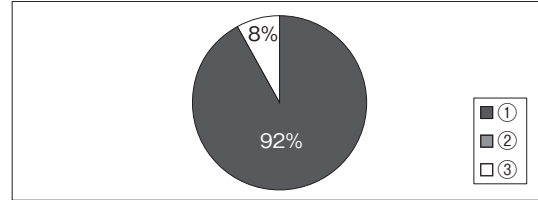
総回答者数 13



Q4-2. 入学前教育（レポート作成コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	12
②	思わなかった	0
③	どちらともいえない	1

総回答者数 13



**Q5 入学前教育で実施してほしかった事（解答方法、課題内容など）**

**【教育学科】**

記述なし

**【臨床心理学科】**

- ・問題が習っていない部分でわからなかったので、学校の先生に教えてもらいました。知らなかった事をこの機会に学べて良かった反面、大学での授業についていけるかどうか少し心配になりました。
- ・間違えてる解答の答えも知りたいです。ご丁寧に添削して頂きありがとうございました。大学での授業内容が少しわかり良かったです。



レポート作成コース アンケート集計  
特別推薦・同窓・帰国生徒【教育学科】

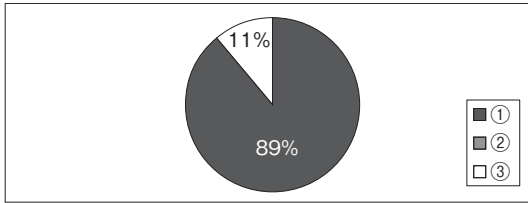
受講者数	17人	回答者数	9人	回答率	52.9%
------	-----	------	----	-----	-------

Q1 実施方法について

Q1-1. 今回のレポート課題の出題形式（論述・要約など）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	8
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	1

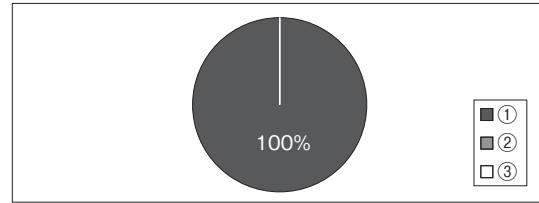
総回答者数 9



Q1-2. 提出期限について、いかがでしたか？

①	適当であった	9
②	早すぎた	0
③	遅すぎた	0

総回答者数 9

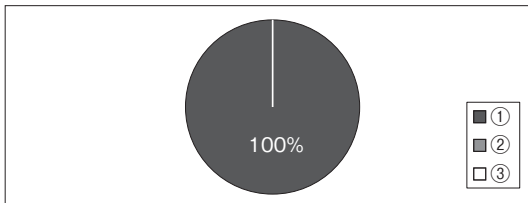


Q2 課題について

Q2-1. 課題について、内容はどうでしたか？

①	適当であった	9
②	簡単すぎた	0
③	難しすぎた	0

総回答者数 9

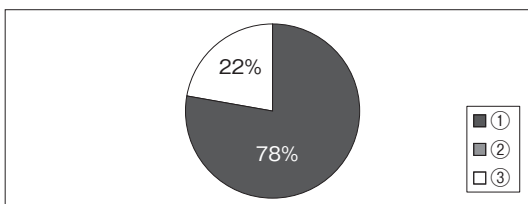


Q3 添削等について

Q3-1. 添削等の内容について、満足しましたか？

①	満足した	7
②	満足しなかった	0
③	どちらともいえない	2

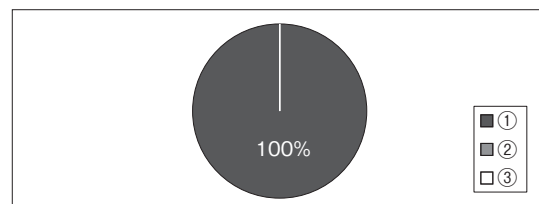
総回答者数 9



Q3-2. 添削等の返却の時期について、いかがでしたか？

①	適当であった	9
②	早すぎた	0
③	遅すぎた	0

総回答者数 9

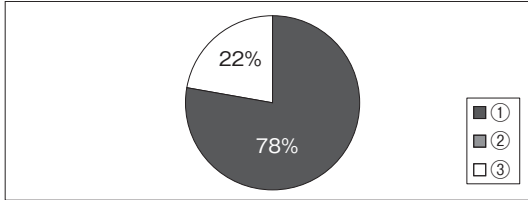


Q4 入学前教育（レポート作成コース）について

Q4-1. 入学前教育（レポート作成コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	7
②	持てなかった	0
③	どちらともいえない	2

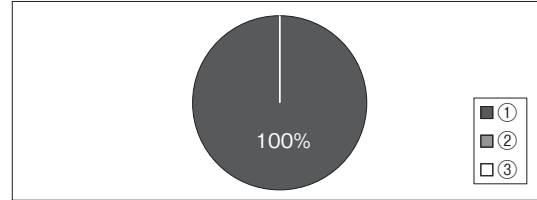
総回答者数 9



Q4-2. 入学前教育（レポート作成コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	9
②	思わなかった	0
③	どちらともいえない	0

総回答者数 9



Q5 入学前教育で実施してほしかった事（解答方法、課題内容など）

※記述なし

レポート作成コース アンケート集計  
特別推薦・同窓・帰国生徒【臨床心理学科】

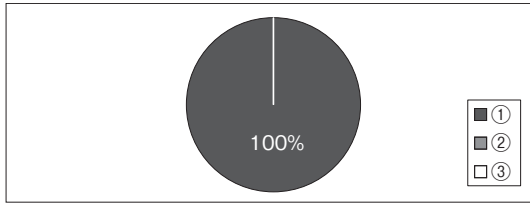
受講者数	5人	回答者数	4人	回答率	80.0%
------	----	------	----	-----	-------

Q1 実施方法について

Q1-1. 今回のレポート課題の出題形式（論述・要約など）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	4
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	0

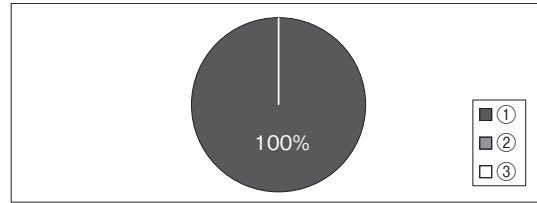
総回答者数 4



Q1-2. 提出期限について、いかがでしたか？

①	適当であった	4
②	早すぎた	0
③	遅すぎた	0

総回答者数 4

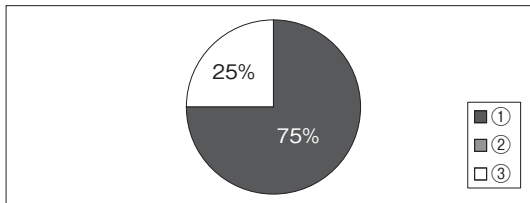


Q2 課題について

Q2-1. 課題について、内容はどうか？

①	適当であった	3
②	簡単すぎた	0
③	難しすぎた	1

総回答者数 4

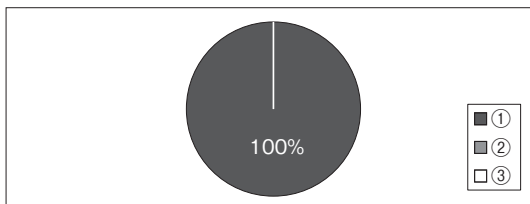


Q3 添削等について

Q3-1. 添削等の内容について、満足しましたか？

①	満足した	4
②	満足しなかった	0
③	どちらともいえない	0

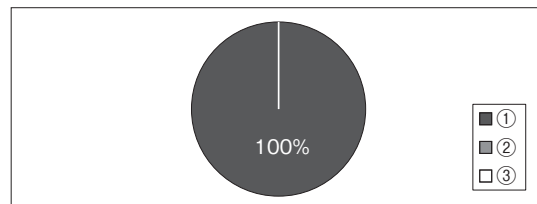
総回答者数 4



Q3-2. 添削等の返却の時期について、いかがでしたか？

①	適当であった	4
②	早すぎた	0
③	遅すぎた	0

総回答者数 4

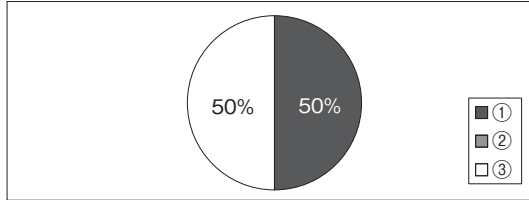


Q4 入学前教育（レポート作成コース）について

Q4-1. 入学前教育（レポート作成コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	2
②	持てなかった	0
③	どちらともいえない	2

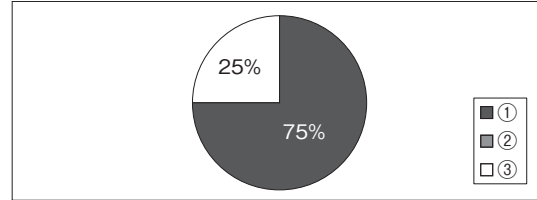
総回答者数 4



Q4-2. 入学前教育（レポート作成コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	3
②	思わなかった	0
③	どちらともいえない	1

総回答者数 4



Q5 入学前教育で実施してほしかった事（解答方法、課題内容など）

- ・問題が習っていない部分でわからなかったので、学校の先生に教えてもらいました。知らなかった事をこの機会に学べて良かった反面、大学での授業についていけるかどうか少し心配になりました。
- ・間違えてる解答の答えも知りたいです。ご丁寧に添削して頂きありがとうございました。大学での授業内容が少しわかり良かったです。

レポート作成コース アンケート集計  
特別推薦・同窓・帰国生徒【社会学部】

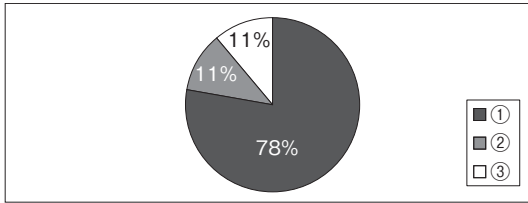
受講者数	16人	回答者数	9人	回答率	56.3%
------	-----	------	----	-----	-------

Q1 実施方法について

Q1-1. 今回のレポート課題の出題形式（論述・要約など）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	7
②	わかりにくかった	1
③	どちらともいえない	1

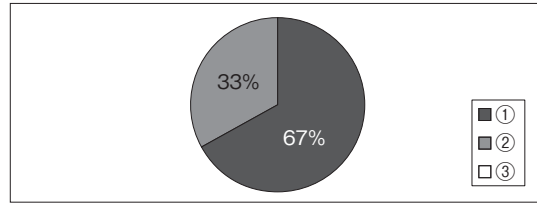
総回答者数 9



Q1-2. 提出期限について、いかがでしたか？

①	適当であった	6
②	早すぎた	3
③	遅すぎた	0

総回答者数 9

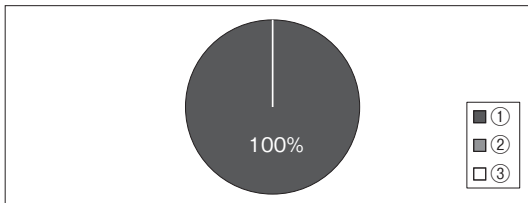


Q2 課題について

Q2-1. 課題について、内容はどうでしたか？

①	適当であった	9
②	簡単すぎた	0
③	難しすぎた	0

総回答者数 9

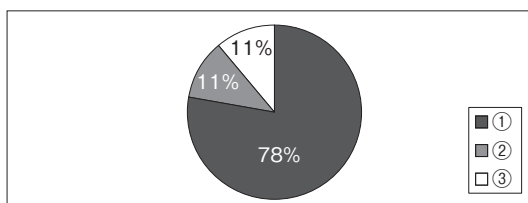


Q3 添削等について

Q3-1. 添削等の内容について、満足しましたか？

①	満足した	7
②	満足しなかった	1
③	どちらともいえない	1

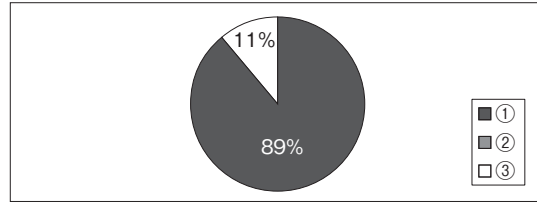
総回答者数 9



Q3-2. 添削等の返却の時期について、いかがでしたか？

①	適当であった	8
②	早すぎた	0
③	遅すぎた	1

総回答者数 9

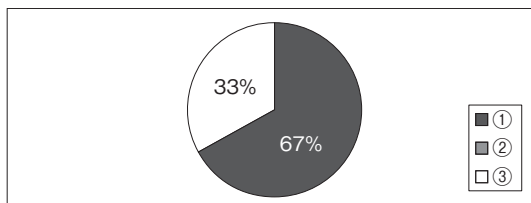


Q4 入学前教育（レポート作成コース）について

Q4-1. 入学前教育（レポート作成コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	6
②	持てなかった	0
③	どちらともいえない	3

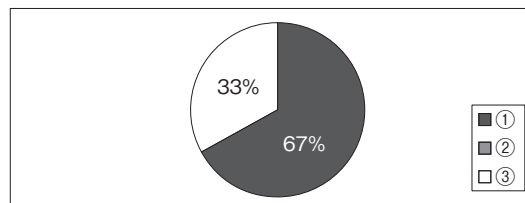
総回答者数 9



Q4-2. 入学前教育（レポート作成コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	6
②	思わなかった	0
③	どちらともいえない	3

総回答者数 9



Q5 入学前教育で実施してほしいかった事（解答方法、課題内容など）

※記述なし

レポート作成コース アンケート集計  
特別推薦・同窓・帰国生徒【現代社会学科】

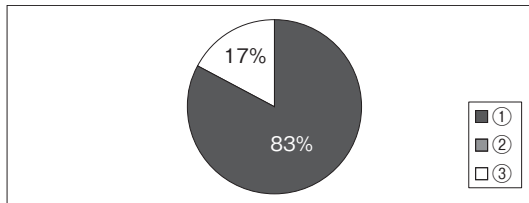
受講者数	11人	回答者数	6人	回答率	54.5%
------	-----	------	----	-----	-------

Q1 実施方法について

Q1-1. 今回のレポート課題の出題形式（論述・要約など）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	5
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	1

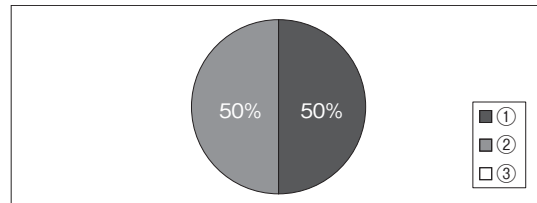
総回答者数 6



Q1-2. 提出期限について、いかがでしたか？

①	適当であった	3
②	早すぎた	3
③	遅すぎた	0

総回答者数 6

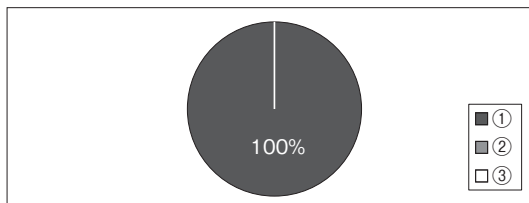


Q2 課題について

Q2-1. 課題について、内容はどうか？

①	適当であった	6
②	簡単すぎた	0
③	難しすぎた	0

総回答者数 6

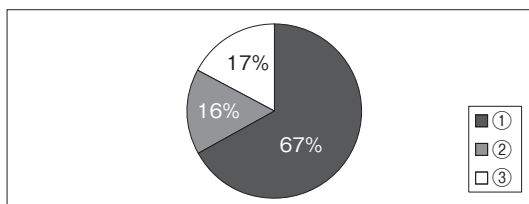


Q3 添削等について

Q3-1. 添削等の内容について、満足しましたか？

①	満足した	4
②	満足しなかった	1
③	どちらともいえない	1

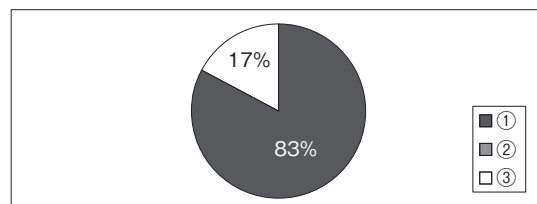
総回答者数 6



Q3-2. 添削等の返却の時期について、いかがでしたか？

①	適当であった	5
②	早すぎた	0
③	遅すぎた	1

総回答者数 6

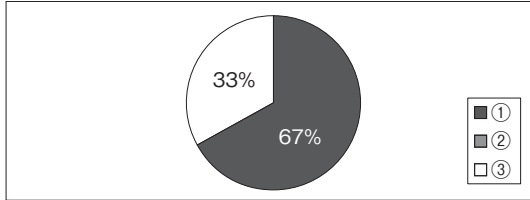


Q4 入学前教育（レポート作成コース）について

Q4-1. 入学前教育（レポート作成コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	4
②	持てなかった	0
③	どちらともいえない	2

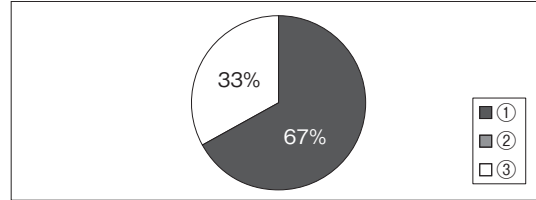
総回答者数 6



Q4-2. 入学前教育（レポート作成コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	4
②	思わなかった	0
③	どちらともいえない	2

総回答者数 6



Q5 入学前教育で実施してほしかった事（解答方法、課題内容など）

※記述なし



レポート作成コース アンケート集計  
特別推薦・同窓・帰国生徒【公共政策学科】

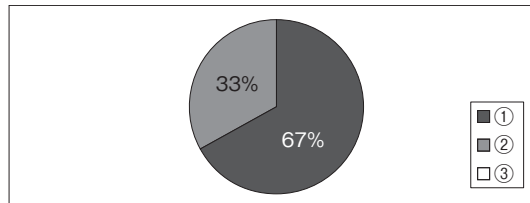
受講者数 5人 回答者数 3人 回答率 60.0%

Q1 実施方法について

Q1-1. 今回のレポート課題の出題形式（論述・要約など）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	2
②	わかりにくかった	1
③	どちらともいえない	0

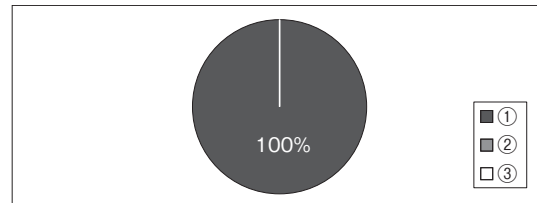
総回答者数 3



Q1-2. 提出期限について、いかがでしたか？

①	適当であった	3
②	早すぎた	0
③	遅すぎた	0

総回答者数 3

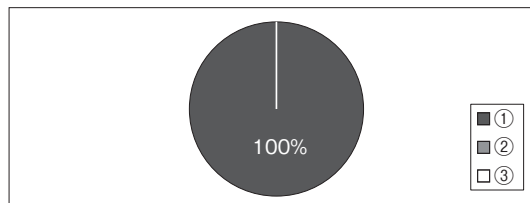


Q2 課題について

Q2-1. 課題について、内容はどうか？

①	適当であった	3
②	簡単すぎた	0
③	難しすぎた	0

総回答者数 3

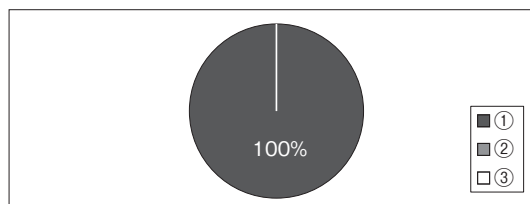


Q3 添削等について

Q3-1. 添削等の内容について、満足しましたか？

①	満足した	3
②	満足しなかった	0
③	どちらともいえない	0

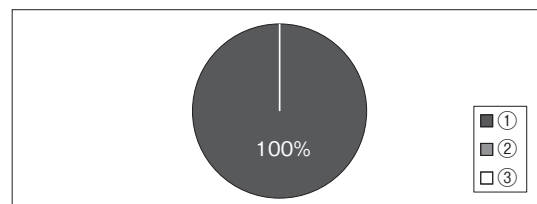
総回答者数 3



Q3-2. 添削等の返却の時期について、いかがでしたか？

①	適当であった	3
②	早すぎた	0
③	遅すぎた	0

総回答者数 3

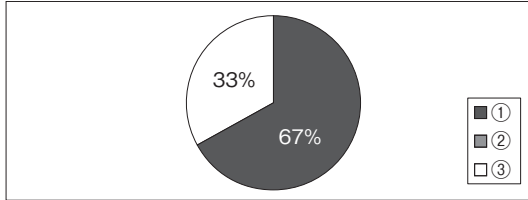


Q4 入学前教育（レポート作成コース）について

Q4-1. 入学前教育（レポート作成コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	2
②	持てなかった	0
③	どちらともいえない	1

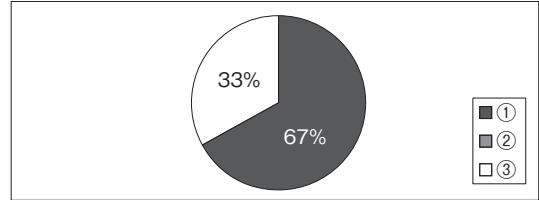
総回答者数 1



Q4-2. 入学前教育（レポート作成コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	2
②	思わなかった	0
③	どちらともいえない	1

総回答者数 3



Q5 入学前教育で実施してほしい事（解答方法、課題内容など）

※記述なし

レポート作成コース アンケート集計  
特別推薦・同窓・帰国生徒【社会福祉学部】

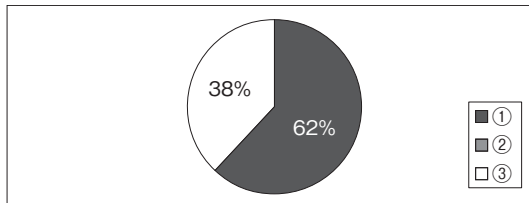
受講者数	21人	回答者数	16人	回答率	76.2%
------	-----	------	-----	-----	-------

Q1 実施方法について

Q1-1. 今回のレポート課題の出題形式（論述・要約など）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	10
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	6

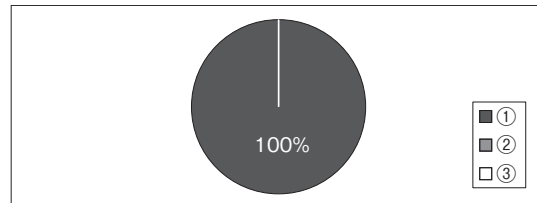
総回答者数 16



Q1-2. 提出期限について、いかがでしたか？

①	適当であった	16
②	早すぎた	0
③	遅すぎた	0

総回答者数 16

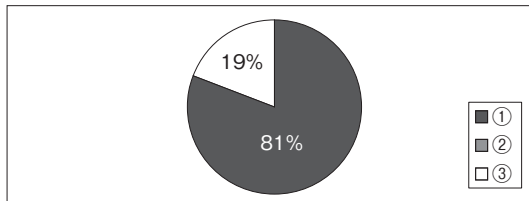


Q2 課題について

Q2-1. 課題について、内容はどうか？

①	適当であった	13
②	簡単すぎた	0
③	難しすぎた	3

総回答者数 16

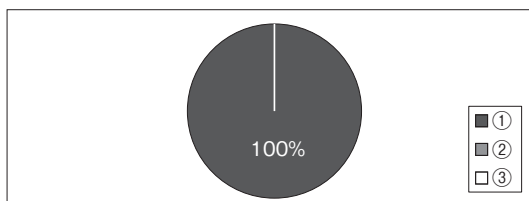


Q3 添削等について

Q3-1. 添削等の内容について、満足しましたか？

①	満足した	16
②	満足しなかった	0
③	どちらともいえない	0

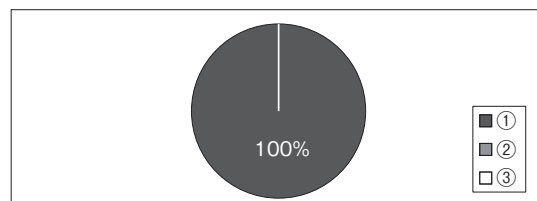
総回答者数 16



Q3-2. 添削等の返却の時期について、いかがでしたか？

①	適当であった	16
②	早すぎた	0
③	遅すぎた	0

総回答者数 16

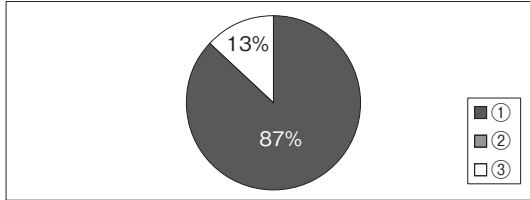


Q4 入学前教育（レポート作成コース）について

Q4-1. 入学前教育（レポート作成コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	14
②	持てなかった	0
③	どちらともいえない	2

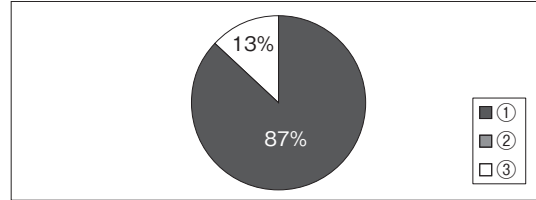
総回答者数 16



Q4-2. 入学前教育（レポート作成コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	14
②	思わなかった	0
③	どちらともいえない	2

総回答者数 16



Q5 入学前教育で実施してほしかった事（解答方法、課題内容など）

- ・内容も量も適当でありよかったです。
- ・特にありません。

レポート作成コース アンケート集計  
特別推薦・同窓・帰国生徒【保健医療技術学部】

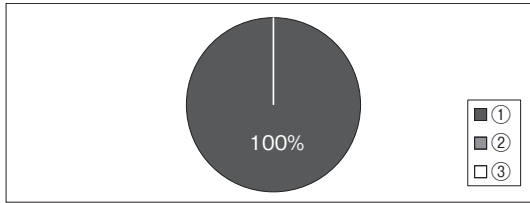
受講者数 1人 回答者数 1人 回答率 100.0%

Q1 実施方法について

Q1-1. 今回のレポート課題の出題形式（論述・要約など）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	1
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	0

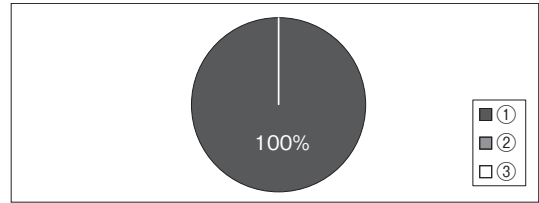
総回答者数 1



Q1-2. 提出期限について、いかがでしたか？

①	適当であった	1
②	早すぎた	0
③	遅すぎた	0

総回答者数 1

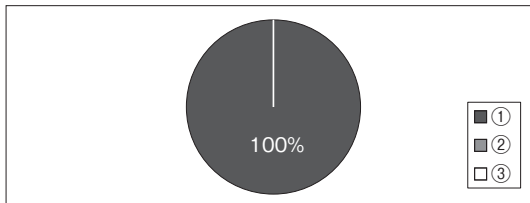


Q2 課題について

Q2-1. 課題について、内容はどうでしたか？

①	適当であった	1
②	簡単すぎた	0
③	難しすぎた	0

総回答者数 1

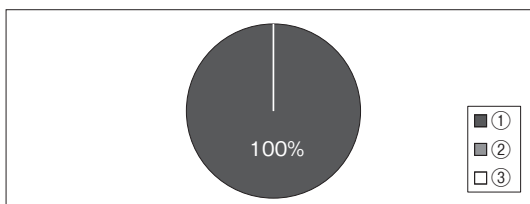


Q3 添削等について

Q3-1. 添削等の内容について、満足しましたか？

①	満足した	1
②	満足しなかった	0
③	どちらともいえない	0

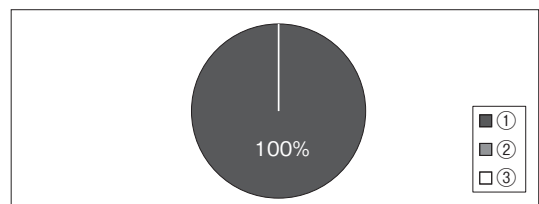
総回答者数 1



Q3-2. 添削等の返却の時期について、いかがでしたか？

①	適当であった	1
②	早すぎた	0
③	遅すぎた	0

総回答者数 1

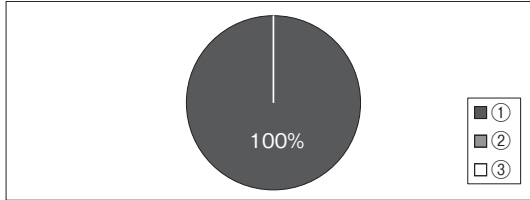


Q4 入学前教育（レポート作成コース）について

Q4-1. 入学前教育（レポート作成コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	1
②	持てなかった	0
③	どちらともいえない	0

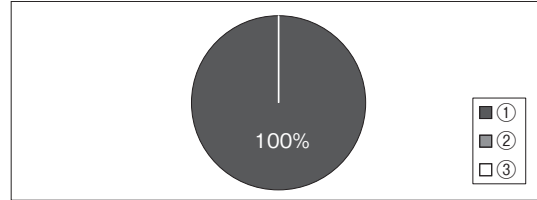
総回答者数 1



Q4-2. 入学前教育（レポート作成コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	1
②	思わなかった	0
③	どちらともいえない	0

総回答者数 1



Q5 入学前教育で実施してほしいこと（解答方法、課題内容など）

【理学療法学科】

・レポートなどの知識面での課題だけでなく学力面での数式や化学式などを使う課題があってもいいと思いました。

※作業療法学科の受講者なし

レポート作成コース アンケート集計  
特別推薦・同窓・帰国生徒【理学療法学科】

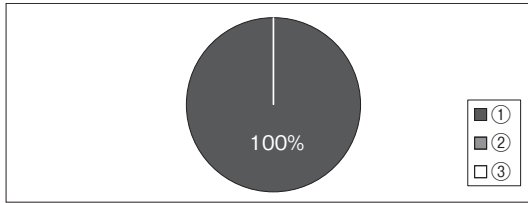
受講者数 1人 回答者数 1人 回答率 100.0%

Q1 実施方法について

Q1-1. 今回のレポート課題の出題形式（論述・要約など）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	1
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	0

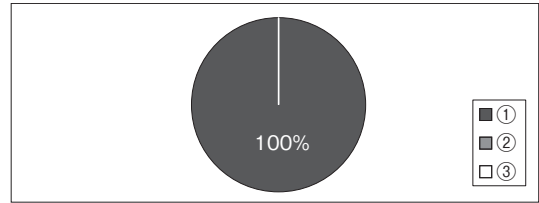
総回答者数 1



Q1-2. 提出期限について、いかがでしたか？

①	適当であった	1
②	早すぎた	0
③	遅すぎた	0

総回答者数 1

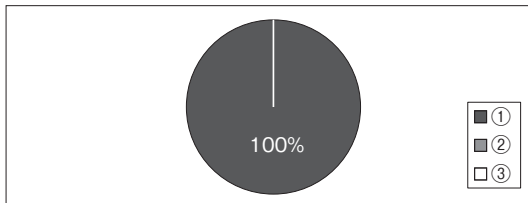


Q2 課題について

Q2-1. 課題について、内容はどうか？

①	適当であった	1
②	簡単すぎた	0
③	難しすぎた	0

総回答者数 1

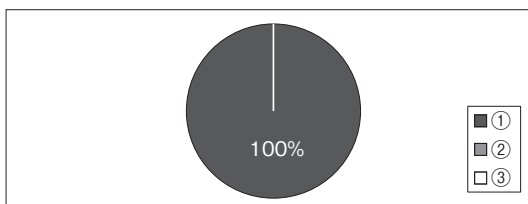


Q3 添削等について

Q3-1. 添削等の内容について、満足しましたか？

①	満足した	1
②	満足しなかった	0
③	どちらともいえない	0

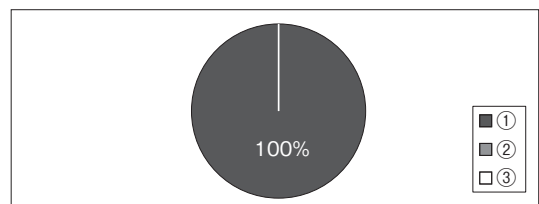
総回答者数 1



Q3-2. 添削等の返却の時期について、いかがでしたか？

①	適当であった	1
②	早すぎた	0
③	遅すぎた	0

総回答者数 1

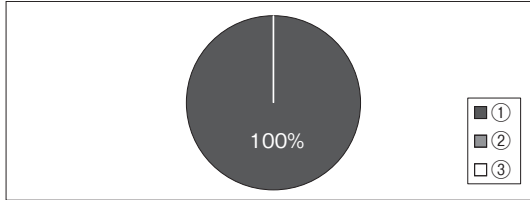


Q4 入学前教育（レポート作成コース）について

Q4-1. 入学前教育（レポート作成コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	1
②	持てなかった	0
③	どちらともいえない	0

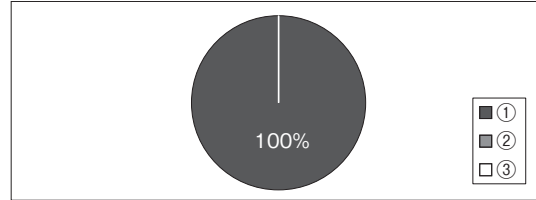
総回答者数 1



Q4-2. 入学前教育（レポート作成コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	1
②	思わなかった	0
③	どちらともいえない	0

総回答者数 1



Q5 入学前教育で実施してほしかった事（解答方法、課題内容など）

・レポートなどの知識面での課題だけでなく学力面での数式や化学式などを使う課題があってもいいと思いました。



## 授業体験コース アンケート集計 全体集計

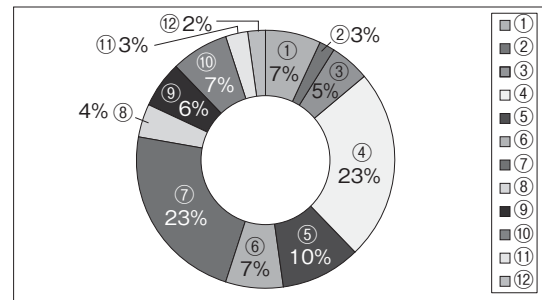
### Q1 参加目的

Q1-1. 授業体験コースに参加した目的は何ですか？  
(複数回答可)

①	日程の都合が良かったため	34
②	自宅が大学に近かったため	12
③	通学方法などを確認するため	23
④	大学の雰囲気をを知るため	115
⑤	友人を作るため	46
⑥	大学生活に不安があったため	33
⑦	大学での授業内容を知るため	109
⑧	自校教育について聞きたかったため	18
⑨	各学部のガイダンスが聞きたかったため	29
⑩	体験授業の内容に興味があったため	31
⑪	教員のことを知るため	13
⑫	特に具体的な目的はない	8

総回答者数 471

受講者数 186人 回答者数 165人 回答率 88.7%

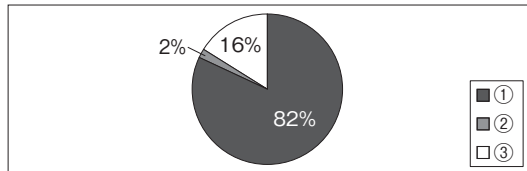


### Q2 実施内容について

Q2-1. 自校教育について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	134
②	わかりにくかった	3
③	どちらともいえない	26

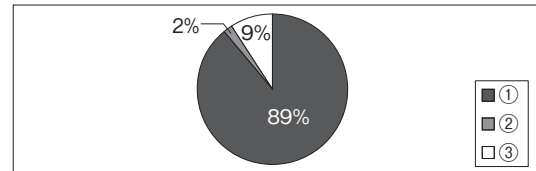
総回答者数 163



Q2-2. 各学部の学びの導入（ガイダンス）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	144
②	わかりにくかった	3
③	どちらともいえない	14

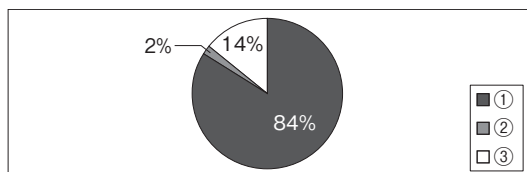
総回答者数 161



Q2-3. 各学部の体験授業について、いかがでしたか？  
(午前の授業)

①	わかりやすかった	137
②	わかりにくかった	3
③	どちらともいえない	23

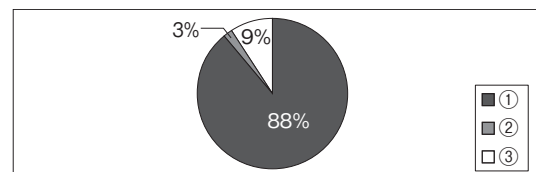
総回答者数 163



Q2-3. 各学部の体験授業について、いかがでしたか？  
(午後の授業)

①	わかりやすかった	142
②	わかりにくかった	4
③	どちらともいえない	14

総回答者数 160

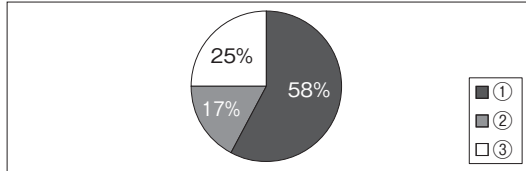


Q3 入学前教育（授業体験コース）について

Q3-1. 大学生になることに不安を感じていましたか？

①	感じていた	95
②	感じていなかった	27
③	どちらともいえない	41

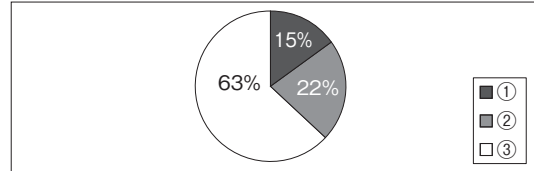
総回答者数 163



Q3-2. 大学生になる不安は少なくなりましたか？  
(Q3-1 で①を選択した人のみ)

①	不安は全くなくなった	15
②	不安はなくならなかった	21
③	どちらともいえない	61

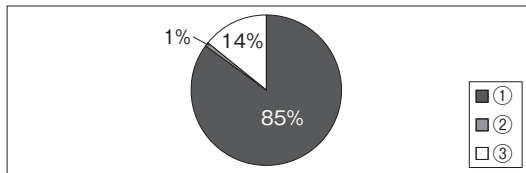
総回答者数 97



Q3-3. 入学前教育（授業体験コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	137
②	持てなかった	1
③	どちらともいえない	23

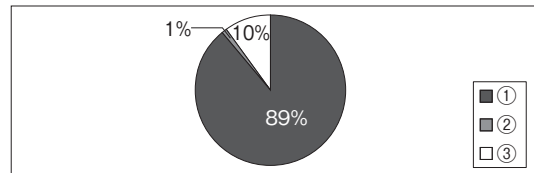
総回答者数 161



Q3-4. 入学前教育（授業体験コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	144
②	思わなかった	1
③	どちらともいえない	17

総回答者数 162



Q2-4 体験授業を受けた感想

仏教学部

【仏教学科】

- ・仏教を学んでいく上でとてもためになり分かりやすかった。
- ・難しい内容で完璧には理解できなかったけど、良い時間を過ごせたと思います。
- ・とても勉強になった。
- ・仏教ってすごい。
- ・これからの大学で学ぶこととかが分かってよかった。

文学部

【日本文学科】

- ・おもしろかった
- ・高校とは全然違うことをやるので興味が持てました。
- ・初めて受けましたが、とてもためになる授業でした。
- ・どんな事を学ぶかや雰囲気を味わえたので来てよかったと思います。
- ・大学で学びたいことが少し分かりました。
- ・とてもわかりやすかった。

【中国学科】

- ・楽しかった
- ・最初はむずかしそうなんかな？って思ってたけど今日受けて不安がなくなった。

【英米学科】

- ・わかりやすく、大学の雰囲気が知れてよかった。
- ・心理学にも興味を持ちました。
- ・おもったよりおもしろかった。

- ・興味をもつことができた。
- ・最初は来るのが嫌やなあと思っていたのですが、授業を受けてみて楽しく、興味を持てたので、4月からが楽しみです。ありがとうございます。
- ・わかりやすく、興味が持てました。
- ・参加してためになった。
- ・すごい深いお話を聞いてよかったです。
- ・全体的にわかりやすかった。
- ・先生の雰囲気があった。
- ・先生1人1人が個性的で、親密になって話を聞くことができました。たいへん楽しく授業を受けることができました。

#### 歴史学部

##### 【歴史学科】

- ・少し、難しいなと思った。でも、色んな歴史を勉強した上で大学でも教えてもらい深く歴史のことをしりたいと思った。
- ・興味深い内容だった。
- ・1限目に教えていただいた、時代区分がためになった。自分の見方、というのを見つけた。
- ・難しそうと思ったけど、これから勉強しようと思います！
- ・楽しそうでした。
- ・難しすぎてまいちわからなかった。
- ・とてもわかりやすい授業でよかった。

##### 【歴史文化学科】

- ・どんな授業をするのか前もって知れたので、これから自分なりに準備したいと思います。
- ・これからの大学生活で何をすれば良いかわかってきて良かった。
- ・とても興味深かった。
- ・どのような事をするかわかった。

#### 教育学部

##### 【教育学科】

- ・大学の難しさを体験できた。春休みの大事さを知ることができてよかったと思う。
- ・いろいろな先生の話しをきかせていただいて、もっと気をひきしめて大学生になるべきだと思いました。実習たのしかったです。
- ・大学入学後、自分がどのような意見を持っていけばよいのかを考える良い機会になったと思います。
- ・自分で何事も考えていかなければならないといけないので難しいことだなと思いました。
- ・大学の授業の雰囲気が分かったので良かったです。
- ・自分の興味のあることばかりだったのですごく勉強になったし、楽しかったです。
- ・入学前に授業を体験することができて、本当に良かったです。夢の実現に向け"今"から動きだそうと改めて思いました。
- ・4月の大学入学までの残りの日数をイギあるものにしなればいけないと思った。
- ・大学について、入学前にいろいろ知れたので良かったです。
- ・先生こんにちは☆教育コース(元)の1人です!!今日は先生の話聞いて、改めて勉強しよう!と思いました。大学を甘く見てたらダメですね!
- ・大学の授業がどのように進んでいくか、などよくわかった。
- ・大学での授業の大切さや春休みの使い方、学ぶものがたくさんありました。
- ・大学の授業がどのように行われるかを知れて良かった。
- ・大学の授業のふんいきを知る事ができてよかった。先生が恐かった(笑)
- ・4月の授業が楽しみです、不安でもあります。
- ・教育学(午後)グループワークはすごくいいものだった。先生の入学前にすべきことはこれからどうすればいいのかわかった。
- ・大学での雰囲気がつかめて良かった。気持ちを引き締めて入学式を迎えたいと思いました。
- ・討論は楽しかった
- ・大学の雰囲気も少しわかってよかった。

##### 【臨床心理学科】

- ・予想していた通りの雰囲気でした。でも思ったより大学は大変そうです。
- ・大学生活に向けての気持ちや準備などについて知れてよかった。
- ・先生は厳しくも、大きな愛情を持った先生だと思った。実際に大学の先生の話聞いて、もっと頑張ろうと思うきっかけになった。
- ・今までしゃべったことのないようなタイプの人としゃべったり意見を述べあったりできてよかった。
- ・先生怖かったです。でも、春休みにやらな!!!って気持ちになりました。参加して良かったです。ありがとうございました!
- ・大学というものが全くわからない状態だったので勉強になりました。

#### 社会学部

##### 【現代社会学科】

- ・グループで話し合ったり、ビデオを見たりと楽しかったです。
- ・なし
- ・いい経験ができた。
- ・今日の体験授業を受講してみて、大学はどのようなものなのか少しわかりました。将来は教職を取得したいと思っていますので、非常にためになりました。
- ・在学生の意見を聞いて良かった。
- ・高校と大学の違いをととも感じました。
- ・3回生の言っていた事がとても説得力がありました。家から大学まで遠いですが部活と勉強の両立しようと思いました。
- ・大学の授業のふんいきがわかった。
- ・ダイナミックさに欠けるものがあつた。今までの学校生活では学ぶことの出来なかつたことが学べるとい、希望にみちています。
- ・大学生活のことがわかってよかった。

- ・少し大学の授業を知ることができた。
- ・楽しかった。
- ・小、中、高とは違い自由に過ごす事が出来るので自己主張が大切だと思う。
- ・プリントがあって、10分間のビデオも見て、すごくわかりやすかったです。
- ・午後の授業の3回生の話はおもしろかった。

#### 【公共政策学科】

- ・大学に入学する前に貴重な体験をする事が出来て良かった。楽しかった。
- ・こんな感じなんだなと思った。在校生の人の話を聞いてためになる事が少しはあった。
- ・特になし。
- ・大学のことがよくわかった。
- ・良かった。
- ・とても為になった。
- ・時間が長かった。
- ・単位のとりかたも、授業のやりかたも聞きたいと思っていたことを言ってくれたので良かったです。
- ・午前の方は前にも話を聞いたことのある先生でしたので、すごくわかりやすく感じました。しかも、この方はパワーポイントがわかりやすいので、見やすかったです！午前と違い午後は学生さんたちから、貴重な話を聞くことができ、よかったです。
- ・大体の授業内容を知ることができた。
- ・おもしろかった。
- ・リアルな大学生活が見れてよかった。
- ・在学生の方のお話は楽しそうで、たのしみが増えた!!入学たのしみ☆!
- ・高校とはちがった楽しさがあると思いました。

#### 社会福祉学部

##### 【社会福祉学科】

- ・大学生活が楽しみになった。いい経験ができた。
- ・大学生活がスムーズにスタートできそう。
- ・午前の授業では、大学のこと(新しいぎょうじ)を知ることが出来ました。午後の授業では、アイマスクをして歩く目の不自由な人の体験が出来ました。午前、午後ともとても分かりやすく、ためになるけいけんが出来てよかったです。
- ・普段できない体験ができて良かったです。
- ・想像しているより実際に授業を受けて体験したほうが色々な意味で雰囲気とか興味を持てるようになった。
- ・どんなことをやるのかわかってよかった。
- ・学生さんもみんなやさしくて、自己紹介とかでは同期の人たちと話すことができたので良かったです。
- ・疑似体験があって良かったです。グループごとにやる方が、人と話しやすかった。
- ・車イスの体験(すわりごちよい。進んでいる時は怖くないけど、前を上げられると怖かった。押すのはカンタンだった。上げるのはむずかしくていきなり上げてしまうと乗ってる人に恐怖を与えてしまうと感じた。)
- ・教員に言われて行動するのではなく自分から進んで行動することが大切だということを知りました。
- ・車いすなど、いつも使わないものにふれられてよかった。
- ・めっちゃ分かりやすくてたのしかった。福祉を学びたいって改めて思った。
- ・いろいろ肌で体験できてよかった。
- ・大学はとても良い雰囲気だった。
- ・体験授業(実習等)を楽しく受けることができて良かった。楽しかったです。
- ・高校と違って実技が多かった。
- ・車いす体験をして、互いに信頼関係が大事だということがわかった。アットホームな雰囲気よかったです。
- ・グループで他者紹介とかできて、みんなと仲よくなれてとてもよかった。
- ・学生さんたちの活動や熱心が伝わりました。車イス体験も自前にできてよかったです。アイマスクもしてみたかったです。
- ・仏教精神を知ること、視野が広がると考える。
- ・とても楽しくて、入学前に良い経験ができました。友達も増えて良かった。
- ・いろんな話や体験ができて楽しかったです。初めてのんとつながる機会も作っていただいたので良かったです。
- ・普段体験できないことが体験できて良かった。不安が少なくなった。
- ・かみしばいと色々考えさせられた。楽しかった。
- ・アイマスクの体験をして、目が見えない怖さを思い知って、目を大事にしようと思いました。
- ・先生の話や授業より体験やグループでの話し合いが多いと聞いてびっくりしました。
- ・いろんなことを知れてよかった
- ・すごく楽しかったです。楽しいという言い方は間違っているかもしれないけどそう感じました。とても興味を持ってました。45分という時間はあっという間でした。大学に入ってからの授業が楽しみになりました。DVDなど、自ら話すという形だったのでまらなく感じることはありませんでした。
- ・分かりやすく説明して下さって福祉についてさらに興味を持ちました。アイマスクでいかに目が大切であるということが分かりました。
- ・他者紹介で友達ができたのでよかった。
- ・体験授業を受けたことによって友達も増え、自分から様々なことに取り組むということを学びとてもよかったです。少しの間でしたが良い体験ができてよかった。
- ・とてもよい経験ができて、よかったです。はじめて、車いすに乗りました。すこし怖かったです。でも、よいけいけんだったと思います。大学に入ったら、頑張りたいと思います。ありがとうございました。

#### 保健医療技術学部

##### 【理学療法学科】

- ・楽しかった。不安もあったけど楽しみになった。
- ・思っていたよりもかたくなりすぎずに気軽に集中して授業をうけられた。
- ・とても親しみやすい雰囲気でお話しして下さったので、話の内容もわかりやすく、充実した時間をすごせた。

**【作業療法学科】**

- ・とてもたのしかったです。はやく入学して作業療法のことなど、勉強したいです!!
- ・自分の学部についての理解を深められ、大学が楽しみになりました。
- ・真剣に頑張ろうという意欲が湧いた。
- ・わかりやすいところもありましたが言葉が難しかったです。

**Q4 入学前教育（授業体験コース）で実施して欲しかった事。**

仏教学部

**【仏教学科】**

- ・もうちょっと明るく、楽しくが良かったです。

文学部

**【日本文学科】**

- ・特にない。

**【中国学科】**

記述なし

**【英米学科】**

- ・学科別に集まりたかった。そうしたら、どの子が同じ学科かわかりやすい。

歴史学部

**【歴史学科】**

記述なし

**【歴史文化学科】**

記述なし

教育学部

**【教育学科】**

- ・特にないです

**【臨床心理学科】**

記述なし

社会学部

**【現代社会学科】**

- ・なし。
- ・特にないです。
- ・アクロバット、サークル紹介（くわしく）。
- ・部活動、サークルについて聞く場を設けて欲しかった。

**【公共政策学科】**

- ・サークルの紹介。
- ・特になし。
- ・なし。
- ・授業もいいが、政治家の講演などでも良かったんじゃないかなと思った。
- ・もっとみんなと交流ができるようなことがあったらいいなと思いました。（ゲームとか）
- ・もっと友達づくりをしたかったのですが、きっかけがあまりなく、うまくいきませんでした。なので、そういう機会をどんどん増やしていった方が（増やしてもらえたら）と思います。

社会福祉学部

- ・これから車イス体験やアイマスク体験はやって行って自分自身体験したほうがよいと思った。
- ・特にありません。ありがとうございました。
- ・特になし。

保健医療技術学部

**【理学療法学科】**

記述なし

**【作業療法学科】**

- ・自分の体を使ったりハビリの簡単な動作などをやってみたかった。
- ・理学と作業の違いをもっと説明してほしい。

## 授業体験コース アンケート集計 AO 選抜

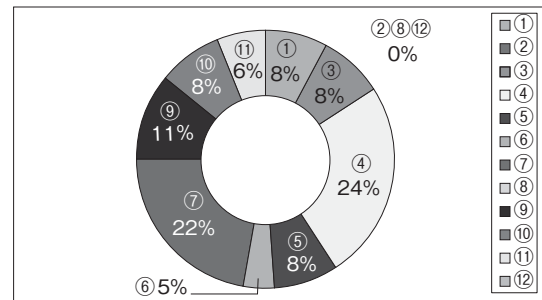
### Q1 参加目的

Q1-1. 授業体験コースに参加した目的は何ですか？  
(複数回答可)

①	日程の都合が良かったため	5
②	自宅が大学に近かったため	0
③	通学方法などを確認するため	5
④	大学の雰囲気を知るため	16
⑤	友人を作るため	5
⑥	大学生活に不安があったため	3
⑦	大学での授業内容を知るため	14
⑧	自校教育について聞きたかったため	0
⑨	各学部のガイダンスが聞きたかったため	7
⑩	体験授業の内容に興味があったため	5
⑪	教員のことを知るため	4
⑫	特に具体的な目的はない	0

総回答者数 64

受講者数 20人 | 回答者数 19人 | 回答率 95.0%

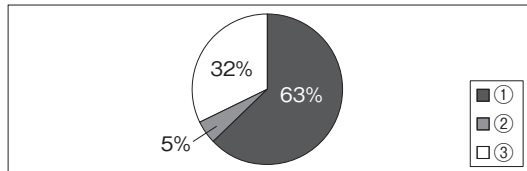


### Q2 実施内容について

Q2-1. 自校教育について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	12
②	わかりにくかった	1
③	どちらともいえない	6

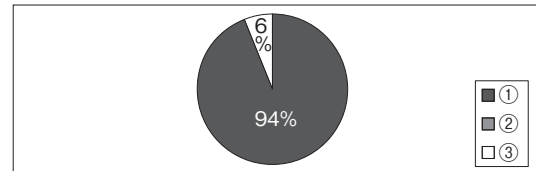
総回答者数 19



Q2-2. 各学部の学びの導入（ガイダンス）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	17
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	1

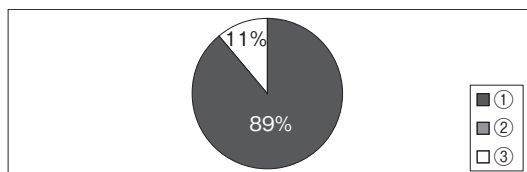
総回答者数 18



Q2-3. 各学部の体験授業について、いかがでしたか？  
(午前の授業)

①	わかりやすかった	17
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	2

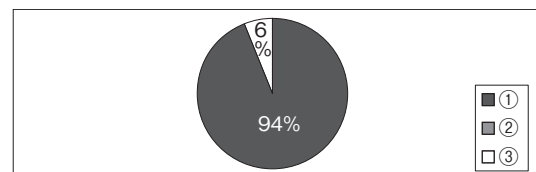
総回答者数 19



Q2-3. 各学部の体験授業について、いかがでしたか？  
(午後の授業)

①	わかりやすかった	17
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	1

総回答者数 18

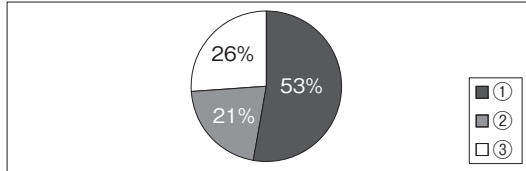


Q3 入学前教育（授業体験コース）について

Q3-1. 大学生になることに不安を感じていましたか？

①	感じていた	10
②	感じていなかった	4
③	どちらともいえない	5

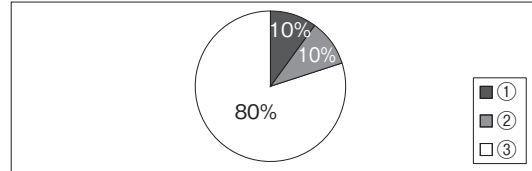
総回答者数 19



Q3-2. 大学生になる不安は少なくなりましたか？  
(Q3-1 で①を選択した人のみ)

①	不安は全くなくなった	1
②	不安はなくならなかった	1
③	どちらともいえない	8

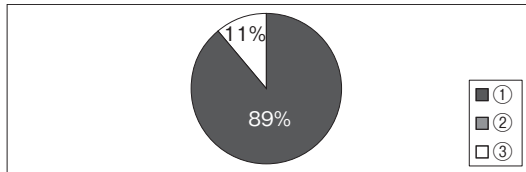
総回答者数 10



Q3-3. 入学前教育（授業体験コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	17
②	持てなかった	0
③	どちらともいえない	2

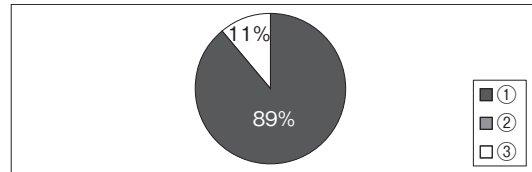
総回答者数 19



Q3-4. 入学前教育（授業体験コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	17
②	思わなかった	0
③	どちらともいえない	2

総回答者数 19



Q2-4 体験授業を受けた感想

文学部

【英米学科】

- ・心理学にも興味を持ちました。
- ・すごい深いお話を聞いてよかったです。
- ・全体的にわかりやすかった。

教育学部

【教育学科】

- ・大学の授業がどのように行われるかを知れて良かった。
- ・大学の授業のふんいきを知る事ができてよかった。先生が恐かった（笑）

社会学部

【公共政策学科】

- ・特になし。
- ・とても為になった。
- ・リアルな大学生活が見れてよかった。

社会福祉学部

【社会福祉学科】

- ・どんなことをやるのかわかってよかった。
- ・体験授業（実習等）を楽しく受けることができ良かった。楽しかったです。
- ・すごく楽しかったです。楽しいという言い方は間違っているかもしれないけどそう感じました。とても興味を持ってました。45分という時間はあっという間でした。大学に入ってからの授業が楽しみになりました。DVD など、自ら話すという形だったのでまらなく感じることはありませんでした。

保健医療技術学部

【理学療法学科】

- ・楽しかった。不安もあったけど楽しみのになった。
- ・思っていたよりもかたくなりすぎずに気軽に集中して授業をうけられた。

【作業療法学科】

- ・とてもたのしかったです。はやく入学して作業療法のことなど、勉強したいです!!
- ・自分の学部についての理解を深められ、大学が楽しみになりました。
- ・真剣に頑張ろうという意欲が湧いた。

Q4 入学前教育（授業体験コース）で実施して欲しかった事。

文学部

【英米学科】

記述なし。

教育学部

【教育学科】

記述なし。

社会学部

【公共政策学科】

- ・特になし。
- ・授業もいいが、政治家の講演などでも良かったんじゃないかなと思った。

社会福祉学部

- ・特にありません。ありがとうございました。

保健医療技術学部

【理学療法学科】

記述なし

【作業療法学科】

- ・自分の体を使ったりハビリの簡単な動作などをやってみたかった。



## 授業体験コース アンケート集計 特別推薦

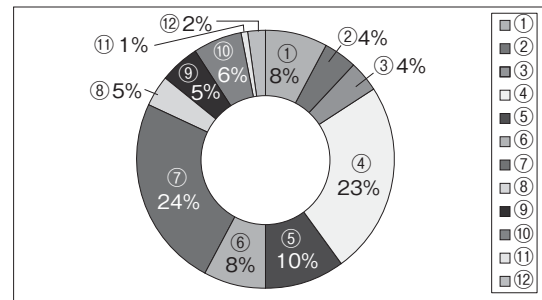
### Q1 参加目的

Q1-1. 授業体験コースに参加した目的は何ですか？  
(複数回答可)

①	日程の都合が良かったため	25
②	自宅が大学に近かったため	12
③	通学方法などを確認するため	13
④	大学の雰囲気をを知るため	81
⑤	友人を作るため	33
⑥	大学生活に不安があったため	25
⑦	大学での授業内容を知るため	79
⑧	自校教育について聞きたかったため	15
⑨	各学部のガイダンスが聞きたかったため	18
⑩	体験授業の内容に興味があったため	21
⑪	教員のことを知るため	4
⑫	特に具体的な目的はない	6

総回答者数 332

受講者数 141人 回答者数 121人 回答率 85.8%

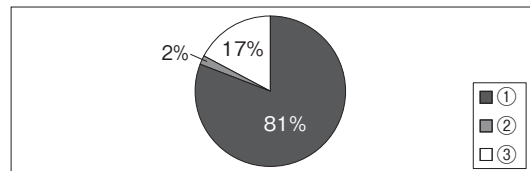


### Q2 実施内容について

Q2-1. 自校教育について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	97
②	わかりにくかった	2
③	どちらともいえない	20

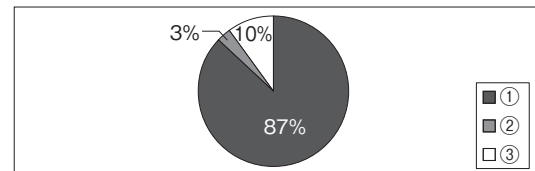
総回答者数 119



Q2-2. 各学部の学びの導入（ガイダンス）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	103
②	わかりにくかった	3
③	どちらともいえない	12

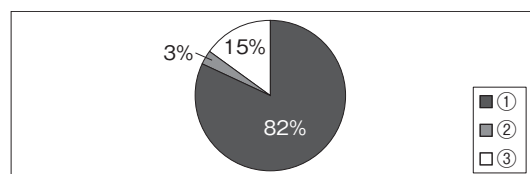
総回答者数 118



Q2-3. 各学部の体験授業について、いかがでしたか？  
(午前の授業)

①	わかりやすかった	98
②	わかりにくかった	3
③	どちらともいえない	18

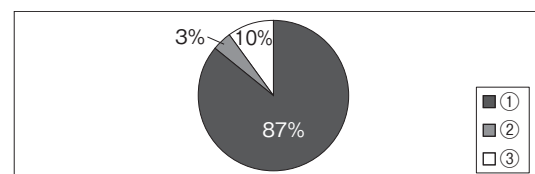
総回答者数 119



Q2-3. 各学部の体験授業について、いかがでしたか？  
(午後の授業)

①	わかりやすかった	101
②	わかりにくかった	4
③	どちらともいえない	12

総回答者数 117

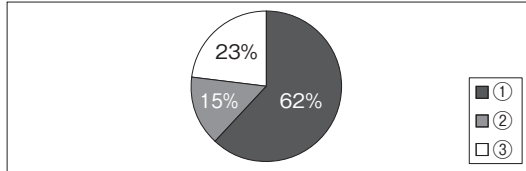


Q3 入学前教育（授業体験コース）について

Q3-1. 大学生になることに不安を感じていましたか？

①	感じていた	75
②	感じていなかった	18
③	どちらともいえない	27

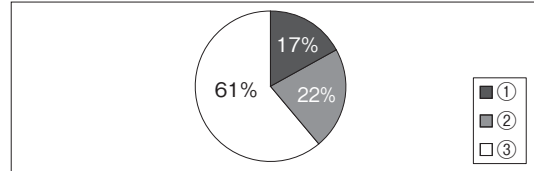
総回答者数 120



Q3-2. 大学生になる不安は少なくなりましたか？  
(Q3-1 で①を選択した人のみ)

①	不安は全くなくなった	13
②	不安はなくならなかった	17
③	どちらともいえない	47

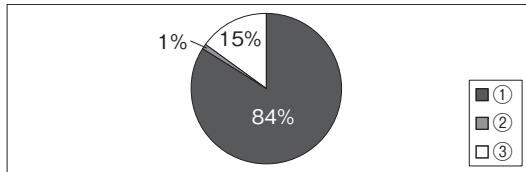
総回答者数 77



Q3-3. 入学前教育（授業体験コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	100
②	持てなかった	1
③	どちらともいえない	18

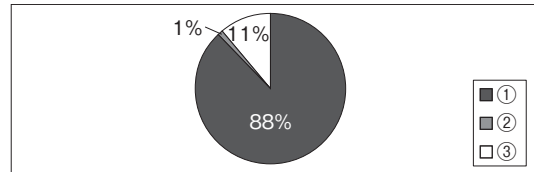
総回答者数 119



Q3-4. 入学前教育（授業体験コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	105
②	思わなかった	1
③	どちらともいえない	13

総回答者数 119



Q2-4 体験授業を受けた感想

文学部

【日本文学科】

- ・おもしろかった
- ・高校とは全然違うことをやるので興味が持てました。
- ・初めて受けましたが、とてもためになる授業でした。
- ・どんな事を学ぶかや雰囲気を知れたので来てよかったと思います。
- ・大学で学びたいことが少し分かりました。
- ・とてもわかりやすかった。

【中国学科】

- ・最初はむずかしそうなんかな？って思ってたけど今日受けて不安がなくなった。

【英米学科】

- ・おもったよりおもしろかった。
- ・興味をもつことができた。
- ・最初は来るのが嫌やなあと思っていたのですが、授業を受けてみて楽しく、興味を持てたので、4月から楽しみです。ありがとうございます。
- ・わかりやすく、興味が持てました。
- ・先生の雰囲気がわかった。
- ・先生1人1人が個性的で、親密になって話を聞くことができました。たいへん楽しく授業を受けることができました。

歴史学部

【歴史学科】

- ・少し、難しいなと思った。でも、色んな歴史を勉強した上で大学でも教えてもらい深く歴史のことを知りたいと思った。

- ・興味深い内容だった。
- ・1限目に教えていただいた、時代区分がためになった。自分の見方、というのを見つきたい。
- ・難しそうだったけど、これから勉強しようと思います！
- ・楽しそうでした。
- ・難しすぎていまいちわからなかった。
- ・とてもわかりやすい授業でよかった。

#### 【歴史文化学科】

- ・どんな授業をするのか前もって知れたので、これから自分なりに準備したいと思います。
- ・これからの大学生活で何をすれば良いかわかってきて良かった。
- ・とても興味深かった。
- ・どのような事をするかわかった。

#### 教育学部

##### 【教育学科】

- ・大学の難しさを体験できた。春休みの大事さを知ることができてよかったと思う。
- ・大学入学後、自分がどのような意見を持っていけばよいのかを考える良い機会になったと思います。
- ・自分で何事も考えていかなければならないといけないので難しいことだと思いました。
- ・大学の授業の雰囲気が分かったので良かったです。
- ・自分の興味のあることばっかだったのですごく勉強になったし、楽しかったです。
- ・入学前に授業を体験することができて、本当に良かったです。夢の実現に向け"今"から動きだそうと改めて思いました。
- ・4月の大学入学までの残りの日数をイギあるものにしななければいけないと思った。
- ・大学について、入学前にいろいろ知れたので良かったです。
- ・先生こんにちは☆教育コース(元)の1人です!!今日は先生の話聞いて、改めて勉強しよう!と思いました。大学を甘く見てたらダメですね!
- ・大学の授業がどのように進んでいくか、などよくわかった。
- ・大学での授業の大切さや春休みの使い方、学ぶものがたくさんありました。
- ・4月の授業が楽しみです、不安でもあります。
- ・教育学(午後)グループワークはすごくいいものだった。先生の入学前にすべきことはこれからどうすればいいのかよくわかった。
- ・大学での雰囲気がつかめて良かった。気持ちを引き締めて入学式を迎えたいと思いました。
- ・討論は楽しかった
- ・大学の雰囲気も少しわかってよかった。

##### 【臨床心理学科】

- ・予想していた通りの雰囲気でした。でも思ったより大学は大変そうです。
- ・大学生活に向けての気持ちや準備などについて知れてよかった。
- ・先生は厳しくも、大きな愛情を持った先生だと思った。実際に大学の先生の話聞いて、もっと頑張ろうと思うきっかけになった。
- ・先生怖かったです。でも、春休みにやらな!!!って気持ちになりました。参加して良かったです。ありがとうございました!
- ・大学というものが全くわからない状態だったので勉強になりました。

#### 社会学部

##### 【現代社会学科】

- ・グループで話し合ったり、ビデオを見たりと楽しかったです。
- ・なし
- ・いい経験ができた。
- ・今日の体験授業を受講してみて、大学はどのようなものなのか少しわかりました。将来は教職を取得したいと思っていますので、非常にためになりました。
- ・在学生の意見を聞いて良かった。
- ・3回生の言っていた事がとても説得力がありました。家から大学まで遠いですが部活と勉強の両立しようと思いました。
- ・大学の授業のふんいきがわかった。
- ・大学生活のことがわかってよかった。
- ・少し大学の授業を知ることができた。
- ・楽しかった。
- ・プリントがあって、10分間のビデオも見て、すごくわかりやすかったです。
- ・午後の授業の3回生の話はおもしろかった。

##### 【公共政策学科】

- ・大学に入学する前に貴重な体験をする事が出来て良かった。楽しかった。
- ・こんな感じなんだなと思った。在校生の人の話を聞いてためになる事が少しはあった。
- ・大学のことがよくわかった。
- ・良かった。
- ・時間が長かった。
- ・単位のとりかたも、授業のやりかたも聞きたいと思っていたことを言ってくれたので良かったです。
- ・午前の方は前にも話を聞いたことのある先生でしたので、すごくわかりやすく感じました。しかも、この方はパワーポイントがわかりやすいので、見やすかったです!午前と違い午後は学生さんたちから、貴重な話を聞くことができ、良かったです。
- ・大体の授業内容を知ることができた。
- ・在学生の方のお話は楽しそうで、たのしみが増えた!!入学たのしみ☆!
- ・高校とは違った楽しさがあると思いました。

## 社会福祉学部

### 【社会福祉学科】

- ・大学生活が楽しみになった。いい経験ができた。
- ・大学生活がスムーズにスタートできそう。
- ・午前の授業では、大学のこと（新しいぎょうじ）を知ることが出来ました。午後の授業では、アイマスクをして歩く目の不自由な人の体験が出来ました。午前、午後ともとても分かりやすく、ためになるけいけんが出来てよかったです。
- ・普段できない体験ができて良かったです。
- ・想像しているより実際に授業を受けて体験したほうが色々な意味で雰囲気とか興味を持てるようになった。
- ・どんなことをやるのかわかってよかった。
- ・学生さんもみんなやさしくて、自己紹介とかでは同期の人たちと話すことができたので良かったです。
- ・疑似体験があって良かったです。グループごとにやる方が、人と話しやすかった。
- ・車イスの体験（すわりごちよい。進んでいる時は怖くないけど、前を上げられると怖かった。押すのはカンタンだった。上げるのはむずかしくていきなり上げてしまうと乗ってる人に恐怖を与えてしまうと感じた。）
- ・教員に言われて行動するのではなく自分から進んで行動することが大切だということを知りました。
- ・車いすなど、いつも使わないものにふれられてよかった。
- ・めっちゃ分かりやすくてたのしかった。福祉を学びたいって改めて思った。
- ・いろいろ肌で体験できてよかった。
- ・大学はとても良い雰囲気だった。
- ・体験授業（実習等）を楽しく受けることができて良かった。楽しかったです。
- ・高校と違って実技が多かった。
- ・車いす体験をして、互いに信頼関係が大事だということがわかった。アットホームな雰囲気よかったです。
- ・グループで他者紹介とかできて、みんなと仲よくなれてとてもよかった。
- ・学生さんたちの活動や熱心さが伝わりました。車イス体験も自前にできてよかったです。アイマスクもしてみたかったです。
- ・仏教精神を知ること、視野が広がると考える。
- ・とても楽しくて、入学前に良い経験ができました。友達も増えて良かった。
- ・いろんな話や体験ができて楽しかったです。初めてのんとつながる機会も作っていただいたので良かったです。
- ・普段体験できないことが体験できて良かった。不安が少なくなった。
- ・かみしばいと色々考えさせられた。楽しかった。
- ・アイマスクの体験をして、目が見えない怖さを思い知って、目を大事にしようと思いました。
- ・先生の話や授業より体験やグループでの話し合いが多いと聞いてびっくりしました。
- ・いろんなことを知れてよかった
- ・すごく楽しかったです。楽しいという言い方は間違っているかもしれないけどそう感じました。とても興味を持ってました。45分という時間はあっという間でした。大学に入ってから授業が楽しみになりました。DVDなど、自ら話すという形だったのでつまらなく感じることはありませんでした。
- ・分かりやすく説明して下さって福祉についてさらに興味を持ちました。アイマスクでいかに目が大切であるということが分かりました。
- ・他者紹介で友達ができたのでよかった。
- ・体験授業を受けたことによって友達も増え、自分から様々なことに取り組むということを学びとてもよかったです。少しの間でしたが良い体験ができてよかったです。
- ・とてもよい経験ができて、よかったです。はじめて、車いすに乗りました。すこし怖かったです。でも、よいけいけんだったと思います。大学に入ったら、頑張りたいと思います。ありがとうございました。

## 保健医療技術学部

### 【理学療法学科】

- ・楽しかった。不安もあつたけど楽しみになった。
- ・思っていたよりもかたくなりすぎずに気軽に集中して授業をうけられた。
- ・とても親しみやすい雰囲気でお話しして下さったので、話の内容もわかりやすく、充実した時間をすごせた。

### 【作業療法学科】

- ・とてもたのしかったです。はやく入学して作業療法のことなど、勉強したいです!!
- ・自分の学部についての理解を深められ、大学が楽しみになりました。
- ・真剣に頑張ろうという意欲が湧いた。
- ・わかりやすいところもありましたが言葉が難しかったです。

## Q4 入学前教育（授業体験コース）で実施して欲しかった事。

### 仏教学部

#### 【仏教学科】

- ・もうちょっと明るく、楽しくが良かったです。

### 文学部

#### 【日本文学科】

- ・特にない。

#### 【中国学科】

記述なし

**【英米学科】**

- ・学科別に集まりたかった。そうしたら、どの子が同じ学科わかりやすい。

歴史学部

**【歴史学科】**

記述なし

**【歴史文化学科】**

記述なし

教育学部

**【教育学科】**

記述なし

**【臨床心理学科】**

記述なし

社会学部

**【現代社会学科】**

- ・なし。

**【公共政策学科】**

- ・サークルの紹介。
- ・なし。
- ・もっとみんなと交流ができるようなことがあったらいいなと思いました。(ゲームとか)
- ・もっと友達づくりをしたかったのですが、きっかけがあまりなく、うまくいきませんでした。なので、そういう機会をどんどん増やしていった方が(増やしてもらえたら)と思います。

社会福祉学部

- ・これから車イス体験やアイマスク体験はやって行って自分自身体験したほうがよいと思った。
- ・特になし。

保健医療技術学部

**【理学療法学科】**

記述なし

**【作業療法学科】**

- ・理学と作業の違いをもっと説明してほしい。

## 授業体験コース アンケート集計 同窓

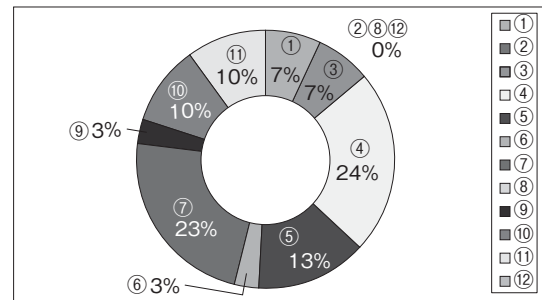
### Q1 参加目的

Q1-1. 授業体験コースに参加した目的は何ですか？  
(複数回答可)

①	日程の都合が良かったため	2
②	自宅が大学に近かったため	0
③	通学方法などを確認するため	2
④	大学の雰囲気を知るため	7
⑤	友人を作るため	4
⑥	大学生活に不安があったため	1
⑦	大学での授業内容を知るため	7
⑧	自校教育について聞きたかったため	0
⑨	各学部のガイダンスが聞きたかったため	1
⑩	体験授業の内容に興味があったため	3
⑪	教員のことを知るため	3
⑫	特に具体的な目的はない	0

総回答者数 30

受講者数 14人    回答者数 11人    回答率 78.6%



### Q2 実施内容について

Q2-1. 自校教育について、いかがでしたか？

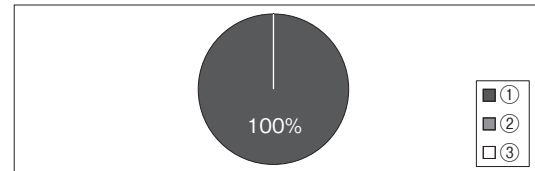
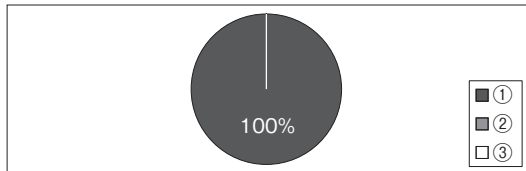
①	わかりやすかった	11
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	0

総回答者数 11

Q2-2. 各学部の学びの導入（ガイダンス）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	11
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	0

総回答者数 11



Q2-3. 各学部の体験授業について、いかがでしたか？  
(午前の授業)

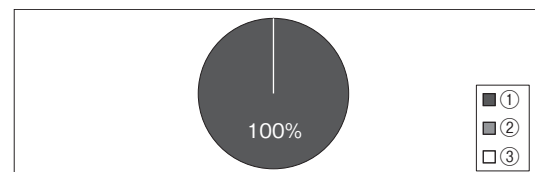
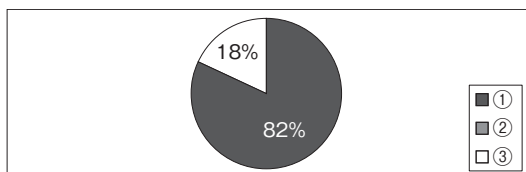
①	わかりやすかった	9
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	2

総回答者数 11

Q2-3. 各学部の体験授業について、いかがでしたか？  
(午後の授業)

①	わかりやすかった	11
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	0

総回答者数 11

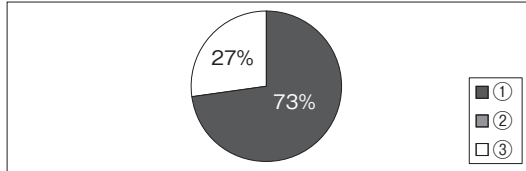


Q3 入学前教育（授業体験コース）について

Q3-1. 大学生になることに不安を感じていましたか？

①	感じていた	8
②	感じていなかった	0
③	どちらともいえない	3

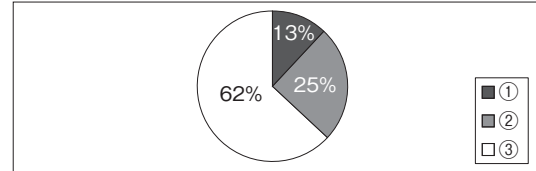
総回答者数 11



Q3-2. 大学生になる不安は少なくなりましたか？  
(Q3-1 で①を選択した人のみ)

①	不安は全くなくなった	1
②	不安はなくならなかった	2
③	どちらともいえない	5

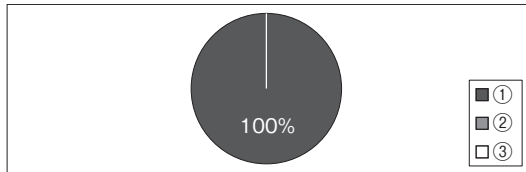
総回答者数 8



Q3-3. 入学前教育（授業体験コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	10
②	持てなかった	0
③	どちらともいえない	0

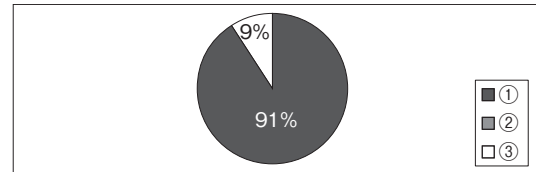
総回答者数 10



Q3-4. 入学前教育（授業体験コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	10
②	思わなかった	0
③	どちらともいえない	1

総回答者数 11



Q2-4 体験授業を受けた感想

文学部

【英米学科】

・わかりやすく、大学の雰囲気が知れてよかった。

教育学部

【教育学科】

・いろいろな先生の話しをきかせていただいて、もっと気をひきしめて大学生になるべきだと思いました。実習たのしかったです。

【臨床心理学科】

・今までしゃべったことのないようなタイプの人ともしゃべったり意見を述べあったりできてよかった。

社会学部

【現代社会学科】

記述なし

【公共政策学科】

・おもしろかった。

社会福祉学部

【社会福祉学科】

・学生さんたちの活動や熱心さが伝わりました。車イス体験も自前にできてよかったです。アイマスクもしてみたかったです。

・他者紹介で友達ができたのでよかった。

保健医療技術学部

【理学療法学科】

・とても親しみやすい雰囲気でお話ししてくださったので、話の内容もわかりやすく、充実した時間をすごせた。

【作業療法学科】

記述なし

Q4 入学前教育（授業体験コース）で実施して欲しかった事。

文学部

【英米学科】

記述なし

教育学部

【教育学科】

・特にないです

【臨床心理学科】

記述なし

社会学部

【現代社会学科】

・部活動、サークルについて聞く場を設けて欲しかった。

【公共政策学科】

記述なし

社会福祉学部

【社会福祉学科】

記述なし

保健医療技術学部

【理学療法学科】

記述なし

【作業療法学科】

記述なし



## 授業体験コース アンケート集計 帰国生徒

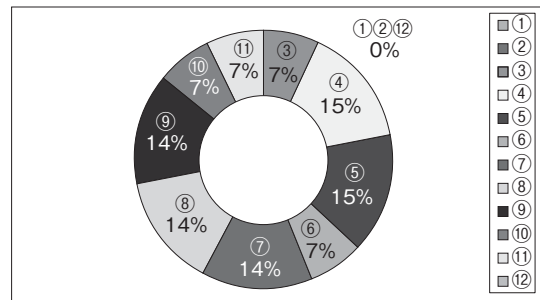
### Q1 参加目的

Q1-1. 授業体験コースに参加した目的は何ですか？  
(複数回答可)

①	日程の都合が良かったため	0
②	自宅が大学に近かったため	0
③	通学方法などを確認するため	1
④	大学の雰囲気を知るため	2
⑤	友人を作るため	2
⑥	大学生活に不安があったため	1
⑦	大学での授業内容を知るため	2
⑧	自校教育について聞きたかったため	2
⑨	各学部のガイダンスが聞きたかったため	2
⑩	体験授業の内容に興味があったため	1
⑪	教員のことを知るため	1
⑫	特に具体的な目的はない	0

総回答者数 14

受講者数 3人    回答者数 3人    回答率 100.0%



### Q2 実施内容について

Q2-1. 自校教育について、いかがでしたか？

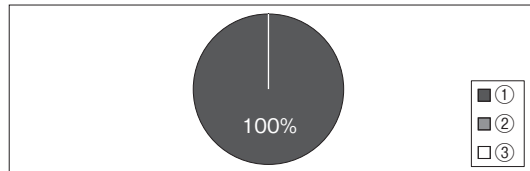
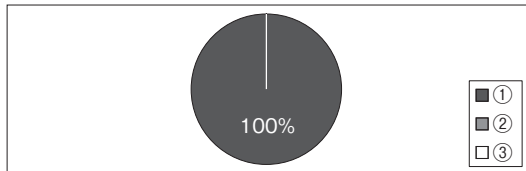
①	わかりやすかった	3
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	0

総回答者数 3

Q2-2. 各学部の学びの導入（ガイダンス）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	3
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	0

総回答者数 3



Q2-3. 各学部の体験授業について、いかがでしたか？  
(午前の授業)

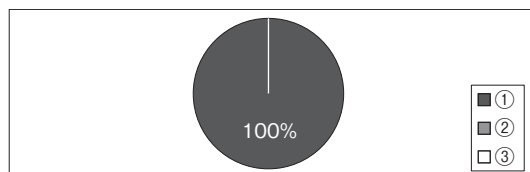
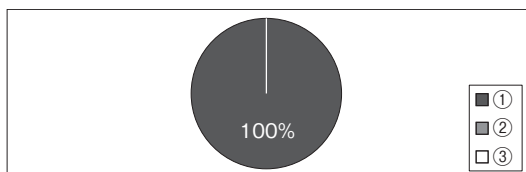
①	わかりやすかった	3
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	0

総回答者数 3

Q2-3. 各学部の体験授業について、いかがでしたか？  
(午後の授業)

①	わかりやすかった	2
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	1

総回答者数 3

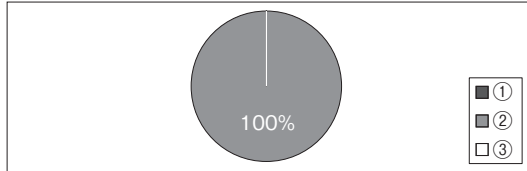


Q3 入学前教育（授業体験コース）について

Q3-1. 大学生になることに不安を感じていましたか？

①	感じていた	0
②	感じていなかった	2
③	どちらともいえない	0

総回答者数 2



Q3-2. 大学生になる不安は少なくなりましたか？  
(Q3-1 で①を選択した人のみ)

①	不安は全くなくなった	0
②	不安はなくならなかった	0
③	どちらともいえない	0

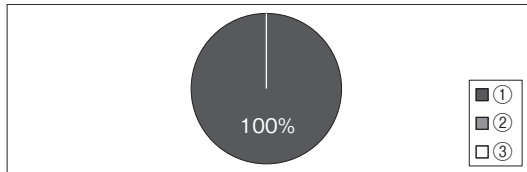
総回答者数 0



Q3-3. 入学前教育（授業体験コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	2
②	持てなかった	0
③	どちらともいえない	0

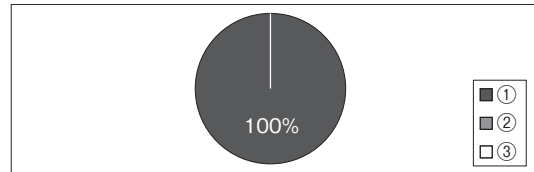
総回答者数 2



Q3-4. 入学前教育（授業体験コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	2
②	思わなかった	0
③	どちらともいえない	0

総回答者数 2



Q2-4 体験授業を受けた感想

文学部

【英米学科】

・参加してためになった。

社会学部

【現代社会学科】

・小、中、高とは違い自由に過ごす事が出来るので自己主張が大切だと思う。

社会福祉学部

【社会福祉学科】

・仏教精神を知ること、視野が広がると考える。

Q4 入学前教育（授業体験コース）で実施して欲しかった事。

文学部

【英米学科】

記述なし

社会学部

【現代社会学科】

・なし。

社会福祉学部

【社会福祉学科】

記述なし

## 授業体験コース アンケート集計 仏教学部

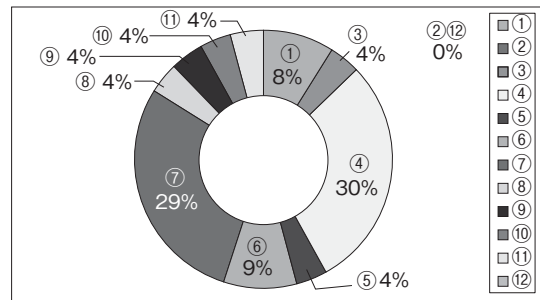
### Q1 参加目的

Q1-1. 授業体験コースに参加した目的は何ですか？  
(複数回答可)

①	日程の都合が良かったため	2
②	自宅が大学に近かったため	0
③	通学方法などを確認するため	1
④	大学の雰囲気をを知るため	7
⑤	友人を作るため	1
⑥	大学生活に不安があったため	2
⑦	大学での授業内容を知るため	7
⑧	自校教育について聞きたかったため	1
⑨	各学部のガイダンスが聞きたかったため	1
⑩	体験授業の内容に興味があったため	1
⑪	教員のことを知るため	1
⑫	特に具体的な目的はない	0

総回答者数 24

受講者数 8人 回答者数 8人 回答率 100.0%



### Q2 実施内容について

Q2-1. 自校教育について、いかがでしたか？

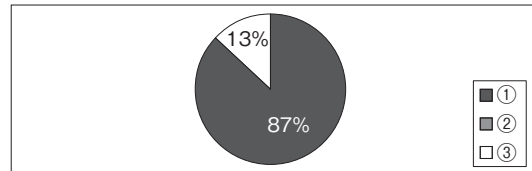
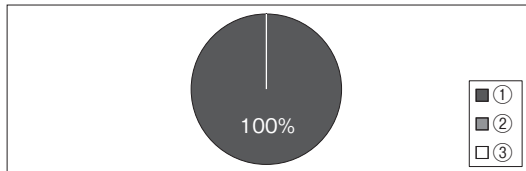
①	わかりやすかった	8
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	0

総回答者数 8

Q2-2. 各学部の学びの導入（ガイダンス）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	7
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	1

総回答者数 8



Q2-3. 各学部の体験授業について、いかがでしたか？  
(午前の授業)

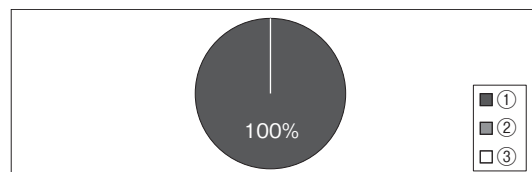
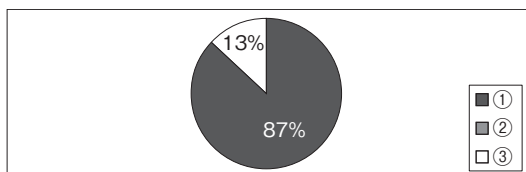
①	わかりやすかった	7
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	1

総回答者数 8

Q2-3. 各学部の体験授業について、いかがでしたか？  
(午後の授業)

①	わかりやすかった	8
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	0

総回答者数 8

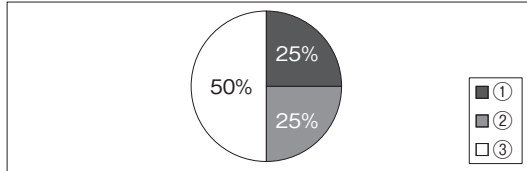


Q3 入学前教育（授業体験コース）について

Q3-1. 大学生になることに不安を感じていましたか？

①	感じていた	2
②	感じていなかった	2
③	どちらともいえない	4

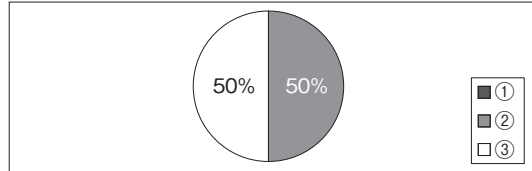
総回答者数 8



Q3-2. 大学生になる不安は少なくなりましたか？  
(Q3-1 で①を選択した人のみ)

①	不安は全くなくなった	0
②	不安はなくならなかった	1
③	どちらともいえない	1

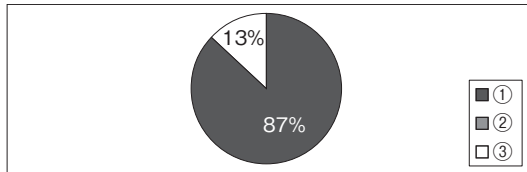
総回答者数 2



Q3-3. 入学前教育（授業体験コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	7
②	持てなかった	0
③	どちらともいえない	1

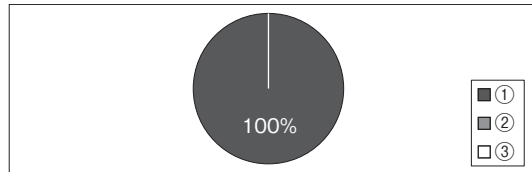
総回答者数 8



Q3-4. 入学前教育（授業体験コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	8
②	思わなかった	0
③	どちらともいえない	0

総回答者数 8



Q2-4 体験授業を受けた感想

- ・仏教を学んでいく上でとてもためになり分かりやすかった。
- ・難しい内容で完璧には理解できなかったけど、良い時間を過ごせたと思います。
- ・とても勉強になった。
- ・仏教ってすごい。
- ・これからの大学で学ぶこととかが分かってよかった。

Q4 入学前教育（授業体験コース）で実施して欲しかった事。

- ・もうちょっと明るく、楽しくが良かったです。

## 授業体験コース アンケート集計 文学部

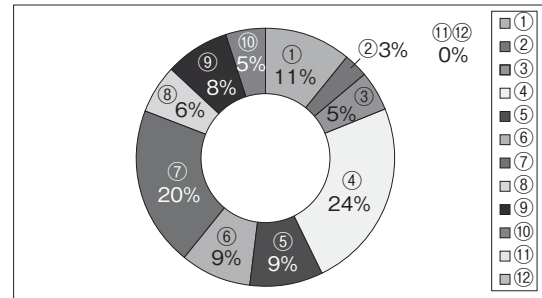
### Q1 参加目的

Q1-1. 授業体験コースに参加した目的は何ですか？  
(複数回答可)

①	日程の都合が良かったため	7
②	自宅が大学に近かったため	2
③	通学方法などを確認するため	3
④	大学の雰囲気をを知るため	15
⑤	友人を作るため	6
⑥	大学生活に不安があったため	6
⑦	大学での授業内容を知るため	13
⑧	自校教育について聞きたかったため	4
⑨	各学部のガイダンスが聞きたかったため	5
⑩	体験授業の内容に興味があったため	3
⑪	教員のことを知るため	0
⑫	特に具体的な目的はない	0

総回答者数 64

受講者数 26人    回答者数 23人    回答率 88.5%

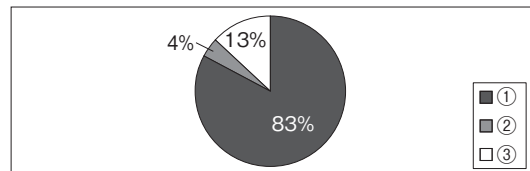


### Q2 実施内容について

Q2-1. 自校教育について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	19
②	わかりにくかった	1
③	どちらともいえない	3

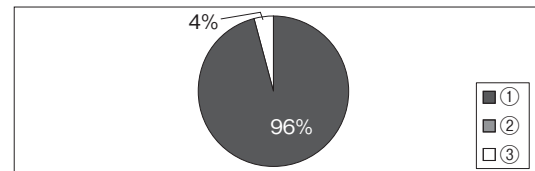
総回答者数 23



Q2-2. 各学部の学びの導入（ガイダンス）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	22
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	1

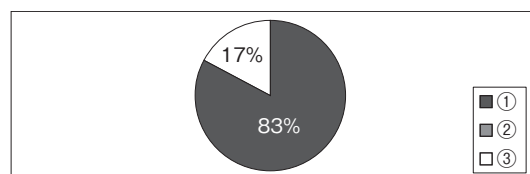
総回答者数 23



Q2-3. 各学部の体験授業について、いかがでしたか？  
(午前の授業)

①	わかりやすかった	19
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	4

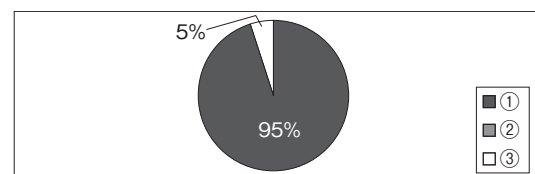
総回答者数 23



Q2-3. 各学部の体験授業について、いかがでしたか？  
(午後の授業)

①	わかりやすかった	21
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	1

総回答者数 22

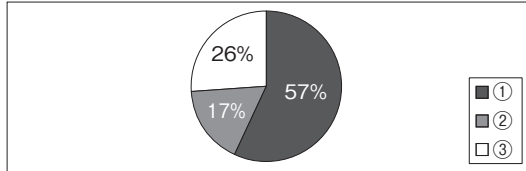


Q3 入学前教育（授業体験コース）について

Q3-1. 大学生になることに不安を感じていましたか？

①	感じていた	13
②	感じていなかった	4
③	どちらともいえない	6

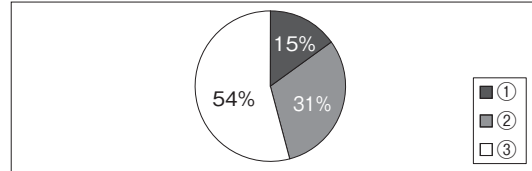
総回答者数 23



Q3-2. 大学生になる不安は少なくなりましたか？  
(Q3-1 で①を選択した人のみ)

①	不安は全くなくなった	2
②	不安はなくならなかった	4
③	どちらともいえない	7

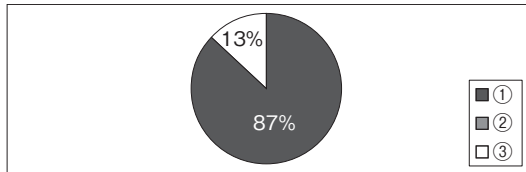
総回答者数 13



Q3-3. 入学前教育（授業体験コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	20
②	持てなかった	0
③	どちらともいえない	3

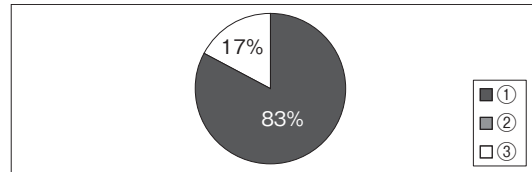
総回答者数 23



Q3-4. 入学前教育（授業体験コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	19
②	思わなかった	0
③	どちらともいえない	4

総回答者数 23



Q2-4 体験授業を受けた感想

【日本文学科】

- ・おもしろかった
- ・高校とは全然違うことをやるので興味が持てました。
- ・初めて受けましたが、とてもためになる授業でした。
- ・どんな事を学ぶかや雰囲気を知れたので来てよかったと思います。
- ・大学で学びたいことが少し分かりました。
- ・とてもわかりやすかった。

【中国学科】

- ・楽しかった
- ・最初はむずかしそうなんかな？って思ってたけど今日受けて不安がなくなった。

【英米学科】

- ・わかりやすく、大学の雰囲気が知れてよかった。
- ・心理学にも興味を持ちました。
- ・おもったよりおもしろかった。
- ・興味をもつことができました。
- ・最初は来るのが嫌やなあと思っていたのですが、授業を受けてみて楽しく、興味を持てたので、4月からが楽しみです。ありがとうございます。
- ・わかりやすく、興味が持てました。
- ・参加してためになった。
- ・すごい深いお話を聞いてよかったです。
- ・全体的にわかりやすかった。
- ・先生の雰囲気がわかった。
- ・先生1人1人が個性的で、親密になって話を聞くことができました。たいへん楽しく授業を受けることができました。

Q4 入学前教育（授業体験コース）で実施して欲しかった事。

【日本文学科】

・特になし。

【中国学科】

記述なし

【英米学科】

・学科別に集まりたかった。そうしたら、どの子が同じ学科かわかりやすい。

## 授業体験コース アンケート集計 歴史学部

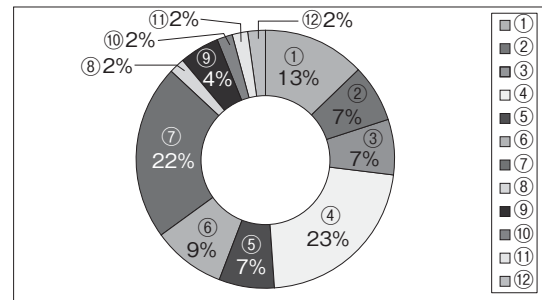
### Q1 参加目的

Q1-1. 授業体験コースに参加した目的は何ですか？  
(複数回答可)

①	日程の都合が良かったため	6
②	自宅が大学に近かったため	3
③	通学方法などを確認するため	3
④	大学の雰囲気をを知るため	10
⑤	友人を作るため	3
⑥	大学生活に不安があったため	4
⑦	大学での授業内容を知るため	10
⑧	自校教育について聞きたかったため	1
⑨	各学部のガイダンスが聞きたかったため	2
⑩	体験授業の内容に興味があったため	1
⑪	教員のことを知るため	1
⑫	特に具体的な目的はない	1

総回答者数 45

受講者数 15人 回答者数 14人 回答率 93.3%

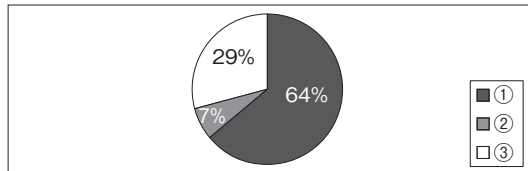


### Q2 実施内容について

Q2-1. 自校教育について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	9
②	わかりにくかった	1
③	どちらともいえない	4

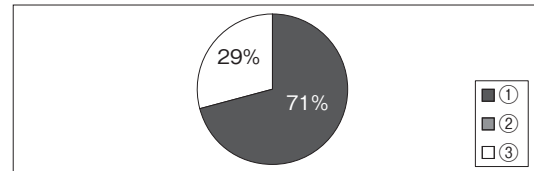
総回答者数 14



Q2-2. 各学部の学びの導入（ガイダンス）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	10
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	4

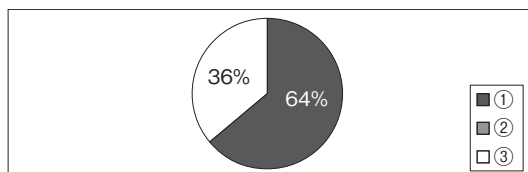
総回答者数 14



Q2-3. 各学部の体験授業について、いかがでしたか？  
(午前の授業)

①	わかりやすかった	9
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	5

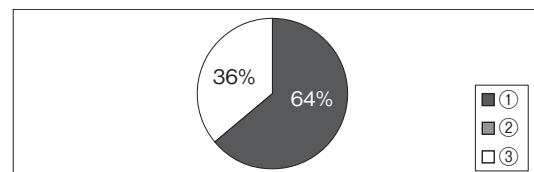
総回答者数 14



Q2-3. 各学部の体験授業について、いかがでしたか？  
(午後の授業)

①	わかりやすかった	9
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	5

総回答者数 14



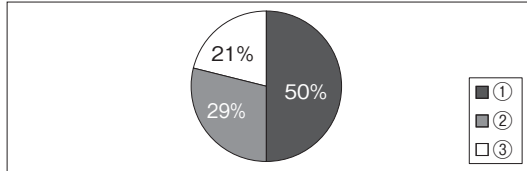


Q3 入学前教育（授業体験コース）について

Q3-1. 大学生になることに不安を感じていましたか？

①	感じていた	7
②	感じていなかった	4
③	どちらともいえない	3

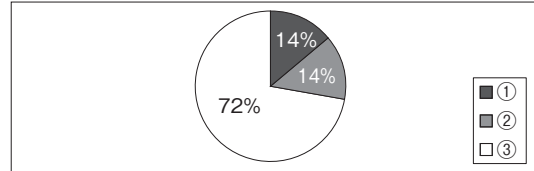
総回答者数 14



Q3-2. 大学生になる不安は少なくなりましたか？  
(Q3-1 で①を選択した人のみ)

①	不安は全くなくなった	1
②	不安はなくならなかった	1
③	どちらともいえない	5

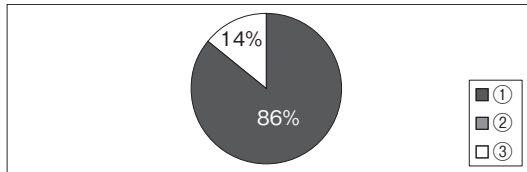
総回答者数 7



Q3-3. 入学前教育（授業体験コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	12
②	持てなかった	0
③	どちらともいえない	2

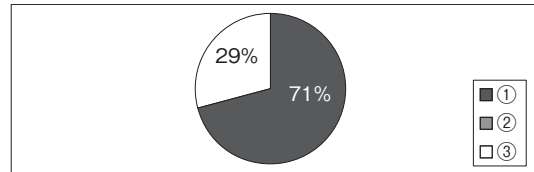
総回答者数 14



Q3-4. 入学前教育（授業体験コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	10
②	思わなかった	0
③	どちらともいえない	4

総回答者数 14



Q2-4 体験授業を受けた感想

【歴史学科】

- ・少し、難しいなと思った。でも、色々な歴史を勉強した上で大学でも教えてもらい深く歴史のことをしりたいと思った。
- ・興味深い内容だった。
- ・1限目に教えていただいた、時代区分がためになった。自分の見方、というのを見つけたい。
- ・難しそうだったけど、これから勉強しようと思います！
- ・楽しそうでした。
- ・難しすぎていまいちわからなかった。
- ・とてもわかりやすい授業でよかった。

【歴史文化学科】

- ・どんな授業をするのか前もって知れたので、これから自分なりに準備したいと思います。
- ・これからの大学生活で何をすれば良いかわかってきて良かった。
- ・とても興味深かった。
- ・どのような事をするかわかった。

Q4 入学前教育（授業体験コース）で実施して欲しかった事。

【歴史学科】

記述なし

【歴史文化学科】

記述なし

## 授業体験コース アンケート集計 教育学部

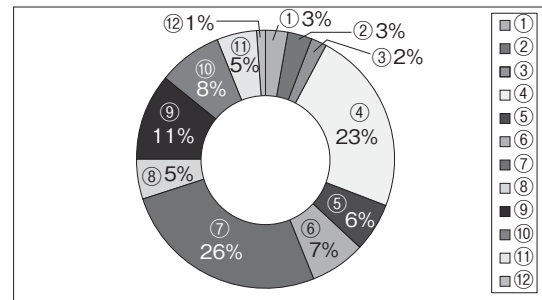
### Q1 参加目的

Q1-1. 授業体験コースに参加した目的は何ですか？  
(複数回答可)

①	日程の都合が良かったため	3
②	自宅が大学に近かったため	3
③	通学方法などを確認するため	2
④	大学の雰囲気を知るため	23
⑤	友人を作るため	6
⑥	大学生活に不安があったため	7
⑦	大学での授業内容を知るため	27
⑧	自校教育について聞きたかったため	5
⑨	各学部のガイダンスが聞きたかったため	11
⑩	体験授業の内容に興味があったため	8
⑪	教員のことを知るため	5
⑫	特に具体的な目的はない	1

総回答者数 101

受講者数 32人    回答者数 31人    回答率 96.9%

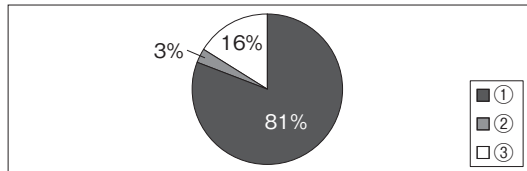


### Q2 実施内容について

Q2-1. 自校教育について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	25
②	わかりにくかった	1
③	どちらともいえない	5

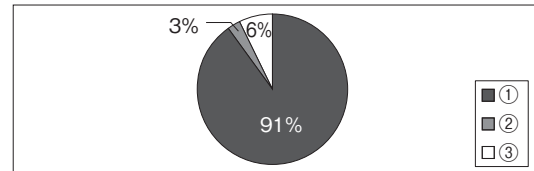
総回答者数 31



Q2-2. 各学部の学びの導入（ガイダンス）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	28
②	わかりにくかった	1
③	どちらともいえない	2

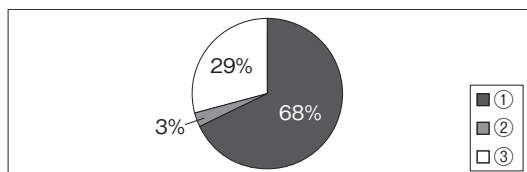
総回答者数 31



Q2-3. 各学部の体験授業について、いかがでしたか？  
(午前の授業)

①	わかりやすかった	21
②	わかりにくかった	1
③	どちらともいえない	9

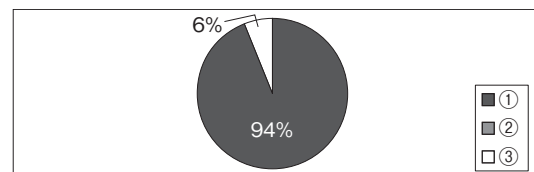
総回答者数 31



Q2-3. 各学部の体験授業について、いかがでしたか？  
(午後の授業)

①	わかりやすかった	29
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	2

総回答者数 31

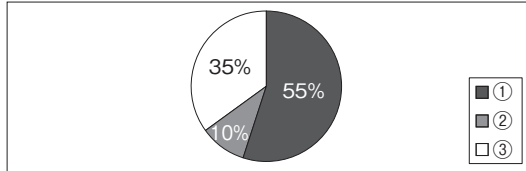


Q3 入学前教育（授業体験コース）について

Q3-1. 大学生になることに不安を感じていましたか？

①	感じていた	17
②	感じていなかった	3
③	どちらともいえない	11

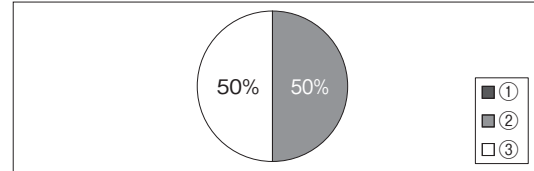
総回答者数 31



Q3-2. 大学生になる不安は少なくなりましたか？  
(Q3-1 で①を選択した人のみ)

①	不安は全くなくなった	0
②	不安はなくならなかった	9
③	どちらともいえない	9

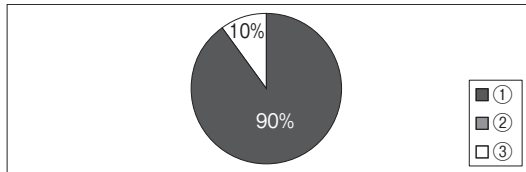
総回答者数 18



Q3-3. 入学前教育（授業体験コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	28
②	持てなかった	0
③	どちらともいえない	3

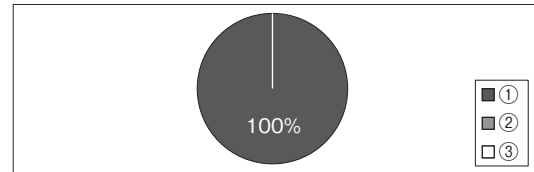
総回答者数 31



Q3-4. 入学前教育（授業体験コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	31
②	思わなかった	0
③	どちらともいえない	0

総回答者数 31



Q2-4 体験授業を受けた感想

【教育学科】

- ・大学の難しさを体験できた。春休みの大事さを知ることができてよかったと思う。
- ・いろいろな先生の話しをきかせていただいて、もっと気をひきしめて大学生になるべきだと思いました。実習たのしかったです。
- ・大学入学後、自分がどのような意見を持っていけばよいのかを考える良い機会になったと思います。
- ・自分で何事も考えていかなければならないといけないので難しいことだと思いました。
- ・大学の授業の雰囲気分かったので良かったです。
- ・自分の興味のあることばっかだったのですごく勉強になったし、楽しかったです。
- ・入学前に授業を体験することができて、本当に良かったです。夢の実現に向け"今"から動きだそうと改めて思いました。
- ・4月の大学入学までの残りの日数をイギあるものにならなければいけないと思った。
- ・大学について、入学前にいろいろ知れたので良かったです。
- ・先生こんにちは☆教育コース（元）の1人です!!今日は先生の話聞いて、改めて勉強しよう!と思いました。大学を甘く見てたらダメですね!
- ・大学の授業がどのように進んでいくか、などよくわかった。
- ・大学での授業の大切さや春休みの使い方、学ぶものがたくさんありました。
- ・大学の授業がどのように行われるかを知れて良かった。
- ・大学の授業のふんいきを知る事ができてよかった。先生が恐かった(笑)
- ・4月の授業が楽しみです、不安でもあります。
- ・教育学(午後)グループワークはすごくいいものだった。先生の入学前にすべきことはこれからどうすればいいのかよくわかった。
- ・大学での雰囲気がつかめて良かった。気持ちを引き締めて入学式を迎えたいと思いました。
- ・討論は楽しかった
- ・大学の雰囲気も少しわかって良かった。

【臨床心理学科】

- ・予想していた通りの雰囲気でした。でも思ったより大学は大変そうです。
- ・大学生活に向けての気持ちや準備などについて知れてよかった。
- ・先生は厳しくも、大きな愛情を持った先生だと思った。実際に大学の先生の話聞いて、もっと頑張ろうと思うきっかけになった。
- ・今までしゃべったことのないようなタイプの人としゃべったり意見を述べあったりできてよかった。
- ・先生怖かったです。でも、春休みにやらな!!! って気持ちになりました。参加して良かったです。ありがとうございました！
- ・大学というものが全くわからない状態だったので勉強になりました。

Q4 入学前教育（授業体験コース）で実施して欲しかった事。

【教育学科】

- ・特にはないです

【臨床心理学科】

記述なし

## 授業体験コース アンケート集計 社会学部

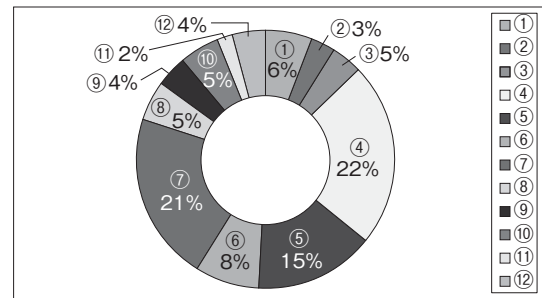
### Q1 参加目的

Q1-1. 授業体験コースに参加した目的は何ですか？  
(複数回答可)

①	日程の都合が良かったため	7
②	自宅が大学に近かったため	3
③	通学方法などを確認するため	5
④	大学の雰囲気をを知るため	25
⑤	友人を作るため	17
⑥	大学生活に不安があったため	9
⑦	大学での授業内容を知るため	23
⑧	自校教育について聞きたかったため	5
⑨	各学部のガイダンスが聞きたかったため	4
⑩	体験授業の内容に興味があったため	6
⑪	教員のことを知るため	2
⑫	特に具体的な目的はない	4

総回答者数 110

受講者数 54人    回答者数 40人    回答率 74.1%

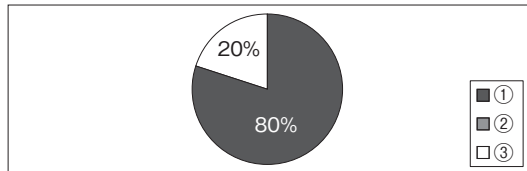


### Q2 実施内容について

Q2-1. 自校教育について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	32
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	8

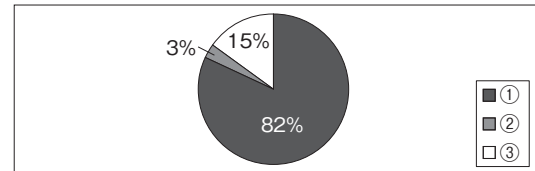
総回答者数 40



Q2-2. 各学部の学びの導入（ガイダンス）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	33
②	わかりにくかった	1
③	どちらともいえない	6

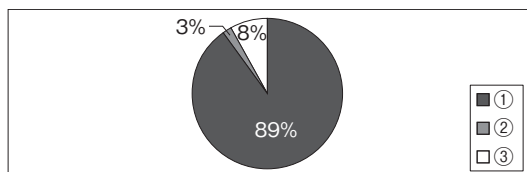
総回答者数 40



Q2-3. 各学部の体験授業について、いかがでしたか？  
(午前の授業)

①	わかりやすかった	35
②	わかりにくかった	1
③	どちらともいえない	3

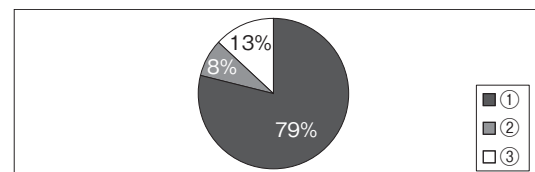
総回答者数 39



Q2-3. 各学部の体験授業について、いかがでしたか？  
(午後の授業)

①	わかりやすかった	30
②	わかりにくかった	3
③	どちらともいえない	5

総回答者数 38

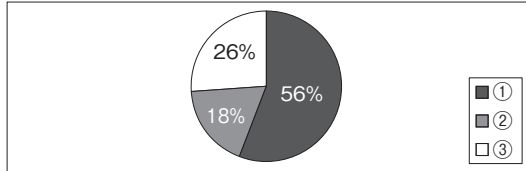


Q3 入学前教育（授業体験コース）について

Q3-1. 大学生になることに不安を感じていましたか？

①	感じていた	22
②	感じていなかった	7
③	どちらともいえない	10

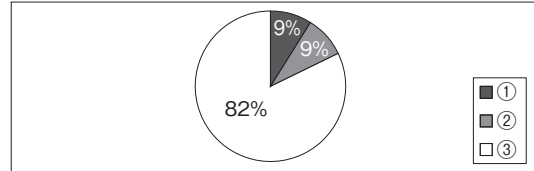
総回答者数 39



Q3-2. 大学生になる不安は少なくなりましたか？  
(Q3-1 で①を選択した人のみ)

①	不安は全くなくなった	2
②	不安はなくならなかった	2
③	どちらともいえない	19

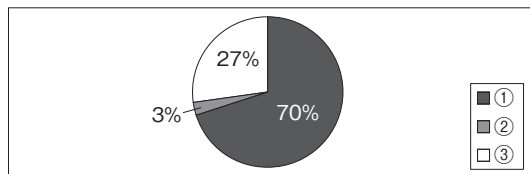
総回答者数 23



Q3-3 入学前教育（授業体験コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	26
②	持てなかった	1
③	どちらともいえない	10

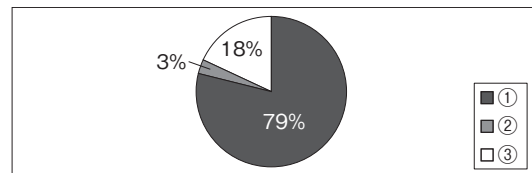
総回答者数 37



Q3-4. 入学前教育（授業体験コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	30
②	思わなかった	1
③	どちらともいえない	7

総回答者数 38



Q2-4 体験授業を受けた感想

【現代社会学科】

- ・グループで話し合ったり、ビデオを見たりと楽しかったです。
- ・なし
- ・いい経験ができた。
- ・今日の体験授業を受講してみて、大学はどのようなものなのか少しわかりました。将来は教職を取得したいと思っていますので、非常にためになりました。
- ・在学生の意見を聞いて良かった。
- ・高校と大学の違いをととも感じました。
- ・3回生の言っていた事がとても説得力がありました。家から大学まで遠いですが部活と勉強の両立しようと思いました。
- ・大学の授業のふんいきがわかった。
- ・ダイナミックさに欠けるものがあった。今までの学校生活では学ぶことの出来なかったことが学べると思い、希望にみちています。
- ・大学生活のことがわかってよかった。
- ・少し大学の授業を知ることができた。
- ・楽しかった。
- ・小、中、高とは違い自由に過ごす事が出来るので自己主張が大切だと思う。
- ・プリントがあって、10分間のビデオも見て、すぐわかりやすかったです。
- ・午後の授業の3回生の話はおもしろかった。

【公共政策学科】

- ・大学に入学する前に貴重な体験をする事が出来て良かった。楽しかった。
- ・こんな感じなんだと思った。在校生の人の話を聞いてためになる事が少しはあった。
- ・特になし。
- ・大学のことがよくわかった。
- ・良かった。

- ・とても為になった。
- ・時間が長かった。
- ・単位のとりかたも、授業のやりかたも聞きたいと思っていたことを言ってくれたので良かったです。
- ・午前の方は前にも話を聞いたことのある先生でしたので、すごくわかりやすく感じました。しかも、この方はパワーポイントがわかりやすいので、見やすかったです！午前と違い午後は学生さんたちから、貴重な話を聞くことができ、よかったです。
- ・大体の授業内容を知ることができた。
- ・おもしろかった。
- ・リアルな大学生活が見れてよかった。
- ・在学生の方のお話は楽しそうで、たのしみが増えた!! 入学たのしみ☆!
- ・高校とはちがった楽しさがあると思いました。

Q4 入学前教育（授業体験コース）で実施して欲しかった事。

【現代社会学科】

- ・なし。
- ・特にないです。
- ・アクロバット、サークル紹介（くわしく）。
- ・部活動、サークルについて聞く場を設けて欲しかった。

【公共政策学科】

- ・サークルの紹介。
- ・特になし。
- ・なし。
- ・授業もいいが、政治家の講演などでも良かったんじゃないかなと思った。
- ・もっとみんなと交流ができるようなことがあったらいいなと思いました。（ゲームとか）
- ・もっと友達づくりをしたかったのですが、きっかけがあまりなく、うまくいきませんでした。なので、そういう機会をどんどん増やしていった方が（増やしてもらえたら）と思います。

## 授業体験コース アンケート集計 社会福祉学部

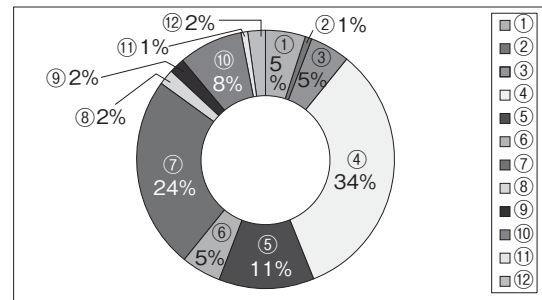
### Q1 参加目的

Q1-1. 授業体験コースに参加した目的は何ですか？  
(複数回答可)

①	日程の都合が良かったため	4
②	自宅が大学に近かったため	1
③	通学方法などを確認するため	4
④	大学の雰囲気をを知るため	29
⑤	友人を作るため	10
⑥	大学生活に不安があったため	4
⑦	大学での授業内容を知るため	21
⑧	自校教育について聞きたかったため	2
⑨	各学部のガイダンスが聞きたかったため	2
⑩	体験授業の内容に興味があったため	7
⑪	教員のことを知るため	1
⑫	特に具体的な目的はない	2

総回答者数 87

受講者数 41人 回答者数 39人 回答率 95.1%

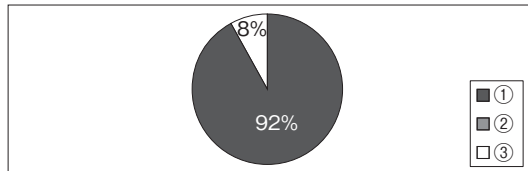


### Q2 実施内容について

Q2-1. 自校教育について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	34
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	3

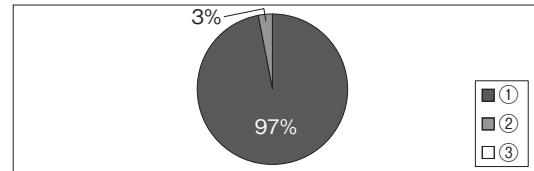
総回答者数 37



Q2-2. 各学部の学びの導入（ガイダンス）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	34
②	わかりにくかった	1
③	どちらともいえない	0

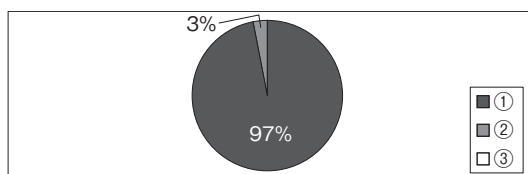
総回答者数 35



Q2-3. 各学部の体験授業について、いかがでしたか？  
(午前の授業)

①	わかりやすかった	37
②	わかりにくかった	1
③	どちらともいえない	0

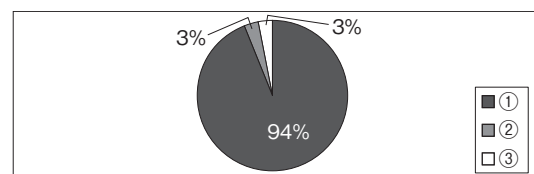
総回答者数 38



Q2-3. 各学部の体験授業について、いかがでしたか？  
(午後の授業)

①	わかりやすかった	35
②	わかりにくかった	1
③	どちらともいえない	1

総回答者数 37



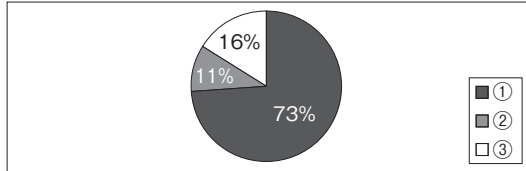


Q3 入学前教育（授業体験コース）について

Q3-1. 大学生になることに不安を感じていましたか？

①	感じていた	28
②	感じていなかった	4
③	どちらともいえない	6

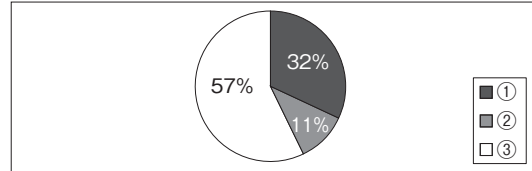
総回答者数 38



Q3-2. 大学生になる不安は少なくなりましたか？  
(Q3-1 で①を選択した人のみ)

①	不安は全くなくなった	9
②	不安はなくならなかった	3
③	どちらともいえない	16

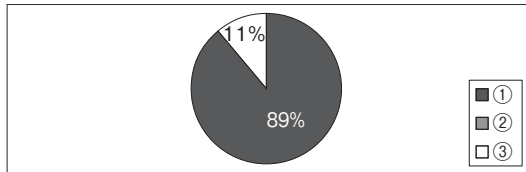
総回答者数 28



Q3-3. 入学前教育（授業体験コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	34
②	持てなかった	0
③	どちらともいえない	4

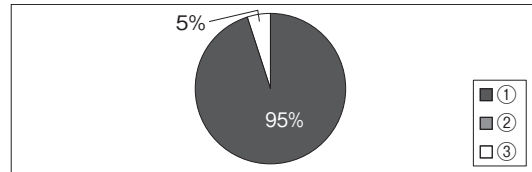
総回答者数 38



Q3-4. 入学前教育（授業体験コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	36
②	思わなかった	0
③	どちらともいえない	2

総回答者数 38



Q2-4 体験授業を受けた感想

- ・大学生生活が楽しみになった。いい経験ができた。
- ・大学生生活がスムーズにスタートできそうだ。
- ・午前授業では、大学のこと（新しいぎょうじ）を知ることが出来ました。午後授業では、アイマスクをして歩く目の不自由な人の体験が出来ました。午前、午後ともとても分かりやすく、ためになるけいけんが出来てよかったです。
- ・普段できない体験ができて良かったです。
- ・想像しているより実際に授業を受けて体験したほうが色々な意味で雰囲気とか興味を持てるようになった。
- ・どんなことをやるのかわかってよかった。
- ・学生さんもみんなやさしくて、自己紹介とかでは同期の人たちと話すことができたので良かったです。
- ・疑似体験があって良かったです。グループごとにやる方が、人と話しやすかった。
- ・車イスの体験（すわりごちよい。進んでいる時は怖くないけど、前を上げられると怖かった。押すのはカンタンだった。上げるのはむずかしくていきなり上げてしまうと乗ってる人に恐怖を与えてしまうと感じた。）
- ・教員に言われて行動するのではなく自分から進んで行動することが大切だということを知りました。
- ・車イスなど、いつも使わないものにふれられてよかった。
- ・めっちゃ分かりやすくてたのしかった。福祉を学びたいって改めて思った。
- ・いろいろ肌で体験できてよかった。
- ・大学はとても良い雰囲気だった。
- ・体験授業（実習等）を楽しく受けることができて良かったです。楽しかったです。
- ・高校と違って実技が多かった。
- ・車イス体験をして、互いに信頼関係が大事だということがわかった。アットホームな雰囲気でも良かったです。
- ・グループで他者紹介とかできて、みんなと仲よくなれてとてもよかった。
- ・学生さんたちの活動や熱心が伝わりました。車イス体験も自前にできてよかったです。アイマスクもしてみたかったです。
- ・仏教精神を知ること、視野が広がると考える。
- ・とても楽しくて、入学前に良い経験ができました。友達も増えて良かったです。
- ・いろんな話や体験ができて楽しかったです。初めてのんとつながる機会も作っていただいたので良かったです。

- ・普段体験できないことが体験できて良かった。不安が少なくなった。
- ・かみしばいと色々考えさせられた。楽しかった。
- ・アイマスクの体験をして、目が見えない怖さを思い知って、目を大事にしようと思いました。
- ・先生の話や先生の話より体験やグループでの話し合いが多いと聞いてびっくりしました。
- ・いろんなことを知れてよかった
- ・すごく楽しかったです。楽しいという言い方は間違っているかもしれないけどそう感じました。とても興味を持ってました。45分という時間はあっという間でした。大学に入ってから授業が楽しみになりました。DVDなど、自ら話すという形だったのでつまらなく感じることはありませんでした。
- ・分かりやすく説明して下さいって福祉についてさらに興味を持ちました。アイマスクでいかに目が大切であるということが分かりました。
- ・他者紹介で友達ができただけよかった。
- ・体験授業を受けたことによって友達も増え、自分から様々なことに取り組むということを学びとてもよかったです。少しの間でしたが良い体験ができてよかったです。
- ・とてもよい経験ができて、よかったです。はじめて、車いすに乗りました。すこし怖かったです。でも、よいけいけんだったと思います。大学に入ったら、頑張りたいと思います。ありがとうございました。

#### Q4 入学前教育（授業体験コース）で実施して欲しかった事。

- ・これから車イス体験やアイマスク体験はやって行って自分自身体験したほうがよいと思った。
- ・特にありません。ありがとうございました。
- ・特になし。

## 授業体験コース アンケート集計 保健医療技術学部

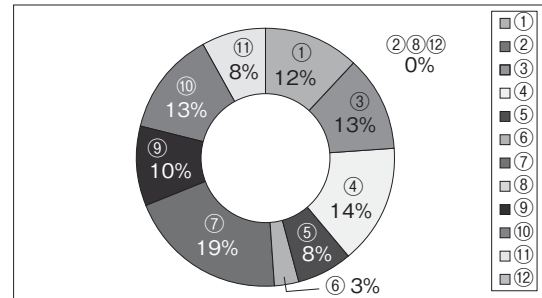
### Q1 参加目的

Q1-1. 授業体験コースに参加した目的は何ですか？  
(複数回答可)

①	日程の都合が良かったため	5
②	自宅が大学に近かったため	0
③	通学方法などを確認するため	5
④	大学の雰囲気をを知るため	6
⑤	友人を作るため	3
⑥	大学生活に不安があったため	1
⑦	大学での授業内容を知るため	8
⑧	自校教育について聞きたかったため	0
⑨	各学部のガイダンスが聞きたかったため	4
⑩	体験授業の内容に興味があったため	5
⑪	教員のことを知るため	3
⑫	特に具体的な目的はない	0

総回答者数 40

受講者数 10人 | 回答者数 10人 | 回答率 100.0%



### Q2 実施内容について

Q2-1. 自校教育について、いかがでしたか？

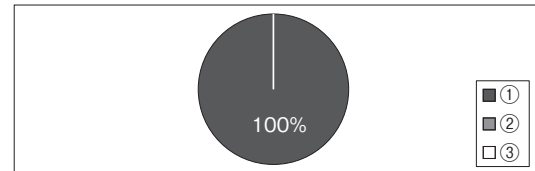
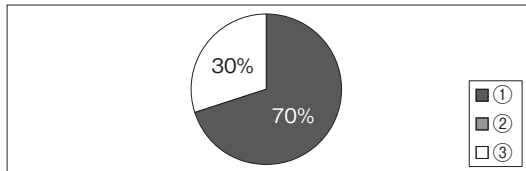
①	わかりやすかった	7
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	3

総回答者数 10

Q2-2. 各学部の学びの導入（ガイダンス）について、いかがでしたか？

①	わかりやすかった	10
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	0

総回答者数 10



Q2-3. 各学部の体験授業について、いかがでしたか？  
(午前の授業)

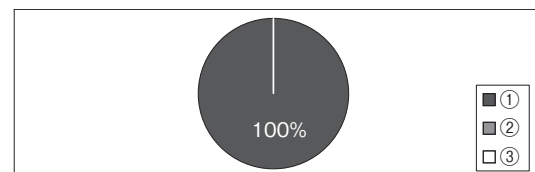
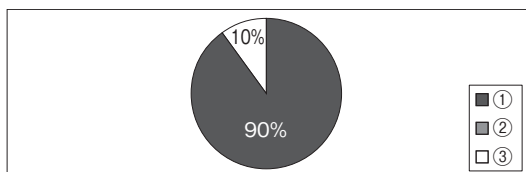
①	わかりやすかった	9
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	1

総回答者数 10

Q2-3. 各学部の体験授業について、いかがでしたか？  
(午後の授業)

①	わかりやすかった	10
②	わかりにくかった	0
③	どちらともいえない	0

総回答者数 10

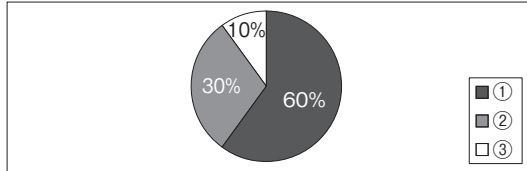


Q3 入学前教育（授業体験コース）について

Q3-1. 大学生になることに不安を感じていましたか？

①	感じていた	6
②	感じていなかった	3
③	どちらともいえない	1

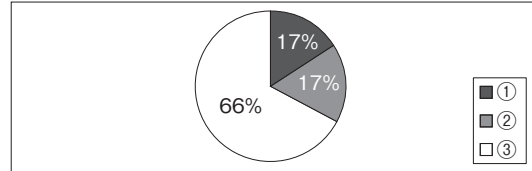
総回答者数 10



Q3-2. 大学生になる不安は少なくなりましたか？  
(Q3-1 で①を選択した人のみ)

①	不安は全くなくなった	1
②	不安はなくならなかった	1
③	どちらともいえない	4

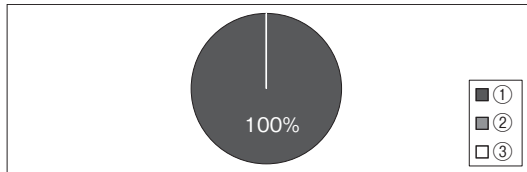
総回答者数 6



Q3-3. 入学前教育（授業体験コース）を受けて、大学の授業に関心が持てましたか？

①	持てた	10
②	持てなかった	0
③	どちらともいえない	0

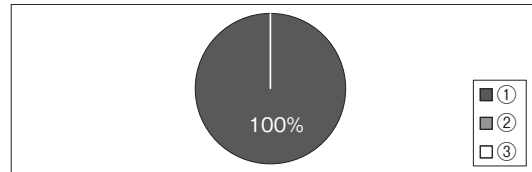
総回答者数 10



Q3-4. 入学前教育（授業体験コース）は、大学の授業に役立つと思われましたか？

①	思った	10
②	思わなかった	0
③	どちらともいえない	0

総回答者数 10



Q2-4 体験授業を受けた感想

【理学療法学科】

- ・楽しかった。不安もあったけど楽しみになった。
- ・思っていたよりもかたくなりすぎずに気軽に集中して授業をうけられた。
- ・とても親しみやすい雰囲気でお話ししてくださったので、話の内容もわかりやすく、充実した時間をすごせた。

【作業療法学科】

- ・とてもたのしかったです。はやく入学して作業療法のことなど、勉強したいです!!
- ・自分の学部についての理解を深められ、大学が楽しみになりました。
- ・真剣に頑張ろうという意欲が湧いた。
- ・わかりやすいところもありましたが言葉が難しかったです。

Q4 入学前教育（授業体験コース）で実施して欲しかった事。

【理学療法学科】

記述なし

【作業療法学科】

- ・自分の体を使ったりハビリの簡単な動作などをやってみたかった。
- ・理学と作業の違いをもっと説明してほしいかった。

**FD Review**

**FD 研究会**

第1回FD研究会  
入学前教育

2009年6月3日(水) 文責 藤松素子

入学前教育について、これまでの経緯を確認した上で現状の課題、今後の方向性について意見交流を行った。

<報告>

入学前教育導入の経緯とその後の実施状況について

本学においては2003年度より導入。当初は入学までのモチベーションの維持、入学後の学科専門教育への導入、大学生としての基礎学力修得と自己把握を目的としたものとして設定されていたが、2007年度以降、これに加えて学習への不安緩和という目的も加わっている。

対象とする入試種別として、2003年度当初は特別推薦・宗門後継者・帰国生徒が、2004年度にはこれに公募制推薦が、2005年度よりAO選抜が、2006年度より同窓が加えられている。

実施時期は各入試の入学手続き終了日以降随時開始し、受講は任意である。具体的な実施内容は以下の通り。

2003年度

- ①東進ハイスクール作成の大学教養基礎講座ビデオ視聴後に試験実施。
- ②学科別に課題レポートの作成後に添削指導を実施。
- ③特別推薦は上記に加え独自の事前指導を実施。
- ④宗門後継は独自課題を実施。

2004年度・2005年度

- ①学科別に課題レポートの作成後に添削指導を実施。
- ②特別推薦は上記に加え独自の事前指導を実施。
- ③宗門後継は独自課題を実施。

2006年度・2007年度

- ①学科別に課題レポートの作成後に添削指導を実施。
- ②AO選抜の英米のみネイティブスピーカーとの電話コミュニケーションを実施。
- ③特別推薦は上記に加え独自の事前指導を実施。
- ④宗門後継は独自課題を実施。

2008年度・2009年度

※①②のいずれか、あるいは両方を選択。

- ①レポート作成コース…学科別の課題を提示。

1-2 AO選抜の英米のみネイティブスピーカーとの電話コミュニケーションを実施。

1-3 特別推薦は上記に加え独自の事前宗門後継は独自課題を実施。

1-4 宗門後継は独自課題を実施。

②授業体験コース…本学における自校教育、各学部の学びのガイダンス、体験授業を実施。

### <意見交流>

- ・春学期オリエンテーション期間に実施している基礎学力調査を入学前に実施して入学前教育として位置づけるのも一案である。
- ・縁 GP で実施している SNS を活用して、入学前の不安や疑問について、ネット上で相談できるような方法を検討してみてもどうか。
- ・現在実施している「授業体験コース」において、在籍学生との交流をすることを検討してみてもどうか。2コマ実施している体験授業のうち1コマ分を学生と受講生との交流の場にするのも一案である。
- ・受講生の対象を限定せず、可能な限り全員に受講してもらい、入学後の入門ゼミの授業と関連づけられるような内容で入学前教育の課題を考えることを検討してみてもどうか。
- ・レポート作成コースの内容について、リメディアル教育として位置づけることも可能であるし、学科の専門教育への導入として位置づけることも考えられる。いずれにするかについては、学科の判断も様々であろうから、一律に考えるのではなく学科別で対応できるようにすべきなのではないか。リメディアル教育として位置づけるのであれば、初年度に実施していたように教育産業に委託することも効果的ではないか。
- ・他大学に「逃げる」のを防ぐためにも、入学後の就学意欲を維持するためにも、可能な限りきめ細かな対応を行うことで学生の心をつなぎとめるべきである。
- ・やる気のある受講生・ない受講生が存在する。双方に対応できるように様々な選択が可能となるよう内容を検討すべきではないか。
- ・レポート作成コースではリメディアル教育として、授業体験コースは学部学科の専門教育の導入として位置づけることが望ましいのではないか。
- ・レポート作成コースは学部主導で、縁 GP の展開とも関連づけながら実施することを学部に検討してもらえるように提案してはいかがか。
- ・レポート作成課題については、各学部学科の教育目標と照らし合わせながら、その実施目的を明示して実施する必要がある。

### <2010年度実施に際して>

- ・縁 GP との関連はハード面での課題を解消できず具体的な検討はできなかった。
- ・レポート作成コースに関しては従来どおりの実施となったが、授業体験コースについては在学生との交流を実施した学部もみられた。

第2回 FD 研究会

## 基礎学力調査

2009年12月9日(水) 文責 近藤敏夫

今年度からC社の基礎学力調査を新規に導入した。C社は全国で最大規模の大学受験模擬試験を実施しており、その経験に基づき大学入学後の学力調査に参入してきた。C社の基礎学力調査は、高校の科目試験に対応する「学習調査」と高校3年時の学習態度を尋ねる「学習実態調査」の2つで問題が構成されている。本学では「学習調査」の国語のみを用いた。第2回FD研究会では「学習実態調査」の結果を基にして、本学への志望理由、大学の学習で力を入れたいこと、大学生活で力を入れたいこと、大学での不安等について、全学の傾向および学科別の特徴を概観した。

以下、主な話題を抜粋して紹介する。

### 話題

学科別の集計表に簡単なコメントを付けて学部・学科に渡してやれば、対策に役立つ項目がある。例えば、本学の志望理由は志望の学部や学科があるということであるが、教育学科、理学療法、作業療法など、目的意識がはっきりしている学科で高くなる。他の項目と合わせると、新入生の視点から見た学科の特徴がよく分かる。

「大学の選定条件」で、立地・場所、施設・設備、校舎の新旧があるが、まず立地・場所に関しては重視する学生が6割と多い。学科別に顕著な差はない。ところが、施設・設備になると、保健医療学部の学生が7割前後と重視している。次が教育学科で施設・設備を重視している。校舎の新旧に関しては、あまり問題にされていない。

本学を志望したときの状況は、理学療法、作業療法、社会福祉、教育学科など、人気学科のところは第1志望が多い。これらの学科は第1志望が5割以上である。

本学を選んだ時期は高校3年生の夏ごろが多い。ところが、理学療法、作業療法、教育学科は高校2年生の夏に決める学生がいる。明確な進学目的や、自分のやりたいことに合わせて来ている学生であると思われる。この傾向は理学療法、作業療法、教育学科の特徴である。

大学へ進学した理由も学科の特徴が出る。全学的に資格・免許志向が多いが、臨床心理では専門的な知識・技術を求める率が高く、現代社会は就職に有利であることが理由にあげられる。

以下、詳細は本『FD Review Vol.5』の「基礎学力調査の結果」を参照していただきたい。

### まとめ

データの整理・分析を進め、調査結果を教授法開発室内だけでなく、学部・学科単位で分析、活用することが望ましい。



第3回 FD 研究会  
初年次教育

2010年3月3日(水) 文責 達 富 洋 二

## 1. はじめに

本学では、2010年度より、全学共通シラバスにより初年次教育を行うこととなった。それに先立ち、初年次教育検討委員会を設け、シラバスの作成について検討を行った。

検討委員会では、基本的に全学共通の「初年次教育（入門ゼミ）統一シラバスの基本的なかたち」を作成することが共通理解され、次のようなものを原案とし、それぞれにシラバスを作成することとなった。

## 2. 初年次教育（入門ゼミ）統一シラバスの基本的なかたち

### 2.1 授業のテーマ

大学での「学び」を考え、基本的な学び方（アカデミック・スキル）を習得する。

### 2.2 授業の概要

＊＊学科の教育内容を理解するとともに、大学で自律的に学ぶことを見通し、基本的な学び方（課題に応じた情報や文献の検索，読解及び内容の要約，レジュメやレポートの記述，プレゼンテーション等の発表，ディスカッション等）を習得する。

### 2.3 授業の目的・ねらい

大学で自律的に学ぶことの心構えをもち、基本的な学び方（アカデミック・スキル）を習得する。

### 2.4 毎回の授業テーマ・内容

全15回の内容は、「授業のテーマ」「授業の概要」「授業の目的・ねらい」をふまえ、各学科の専門性をとり入れた内容にする。

### 2.5 到達目標

- ①大学で自律的に学ぶことの心構えをもち、学びを見通すことができる。
- ②自身の力で課題に応じた情報や文献を検索することができる。
- ③情報や文献を読解して内容を要約することができる。
- ④構成を意識したレジュメやレポートを作成することができる。

- ⑤効果を意識したプレゼンテーション等の発表をすることができる。
- ⑥ディスカッションを通して自身の考えを再構成することができる。

## 2.6 受講者へのアドバイス・留意事項・課題

学びのコミュニティーをつくとともに、大学での学びの基礎となる授業です。「毎回の授業テーマ・内容」にあるように自律的な学習が求められます。自律的に受講して下さい。

## 2.7 成績評価の基準

内容の理解と習得：60%，出席：30%，受講態度：10%

(試験・レポート・作成したレジюме・発表・ディスカッションの様子などを総合して評価します。)



### 3. 各学科のシラバス

#### 3.1 仏教学科

##### 入門ゼミ 1 H a

授業科目	入門ゼミ 1				
開講学期	春学期	クラス	-	単位	2
曜日・講時	水・1				
担当者	田中 典彦 (たなか のりひこ)				

##### ■授業のテーマ

大学での「学び」を考え、基本的な学び方（アカデミック・スキル）を習得する。

##### ■授業の概要

仏教学科の教育内容を理解するとともに、大学で自律的に学ぶことを見通し、基本的な学び方（課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レジюмеやレポートの記述、プレゼンテーション等の発表、ディスカッション等）を習得する。

##### ■授業の目的・ねらい

大学で自律的に学ぶことの心構えをもち、基本的な学び方（アカデミック・スキル）を習得する。

##### ■毎回の授業テーマ・内容

- 第1回 講義の概要説明
- 第2回 大学での学び
- 第3回 図書館の使い方
- 第4回 資料（新聞記事を使って）の読み方①
- 第5回 資料（新聞記事を使って）の読み方②
- 第6回 辞書類の使い方①
- 第7回 辞書類の使い方②
- 第8回 資料の検索の仕方①
- 第9回 資料の検索の仕方②
- 第10回 発表資料の作成①
- 第11回 発表資料の作成②
- 第12回 発表とレポートの作成①
- 第13回 発表とレポートの作成②
- 第14回 発表とレポートの作成③
- 第15回 授業のまとめ

##### ■到達目標

- ① 大学で自律的に学ぶことの心構えをもち、学びを見通すことができる。
- ② 自身の力で課題に応じた情報や文献を検索することができる。
- ③ 情報や文献を読解して内容を要約することができる。
- ④ 構成を意識したレジюмеやレポートを作成することができる。
- ⑤ 効果を意識したプレゼンテーション等の発表をすることができる。
- ⑥ ディスカッションを通して自身の考えを再構成することができる。

##### ■受講者へのアドバイス・留意事項・課題

学びのコミュニティーをつくとともに、大学での学びの基礎となる授業です。「毎回の授業テーマ・内容」にあるように自律的な学習が求められます。自律的に受講して下さい。

##### ■成績評価の基準

- 定期試験（課題） 70%
- 授業内発表 30%

##### ■受講者から担当者への連絡方法

オフィスアワーに研究室での面談。

## 3.2 日本文学科

### 入門ゼミ 1 H a

授業科目	入門ゼミ 1				
開講学期	春学期	クラス	-	単位	2
曜日・講時	木・4				
担当者	有田 和臣 (ありた かずおみ)				

#### ■授業のテーマ

大学での「学び」を考え、基本的な学び方（アカデミック・スキル）を習得する。

#### ■授業の概要

日本文学科の教育内容を理解するとともに、大学で自律的に学ぶことを見通し、基本的な学び方（課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レジュメやレポートの記述、プレゼンテーション等の発表、ディスカッション等）を習得する。

#### ■授業の目的・ねらい

大学で自律的に学ぶことの心構えをもち、基本的な学び方（アカデミック・スキル）を習得する。

#### ■毎回の授業テーマ・内容

- 第1回 授業概要の説明 自己紹介
- 第2回 日本文学科への誘い：日本文学科の教育内容の紹介 大学での学びの見通し
- 第3回 ノートの取り方
- 第4回 文献の探し方（図書館の利用法 文献探索の方法 資料収集の方法）①
- 第5回 文献の探し方（図書館の利用法 文献探索の方法 資料収集の方法）②
- 第6回 読解の仕方①
- 第7回 読解の仕方②
- 第8回 レジュメ作成の仕方
- 第9回 レジュメを使った発表の仕方
- 第10回 レジュメの発表とディスカッション①
- 第11回 レジュメの発表とディスカッション②
- 第12回 レジュメの発表とディスカッション③
- 第13回 レポートの書き方①
- 第14回 レポートの書き方②
- 第15回 授業の振り返りとまとめ

#### ■到達目標

- ① 大学で自律的に学ぶことの心構えをもち、学びを見通すことができる。
- ② 自身の力で課題に応じた情報や文献を検索することができる。
- ③ 情報や文献を読解して内容を要約することができる。
- ④ 構成を意識したレジュメやレポートを作成することができる。
- ⑤ 効果を意識したプレゼンテーション等の発表をすることができる。
- ⑥ ディスカッションを通して自身の考えを再構成することができる。

#### ■受講者へのアドバイス・留意事項・課題

学びのコミュニティーをつくとともに、大学での学びの基礎となる授業です。「毎回の授業テーマ・内容」にあるように自律的な学習が求められます。自律的に受講して下さい。

#### ■成績評価の基準

定期試験（課題）	50%	
授業内発表	30%	
受講態度	20%	授業に出席していることを前提とします。

#### ■テキストについて

指定のテキストを必ず購入し、毎回持参すること。

『大学生からのスタディ・スキルズ 知へのステップ』（くろしお出版）1,890円

#### ■受講者から担当者への連絡方法

授業中に指示する。

### 3.3 中国学科

#### 入門ゼミ1H I

授業科目	入門ゼミ1				
開講学期	春学期	クラス	-	単位	2
曜日・講時	火・2				
担当者	瀬邊 啓子（せべ けいこ）				

#### ■授業のテーマ

大学での「学び」を考え、基本的な学び方（アカデミック・スキル）を習得する。

#### ■授業の概要

中国学科の教育内容を理解するとともに、大学で自律的に学ぶことを見通し、基本的な学び方（課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レジュメやレポートの記述、プレゼンテーション等の発表、ディスカッション等）を習得する。

#### ■授業の目的・ねらい

大学で自律的に学ぶことの心構えをもち、基本的な学び方（アカデミック・スキル）を習得する。

#### ■毎回の授業テーマ・内容

- 第1回 授業の概要の説明、自己紹介
- 第2回 中国学科を志望した動機、学びたいこと、教員のコメント
- 第3回 中国学科の授業の紹介、中国語の学習について
- 第4回 全学共通科目の海外研修（中国語）について
- 第5回 中国語学習における疑問点・問題点とその解決方法（1）
- 第6回 中国語学習における疑問点・問題点とその解決方法（2）
- 第7回 中国語学習における疑問点・問題点とその解決方法（3）
- 第8回 中国語学習における疑問点・問題点とその解決方法（4）
- 第9回 文献の探し方（1）
- 第10回 文献の探し方（2）
- 第11回 レジュメとレポートの作成法
- 第12回 レポート作成と教員のコメント（1）
- 第13回 レポート作成と教員のコメント（2）
- 第14回 レポート作成と教員のコメント（3）
- 第15回 春学期の学習についてのまとめとアドバイス

#### ■到達目標

- ① 大学で自律的に学ぶことの心構えをもち、学びを見通すことができる。
- ② 自身の力で課題に応じた情報や文献を検索することができる。
- ③ 情報や文献を読解して内容を要約することができる。
- ④ 構成を意識したレジュメやレポートを作成することができる。
- ⑤ 効果を意識したプレゼンテーション等の発表をすることができる。
- ⑥ ディスカッションを通して自身の考えを再構成することができる。

#### ■受講者へのアドバイス・留意事項・課題

学びのコミュニティーをつくとともに、大学での学びの基礎となる授業です。「毎回の授業テーマ・内容」にあるように自律的な学習が求められます。自律的に受講して下さい。

#### ■成績評価の基準

授業内発表	60%
授業出席	30%
受講態度	10%

#### ■受講者から担当者への連絡方法

参考文献については授業中に教員から指示する。

### 3.4 英米学科

#### 入門ゼミ 1 H w

授業科目	入門ゼミ 1				
開講学期	春学期	クラス	-	単位	2
曜日・講時	金・3				
担当者	松本 真治 (まつもと しんじ)				

#### ■授業のテーマ

大学での「学び」を考え、基本的な学び方（アカデミック・スキル）を習得する。

#### ■授業の概要

英米学科の教育内容を理解するとともに、大学で自律的に学ぶことを見通し、基本的な学び方（課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レジюмеやレポートの記述、プレゼンテーション等の発表、ディスカッション等）を習得する。

#### ■授業の目的・ねらい

大学で自律的に学ぶことの心構えをもち、基本的な学び方（アカデミック・スキル）を習得する。

#### ■毎回の授業テーマ・内容

- 第1回 Introduction（授業の計画・概要・方法、レジюмеの書き方）
- 第2回 テキスト読解（1）
- 第3回 テキスト読解（2）
- 第4回 合同ゼミ（1）
- 第5回 テキスト読解（3）
- 第6回 テキスト読解（4）
- 第7回 資料検索の方法とプレゼンテーションの基礎
- 第8回 プレゼンテーション（1）
- 第9回 テキスト読解（5）
- 第10回 テキスト読解（6）
- 第11回 合同ゼミ（2）
- 第12回 テキスト読解（7）
- 第13回 テキスト読解（8）
- 第14回 プレゼンテーション（2）
- 第15回 まとめ

#### ■到達目標

- ① 大学で自律的に学ぶことの心構えをもち、学びを見通すことができる。
- ② 自身の力で課題に応じた情報や文献を検索することができる。
- ③ 情報や文献を読解して内容を要約することができる。
- ④ 構成を意識したレジюмеやレポートを作成することができる。
- ⑤ 効果を意識したプレゼンテーション等の発表をすることができる。
- ⑥ ディスカッションを通して自身の考えを再構成することができる。

#### ■受講者へのアドバイス・留意事項・課題

学びのコミュニティーをつくとともに、大学での学びの基礎となる授業です。「毎回の授業テーマ・内容」にあるように自律的な学習が求められます。自律的に受講して下さい。

#### ■成績評価の基準

授業内試験	60%
授業内課題	30%
受講態度	10%

### 3.5 歴史学科

#### 入門ゼミ 1 H a

授業科目	入門ゼミ 1				
開講学期	春学期	クラス	-	単位	2
曜日・講時	火・2				
担当者	貝 英幸 (かい ひでゆき)				

#### ■授業のテーマ

大学での「学び」を考え、基本的な学び方（アカデミック・スキル）を習得する。

#### ■授業の概要

歴史学科の教育内容を理解するとともに、大学で自律的に学ぶことを見通し、基本的な学び方（課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レジюмеやレポートの記述、プレゼンテーション等の発表、ディスカッション等）を習得する。

#### ■授業の目的・ねらい

大学で自律的に学ぶことの心構えをもち、基本的な学び方（アカデミック・スキル）を習得する。

#### ■毎回の授業テーマ・内容

- 第1回 授業概要の説明/入門ゼミの位置づけ、教員紹介、自己紹介
- 第2回 歴史学科への誘い/大学での学びの見通しと学習目標
- 第3回 歴史学科への誘い/学部教育の見通し（講義体系）と学習計画
- 第4回 文献の探し方①/図書館・資料室（学習情報プラザ）の利用とその方法
- 第5回 文献の探し方②/図書館での文献検索（OPACとポータルサイト）
- 第6回 文献の探し方③/事典・辞書（研究工具）の使い方、調べ方
- 第7回 レジюме作成の方法/レジюмеとは？体裁と書式
- 第8回 レジюмеを使った発表の仕方/レジюмеの構成要件（ロジックとトピック）、参考文献一覧
- 第9回 レジюмеの発表とディスカッション①/課題の調査結果の報告と議論、評価
- 第10回 レジюмеの発表とディスカッション②/課題の調査結果の報告と議論、評価
- 第11回 レジюмеの発表とディスカッション③/課題の調査結果の報告と議論、評価
- 第12回 レジюмеの発表とディスカッション④/課題の調査結果の報告と議論、評価
- 第13回 レポートの書き方①/記述の方法（パラグラフライティング・テクニカルライティング）
- 第14回 レポートの書き方②/成果のまとめとレポートの構成（ロジックとトピックセンテンス）
- 第15回 授業の振り返りとまとめ

#### ■到達目標

- ① 大学で自律的に学ぶことの心構えをもち、学びを見通すことができる。
- ② 自身の力で課題に応じた情報や文献を検索することができる。
- ③ 情報や文献を読解して内容を要約することができる。
- ④ 構成を意識したレジюмеやレポートを作成することができる。
- ⑤ 効果を意識したプレゼンテーション等の発表をすることができる。
- ⑥ ディスカッションを通して自身の考えを再構成することができる。

#### ■受講者へのアドバイス・留意事項・課題

学びのコミュニティーをつくとともに、大学での学びの基礎となる授業です。「毎回の授業テーマ・内容」にあるように自律的な学習が求められます。自律的に受講して下さい。

#### ■成績評価の基準

定期試験（課題）	30%
授業内発表	20%
授業出席	30%
受講態度	20%

### 3.6 歴史文化学科

入門ゼミ 1 H f					
授業科目	入門ゼミ 1				
開講学期	春学期	クラス	-	単位	2
曜日・講時	火・2				
担当者	渡邊 秀一（わたなべ ひでかず）				

#### ■授業のテーマ

大学での「学び」を考え、基本的な学び方（アカデミック・スキル）を習得する。

#### ■授業の概要

歴史文化学科の教育内容を理解するとともに、大学で自律的に学ぶことを見通し、基本的な学び方（課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レジюмеやレポートの記述、プレゼンテーション等の発表、ディスカッション等）を習得する。

#### ■授業の目的・ねらい

大学で自律的に学ぶことの心構えをもち、基本的な学び方（アカデミック・スキル）を習得する。

#### ■毎回の授業テーマ・内容

- 第1回 授業概要の説明/入門ゼミの位置づけ、教員紹介、自己紹介
- 第2回 歴史文化学科への誘い/大学での学びの見通しと学習目標
- 第3回 歴史文化学科への誘い/学部教育の見通し（講義体系）と学習計画
- 第4回 文献の探し方①/図書館・資料室（学習情報プラザ）の利用とその方法
- 第5回 文献の探し方②/図書館での文献検索（OPACとポータルサイト）
- 第6回 文献の探し方③/事典・辞書（研究工具）の使い方、調べ方
- 第7回 レジюме作成の方法/レジюмеとは？体裁と書式
- 第8回 レジюмеを使った発表の仕方/レジюмеの構成要件（ロジックとトピック）、参考文献一覧
- 第9回 レジюмеの発表とディスカッション①/課題の調査結果の報告と議論、評価
- 第10回 レジюмеの発表とディスカッション②/課題の調査結果の報告と議論、評価
- 第11回 レジюмеの発表とディスカッション③/課題の調査結果の報告と議論、評価
- 第12回 レジюмеの発表とディスカッション④/課題の調査結果の報告と議論、評価
- 第13回 レポートの書き方①/記述の方法（パラグラフライティング・テクニカルライティング）
- 第14回 レポートの書き方②/成果のまとめとレポートの構成（ロジックとトピックセンテンス）
- 第15回 授業の振り返りとまとめ

#### ■到達目標

- ① 大学で自律的に学ぶことの心構えをもち、学びを見通すことができる。
- ② 自身の力で課題に応じた情報や文献を検索することができる。
- ③ 情報や文献を読解して内容を要約することができる。
- ④ 構成を意識したレジюмеやレポートを作成することができる。
- ⑤ 効果を意識したプレゼンテーション等の発表をすることができる。
- ⑥ ディスカッションを通して自身の考えを再構成することができる。

#### ■受講者へのアドバイス・留意事項・課題

学びのコミュニティーをつくとともに、大学での学びの基礎となる授業です。「毎回の授業テーマ・内容」にあるように自律的な学習が求められます。自律的に受講して下さい。

#### ■成績評価の基準

定期試験（課題）	30%
授業内発表	20%
授業出席	30%
受講態度	20%



### 3.7 教育学科

#### 入門ゼミ 1 H i

授業科目	入門ゼミ 1				
開講学期	春学期	クラス	-	単位	2
曜日・講時	水・3				
担当者	達富 洋二 (たつとみ ようじ)				

#### ■授業のテーマ

大学での「学び」を考え、基本的な学び方（アカデミック・スキル）を習得する。

#### ■授業の概要

教育学科の教育内容を理解するとともに、大学で自律的に学ぶことを見通し、基本的な学び方（課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レジュメやレポートの記述、プレゼンテーション等の発表、ディスカッション等）を習得する。

#### ■授業の目的・ねらい

大学で自律的に学ぶことの心構えをもち、基本的な学び方（アカデミック・スキル）を習得する。

#### ■毎回の授業テーマ・内容

- 第1回 学びのコミュニティーづくり
- 第2回 学びのデザインづくり
- 第3回 文献検索やリーディングの方法
- 第4回 文献検索やリーディングの演習
- 第5回 文献検索やリーディングの評価
- 第6回 レジュメやライティングの方法
- 第7回 レジュメやライティングの演習
- 第8回 レジュメやライティングの評価
- 第9回 プレゼンテーションの方法
- 第10回 プレゼンテーションの演習
- 第11回 プレゼンテーションの評価
- 第12回 ディスカッションの方法
- 第13回 ディスカッションの演習
- 第14回 ディスカッションの評価
- 第15回 学びの総括

#### ■到達目標

- ・大学で自律的に学ぶことの心構えをもち、学びを見通すことができる。
- ・自身の力で課題に応じた情報や文献を検索することができる。
- ・情報や文献を読解して内容を要約することができる。
- ・構成を意識したレジュメやレポートを作成することができる。
- ・効果を意識したプレゼンテーション等の発表をすることができる。
- ・ディスカッションを通して自身の考えを再構成することができる。

#### ■受講者へのアドバイス・留意事項・課題

- ・学びのコミュニティーをつくとともに、大学での学びの基礎となる授業です。
- ・「毎回の授業テーマ・内容」にあるように自律的な学習が求められます。
- ・自律的に受講すること。
- ・それぞれのクラスによって若干の内容の再構成があります。
- ・それぞれのクラスによって扱う教材は異なることがあります。

#### ■成績評価の基準

授業内課題	60%
授業出席	30%
受講態度	10%

#### ■テキストについて

資料を配付する。

#### ■参考文献について

授業中に紹介する。

#### ■受講者から担当者への連絡方法

オフィスアワー時に研究室に来ること。

### 3.8 臨床心理学科

#### 入門ゼミ 1 H t

授業科目	入門ゼミ 1				
開講学期	春学期	クラス	-	単位	2
曜日・講時	水・3				
担当者	牧 剛史 (まき たけし)				

#### ■授業のテーマ

大学での「学び」を考え、基本的な学び方（アカデミック・スキル）を習得する。

#### ■授業の概要

臨床心理学科の教育内容を理解するとともに、大学で自律的に学ぶことを見通し、基本的な学び方（課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レジюмеやレポートの記述、プレゼンテーション等の発表、ディスカッション等）を習得する。

#### ■授業の目的・ねらい

大学で自律的に学ぶことの心構えをもち、基本的な学び方（アカデミック・スキル）を習得する。

#### ■毎回の授業テーマ・内容

- 第1回 授業概要の説明 自己紹介 学びのコミュニティ作り
- 第2回 臨床心理学科への誘い：大学での学びの見通し① - 教員から学ぶ-
- 第3回 臨床心理学科への誘い：大学での学びの見通し② - 先輩から学ぶ-
- 第4回 テーマの検討（臨床心理学に関わる内的な関心を明確化する）①
- 第5回 テーマの検討（臨床心理学に関わる内的な関心を明確化する）②
- 第6回 文献の探し方（図書館の利用法 文献検索の方法 資料収集の方法）
- 第7回 文献の解読とレジюмеの作成①
- 第8回 文献の解読とレジюмеの作成②
- 第9回 レジюмеの発表とディスカッション①
- 第10回 レジюмеの発表とディスカッション②
- 第11回 レジюмеの発表とディスカッション③
- 第12回 グループワーク（臨床心理学への理解、関心を深める）①
- 第13回 グループワーク（臨床心理学への理解、関心を深める）②
- 第14回 グループワーク（臨床心理学への理解、関心を深める）③
- 第15回 授業の振り返りとまとめ

#### ■到達目標

- ① 大学で自律的に学ぶことの心構えをもち、学びを見通すことができる。
- ② 自身の力で課題に応じた情報や文献を検索することができる。
- ③ 情報や文献を読解して内容を要約することができる。
- ④ 構成を意識したレジюмеやレポートを作成することができる。
- ⑤ 効果を意識したプレゼンテーション等の発表をすることができる。
- ⑥ ディスカッションを通して自身の考えを再構成することができる。

#### ■受講者へのアドバイス・留意事項・課題

学びのコミュニティをつくるとともに、大学での学びの基礎となる授業です。「毎回の授業テーマ・内容」にあるように自律的な学習が求められます。自律的に受講して下さい。

#### ■成績評価の基準

授業内発表	50%
授業出席	40%
受講態度	10%

### 3.9 現代社会学科・公共政策学科

#### 社会学入門ゼミ 1 H a

授業科目	社会学入門ゼミ 1				
開講学期	春学期	クラス	-	単位	2
曜日・講時	木・1				
担当者	山口 洋 (やまぐち よう)				

#### ■授業のテーマ

大学での「学び」を考え、基本的な学び方（アカデミック・スキル）を習得する。

#### ■授業の概要

現代社会学科・公共政策学科の教育内容を理解するとともに、大学で自律的に学ぶことを見通し、基本的な学び方（課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レジュメやレポートの記述、プレゼンテーション等の発表、ディスカッション等）を習得する。

#### ■授業の目的・ねらい

大学で自律的に学ぶことの心構えをもち、基本的な学び方（アカデミック・スキル）を習得する。

#### ■毎回の授業テーマ・内容

- 第1回 教員の自己紹介、学生の自己紹介等。
- 第2回 社会学部、および各学科、コースの教育内容の簡単な紹介。大学での学び方全般。
- 第3回 大学の講義とは。ノートの取り方、活用法。
- 第4回 情報収集入門（メディア・リテラシー、本の探し方、雑誌や新聞の利用、統計データの活用、インターネットの利用等）①
- 第5回 情報収集入門（メディア・リテラシー、本の探し方、雑誌や新聞の利用、統計データの活用、インターネットの利用等）②
- 第6回 情報収集入門（メディア・リテラシー、本の探し方、雑誌や新聞の利用、統計データの活用、インターネットの利用等）③
- 第7回 情報収集入門（メディア・リテラシー、本の探し方、雑誌や新聞の利用、統計データの活用、インターネットの利用等）④
- 第8回 学術的な文章の特徴とその読み方①
- 第9回 学術的な文章の特徴とその読み方②
- 第10回 議論の作法。論理的に考え、生産的に議論するということ。
- 第11回 レポートの作成について①
- 第12回 レポートの作成について②
- 第13回 プレゼンテーションの方法①
- 第14回 プレゼンテーションの方法②
- 第15回 全体のまとめ、補足。

#### ■到達目標

- ① 大学で自律的に学ぶことの心構えをもち、学びを見通すことができる。
- ② 自身の力で課題に応じた情報や文献を検索することができる。
- ③ 情報や文献を読解して内容を要約することができる。
- ④ 構成を意識したレジュメやレポートを作成することができる。
- ⑤ 効果を意識したプレゼンテーション等の発表をすることができる。
- ⑥ ディスカッションを通して自身の考えを再構成することができる。

#### ■受講者へのアドバイス・留意事項・課題

学びのコミュニティをつくるとともに、大学での学びの基礎となる授業です。「毎回の授業テーマ・内容」にあるように自律的な学習が求められます。自律的に受講して下さい。

#### ■成績評価の基準

定期試験（課題）	30%
授業内発表	30%
授業出席	30%
受講態度	10%

#### ■テキストについて

以下のテキストを、授業開始日までに必ず購入すること。

『知のツールボックス』 専修大学出版企画委員会編（専修大学出版局） 735

#### ■参考文献について

適宜、指示する。

### 3.10 社会福祉学科

#### 社会福祉入門ゼミ 1 H a

授業科目	社会福祉入門ゼミ 1				
開講学期	春学期	クラス	-	単位	2
曜日・講時	水・1				
担当者	阿部 祥子（あべ さちこ）				

#### ■授業のテーマ

大学での「学び」を考え、基本的な学び方（アカデミック・スキル）を習得する。

#### ■授業の概要

社会福祉学科の教育内容を理解するとともに、大学で自律的に学ぶことを見通し、基本的な学び方（課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レジュメやレポートの記述、プレゼンテーション等の発表、ディスカッション等）を習得する。

#### ■授業の目的・ねらい

大学で自律的に学ぶことの心構えをもち、基本的な学び方（アカデミック・スキル）を習得する。

#### ■毎回の授業テーマ・内容

- 第1回 授業概要の説明…自己紹介 学びのコミュニティづくり
- 第2回 社会福祉学部への誘い～教員から学ぶ～  
…学部の教育内容の紹介（教育理念・科目編成・履修方法・資格・単位・学習方法についてのガイダンス）大学での学びの見通し①
- 第3回 社会福祉学部への誘い～先輩から学ぶ～  
…学部の教育内容の紹介（各種実習、福祉現場インターンシップ、コンソーシアム・大学インターンシップ、地域福祉プログラム、サービスマーケティング等へのとりくみ）大学での学びの見通し②
- 第4回 情報収集方法（図書館の利用方法 文献検索の方法 情報収集の方法）①
- 第5回 情報収集方法（図書館の利用方法 文献検索の方法 情報収集の方法）②
- 第6回 社会福祉の現実を学ぶ① 当事者の抱える生活問題についての学習…問題の背景になるデータ収集等
- 第7回 社会福祉の現実を学ぶ② 当事者の抱える生活問題についての学習…法律・制度・サービスの理解等
- 第8回 社会福祉の現実を学ぶ③ 当事者から学ぶ
- 第9回 レジュメの作成とディスカッション①
- 第10回 レジュメの作成とディスカッション②
- 第11回 レジュメの作成とディスカッション③
- 第12回 レジュメの作成とディスカッション④
- 第13回 レジュメの作成とディスカッション⑤
- 第14回 学びの見通しをもつ～福祉関連資格についてのガイダンス～（合同講義）
- 第15回 授業の振り返りと夏の課題設定

#### ■到達目標

- ① 大学で自律的に学ぶことの心構えをもち、学びを見通すことができる。
- ② 自身の力で課題に応じた情報や文献を検索することができる。
- ③ 情報や文献を読解して内容を要約することができる。
- ④ 構成を意識したレジュメやレポートを作成することができる。
- ⑤ 効果を意識したプレゼンテーション等の発表をすることができる。
- ⑥ ディスカッションを通して自身の考えを再構成することができる。

#### ■受講者へのアドバイス・留意事項・課題

学びのコミュニティをつくとともに、大学での学びの基礎となる授業です。「毎回の授業テーマ・内容」にあるように自律的な学習が求められます。自律的に受講して下さい。

#### ■成績評価の基準

その他 100% 「到達目標」に基づき、出席、提出されたレジュメ、発表とディスカッションの様子などを総合的に評価します。

#### ■参考文献について

- 『大学生からのスタディ・スキルズ 知へのステップ 改訂版』 学習技術研究会編（くろしお出版）1,800円
- 『知のツールボックス』 専修大学出版企画委員会編（専修大学出版局）630円
- 『レポート・論文・プレゼン スキルズ』 石橋春秋（くろしお出版）1,400円

#### ■受講者から担当者への連絡方法

授業の際に指示します。

### 3.11 理学療法学科

入門ゼミ 1 H a					
授業科目	入門ゼミ 1				
開講学期	春学期	クラス	-	単位	2
曜日・講時	水・2				
担当者	石井 光昭 (いしい みつあき), 越智 淳子 (おち じゅんこ), 日下 隆一 (くさか りゅういち), 白星 伸一 (しらほし しんいち), 得丸 敬三 (とくまる けいぞう)				

#### ■授業のテーマ

大学での「学び」を考え、基本的な学び方（アカデミック・スキル）を習得する。

#### ■授業の概要

理学療法学科の教育内容を理解するとともに、大学で自律的に学ぶことを見通し、基本的な学び方（課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レジュメやレポートの記述、プレゼンテーション等の発表、ディスカッション等）を習得する。

#### ■授業の目的・ねらい

大学で自律的に学ぶことの心構えをもち、基本的な学び方（アカデミック・スキル）を習得する。

#### ■毎回の授業テーマ・内容

- 第1回 理学療法の学び 1
- 第2回 理学療法の学び 2
- 第3回 理学療法の学び方
- 第4回 スタディー・スキルズの実際 1 (Reading1)
- 第5回 スタディー・スキルズの実際 2 (Reading2)
- 第6回 スタディー・スキルズの実際 3 (Writing1)
- 第7回 スタディー・スキルズの実際 4 (Writing2)
- 第8回 スタディー・スキルズの実際 5 (情報収集)
- 第9回 スタディー・スキルズの実際 6 (情報の整理とまとめ)
- 第10回 スタディー・スキルズの実際 7 (Presentation の基本)
- 第11回 スタディー・スキルズの実際 8 (Presentation の実際 1)
- 第12回 スタディー・スキルズの実際 9 (Presentation の実際 2)
- 第13回 スタディー・スキルズの実際 10 (Presentation の実際 3)
- 第14回 スタディー・スキルズの実際 11 (Communication Skills)
- 第15回 授業の評価と学習計画

#### ■到達目標

- ① 大学で自律的に学ぶことの心構えをもち、学びを見通すことができる。
- ② 自身の力で課題に応じた情報や文献を検索することができる。
- ③ 情報や文献を読解して内容を要約することができる。
- ④ 構成を意識したレジュメやレポートを作成することができる。
- ⑤ 効果を意識したプレゼンテーション等の発表をすることができる。
- ⑥ ディスカッションを通して自身の考えを再構成することができる。

#### ■受講者へのアドバイス・留意事項・課題

学びのコミュニティをつくるとともに、大学での学びの基礎となる授業です。「毎回の授業テーマ・内容」にあるように自律的な学習が求められます。自律的に受講して下さい。

#### ■成績評価の基準

定期試験（教室）	50%
授業出席	50%

### 3.12 作業療法学科

入門ゼミ 1 H b					
授業科目	入門ゼミ 1				
開講学期	春学期	クラス	-	単位	2
曜日・講時	木・3				
担当者	荻山 和生 (かりやま かずお), 木戸 隆宏 (きど たかひろ)				

#### ■授業のテーマ

大学での「学び」を考え、基本的な学び方（アカデミック・スキル）を習得する。

#### ■授業の概要

作業療法学科の教育内容を理解するとともに、大学で自律的に学ぶことを見通し、基本的な学び方（課題に応じた情報や文献の検索、読解及び内容の要約、レジュメやレポートの記述、プレゼンテーション等の発表、ディスカッション等）を習得する。

#### ■授業の目的・ねらい

大学で自律的に学ぶことの心構えをもち、基本的な学び方（アカデミック・スキル）を習得する。

#### ■毎回の授業テーマ・内容

- 第1回 ガイダンス（その1） - 学びの手順 -
- 第2回 ガイダンス（その2） - 実習とは -
- 第3回 オリエンテーション（その1） - 学びの動機付け -
- 第4回 オリエンテーション（その2） - 学びの動機付け -
- 第5回 オリエンテーション（その3） - 学びの動機付け -
- 第6回 コミュニケーションの基本
- 第7回 コミュニケーションの目的と媒体
- 第8回 図書館の利用法
- 第9回 記録の取り方
- 第10回 コミュニケーションの落とし穴
- 第11回 コミュニケーション問題の解決法
- 第12回 グループ内でのコミュニケーションスキル
- 第13回 グループ発表（その1）
- 第14回 グループ発表（その2）
- 第15回 まとめ

#### ■到達目標

- ① 大学で自律的に学ぶことの心構えをもち、学びを見通すことができる。
- ② 自身の力で課題に応じた情報や文献を検索することができる。
- ③ 情報や文献を読解して内容を要約することができる。
- ④ 構成を意識したレジュメやレポートを作成することができる。
- ⑤ 効果を意識したプレゼンテーション等の発表をすることができる。
- ⑥ ディスカッションを通して自身の考えを再構成することができる。

#### ■受講者へのアドバイス・留意事項・課題

学びのコミュニティーをつくとともに、大学での学びの基礎となる授業です。「毎回の授業テーマ・内容」にあるように自律的な学習が求められます。自律的に受講して下さい。

#### ■成績評価の基準

授業内発表	50%
授業出席	50%

**FD Review**

教授法開発室会議に  
参加して

## 「開発すべき教授法」の根幹

教授法開発室員 小野田 俊蔵

教授法開発会議にメンバーとして参加してから十数ヶ月が経った。この間様々な議論が週上にのぼったが、常に気になってきた事柄が私にはある。何か忘れものをしたような気分なのである。それは「開発すべき教授法」が問題にする大学での教育の目的に関してである。大学の目的…大学は営利を目的としていないのであるから、大学の目的というのは、大学で行なわれる教育の目的であろう。我々の学長が常に「大学はあくまで学生のために存在する」と発言していることの意味はそこにある。そして一般的に言ってすべての「開発」というものが、目的を達成するための、そのための開発であることも言うまでもない。さて、佛教大学での教育の目的は、建学の精神にもあるように、「仏教精神により人格識見高邁にして、活動力ある人物の養成（学則第一条）」が目的である。再度確認すると、その目的の達成のために「教授法開発」がある。佛教大学における全ての教育の分野は、それが歴史学であれ、教育学であれ、社会学であれ、その他どの分野の学問であれ、この建学の精神を離れては存在しない。

佛教大学が目指す人材養成の目的は、先ず第一に、①仏教精神に基いて、豊かな人間性、確固たる倫理観、感謝の精神をもった人材を養成することであり、次に、②生老病死に関わる諸問題に対応できる人材を養成することである。また、③社会人として必要な総合的教養や汎用的な技能を身につけた人材を養成することであり、④自己を見つめ自己を理解する力、周囲の環境や人間を理解する力をもった人材を養成することである。当然最高学府として⑤専門領域における問題把握力と解決スキル、知識・技能などを総合的に活用する力をもった人材を養成することも目的とされている。

一方で教授法開発は普遍的な要素も持っている。上記の⑤の目的は他の多くの大学とも共通するものであり、相互に情報は交換され技術の開発は促進されるべきであろう。他方、特に①や②は本学に特徴的な人材養成の目的であると言える。本学に於ける教授法開発はこのことを忘れて進められるべきではない。つまり、如何に効率的にスキルや知識や技能が教授される環境や技術が開発されていたとしても、その巧みな教授法でもって養成された人物が、生老病死を前にして呆然自失し立ちつくしてしまうような人間であっては意味がない。人間性に欠け、感謝の精神をもたないような人物を作ってしまったてはならないのである。

「教授法の開発」は、常に格闘であろう。ターゲットを絞っても学生の体質は年々変化するし、教育の技法や機械技術は日進月歩で改革されていく。しかし、その大学が建学された当初の教育目的は不変なはずだ。可変な技術の開発で不変であるべき根幹が忘れられることのないように注意したい。



## 教授法開発室会議に参加して

教授法開発室員 水谷隆之

2009年度より新たに教授法開発室員として加わった。FDについての知識がほとんどないまま、室員によって熱く交わされる議論を追うばかりであったが、特に授業アンケートや初年次教育に関する議論が印象深い。そこで以下ではこの2点に関して所感を述べることにする。

授業アンケートについては各項目の再検討がなされるとともに、アンケート結果を見やすく改善して活用の便がはかれるなど、より利用価値の高いものに改めて新たに施行することが決定された。なかでも、学生の理解度や満足度を問う従来の項目にくわえ、「この授業からあなたが得たものについて」として、学習の成果とその有用性を問う一連の項目が追加された意義は大きいと思われる。たとえば、「高度な内容であるため十分理解できたとはいえないが、授業についていこうと努力するなかで知らぬ間にさまざまな知識やスキルが身についていた」という授業はかなり良質である。しかし従来のアンケートでは、こうした授業における「理解度」の項目が相対的に低くなるばかりでなく、その成果がともすれば等閑に付されてしまっていた。また、授業のわかりやすさや理解度、満足度を中心に問うアンケートが一人歩きした場合、学生の学びの姿勢そのものを歪めてしまう可能性がある。すなわち、定期的に何度も繰り返される一連のアンケート項目を通して「むずかしくて面白くない授業はダメな授業」という浅薄な認識を学生が抱いてしまえば、正当な学びの姿勢の芽を摘み取ってしまいかねず、ひいてはそれが授業内容の劣化をも招きかねない。学生の主体的な「予習・復習」の時間が減少しているにもかかわらず、授業の「理解度」が高くなっている昨今のアンケート結果は重く受け止める必要がある。そうした意味においても、授業の理解度を問う項目と、その授業を通して得られた成果を問う項目とが並置されたことの意義は大きいと思われる。

また、学生の意見を授業期間内に反映しフィードバックできるよう、新たに中間アンケートの実施が決定されたことも重要である。もっとも、会議中に指摘されたように、そもそも学生の要望に敏感な教員は独自に意見シートを集め逐次授業改善をはかるのがもはや通例となっている。中間アンケートの内容とその効果については今後さらなる検討が必要であろう。

以上、アンケート内容とその結果に対する綿密な検討の重要性を改めて感じた。

ところで本学では文学部の改組が行われ、2010年度より文学部日本文学科が新学科の一つとして設置された。そこで以下、日本文学科における初年次教育の新たなとりくみについて紹介し、今後の課題を述べておくこととしたい。

2010年度より本学では、全学共通科目の「入門ゼミ1」に共通シラバスが用意されるなど、初年次教育に対する全学的な取り組みが強化された。この「入門ゼミ」は、学生支援GP「縁」コミュニティによる離脱者ゼロ計画における教職員と学生によるコミュニティ形成の核としても位置づけられており、その重要度は高い。そこで日本文学科では、学科全教員が

「入門ゼミ」を担当する体制を構築し、約15名ずつの少人数クラスを設置した。SNSによる授業時間外の活動と少人数の対面授業とを連動させ、初年次教育の強化と定着をはかったものである。

一方、学科の特性に準拠した取り組みとしては、日本文学科全教員がリレー授業を行う「日本文学初学び」があげられる。これは従来「入門ゼミ2」として1年次秋学期に行ってきたものであるが、それを新たな科目として春学期に設置し直した。早期より学科全分野の専門的な内容に触れるものであり、専門教育への円滑な移行を目標としている。また、これにくわえ、「本物に触れる」をコンセプトとして新たに「文献学入門(版本)」(春学期)・「文献学(古筆)」(秋学期)を初年次必修科目として追加した。古典籍の原本を用いた授業を初年次に行うことで学習のモチベーションを高め、日本文学に対する基礎的な取り組みの方法を早期に修得させる目的がある。

「入門ゼミ」には共通シラバスがあり学科で教科書を統一してはいるものの、少人数に細分化されたクラスでは学科教員の教育意識や方法の共有ならびに連携が必須となろう。また、これらの新たな取り組みの成果が2年次以降の学習に実際に活かされているのかどうかを確認し修正するための追跡調査も必要となる。今後は教科書の見直しや学科独自の授業アンケートの実施等も検討中であり、教授法開発室の活動とあわせてより効果的な教育体制の確立を目指したい。



## 教授法開発室会議に参加して —1年目の所感—

教授法開発室員 田中 智子

教授法開発室会議に参加させていただくようになり1年が経ちますが、本会議を通じて、私の大学教員として仕事をさせていただく心構えのようなものに少しずつ変化が生じてきたように思います。

一つ目の変化は、授業に対する考え方の変化です。これまで大学の授業というと、自分の中で蓄えた知識や理論などを学生に伝授することが第一義であると考えていました。よって、自分なりに得た知識を、いかに学生にわかりやすく伝えるのかということに力を注いでいました。しかし、本会議において、学生の基礎学力調査や授業評価アンケートについて議論を進める中で、現在の大学生における教育ニーズや大学教育に求めることなどを少しずつ理解することができるようになりました。その中で、特に私の所属する社会福祉学部の学生のように現場志向が強い学生は、自らの直面する社会的現実や福祉援助の対象者の抱える生活課題に対応する際に、目の前にある現実を自分の言葉で説明することが必要になってきます。すなわち目の前で生じる現象を抽象化、理論化する力が求められるのです。その際に、必要となってくる理論や知識などを、取捨選択できる力をつけるのが大学の授業の役割であると認識するようになりました。そのために、授業を組み立てる際に、私自身の問題意識だけではなく、現在の大学生が社会とどのような接点を持ち、どのように捉え、どのような理論を必要としているのかという学生の側の視点からの問題意識を含む構成にしようと考えようになりました。

二つ目の変化は、教育というもののとらえ方の変化です。これまでも、教育というものには、当然ながら専門的研究領域があり、そこでは様々な理論や方法が日進月歩で積み重ねられていることは見聞きしていましたが、それらを自分の授業に取り入れる工夫はできていませんでした。しかし、本会議にて、例えば授業公開などの検討の際に飛び交った様々な教育の方法論や時にはツールに関する情報などに関する議論に参加することで、現在の教育研究の到達を踏まえて自らの教育実践を行なう必要性を感じております。

三つ目の変化は、教員集団に対する考え方の変化です。本会議では、FDという取り組みをいかに全学的な取り組みとして広げていくかということについて、その意義や方法について様々な議論を行ないました。その中で、私自身の気づきとしては、教育に携わる者の集団的議論によって、教育の質の向上は可能になるということです。特に、私自身が携わっている社会福祉専門職養成の過程の中では、一人の学生の教育に関しても様々な教員や事務の方、さらには福祉現場の方の力を合わせるが必要になってきます。そのメンバーが、どのような専門職に育てたいのかということや、そのためにはどのようなプロセスが必要かということなどを共有しなければなりません。また、個々の教育の力量を高めるためにも集団的議論の必要性も実感することができました。そのような中で、社会福祉学部では昨年度と今年度にかけて社会福祉士養成のためのテキスト開発に取り組んでおります。このテキスト開発のプロセスには、社会福祉士養成に携わる多くの教員が関わり、教

育の中味についての議論を進めながら執筆を進めております。その議論には、個々の教員の福祉観や教育観が反映されており、それらを議論することを通じて全体で共有でき、また個々の教育観も深まるという効果を生み出しております。

以上、私の教授法開発室会議に参加して1年目の所感ですが、他学部の教員と教育について議論することは様々な発見と自己への気づきが促されます。私自身、前任校も含め、専任で教育に携わるようになり今年で6年目を迎えますが、自らの教育者としての力量を高めていくためにも今後とも様々な場面でFDの取り組みを大切にしていきたいと思えます。



## 教授法開発室会議に参加して

教授法開発室員 漆 葉 成 彦

大学を卒業後、医師としてずっと臨床の現場で働いてきました。私は、昭和59年に医学部を卒業したのですが、その頃の大学教育はおよそ旧式なもので、大きな階段教室で先生が一方的に病気の解説をしていく、といったものでした。学生の理解度に関らず高度な内容の授業をする先生方も多く、自分達で勝手に勉強したというのが実状でした。実習以外は出席を取られることもなかったのも、興味のない科目はほとんど勉強しないまま卒業しました。平成18年4月から本学で大学教育に携わるようになり、最初は随分とまどいました。当初は、自分自身の受けてきた大学教育をなぞるところから始めたので、うまく授業になりませんでした。親切な諸先輩や優しい学生さんたちに支えられて少しずつ授業の進め方を変えながら、このところは何とか授業が成立するようにはなってきました。FDという言葉すら知らない私でしたが、自分自身が受けてきた教育と現在の教育の違いをつくづく感じています。

しかし、よく考えてみると医師の診療態度も大学教育と同じように変化してきたことに気がきます。私たちが医師になった頃は、患者さんにとって最も正しい方法は医師の指示に従うことであり、従わない患者の病状が悪化しても医師に責任はない、という診療態度が主流でした。現在では医師と患者が協働して治療を進めるのであり、治療意欲を高める責任は医師にある、という姿勢でないとそもそも治療そのものが成立しないという状況になりつつあります。医療の世界で起っている変化と大学教育で起っている変化がよく似ているということは、当然のことかもしれませんが、興味深いことではあります。

昨年度から教育開発室員として、FD活動に関わることになりました。これまたとまどいながらの1年でしたが、FDについての理解が少しずつできつつあります。今年度も引き続き担当させていただくこととなりました。ここ10年で大きく変化してきた保健医療教育にとりいれられている問題解決型学習（PBL）や客観的臨床能力評価試験（OSCE）といった手法を参考にしながら、本学における保健医療教育のあり方について、考えていきたいと思っております。



**FD Review**

---

學外研修會報告

# 学外研修会参加報告

教授法開発室長 藤 松 素 子

京都 FD 連携センター FDer 検討 WG 主催 第 1 回 京都 FDer 塾  
2009 年 7 月 6 日 於：京都タワーホテル

## 講演 1.

「FD ウォッチャーが語るファカルティ・ディベロッパー」 圓月勝博（同志社大学）

### 1. ファカルティ・ディベロッパーの種類

- ① FD 専門家
- ② 高等教育研究者
- ③ 一般教員
- ④ 一般職員

### 2. ファカルティ・ディベロッパーの七つの心得

- ① 怒らない
- ② 自慢話をしない
- ③ 同僚の無知を罵倒しない
- ④ 執行部の無能を糾弾しない
- ⑤ 他大学や外国を理想化しない
- ⑥ FD を万能薬のごとく吹聴しない
- ⑦ FD について学び続ける FD 的姿勢を自ら示す

### 3. FD の基本的 2 類型

- ① 祝祭型 FD
- ② 日常型 FD

### 4. 祝祭型 FD 推進の心得

- ① 学内ニーズを正確に把握する
- ② 企画目的を明確にする
- ③ 対象聴衆を明確にする
- ④ 適切な日時と場所を設定する
- ⑤ 適切な講師等を招聘する

## 5. 日常型 FD から質保証システムへ

シラバスの作成⇒授業の実施⇒自己評価・同僚評価・学生評価⇒シラバス・授業方法・成績評価の改善というサイクルの確立

### 講演 2.

「大学全入時代における FD の役割を考える ―FD の実質化と FD ネットワークの構築に向けて―」 原清治（佛教大学）

#### 1. 学生が授業に「求めるもの」の変化

かつては「楽勝型」授業の満足度、評価が高かったが、現在は、出席をとる、テストあり、評価厳格でも教育熱心という「厳格型」授業も満足度評価が高くなっている傾向

#### 2. 最近の大学生の変化

消費者タイプの学生の出現…授業料に見合うだけの価値があるのかを問う

#### 3. 文部科学省がとらえる FD

広義と狭義

#### 4. 学生「支援」の立場から講義を考える場合

大学生はどのように変化したのか

学生の変化に、どの程度対応すればよいのか

学生の授業に対する「満足度」はどのような要因に規定されているのか

以上3点について分析した上で、授業を構築することが重要

#### 5. 授業実践例

#### 6. 授業満足度の規定要因

- ①ロールモデルとしての教師
- ②授業でのレリバンス
- ③教員満足度
- ④専門的力量的評価
- ⑤学びへのコミットメント
- ⑥教師による学びへのインセンティブ

#### 7. 学生の変化に応じた教授法の構築

内容教授主義から能力習得主義へシフト

#### 8. FD を組織的に推進する連携の二つのスタイル

相互研修型と FDer 牽引型



**9. 大学コンソーシアム京都主催 FD フォーラムのテーマから**

狭義の FD から広義の FD への転換

大学の入り口（初年次教育）や出口（キャリア教育）を意識した FD 活動重視

**10. FD 活動における「深海魚」問題**

授業改善に積極的な教員…3割

きっかけがあれば改善に取り組みたい教員…5割

波を立てても、光を当てても動かない教員…2割

**11. 大学独自の基礎データの収集**

各課で収集したデータを学部・学科へフィードバックするシステムの開発

各学部におけるカリキュラム改革検討や大学改革の資料となるべきデータの分析

**12. ICT 活用は FD に有効か (1)**

メリットは、授業方法の改善、学習経過を即自的に理解可能、学生のモチベーションを生み出しやすいこと

**13. ICT 活用は FD に有効か (2)**

デメリットは、学務システムと教育内容に関する情報は別であることに関わる。授業方法の改善が授業設計となるか？継続的に学生の興味関心を維持できるか？

**14. FD は「教育方法の改善」か「教育内容の改善」か？**

ICT は教育方法の改善になりえても、教育内容の改善にはつながらない場合もある

**15. まとめにかえて (1)**

授業公開

**16. まとめにかえて (2)**

FD スタッフの配置

**17. まとめにかえて (3)**

教育キャリアに応じた FD 活動の推進が必要

### 講演 3.

「教育力を向上させる FD」 大塚雄作（京都大学）

1. 「定型的 FD」 活動の普及
2. 「実質的 FD」 への壁
3. FD の起源はサバティカル
4. 授業に参加すること
5. 繋ぎの場の形成
6. 公開授業・検討会の取り組み
7. FD ネットワーク形成の意義

グループディスカッション

#### ●報告・グループディスカッションをふまえた本学の FD 活動における検討課題

3 報告をふまえてグループディスカッションを実施したが、各大学とも抱える課題はほぼ共通している。大塚報告にあった「定型的 FD」は実施していたとしても、必ずしもその効果が明確でないことや、圓月報告にあった「祝祭型 FD」に取り組んでもうまくいかないことなどは本学の実情とほぼ符合する。やはり本学の構成員の実情に合わせた日常型 FD を追求すると同時に、大学全体の質保証システム構築に向け組織的に取り組むことが不可欠である。そのためにも、原報告にあった「大学独自の基礎データの収集」とその活用に向けて本格的に検討していくことが必要であろう。また、京都 FD 開発推進センターとも積極的に連携をはかりながら京都における FD ネットワーク化に向けて取り組んでいくことも必要となると考える。



国立教育政策研究所主催 特別シンポジウム  
「質保障の全体像を探る－大学教育への問いとその将来を考える－」  
2009年7月25日 於：文部科学省3階講堂

○基調講演

天野郁夫（東京大学名誉教授）「大学改革の20年と質保障問題」

1. 大学教育と質保証
  - 1) 質保障のシステムと装置
  - 2) 大学設置基準・第1の質保障装置
  - 3) 入学者選抜・第2の質保障装置
2. 設置基準の「自由化」と第3の装置の登場
  - 1) 質保障の問題化
  - 2) 大学審議会の果たした役割
  - 3) 規制緩和と第3の装置・評価制度
3. ユニバーサル化と学力低下問題
  - 1) 学力低下の問題化
  - 2) トロウの段階移行仮説
  - 3) 「四六答申」(71年)の先見性
4. 入学者選抜の自由化と高校教育の変質
  - 1) 入学者選抜制度の改革・多様化へ
  - 2) 学力軽視の入学者選抜
  - 3) 高等教育の構造的な変化
5. 第4の装置・大学の教育過程
  - 1) 高等教育への疑問と関心
  - 2) 入学後の教育の重要化
  - 3) 中教審の「学士課程教育」答申
6. 新しいシステムの構築へ
  - 1) 4つの質保障装置
  - 2) 新しいシステム構築の必要性
  - 3) システム構築の担い手・大学と教員集団

○パネリストからのプレゼンテーション

荒井克浩（独立行政法人大学入試センター教授）「高大接続と『大学の質保障』の観点から

1. 大学進学へのインセンティブ
2. 質保障としての高大接続
  - ・学力低下の構造（アメリカ）
  - ・1980年以降のSAT（言語領域）
  - ・1980年以降のSAT（数学領域）
  - ・センター試験：教科科目別学力の維持の背景

### 3. 大学教育のデザイン

- ・日本の学校システム
- ・教育カリキュラムのモジュール化

榎本剛（文科省高等教育政策室長）「設置基準などの質保障システムの見直し」

1. 社会や学生からの多様なニーズに対応する大学制度及びその教育のあり方
2. グローバル化の進展の中での大学教育のあり方
3. 人口減少期における我が国の大学の全体像

北原和夫（国際基督教大学教授）「学びの本質的意義、分野別質保障の検討の中から」

- ・学びの本質的意義の提示をめざして
- ・当該分野に固有の「世界認識の仕方」
- ・世界認識を通して「世界への関与の仕方」
- ・社会の現場で働き生きていくための「協働する知性」を学ばせる
- ・専門以外の分野を学ばせる意義は、個々の知識ではなく、科学の基本と全体像を生徒に理解させる能力を獲得させること
- ・協働する知性こそが持続可能性にむけた社会変革を可能とする
- ・自分の研究分野でないセミナーにおいて本質的コメントができることの重要性

川島啓二「大学教員の『質』を考える」

1. 大学教員の「質」論議の前提
2. 評価か、職能開発か
3. FDの「制度化」と「実質化」
4. 大学教育の今日の実相と教員の「質」

小方直幸「質保障の全体像を探る－大学教育と学習成果の観点から－」

1. 質とは何か
2. 2 問われる学習の質
2. 3 学習の質に関わる学生のタイプ
2. 4 意味ある授業や能力形成への影響
2. 5 意味ある授業と教育の意図・方法
2. 6 能力形成と教育の意図・方法
3. 1 教育実践としての教育の質
3. 2 学生のエンゲージメントが高い機関
3. 3 教育のガバナンスの必要性
3. 4 教育をめぐる内部組織の温度差
4. 1 政治的レリバンスの要求
4. 2 社会的レリバンスの要求
4. 3 卒業生からみた学習成果の評価
5. 結論

●報告をふまえた本学のFD活動における検討課題

1. 天野講演で指摘された「第3の質保障の装置」であるはずの大学評価を、その名にふさわしいものにしていくための組織的取り組みが必要だと思われる。全構成員がその内容と意味を理解することなしに、自己評価をし、第三者評価を受けるだけでは意味がない。
2. 「第4の装置」である教育過程の見直しが最も重要な課題といえる。学生の変化を的確にとらえ、「教員集団」として何をどのような方法で教えるのかについて、徹底的に議論することが必要である。その意味で教員の教育能力の向上にむけての取り組みを組織的に展開することが重要である。
3. 共通教育等は教員が教えらる・教えたい科目群としてデザインするのではなく、学生の学力に合致し、専門教育の展開の基礎として、教えなければならない科目群としてデザインすることが必要となる。
4. 評価システムは、自覚的な大学側の努力を喚起するシステムとして機能させることが必要で、FDは評価システムの一部として位置づけられるべきであり、現状の組織の在り方そのものを検討することが必要なのではないか。



日本教育情報学会 第25回年会  
2009年8月22日 於：立命館大学 朱雀キャンパス

◇基調講演

21世紀の教育改革の行方を探る

結城章夫山形大学学長

1. 日本の戦後教育の成果と課題
2. 教育基本法改正の意義
3. 今後の教育改革をめぐる状況
4. 日本の大学をめぐる状況
5. 国立大学の法人化とその後の動き
6. 山形大学の挑戦

◇パネル討論

「教育と研究の両立を目指すFD」

コーディネーター：江原武一 立命館大学教育開発推進機構

第1報告：国立大学法人 山形大学 学長 結城章夫

「山形大学のFDと教養教育改革」

1. 山形大学におけるFD活動の展開
  - ・理念…相互研鑽
  - ・特徴…公開性と共有化
  - ・多彩なFD活動
2. FDネットワーク「樹氷」
  - ・2004年に発足
  - ・現代GPに採択
  - ・山形県内の6高等教育機関が参加
3. FDネットワーク「つばさ」
  - ・東日本…北海道・東北・関東の40の機関が参加
4. 山形大学の教養教育の改革
  - ・教員が教えた科目ではなく、大学として学生に提供すべき科目を大学が責任をもって提供することの重要性…「人間を考える」・「共生を考える」
  - ・教員中心カリキュラムから学生中心のカリキュラムへ
  - ・アラカルト型から定食型へ
5. 具体的な改革の方向性
  - 少人数クラスの「導入科目」の必修化（2単位）
  - 「基幹科目」の設定と選択必修化
    - ：「人間を考える」（2単位）「共生を考える」（2単位）
  - 専門教育との整合性の確保
    - ：「教養教育＋専門教育」という区分から「学士課程教育」という全体的な枠組みへ

- 「教養教育」から「基盤教育」へ
- 基盤教育を推進・実施する責任組織の構築
- 2010年春の入学生から提供
- 6. 教育と研究の両立についての私見
- 良質の教育を実施し、教育力を高める
  - FDの実施 基盤教育の全学出動体制
- 各学部の責任で活動を展開

第2報告：立命館大学総長 川口清史「教育と研究の両立を目指すFD」

1. 大学の種別化論と私立総合大学
  - ・世界的研究拠点は国立大学だけでよいか？
    - 産学連携…リサーチオフィスの位置づけ
  - ・教員の機能分化の可能性
    - コア教員集団における教育・研究の両立
2. 立命館大学の研究政策
  - ・個人研究支援、組織的研究支援の組織化
    - 若手支援、学部資金獲得支援
  - ・プロジェクト研究の組織化
  - ・COE等外部資金獲得への組織化と支援
3. 教育と研究の同時的発展を目指す大学院プロジェクト科目
  - ・政策科学研究科、先端研総合学術研究科における科目設置
  - ・複数の教員によるプロジェクト研究に院生が参加
  - ・課題供給、調査等を分担
    - リサーチプロジェクト科目の設置
      - 複数教員が複数院生を指導
      - 異なる専門分野での議論
      - シニアと若手が刺激しあえる
      - アカデミシャンと実務家教員との連携

第3報告：岐阜女子大学長 後藤忠彦

「教育と研究の両立についての現状一望ましいFDを考える」

1. 地域の大学の現状
2. 教員の教育研究活動評価の枠組みと適用
3. 岐阜女子大学の現状とFD等の課題

## ◇シンポジウムⅡ

テーマ「実践的 FD プログラムの開発と大学連携」

コーディネーター：林徳治 立命館大学

<趣旨>

学生の多様化、学力低下、マス授業、目的意識をもてない、権利と責任がアンバランス→私語問題、コピペ問題、出席管理、本を読まない、レポートが書けない等々の問題を克服するための授業改善にむけての取り組みを紹介しながら、今後の方向性や大学連携について議論する。

○池田勝彦 関西大学

：全学共通教育推進機構における教育改善は、①授業アンケート、②FD フォーラム（講演会）、③公開授業、④TA 活用した授業検証、⑤FD フォーラム（広報誌）の発行、⑥授業ビデオの製作、⑦学生との交流会、⑧新任教員オリエンテーションなどが挙げられる。

：2008年10月に改組され「教育開発支援センター」が設立。2名の専任教員と2名の特任教員が業務を担い、FD および共通教育を担当。主要なプロジェクトとして、①授業評価アンケートの改革（学生および教員へのフィードバック方法の検討）、②TA と授業支援 SA システムの改善、③ICT 教育活用（e-learning やポートフォリオの構築から有効活用の施策等の検討）に取り組んでいる。

○小川勤 山口大学

：2009年度のFD活動

講演会「目標達成型教育改善プログラムと山口大学の教育改革の開催

アラカルト研修会①各学部・研究科FDのための研修会、②最近の学生の実態と社会人基礎力の養成、③情報セキュリティ・情報モラルの教え方、④新規採用教員研修会、⑤第57回中国・四国地区大学教育研究会の開催、⑥発達障害学生の授業方法についての研修、⑦共通教育ティーチングアシスタント研修会、⑧理系共通教育科目「地球科学②」の授業公開、⑨多人数授業における学生参画学習の工夫—授業手法と評価—、⑩複数教員による効果的な授業実施の方法—共通教育「心理学」におけるリレー講義の実践から、⑪効果的なパワーポイント・プレゼンテーションの再考、⑫DocuWorksの使い方、⑬教育改善FD研修会、⑭学部・学科等のFD活動に大学教育センターから講師を派遣して実施する研修

○福井正康 福山平成大学

：授業評価

：私の授業発表会

：学生の顔を覚えよう運動

：FD研修ワークショップ

○井上史子 立命館大学

：2008年度より学長を機構長とする「教育開発推進機構」を設置し、この下に「教育開発支援センター」および「接続教育支援センター」を設置し18名の教員が所属している。

：2008年度GPに採択された「実践的FDプログラム」は専任教員歴3年未満の教員を



対象に実施。内容は、①講義…15本のビデオオンデマンド、②10本のワークショップの開催、③日常的なコンサルテーションの3本柱。

：コンサルテーションについては、対象者42名に希望者も加えた78名を6グループにわけ、機構の教員が担当者となり、メンバーをミーティングや、講演会に誘ったり、個人的な相談に応じている。メンバーにはティーチングポートフォリオを提出してもらい、それを担当者が評価して修了証を出して完結する。

#### ●報告をふまえた本学のFD活動における検討課題

- ・大学組織としてFD活動をどのように定義し、どう位置付けるのかを明確にすることが重要となる。各大学の理念、学部構成、機構の特徴、運営上の課題等は独自のものであるため、それをふまえてFDの位置づけを明確にし、教授法開発室もそれに相応しい組織として再編することが必要だと考えられる。
- ・各大学とも、取り組んでいる事業は似かよったものとなっている。また、全員を強制的に実施できるプログラムは多くなく、参加者が限定されたり、固定されているという現状も共通していた。その意味で、大学評価の側面から不可欠な内容のものは義務化し、それ以外のものは必要に応じて提供できるものにしばって展開することも必要なのではないか。義務化すべきものとしては各大学が取り組んでいる授業アンケートであり、その実施方法、フィードバックの方法等の検討や、本学であれば通信教育課程のあり方に適応的な実施内容・方法の検討が必要となる。また、年に1～2回程度の講演会・セミナー等もこれにあたる。一方、教員ニーズに応じて実施を検討すべきものとしては、関西大学のITC教育活用、山口大のアラカルト研修会、立命の新任教員向けのプログラム等が参考になる。特に個別の授業改善に関わるコンサルテーションを受けられるシステムの検討は、連携FDとの関わりにおいても重要であると考えられる。

# 学外研修会参加報告

教授法開発室員 水谷隆之

「高大接続期の仕組み作り～学部教育の前提となる「大学生基礎力」の育成～」

2009年6月26日（土）15:00～17:00

於（株）ベネッセコーポレーション大阪事業所・会議室

第一部 講演：「09年度新入生の特徴と指導ポイント」

講師：（株）ベネッセコーポレーション 高大接続プロジェクトチーム

1. 高校教員に伺った「最近の高校生の特徴・課題」
2. 高校現場では変化する高校生・教育環境にどのように対応したのか
3. 高校における「学習力」育成事例
4. 2009年度新入生も「従順なツアー客」
5. 大学生基礎力の観点で2009年度新入生の実態を報告します
6. 今回のご報告で使用するデータ
7. 大学生基礎力の観点から見た2009年度全国新入生の特徴
8. 一般・センター型は授業についていくための基本的な学習成果がついていない
9. 教科学力は入試区分ごとに階層化し「長方形分布化」してきている
10. 理工系統は自分の意見を論理的に整理する力、適切な表現で発信する力に課題
11. 「発進力」育成事例
12. 学力層によって「理解力」に大きく差が出た分野は読解問題の語彙と論旨把握
13. 差が付いた問題例 読解（語彙）
14. どの学力層も「関数とグラフ（図形）」が苦手。D層は「数と式」で既につまづく
15. どの学力層も苦手な問題例 関数とグラフ（図形）
16. 「数的推論力」育成事例
17. 人文系統は情報や自分の考えを論理的に吟味・検討する力に課題
18. 経済・経営系統は、「進路条件の明確化」「学びへの意識」が課題
19. 「自己認識力」指導例
20. 推薦・AO型の志望度は高いが、大学への適応度は一般・センター型と同じく低い
21. 不本意入学生（多くは一般・センター型）は将来への不安度は高い
22. 理工系統は集団の中で自分の役割を理解し、他との関係性を構築する力に課題
23. 「大学生基礎力」育成例
24. まとめ…新入生の実態把握を行い、導入教育のPLANの精度を上げる

## 第二部 講演：「高大接続期の仕組み作り

—学部教育の前提となる「大学生基礎力」の育成—

講師：(株) ベネッセコーポレーション 高大接続プロジェクトチーム

1. ベネッセ大学支援フォーラムの目的「大卒の価値向上支援」
2. 高校生の進路選択を変えるには、偏差値と別の軸も必要
3. 07・08年度「ベネッセ大学支援フォーラム」の振り返り【1】
4. 07・08年度「ベネッセ大学支援フォーラム」の振り返り【2】
5. 07・08年度「ベネッセ大学支援フォーラム」の振り返り【3】
6. せっかくの新生調査をもっと活用できないか？【事例1】
7. せっかくの新生調査をもっと活用できないか？【事例2-①】
8. せっかくの新生調査をもっと活用できないか？【事例2-②】
9. せっかくの新生調査をもっと活用できないか？【事例3-①】
10. せっかくの新生調査をもっと活用できないか？【事例3-②】
11. せっかくの新生調査をもっと活用できないか？【まとめ】
12. 参考／入学後の満足度から分かること
13. 07・08年度「ベネッセ大学支援フォーラム」の振り返り【4】
14. 導入教育はどこまでやればいいのか、共有できる指標が欲しい
15. 「大学生基礎力」を導入教育の指標にする
16. 各用語の定義／ベネッセの解釈（卒業時の状態目標）
17. 大学生基礎力【学習力／学習習慣・教科学力】の育成
18. 大学生基礎力【発信力／文章力・思考整理】の育成
19. 大学生基礎力【自己認識力】の育成
20. 「学部教育への期待」がないと教育効果は高まらない
21. まとめ／大学生基礎力を測り、導入教育の優先順位を設定しましょう

最近の高校生の特徴として①自立的な学習ができない、②目標・やりたいことの欠如、③精神面の弱さがあげられ、協調性・適応力の高さに比して説得力・創造的態度の低いことが報告された。また、学部系統・入試区分・学力層それぞれにおいて「大学生基礎力」に違いのあることが具体的なデータとともに示された。

本学教育開発室においても基礎学力調査（学力調査・学習実態調査）の結果について分析がなされている。今回の講演でも指摘されたように、今後は、学生の実態を把握して育成すべき基礎力の優先順位を決定し精度の高い導入教育プランを作成すること、新生調査と教育プログラムとを縦横につなげ連動することで教育効果を高めていくことが重要な課題となろう。

## 学外研修会参加報告

教授法開発室員 漆 葉 成 彦

平成 21 年度全国大学 IT 活用教育方法研究発表会～教育の改善方法・成果の発表～  
2009 年 7 月 4 日 於：アルカディア市ヶ谷

この発表会は、全国の国公立大学・短期大学教職員を対象に、教育改善のための IT 活用による FD 活動の振興普及を促進・奨励し、その成果の公表を通じて大学教育の質的向上を目的として、平成 5 年より実施されているものである。

総数で 54 件の発表のうち、医療系教育の分科会と特別セミナー「教育効果をたかめるための授業方法～経営学教育におけるシナリオ設計を重視した授業」に参加した。医療系教育に関する発表は以下の通りである。

- 1) 自己学習力を高める携帯電話版看護師国家試験学習システムの開発と運用  
中原 るり子（東邦大学）
- 2) 薬・医・歯・保健医療学部横断 PBL における自己主導型学習  
大林 真幸（昭和大学）
- 3) 医療面接学習における双方向型教育の試み  
音琴 淳一（松本歯科大学）
- 4) 問題解決能力育成を目指した薬学型 PBL と支援システム  
大津 史子（名城大学）
- 5) Web Class を利用したバーチャルスライドによる病理組織学実習  
澤井 高志（岩手医科大学）
- 6) 看護情報論講義にシミュレーションを活用した電子カルテ操作演習の成果  
石川 孝則（広島文化学園大学）

医学教育において、欧米では広く普及した方法である PBL（problem based learning；問題解決型学習）を用いて、学部横断型の学習を実践している昭和大学の発表は、特に興味深いものであった。PBL の手法は、わが国の医学教育の分野でも徐々に広まりつつあるが、カリキュラムの再編と多くのチューターの要請が必要であることから、理学療法、作業療法教育の場面ではまだあまり普及していないのが現状である。佛教大学において PBL を取り入れるためには、まだまだ多くの課題を解決する必要があるが、学部・学科横断型の授業という発想は、大いに参考になるものと考えられる。

**FD Review**

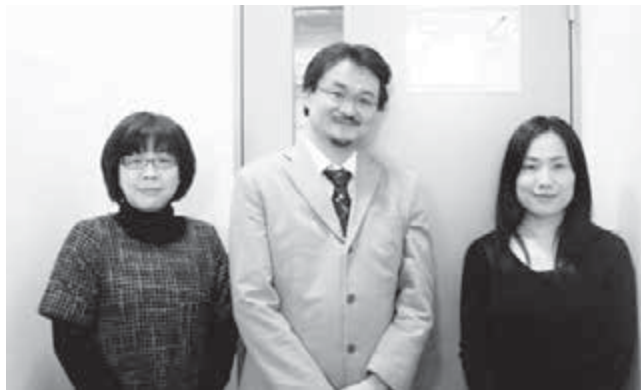
京都 FD 開発推進セミナー

専門研究員 深野 政之  
 専門調査員 川面 きよ

佛教大学は文部科学省平成20年度に採択された戦略的大学連携事業「地域内大学連携によるFDの包括研究と共通プログラム開発・組織的運用システムの確立」の代表校です。この事業を推進する部署として2008年10月より京都FD開発推進センターが設置されています。

京都FD開発推進センターは、組織としては代表校である本学に帰属する形となっており、京都地域の18の連携大学・短期大学におけるFD活動の改善を図り、高等教育機関としての使命である教育の質の向上に資することを目的として日々、活動しています。

上記の活動目的を考慮して、財団法人大学コンソーシアム京都の協力の元、京都駅前にある「キャンパスプラザ京都」の6階に事務室を配置しています。このセンター事務室には日常的にこのプロジェクトの活動を推進・支援する牽引役として専門研究員、専門調査員、事務担当職員の3名が常駐し、プロジェクトにかかわる企画・研究・調査、連携大学との調整、行事の運営、プロジェクトの進行管理等にあたっています。



センター・スタッフ

左から川面きよ（専門調査員）、深野政之（専門研究員）、下西 新（事務担当）

本連携事業に参加している大学・機関は、以下の18大学・短大および京都市と大学コンソーシアム京都となります。

〈代表校〉

佛教大学

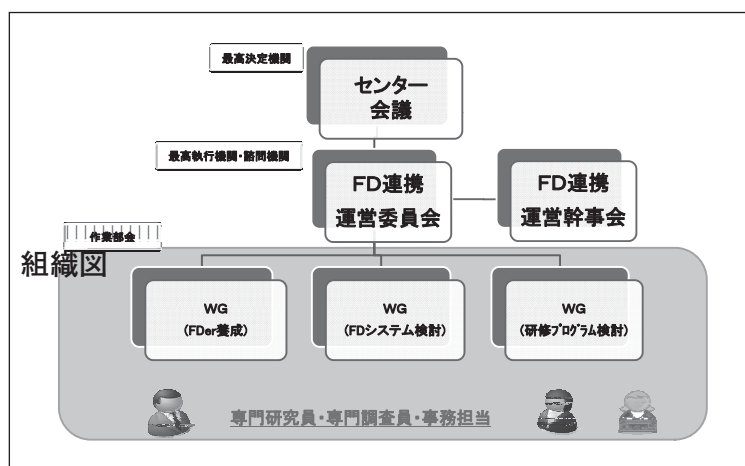
〈連携校〉

京都工芸繊維大学 大谷大学 京都外国語大学 京都学園大学 京都光華女子大学  
 京都産業大学 京都精華大学 京都橘大学 京都薬科大学 種智院大学 龍谷大学  
 池坊短期大学 大谷大学短期大学部 華頂短期大学 京都外国語短期大学  
 京都光華女子大学短期大学部 龍谷大学短期大学部

〈連携機関〉

京都市 大学コンソーシアム京都

京都 FD 開発推進センターは各連携大学からの代表者で構成されるセンター会議、運営委員会、3つのワーキング・グループ（WG）での検討、議論を通じて実効性のある大学間連携 FD の取組を進めています。



このプロジェクトの具体的な活動を担っているのが FDeR 養成、FD システム検討、FD 研修プログラム検討の 3つの WG になります。メンバー構成としては各連携校から 1 名以上いずれかの WG に所属して活動していただいています。またコンソーシアムからの参加という形でこれまで京都地域で FD 推進に関わってこられた京都大学の 大塚雄作先生と同志社大学の 圓月勝博先生がアドバイザー的立場として WG の活動に参加されています。

各 WG の検討課題と活動内容は以下のとおりとなります。

FDeR 養成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファカルティ・ディベロッパーの養成</li> <li>・FD コンサルテーション制度の検討</li> </ul>
FD システム検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業評価等のデータ分析等を行うための FD システムの開発</li> <li>・ティーチング・ポートフォリオの検討</li> <li>・SNS 活用の検討</li> </ul>
FD 研修プログラム検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・FD 職能開発のための汎用研修プログラムの開発</li> <li>・モデルプランの設計と体系化の検討</li> <li>・FD ハンドブックの発行</li> </ul>

それぞれの WG では毎月 1 回、キャンパスプラザ京都に集まって会議を行っています。WG ごとにリーダーをおき、事務局としてセンターが会議準備や日程調整等を行っています。上記のワーキンググループおよび運営委員会での議論を基礎として京都 FD 開発推進センターが取り組んでいる主な活動を下記に紹介します。

## <京都 FD 開発推進センターの主な活動>

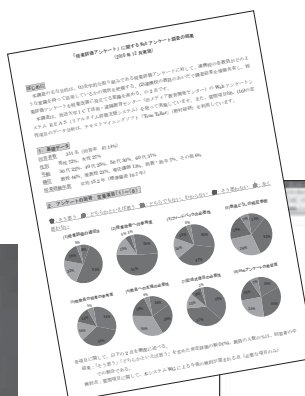
☆階層別・分野別の体系的な研修プログラムを開発、実施

- ・ 新任教員合同研修
- ・ 新任教員 FD ハンドブック制作・発刊
- ・ 京都 FDer 塾
- ・ 京都執行部塾
- ・ 海外 FD 研修
- ・ 芸術系分野研修



☆ICT を活用した教育・授業改善、FD 活動の実践、事例蓄積

- ・ WEB アンケート
- ・ テキストマイニング
- ・ クリッカー
- ・ e ポートフォリオ
- ・ 京えふで SNS



☆教育・授業改善や FD に関する質問や相談に対応

- ・ FDQA (FD に関する質問に専門家が回答)
- ・ 授業コンサルテーション
- ・ 研修会講師紹介
- ・ ワークショップの開催





## ☆連携大学が単独ではできない情報収集・発信を実現

- ・連携大学間の情報共有
- ・国内外の大学教育センターとの情報交換
- ・ニュースレター発行
- ・ホームページ、ブログ
- ・FDセミナーの開催（年2回）



## イベント企画・運営実績（2008/2009年度）

開催日	形態	企画名	講師	参加者
2008年度				
3月26日	学習会	「大学連携の課題と大学の特質をめぐって」	寺崎昌男氏（立教学院）	30名
2009年度				
4月21日	学習会	「クリッカー デモンストレーション」		10名
6月25日	学習会	「True Teller デモンストレーション」		14名
7月6日	ワークショップ	第1回京都 FDer 塾「FDとは？」	圓月勝博氏（同志社大学）大塚雄作氏（京都大学）原清治氏（佛教大学）	49名
7月18日	セミナー	第1回FDセミナー「FD？からFD！への実践～連携校の取り組みから学ぶ～」	森迫清貴氏（京都工芸繊維大学）林久夫氏（龍谷大学）	65名
7月24日	学習会	「いまなぜ新任教員研修プログラムが必要なのか」	夏目達也氏（名古屋大学）	32名
8月4日	学習会	「ボローニャ・プロセスとEUA」	中島英博氏（名城大学大学院）	12名
8月7日	講演会	「オーストラリアの高等教育改革」	サイモン・マージソン氏（メルボルン大学）	35名
9月17日	報告会	「クリッカーシステムを利用した授業実践」	酒井浩二氏（京都光華女子大学）	17名
10月3日	ワークショップ	第2回京都 FDer 塾「授業評価・教員評価」	圓月勝博氏（同志社大学）大塚雄作氏（京都大学）原清治氏（佛教大学）河原地英武氏 森洋氏（京都産業大学）	32名
10月16日	報告会	「夏季海外視察報告会」	<ベルギー・スウェーデン>林久夫氏（龍谷大学）<オーストラリア>行廣隆次氏（京都学園大学）	24名
12月10日	報告会	「大学での学びをトータルサポートするICTシステムの活用」	酒井浩二氏（京都光華女子大学）	19名
12月13日	ワークショップ	第2回FDセミナー「大学間連携を活かしたFD・SD～より実質的な改善・開発を目指して～」	杉原真晃氏（山形大学）川田正之氏（エリアキャンパスもがみ事務局）	232名
1月26日	学習会	「視察調査の為のワークショップ アメリカ・カリフォルニア州編」	江原昭博氏（同志社大学）	12名
2月20日	ワークショップ	第3回京都 FDer 塾「授業コンサルテーション」	曾田紘二氏 香川順子氏ほか（徳島大学）	33名
3月6日～7日	企画	第15回FDフォーラム *ミニシンポジウム「FDを推進、支援するトップマネジメントの役割」		127名
3月13日～14日	研修	新任教員合同研修	沖裕貴氏（立命館大学）井上真琴氏（大学コンソーシアム京都）梅本裕氏（京都橘大学）藤原学氏（龍谷大学）圓月勝博氏（同志社大学）	37名
3月25日	報告会	冬季海外視察調査報告会	<アメリカ>田中宏明氏（京都学園大学）高橋伸一氏（京都精華大学）武田恵司氏（京都精華大学）<イギリス>松本真治氏（佛教大学）	20名

## 国内行事・研修参加実績 (2008/2009 年度)

2008 年度	
3月7日(土)	大学教育改革フォーラム in 東海 2009 名古屋大学 (名古屋市)
3月9日(月)・10日(火)	第6回東北大学高等教育講演会 東北大学・高等教育開発教育センター 羽田先生との面談 (仙台市)
3月19日(木)	第2回関西地区 FD 連絡協議会主催公開研究会 京都大学 (京都市)
3月20日(金)・21日(土)	第15回大学教育研究フォーラム 京都大学 (京都市)
3月24日(火)・25日(水)	山形大学・小田先生 連携 FD 取組に関するレクチャー 大学コンソーシアム山形 樋口氏 SD 取組のヒアリング (山形市)
3月27日(金)	IDE 高等教育フォーラム 学術総合センター (東京都千代田区)
3月30日(月)・31日(火)	2009 年 春の集中共同学習会 (クリッカー) 金沢大学 (金沢市)
3月30日(月)・31日(火)	広島大学・広島大学高等教育研究開発センター訪問 山本センター長・福留先生との面談 広島大学 (東広島市)
2009 年度	
5月16日(土)	日本教育工学会研究会 徳島大学 (徳島市)
5月23日(土)・24日(日)	日本高等教育学会第12回大会 長崎大学 (長崎市)
6月6日(土)・7日(日)	大学教育学会第31回大会 首都大学東京 (東京都八王子市)
6月23日(火)	国立教育政策研究所 FD 公開セミナー 文部科学省 講堂 (東京都港区)
6月26日(金)	国際大学戦略セミナー 2009 ホテルパシフィック東京 (東京都港区)
6月27日(土)・28日(日)	比較教育学会第45回大会 東京学芸大学 (東京都小金井市)
7月25日(土)	国立教育政策研究所第1回シンポジウム 文部科学省 講堂 (東京都港区)
7月25日(土)	青山学院大学現代 GP フォーラム 青山学院大学 (東京都渋谷区)
7月27日(土)	国立教育政策研究所特別シンポジウム 文部科学省・講堂 (東京都千代田区)
8月28日(土)・29日(日)	日本教育学会第68回大会 東京大学駒場キャンパス (東京都目黒区)
9月19日(土)・20日(日)	初年次教育学会第2回大会 関西国際大学尼崎キャンパス (尼崎市)
10月10日(土)・11日(日)	ファカルティ・ディベロPPER養成講座 愛媛大学 (松山市)
10月30日(金)	国際高等教育フォーラム 早稲田大学 (東京都新宿区)
11月7日(土)	高等教育コンソーシアム信州 FD フォーラム 信州大学 (松本市)
11月21日(土)	第3回大学セミナーハウス FD 研究会 日本大学本部 (東京都千代田区)
11月28日(土)・29日(日)	大学教育学会課題研究集会 大阪市立大学 (大阪市)
1月9日(土)	青山学院大学第4回現代 GP フォーラム 青山学院大学 (東京都渋谷区)
1月23日(土)	長崎大学 FD・SD シンポジウム 長崎新聞文化ホール (長崎市)
2月22日(月)	金沢大学 大学教育セミナー 金沢大学サテライトプラザ (金沢市)
3月10日(月)	弘前大学・土持先生 ポートフォリオのレクチャー (弘前市)

\* 連携大学・機関の教職員の皆様に FD の知識を更に深めていただくため、本センターが推奨する FD 関連のセミナー等へ派遣費用支援を行っています。(下線は該当の行事) 教職員の方でご興味のある方はぜひご活用ください。(http://www.kyoto-fd.jp/kenshu/)

## 海外視察調査・研修実績 (2008/2009 年度)

2008 年度	
2月11日(水)-13日(金)	韓国視察調査プログラム 慶熙大学・慶熙サイバー大学 / 延世大学 / 梨花女子大学
2月17日(火)-20日(金)	アメリカ視察調査プログラム スタンフォード大学 / サンマテオカレッジ / 米国西部地区認証協会
2月18日(水)-26日(木)	イギリス視察調査プログラム サリー大学 / ウォーリック大学 / オックスフォード大学 / レスター大学
2009 年度	
8月23日(日)-30日(日)	ベルギー・スウェーデン研修プログラム 欧州大学協会 / VINNOVA / ストックホルム大学 / 王立工科大学 / コンストファック
8月23日(日)-29日(土)	オーストラリア研修プログラム キーパッド社 / ウェスタンシドニー大学 / シドニー大学 / メルボルン大学高等教育センター

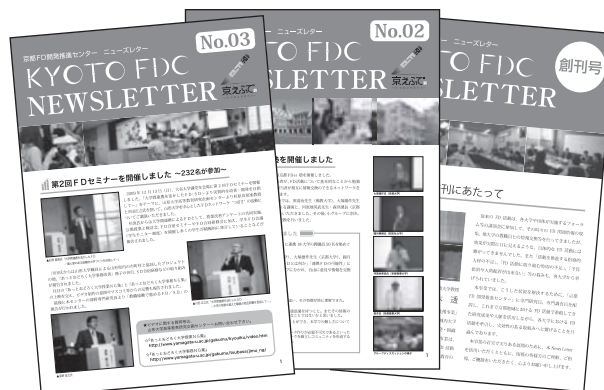
2010年 2月7日(日) - 14日(日)	アメリカ研修プログラム CSU ロングビーチ校 / CSU フラトン校 / カリフォルニア芸術大学 サンフランシスコ・アート・インスティテュート / UC バークレー校 バークレー・コミュニティ・カレッジ / サンフランシスコ州立大学
2010年 2月23日(火) - 3月4日(木)	イギリス研修プログラム レスター大学 / ケンブリッジ大学 / ノッティンガム大学 / ロンドン大学キングス・カレッジ



京都 FD 開発推進センターでは、各種報告書や HP によって情報を発信しています。



事業報告書・海外視察報告書



Newsletter



HP (<http://www.kyoto-fd.jp/>)



ブログ ([http://blogs.dion.ne.jp/kyoto\\_fd/](http://blogs.dion.ne.jp/kyoto_fd/))



# 總括 / 展望

**FD Review**

---

FD Review

## 2009年度の回顧と2010年度の展望

教学部長 八木 透

はじめに、2009年度の本学におけるFD活動を振り返ってみたい。学内における活動は、これまで継続してきた授業アンケート・英語基礎力調査・基礎学力調査・授業公開・入学前教育と、一通りの活動を展開してきた。その中で特筆すべきは、初年次教育に関して、2010年度より全学部学科の「入門ゼミ1」において、基本的には全学共通シラバスで実施することが決まったことである。「入門ゼミ」の科目は、各学部の基幹科目であるために、それぞれの学部学科の教員が科目担当者となるのだが、少なくとも全学共通シラバスによる実施まで漕ぎつけたことは大きな進展であるといえる。また2009年度には入学前調査の一環として、特別推薦入試を受験した系列校出身の合格者たちに対して、2月のA日程入試終了後に同じ問題を模擬試験として受験してもらうという試みがはじめて行われた。受験するか否かは高校単位での決定に委ねたために、すべての系列校が受験したわけではなかったことなど、今後の課題が残ったことも確かだが、このような試みはこれからも何らかの形で継続してゆく必要があるように思われる。

一方、平成20年度に文部科学省「戦略的大学連携支援事業」に採択された、佛教大学を代表校とする18大学・短期大学の連携事業は、2年目である2009年度に入って京都FD開発推進センターが本格的に稼働し、連携大学教職員による3つのワーキンググループの活動と連動して、活発な活動を展開した。具体的には、2度のシンポジウム企画運営、2度のFDセミナーの開催、新任教員合同研修、連携大学のFD指導者を養成するための3度の「京都FDer塾」実施など、種々の取り組みが行われた。さらに、連携大学ばかりでなく全国の大学関係者から大きな反響を得ている、「マンガ版FDハンドブック」の刊行は、連携大学の新任教員に対する研修プログラムの一環として取り組まれたものである。

次に2010年度のFDに関する活動計画について述べてみよう。基本的にはこれまでの活動を継続して行ってゆくことになるが、たとえば、より充実したFD活動を目指す試みとして、全科目における授業アンケートの実施や授業公開の方法の見直し、また入学前教育の充実など、新たな試みも計画されている。一方、今日必要が叫ばれている「SD」について、事務局とも連携を取りながら、理想的な「SD」とはいかにあるべきかに関する本格的な議論を開始する予定である、今年1月に行われた文部科学省主催の「大学教育改革プログラム合同フォーラム」の中で、職員向け講演「職員から始める大学改革－求められる職員像とSDのあり方－」(講師:前大学行政管理学会会長横田利久氏)が印象的であった。そこではきわめて斬新な議論が展開され、まさに目から鱗が落ちる思いであった。望まれるこれからの大学職員像について、「業務をたんにサポートする職員から、教員と教職協働し、業務をマネジメントする職員へ」とする見解を、具体例を交えて提示されたことは大変意義深いものであった。このような潮流を踏まえつつ、本学においても、本格的な「SD」のあり方について前向きに模索してゆかねばならない時期にきていると思われる。

# 活動記錄

**FD Review**

---



## 活動記録

### 2009年

- 4月 3日 (金) 基礎学力調査実施 (1回生)  
英語基礎力調査実施 (1回生)
- 4月 15日 (水) 第1回教授法開発室会議
- 4月 22日 (水) 第1回教育開発委員会
- 5月 13日 (水) 第2回教授法開発室会議
- 5月 27日 (水) 第2回教育開発委員会  
第1回FD研究会 (入学前教育)
- 6月 3日 (水) 第3回教授法開発室会議
- 6月 17日 (水) 第3回教育開発委員会
- 6月 26日 (金) 2009年度ベネッセ大学支援フォーラム参加 (水谷隆之、於ベネッセコーポレーション大阪事務所)
- 7月 1日 (水) 第4回教授法開発室会議
- 7月 4日 (土) 全国大学IT活用教育方法研究発表会参加 (達富洋二・漆葉成彦、於アルカディア市ヶ谷)
- 7月 6日 (月) 第1回京都FDer塾参加 (藤松素子・吉岡典子、於京都タワーホテル)
- 7月 15日 (水) 第4回教育開発委員会
- 7月 25日 (土) 「大学教育への問いとその将来を考える」第1回シンポジウム「質の保証の全体像を探る」参加 (藤松素子、於文部科学省3階講堂)
- 8月 22日 (土) 質の高い大学教育推進プログラム (教育GP) 採択取組「教育の質を保証する教員職能開発と大学連携」中間報告参加 (藤松素子、於立命館大学)
- 9月 16日 (水) 第5回教授法開発室会議
- 9月 30日 (水) 第5回教育開発委員会
- 10月 3日 (土) 第2回京都FDer塾参加 (藤松素子・山本博子・吉岡典子、於佛教大学)
- 10月 7日 (水) 第6回教授法開発室会議
- 10月 21日 (水) 第6回教育開発委員会
- 11月 4日 (水) 第7回教授法開発室会議
- 11月 18日 (水) 第7回教育開発委員会
- 12月 9日 (水) 第8回教授法開発室会議  
第2回FD研究会 (基礎学力調査)





## 2010年

1月 6日 (水) 第9回教授法開発室会議

1月 7日 (木)

～ 8日 (金) 平成21年度大学教育改革プログラム合同フォーラム参加 (八木透、  
於東京ビッグサイト)

1月 9日 (土) 第4回現代GPフォーラム参加 (八木透、於青山学院大)

1月 9日 (土) 英語基礎力調査実施 (1回生)

1月 18日 (月) 英語基礎力調査実施 (1回生) 追試

2月 17日 (水) 第10回教授法開発室会議

2月 18日 (木) 国際シンポジウム2010参加 (藤田和夫・黄當時、於幕張メッセ国際会  
議場会議室301号室)

2月 24日 (水) 第8回教育開発委員会

3月 3日 (水) 第11回教授法開発室会議

第3回FD研究会 (初年次教育)

3月 6日 (土)

～ 7日 (日) 第15回FDフォーラム (清水稔・八木透・藤松素子・篠原正典、  
於同志社大学)

3月 13日 (土)

～ 14日 (日) 新任教員合同研修 (林悠子・松戸宏子、於キャンパスプラザ京都)



# FD Review

---



## 教授法開発室

### 2009 年度

室長 藤松 素子 (社会福祉学科)  
室員 小野田俊蔵 (人文学科)  
水谷 隆之 (人文学科)  
持留 浩二 (英米学科)  
小林 隆 (教育学科)  
達富 洋二 (教育学科)  
近藤 敏夫 (現代社会学科)  
田中 智子 (社会福祉学科)  
漆葉 成彦 (作業療法学科)

### 事務局スタッフ

八木 透 (教学部長 人文学科)  
山本 博子 (教育開発課長)  
吉岡 典子 (教育開発課主任)  
山本 理絵 (教育開発課契約専門職員)

### 2010 年度

室長 藤松 素子 (社会福祉学科)  
室員 小野田俊蔵 (歴史文化学科)  
水谷 隆之 (日本文学科)  
持留 浩二 (英米学科)  
小林 隆 (教育学科)  
達富 洋二 (教育学科)  
近藤 敏夫 (現代社会学科)  
田中 智子 (社会福祉学科)  
漆葉 成彦 (作業療法学科)

### 事務局スタッフ

八木 透 (教学部長 歴史文化学科)  
三木 京子 (教育開発課長)  
吉岡 典子 (教育開発課主任)  
平井 孝典 (教育開発課主任)

## FD Review vol.5

---

発行日 2010年7月1日  
発行者 **佛教大学教授法開発室**  
〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町96  
TEL (075) 491-2141 (代)  
URL <http://www.bukkyo-u.ac.jp/>

---



BUKKYO UNIVERSITY  
佛教大学